

東大阪市文化財協会概報集

— 1996年度（1） —

1997

財団法人 東大阪市文化財協会

序

東大阪市は、古代より栄えた河内の一画を占めています。市内には、旧石器時代以降、各時代の遺跡が現在約130箇所が確認されています。生駒山の山麓には、今回報告します西ノ辻・植附遺跡をはじめ鬼塚遺跡・鬼虎川遺跡など、平野部には瓜生堂・山賀遺跡など全国的にも著名な弥生時代の大集落が存在し、原始時代の繁栄の様子を今に示しています。

また、弥生時代だけではなく縄文時代や旧石器時代の遺跡はもとより古墳時代や後の時代の遺跡も数多く存在しています。若江遺跡の中には室町時代の一時期、河内の中心である守護所が置かれた若江城跡も存在し、埋蔵文化財の宝庫と言われています。

江戸時代以降は、商都大阪の近郊農村地帯でありましたが、現在市域の大半は住宅・工場などが立ち並びまとまった水田地帯はわずかとなり、市街化が進んでおります。

今回、報告する8件の調査は本協会が昭和57年から平成2年にかけて実施したものの一部です。

報告したそれぞれの調査で、多くの遺構や遺物を確認しております。中でも辻子谷・宮山遺跡ははじめて遺跡の実態を一端を明らかにしたものと考えております。

本書が、原始・古代の社会を解明するうえでお役に立てれば幸いです。また、地域の文化財の学習資料となりますことを願っております。

最後になりましたが、調査および整理を実施するうえに、多大なご協力をいただきました関係機関、各位に心より謝意を表します。

財団法人 東大阪市文化財協会
理事長 日吉亘

目 次

I 山賀遺跡第4次発掘調査概報	
I. はじめに	1 (1)
II. 遺跡	2 (2)
1. 層序	2 (2)
2. 遺構	2 (2)
3. 遺物	5 (5)
III. まとめ	14 (14)
II 西岩田遺跡第10次発掘調査概報	
I. はじめに	1 (37)
II. 遺跡	2 (38)
1. 層序	2 (38)
2. 遺構	4 (40)
3. 遺物	14 (50)
III. まとめ	20 (56)
III 辻子谷遺跡第1次発掘調査報告	
I. はじめに	1 (63)
II. 位置と環境	2 (64)
III. 調査の概要	4 (66)
層序	4 (66)
第3層上面の遺構	5 (67)
第11層上面の遺構	7 (69)
第12層上面の遺構	9 (71)
第14層上面の遺構	11 (73)
IV 若江遺跡第30・31次発掘調査概報	
I. はじめに	1 (91)
II. 調査の概要	3 (93)
第30次調査 (A～I 地区)	3 (93)
第31次調査	4 (94)
III. まとめ	10 (100)

V 宮山遺跡第1次発掘調査概報

1. はじめに	1 (115)
2. 調査の概要	2 (116)
1) 各トレンチの状況	3 (117)
2) 検出した遺構	4 (118)
3) 出土遺物	5 (119)
3. まとめ	8 (122)

VI 植附遺跡第2次発掘調査報告

I. 調査にいたる経過	1 (123)
II. 位置と周辺の遺跡	2 (124)
III. 調査の概要	4 (126)
1. 調査の方法	4 (126)
2. 層序	4 (126)
3. 検出した遺構と遺物	4 (126)
a) 近世の遺構	5 (127)
b) 中世の遺構と遺物	6 (128)
c) 弥生時代の遺構と遺物	32 (154)
d) その他の出土遺物	33 (155)
IV. まとめ	35 (157)

VII 水走遺跡第10次発掘調査報告

I. はじめに	1 (165)
II. 調査に至る経過	3 (167)
III. 調査の概要	4 (168)
1. 層位	6 (170)
2. 遺構	6 (170)
吉田川Ⅰ期	6 (170)
吉田川Ⅱ期	7 (171)
吉田川Ⅲ期	7 (171)
吉田川Ⅳ期	9 (173)
第1遺構面	9 (173)
井戸1	9 (173)
井戸2	10 (174)

土坑 1	10 (174)
土坑 2	10 (174)
土坑 3	10 (174)
堤防	10 (174)
地震の痕跡	10 (174)
変形ゾーン I (縄文時代晩期末)	13 (177)
変形ゾーン II (弥生時代中期)	13 (177)
変形ゾーン III (古墳時代後期)	14 (178)
変形ゾーン IV (奈良時代後半)	14 (178)
変形ゾーン V (平安時代末～鎌倉時代初頭)	14 (178)
大阪周辺の被害地震	16 (180)

VIII 西ノ辻遺跡第31次発掘調査概報

I. 調査に至る経過	1 (189)
II. 調査の概要	2 (190)
1) 調査地の層序	3 (191)
2) 検出の遺構	3 (191)
III. 出土遺物	5 (193)
1) 縄文時代の遺物	5 (193)
2) 古墳時代の土器	7 (195)
3) 整地後の上層遺物	9 (197)
IV. まとめ	9 (197)

I 山賀遺跡第4次発掘調査概報

本文目次

I. はじめに	1
II. 遺跡	2
1. 層序	2
2. 遺構	2
3. 遺物	5
III. まとめ	14

挿図目次

第1図 調査地位置図	1
第2図 調査地西壁断面実測図	3
第3図 検出遺構平面実測図	6
第4図 弥生土器実測図	7
第5図 弥生土器実測図	8
第6図 弥生土器実測図、拓影・断面実測図	9
第7図 弥生土器拓影・断面実測図	10
第8図 弥生土器拓影・断面実測図	11
第9図 弥生土器拓影・断面実測図	12
第10図 土師器・石製品実測図	13
第11図 土師器・須恵器実測図	14

表目次

表1 出土遺物観察表	15
------------	----

図版目次

図版1 土層断面 上. 南壁断面(北より) 下. 西壁断面(東より)
図版2 遺構 上. 検出遺構全景(南より) 下. 検出遺構全景(東より)
図版3 遺構 上. 検出遺構(東より) 下. 溝2検出状況(東より)
図版4 遺構 上. 土壌2遺物出土状況(南より) 下. 井戸1遺物出土状況(南より)
図版5 遺構 上. 井戸2堆積土層(南より) 下. 柱穴検出状況(西より)
図版6 遺構 弥生土器・土師器
図版7 遺構 上. 弥生土器 下. 弥生土器
図版8 遺構 上. 弥生土器 下. 弥生土器
図版9 遺構 上. 弥生土器 下. 弥生土器
図版10 遺構 上. 弥生土器 下. 弥生土器

- 図版11 遺構 上. 弥生土器 下. 弥生土器
図版12 遺構 上. 弥生土器 下. 弥生土器図版
図版13 遺構 上. (左右) 土師器 下. 土師器・砥石
図版14 遺構 上. 土師器 下. 土師器

山賀遺跡第4次発掘調査概報

I. はじめに

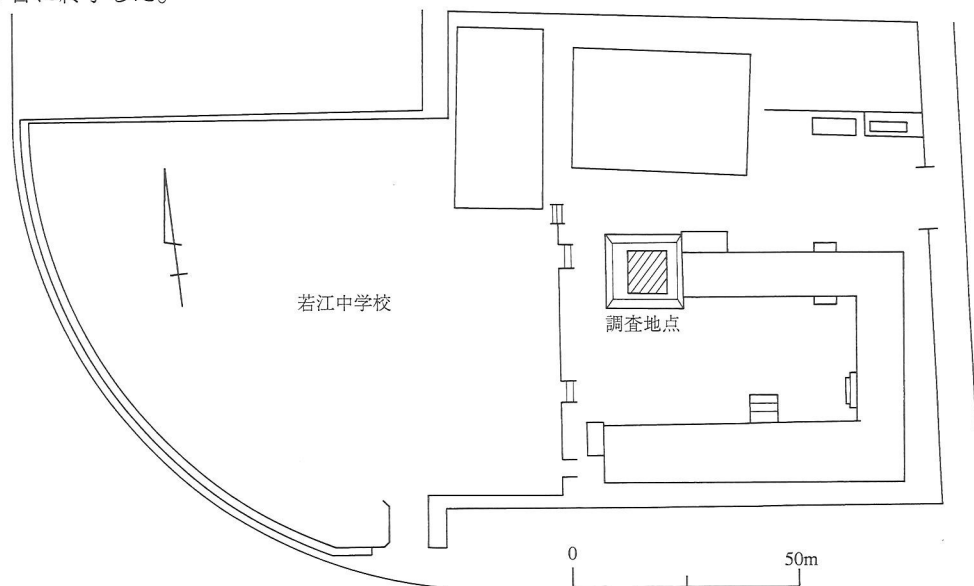
山賀遺跡は、八尾市山賀町から東大阪市若江南町一帯にひろがる弥生時代前期から古墳時代の複合遺跡である。遺跡は、大和川の支流の1つ旧楠根川が形成した沖積平野上に立地し、標高約2～4mの間に各時代の生活面が存在している。

北には、盛土を伴い完全な形で発見された弥生時代中期の方形周溝墓の存在で有名な瓜生堂遺跡が所在する。また、北東に隣接して織田信長が築いた若江城や飛鳥時代後期に創建され室町時代まで続いた若江寺を含む若江遺跡（弥生時代中期～近世）が所在している。

これまで、東大阪市若江南町5丁目地内に所在する若江中学校の新築工事、増築工事、下水道管渠築造工事等に伴う調査を実施した結果、弥生時代前期の遺物包含層及び遺構、弥生時代中期、後期の2次堆積による遺物包含層、古墳時代前期の遺物包含層、遺構を検出している。

これらの遺物包含層、遺構は、遺跡内にブロック状に点存し、その隣接地域においても、層自体は、確認し得る状況である。特に、若江中学校敷地内東北部においては、弥生時代前期の遺物包含層を約1mの層厚で確認している。本遺跡の範囲と推定されている範囲内においては北東端にあたる。

このように、当遺跡は、若江中学校付近に、遺物包含層、遺構が存在することが明確であるため、今回の若江中学校校舎増築工事の計画がなされた段階で、協議をおこない、記録保存を前提に発掘調査を実施することに決定した。調査は、東大阪市教育委員会の委託を受けて本協会が実施した。調査面積は約80m²（第1図）で、現場調査を昭和57年6月10日に開始し、7月9日に終了した。



第1図 調査地位置図

II. 遺跡

今回の調査で確認した層序・遺構・出土遺物の順に以下、記述する。調査は、盛土が約2m存在し、弥生時代の遺構面は現地表下、約5mに存在するためいわゆる階段掘りで実施した。

1. 層序（第2図）

今回の調査地の西壁断面図をもとに以下、層序について説明する。

第1層 盛土

第2層 旧耕土（暗青灰色粘土）

第3層 黄褐色粘土質シルト（床土）土師器、須恵器、瓦器、陶器など古墳時代から中世の遺物を若干含む

第4層 暗茶褐色粘土質シルト 古墳時代前期の土師器等を含む、遺物包含層

第5層 黄灰褐色シルト 古墳時代前期の遺構面

第6層 赤茶褐色シルト

第7層 青黄灰色砂質シルト

第8層 暗灰色シルト

第9層 黒灰色粘土質シルト 弥生時代後期遺物包含層、相当層

第10層 灰色砂質シルト

第11層 青灰色シルト

第12層 灰白色粗砂（砂礫混じり）弥生時代前期～中期の自然流路

第13層 灰色細砂

第14層 暗灰色粘土質シルト 弥生時代前期の遺物包含層

第15層 青灰色粘土 弥生時代前期の遺構面

第16層 黒灰色粘土

第17層 青灰色シルト

以上が、当調査区における層序である。

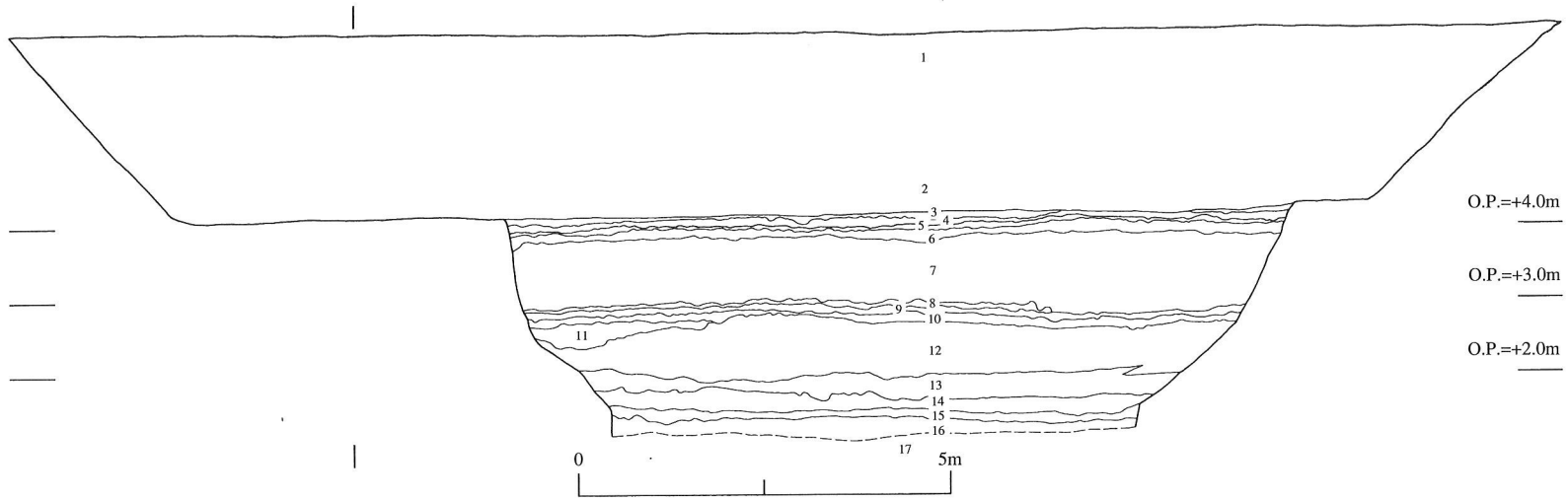
遺物包含層は、第4層、第12層、第14層である。第12層は、自然流路で2次堆積の包含層である。遺構面は、第5層、第15層の2面である。第5層では、溝、井戸、土壙などの遺構を検出したが、第15層では、遺構を検出できなかった。上記した遺物包含層以外は全て、無遺物層で人為的な跡は認められなかった。

2. 遺構（第4図）

遺構は、第5層上面で検出したのみである。内訳は井戸2基、溝7条、土壙3基、ピット11個である。

井戸1

径約1m、深さ約70cmを測る円形の井戸である。ほぼ垂直に掘り込んでいる。内部施設はなく素掘りである。遺物は、布留式土器、甕、壺、高杯、器台など多数出土している。



- | | |
|------------------|------------------|
| 1 盛土 | 10 灰色砂質シルト |
| 2 旧耕地 (暗青灰色粘土) | 11 青灰色シルト |
| 3 黄褐色粘土質シルト (床土) | 12 灰白色粗砂 (砂礫混じり) |
| 4 暗茶褐色粘土質シルト | 13 灰白細砂 |
| 5 黄灰褐色シルト | 14 暗灰色粘土質シルト |
| 6 赤茶褐色シルト | 15 青灰色粘土 |
| 7 青黄灰色砂質シルト | 16 黒灰色粘土 |
| 8 暗灰色シルト | 17 青灰色シルト |
| 9 黒灰色粘土質シルト | |

第2図 調査地西壁断面実測図

遺物から見て、布留式古段階に廃絶したものであろう。

井戸 2 (第 5 図)

長辺 1 m25cm。短辺 1 m10cmを測る隅丸方形を呈する平面プランを持ち、深さは約60cmを測り、ほぼ垂直に掘り込んでいる井戸である。内部施設はなく素掘りである。埋土は、5層に分層出来、すべてシルトあるいは粘土である。遺物は、埋土第5層茶灰褐色粘土より特に多く出土し、底にはりついた状況である。庄内式から布留式古段階に属する壺、甕、高杯などが完形で多く出土した。

溝 1

幅約80cm、深さ約30cmを測る。東西溝である。断面は皿状を呈する。埋土は、黄褐色粘土質シルト 1 層である。遺物は、土師器、瓦器、須恵器などが少量出土した。遺物から見れば、鎌倉時代に埋った溝である。

溝 2

幅約40～80cm、深さ約10cmを測る南北溝である。断面浅い逆台形に近い形態を呈している。埋土は、茶褐色粘土質シルトで、土師器が少量細片で出土した。古墳時代前期に廃絶している。

溝 3

幅約40cm。深さ約10cmを測る溝である。検出部分中央付近で 2 本に分かれているが、切り合い関係は認められないため、同時に流れていたと思われる。埋土は、茶褐色粘土質シルトで、遺物は出土しなかった。時期は、埋土から見て古墳時代前期である。

溝 4

幅約50～60cm。深さ約20cmを測り、断面浅い皿状を呈する溝である。溝 1 によって切られている。埋土は、暗茶褐色粘土質シルトである。遺物は、土師器が少量出土した。時期は、出土遺物から見て古墳時代前期である。

溝 5

幅約40cm。深さ約20cmを測り、ほぼ南北方向に走る小溝である。断面は、逆台形を呈している。溝 1 と切り合い関係にあり、溝 1 より南側へ伸びてつないだところを見れば、溝 1 内でこの溝は終結していたものと思われる。埋土は、茶褐色粘土質シルトで、遺物は、土師器が細片で少量出土した。時期は、古墳時代前期である。

溝 6・7

いずれも、幅30～40cm。深さ約10～20cmの小溝で短い。断面は、浅い皿状を呈している。埋土は、茶褐色粘土質シルトで遺物は、土師器が少量出土した。時期は、古墳時代前期である。

土壌 1

長径3.2m。短径2.8m。深さ約40cmを測り、たまご形を呈する土壌である。断面は、浅い皿状を呈している。埋土は、暗茶褐色シルト質粘土で炭化物を多く含んでいる。遺物は、土師器が少量出土した。土器は、庄内式から布留式にかけてのものである。

土壌 2

北断面にかかっており、全景は知り得ないが、長いたまご形を呈すると思われる。短径約80cm。深さ約30cmを測り、断面皿状を呈する。埋土は、炭化物を多く含む、暗褐色粘土質シルトで、土師器が少量出土した。時期は、古墳時代前期である。

土壌 3

最大幅60cm。最小幅30cm。深さ20cmを測り、長方形に近い形状を呈し、断面逆台形の小土壌である。埋土は、茶褐色砂質シルトで、遺物は、出土しなかった。時期は、古墳時代前期である。

ピット群（1～10）

ピット群は、調査区の南下半に集中する傾向にある。形状は、全て円形で、径約20～30cm、深さ約20～40cmを測る。埋土もほぼ同一で、茶褐色粘土質シルトである。遺物は、各ピットともあまり出土せず、土師器の細片のみである。時期は、すべて古墳時代前期である。これらのピットは、すべて柱穴と思われるが、建物あるいは柵を形成するようなものはピット2・8・9の建物1以外にはない。唯、ピット4・5・6で、柵列を想定できる可能性はある。

建物 1

ピット2・8・9で形成する1間×1間の建物である。南東の柱穴は、溝1により切られているため存在しない。柱間は約2m～2m30cmで少し広めである。この建物は、井戸2を囲むようにして建っており、時期的にも、井戸2と合致することを考えれば、井戸の覆屋の可能性があると見えよう。

3. 遺物

遺物は、第12層の自然流路、第4層の古墳時代包含層、第3層の床土、各遺構より出土した。第12層、自然流路からは、弥生時代前期（I様式）の土器が多量に出土した。その器種は、甕、壺、壺蓋、鉢である。他に石器も若干出土している。

第4層古墳時代包含層からは、庄内期の甕、壺、高杯などと布留期の甕、壺、高杯、鉢、器台などが少量出土した。

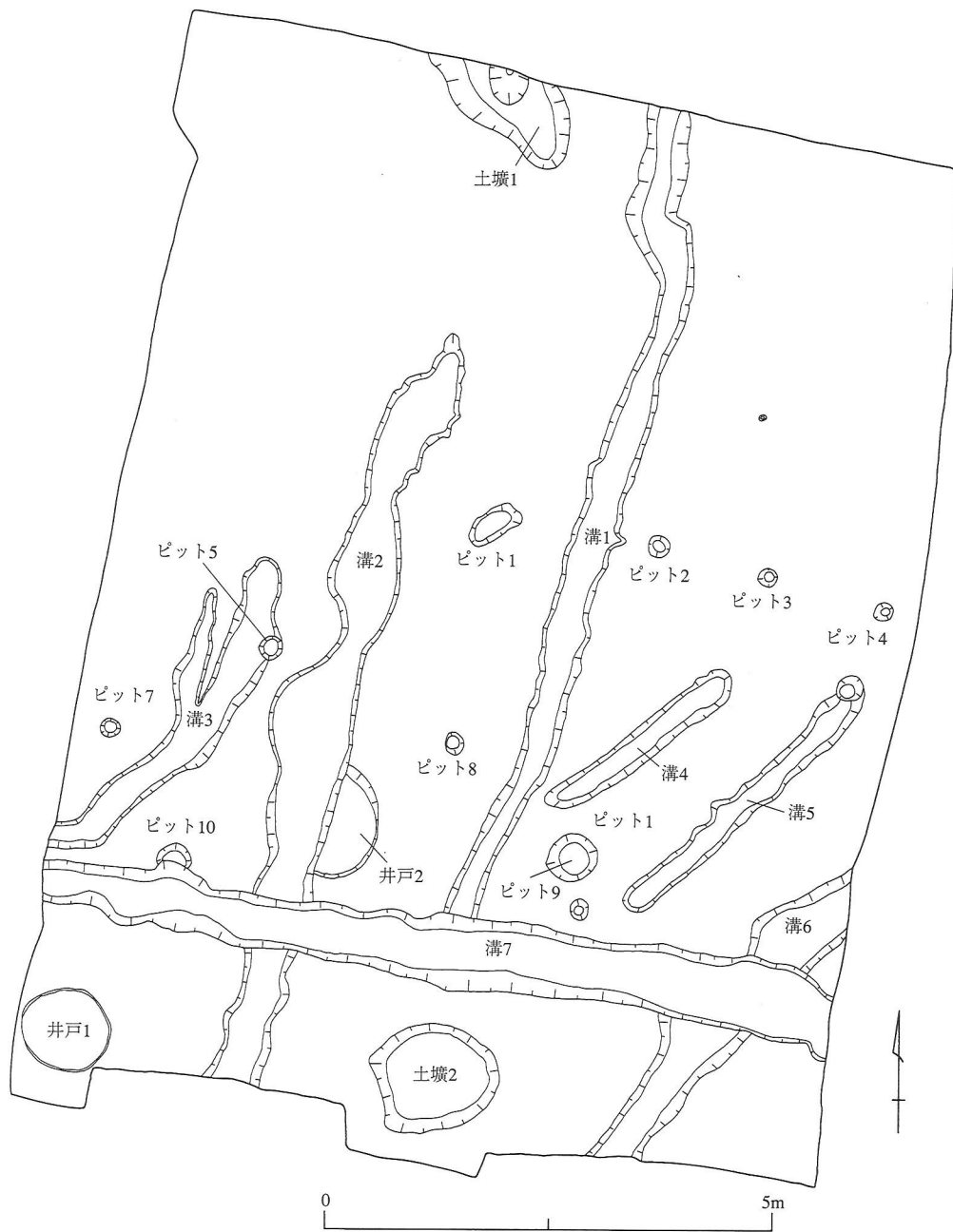
古墳時代の遺構からは、庄内期から布留期にかけての甕、壺、高杯、鉢、器台などが出土した。特に井戸1・2からは、完形に近い土器が多く出土した。

中世の遺構から、土師器、須恵器、瓦器、陶器などが出土したが、説明を省略する。

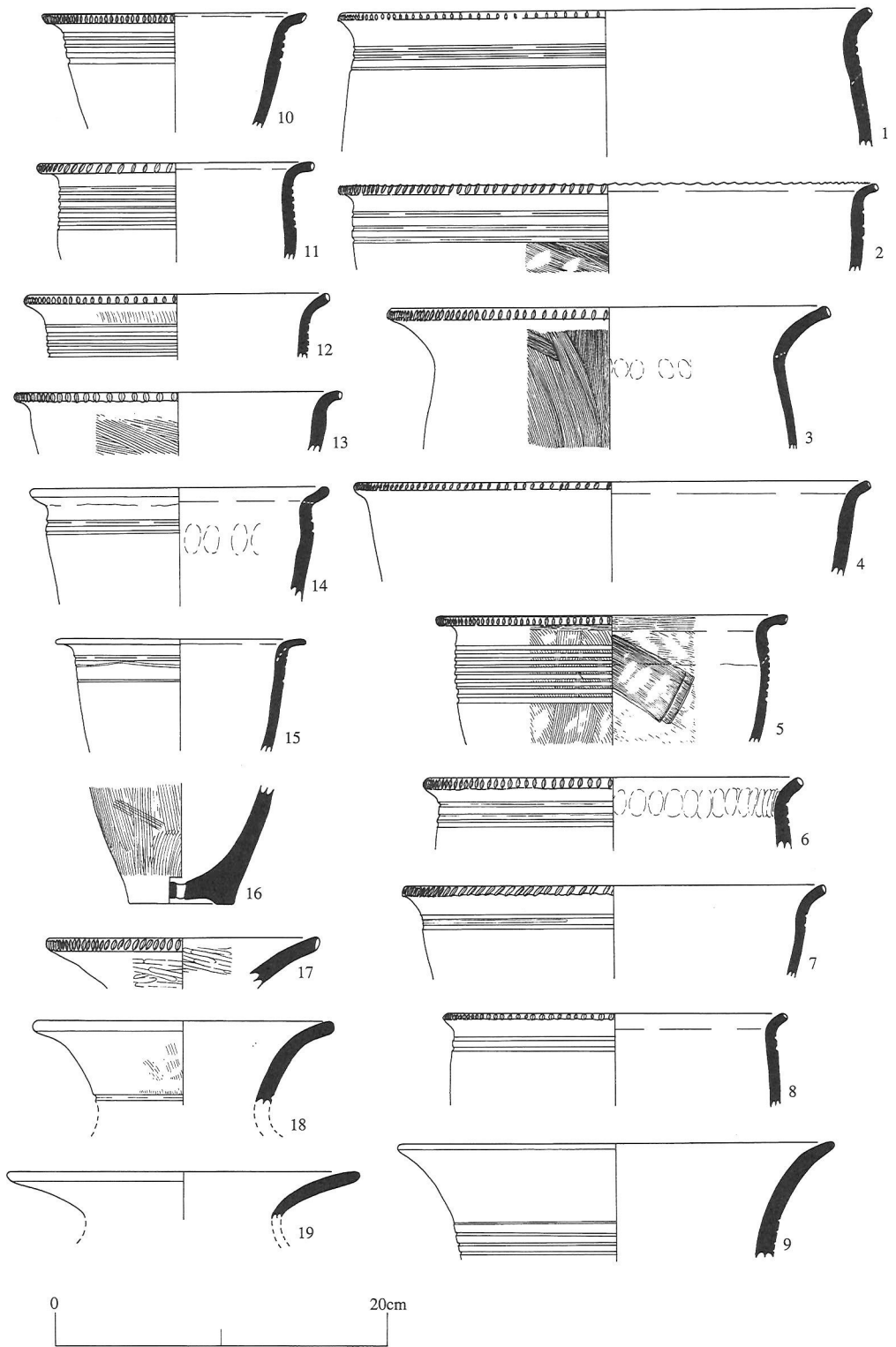
以下、古い時期から順に略述する。個々の遺物の詳細については、観察表を参照されたい。

弥生時代の遺物

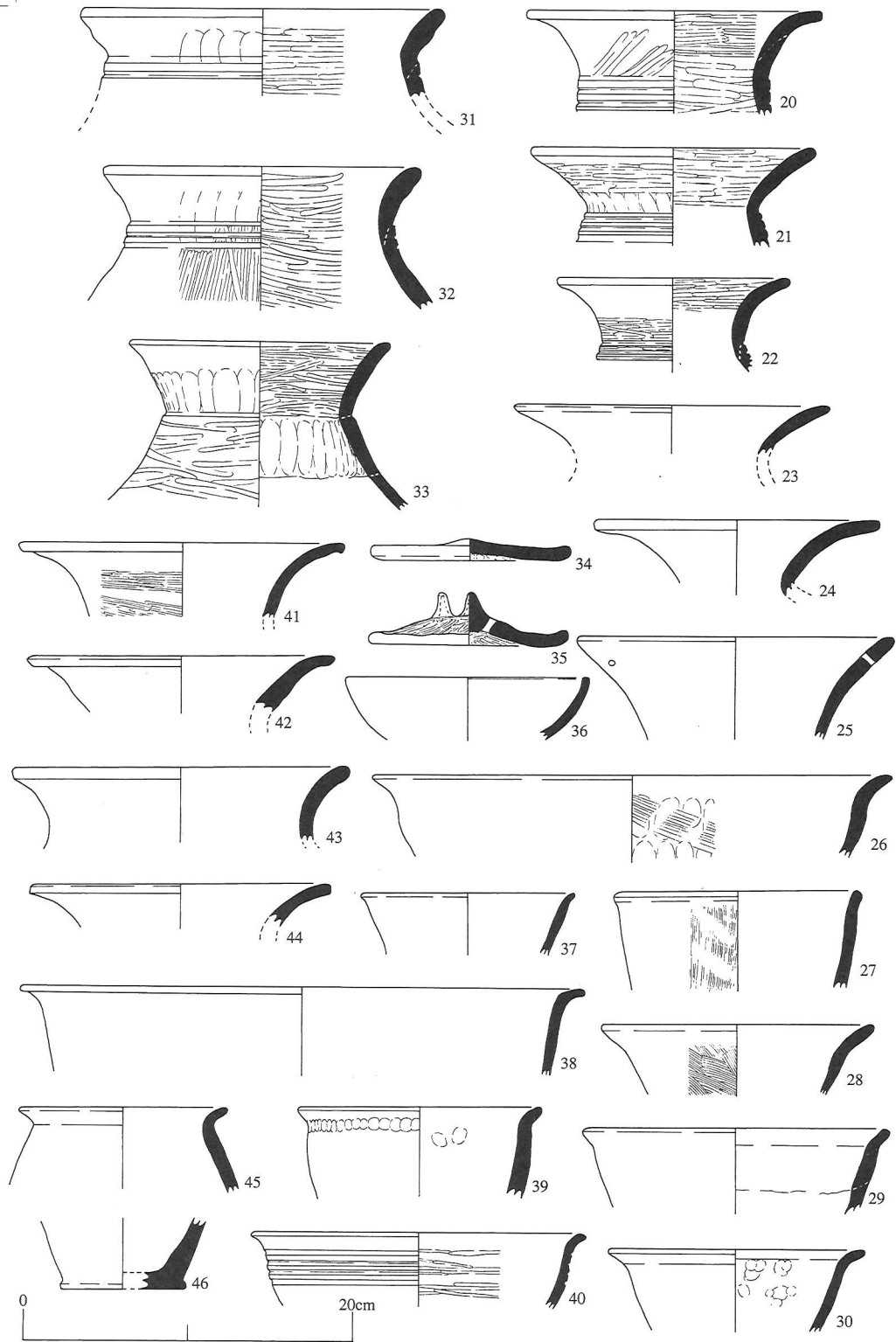
弥生土器について説明する。弥生土器は、大半が畿内第I様式中段階から新段階に属するもので、少量の畿内第II様式に属するものがある。完形に復元できるものは壺蓋を除いて無い。甕は、有文と無文のものが存在する。図179のように体部に刻目をもつ貼付突帯を施すものは河内では珍しい。壺は、段あるいは多条沈線や貼付突帯を施すものがある。体部に木葉文を施す図142も1点出土している。鉢も無文と多条沈線を施すものがある。なお、図75のようにいわゆる長原式に属す縄文系の土器が極く微量、存在する。



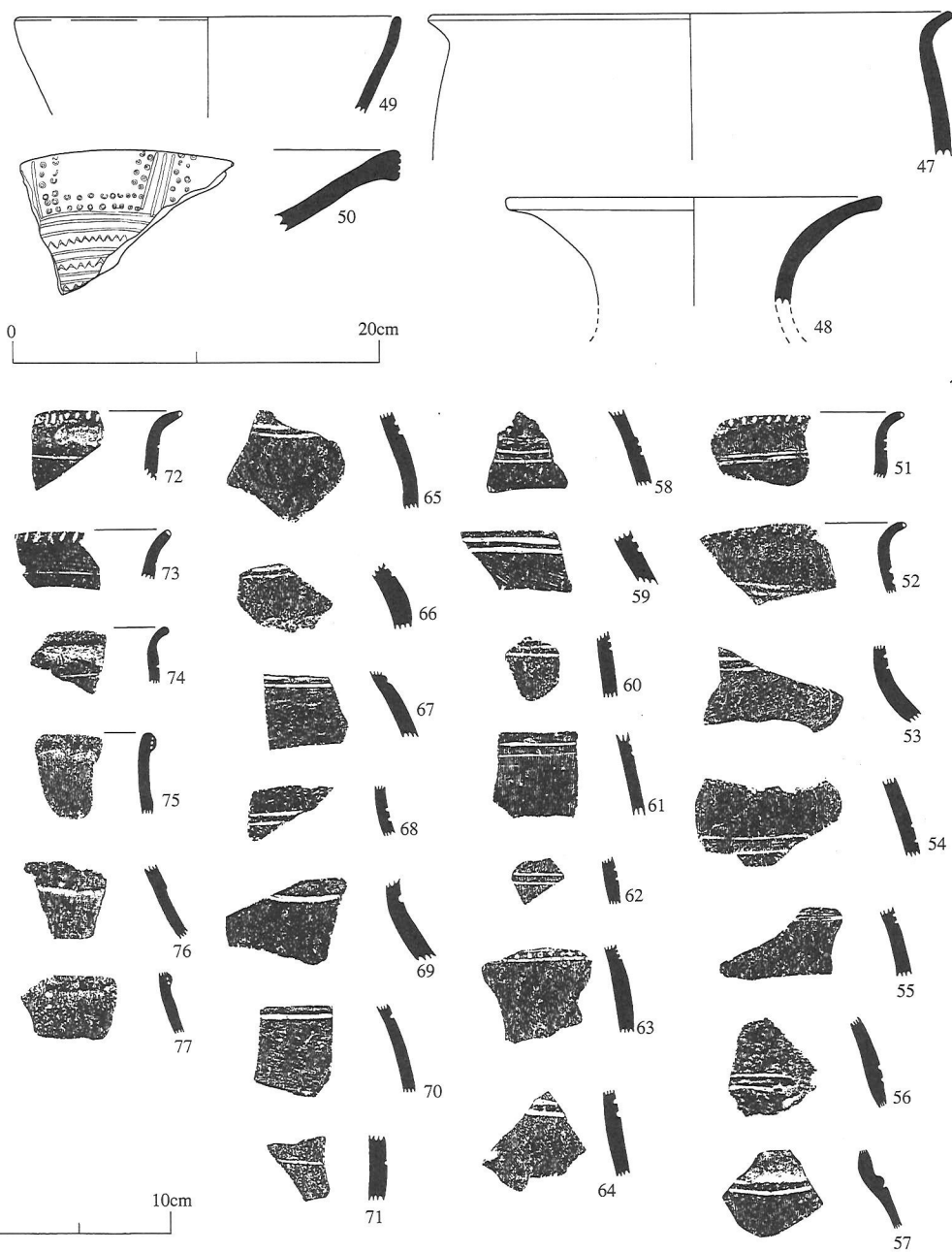
第3図 検出遺構平面実測図



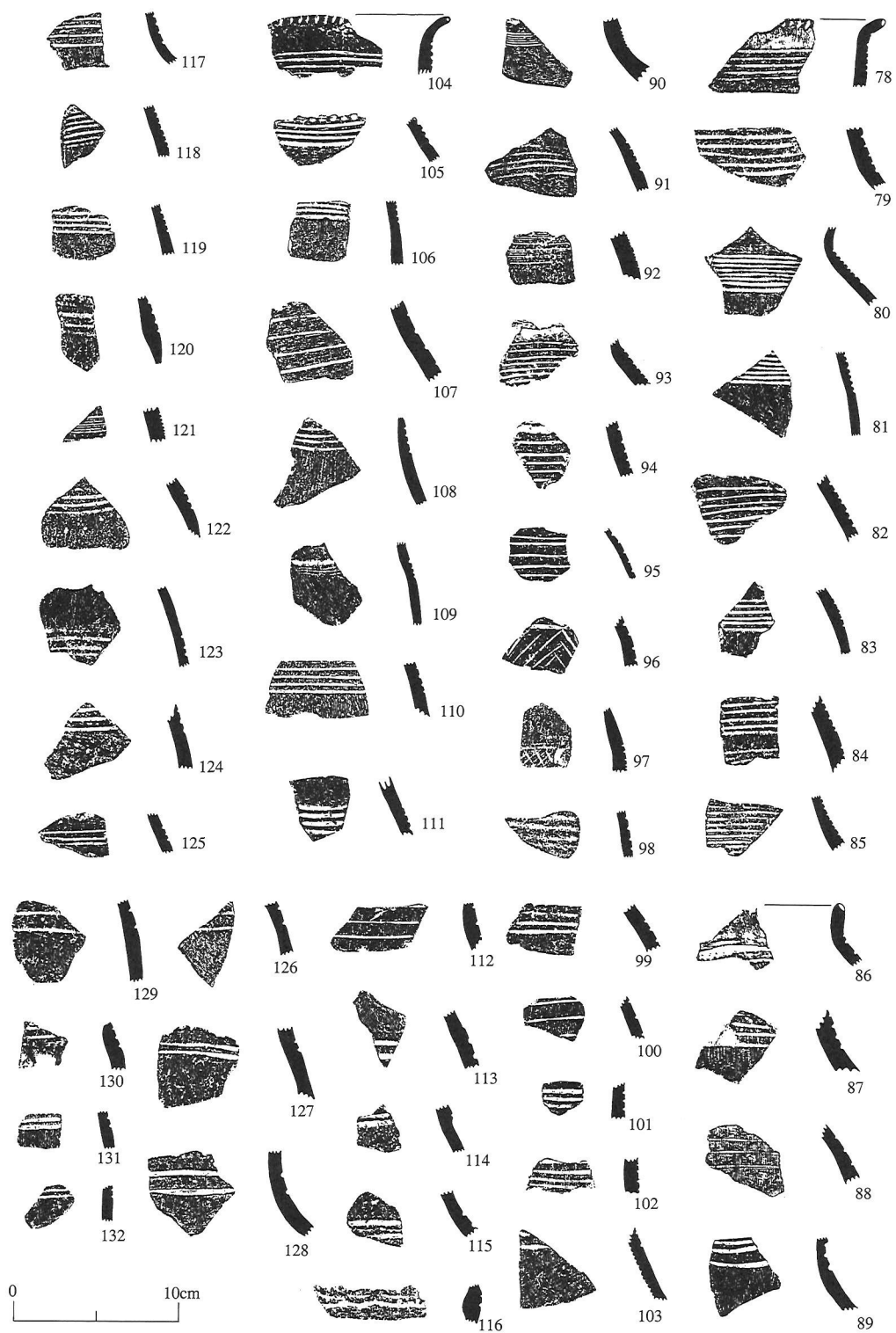
第4图 弥生土器实测图



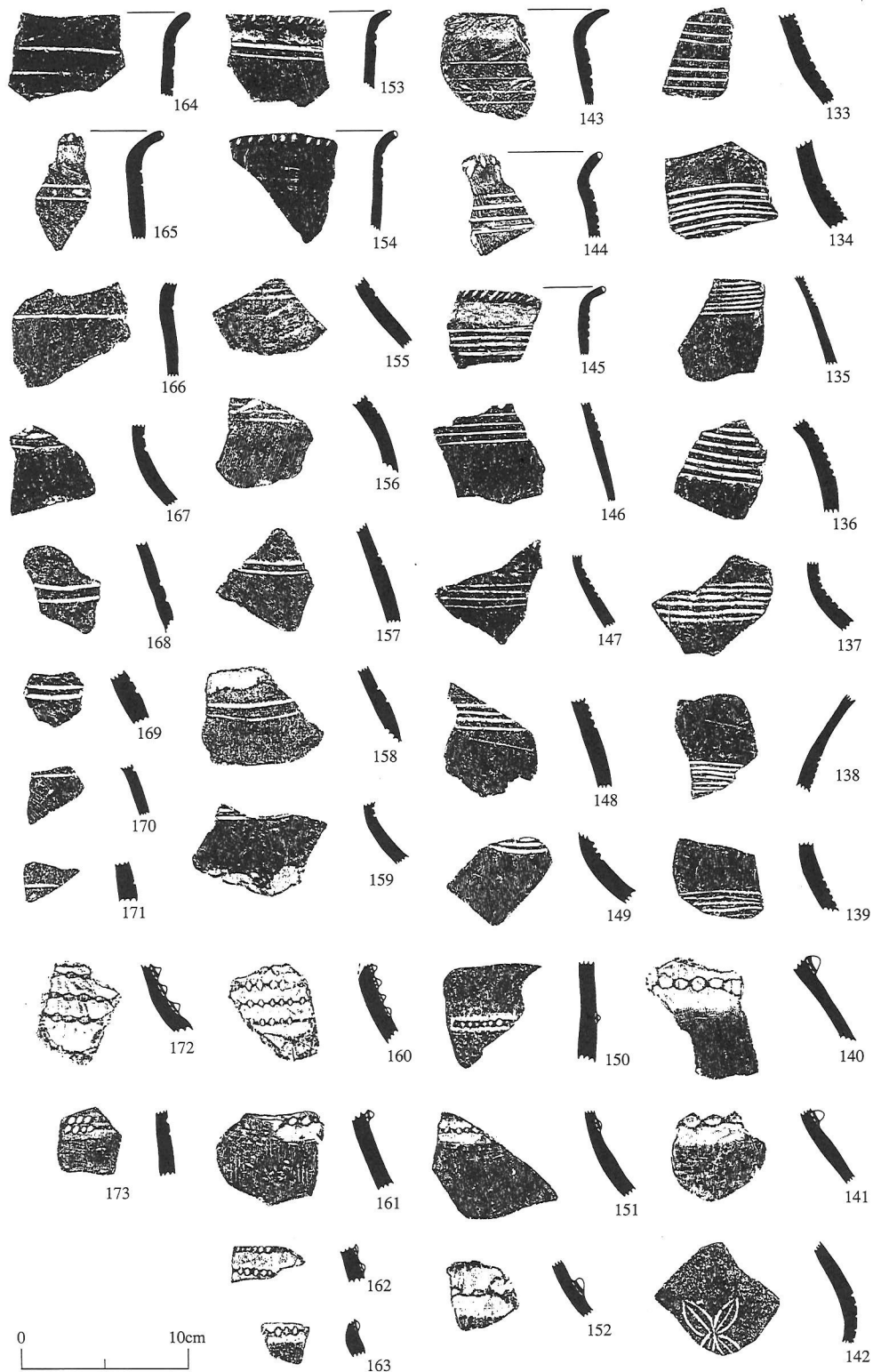
第5图 弥生土器实测图



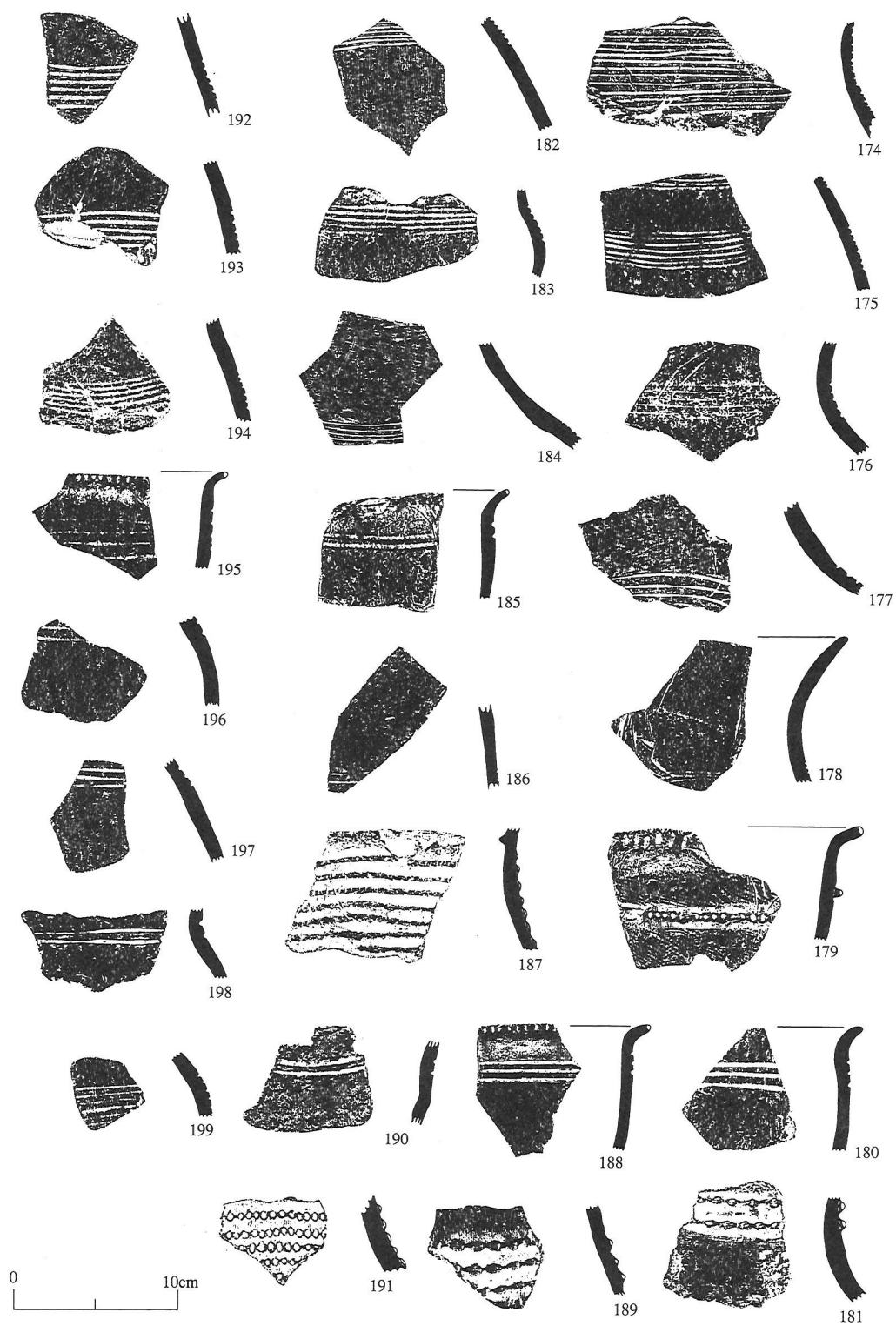
第6图 弥生土器实测图、拓影·断面实测图



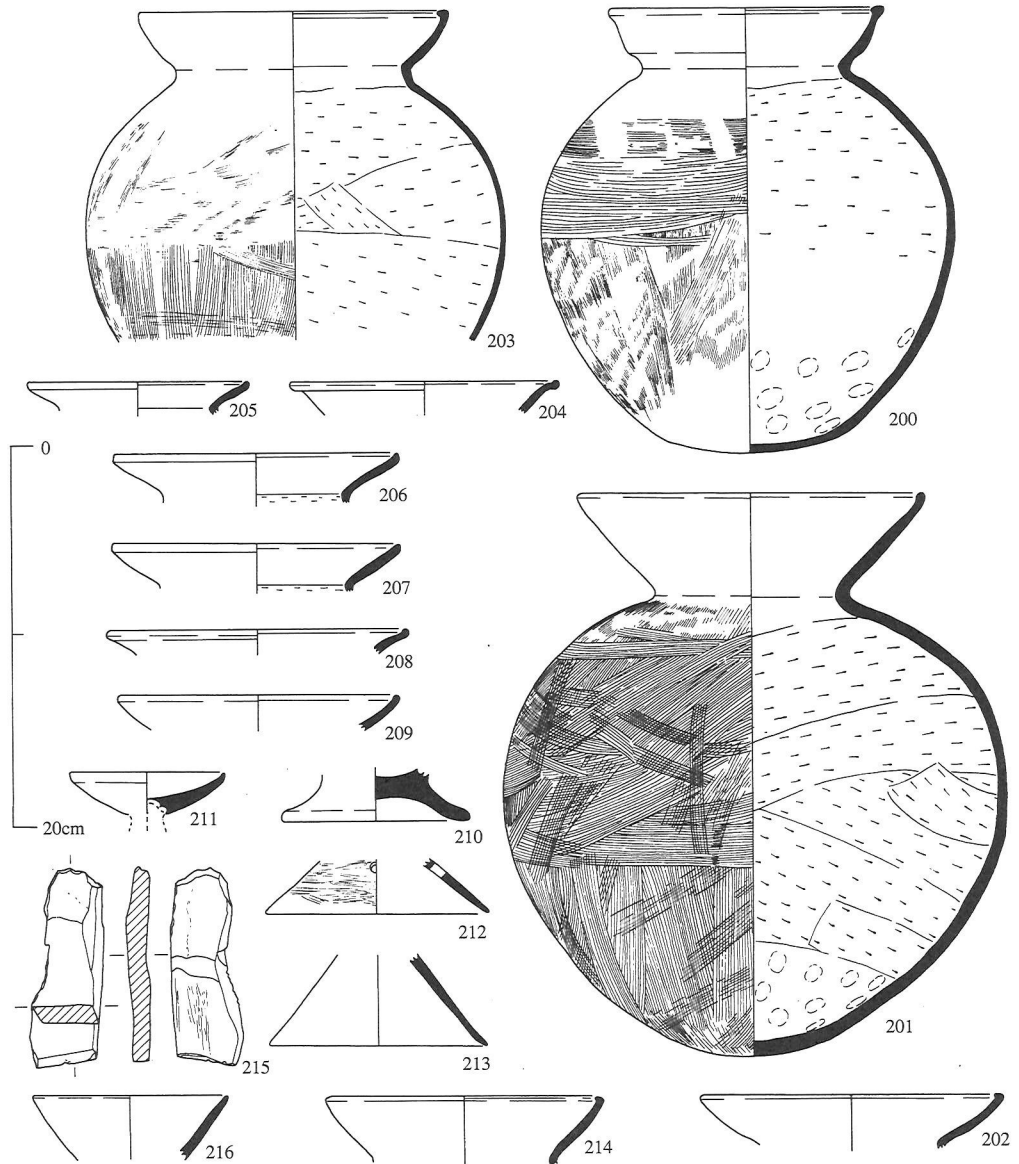
第7图 弥生土器拓影·断面实测图



第8图 弥生土器拓影・断面实测图



第9图 弥生土器拓影・断面实测图

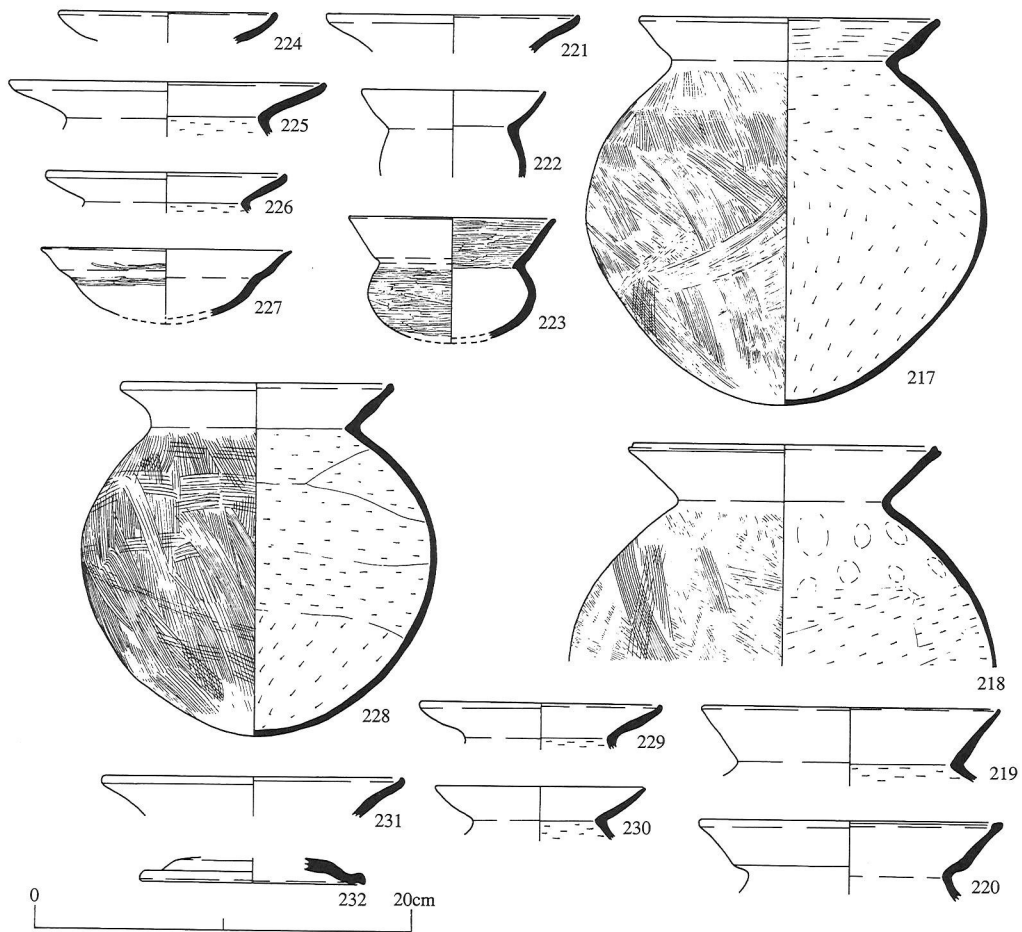


第10図 土師器・石製品実測図

古墳時代の遺物

遺構出土品を中心に、一部包含層のものも含めた庄内・布留式土器と砥石について説明する。庄内・布留式土器は、特に甕の口縁端部の肥厚の有無などで型式的には区分できるが、井戸1・2などの遺構から出土しているものは布留式土器と共伴しており同時に使用されたと考えられる。したがって今回出土したこの時期の土器に関しては同時期に使用されたと考えたい。時期は、庄内式土器の最終段階から布留式土器の古段階と型式的にはなるが、おそらく中河内における布留式の古段階の様相を呈しているものと考えられる。

砥石は、表裏2面を砥面とし灰白色を呈する石材を使用している。



第11図 土師器・須恵器実測図

Ⅲ. まとめ

今回の調査は、狭小な調査規模なため遺構の追求が充分できなかったが、数々の知見が得られた。以下箇条書で説明する。

- 1 古墳時代前期（庄内期）の集落址の一部を検出した。集落を構成する井戸、溝、建物等が検出できたことにより、集落の中心部に近い様相を呈していると言えよう。
- 2 井戸2を囲むように建物1が建っている。これは、他遺跡においては、あまり例がないが、一応井戸の覆屋と考えたい。
- 3 弥生時代前期の自然流路を検出した。流路は、明確ではないが東から西へ流れている。出土した遺物は、あまりローリングを受けていない。おそらく、調査区よりも東側のごく付近に位置する遺物包含層から、流れて来ているものと思われる。
- 4 弥生時代前・後期の遺物包含層、ベース面相当層は、確認したが遺物、遺構とも検出できなかった。

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 埋存位置等	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 001	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(31.4) 器高(8.8)	ヨコナデ ケズリ後ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 8条/cmのハケメ後ナデ、ヘ ラガキ沈線3本	内面 暗褐色 10YR3/3 外面 にぶい黄色 2.5YR6/6 断面 にぶい赤褐色 5YR5/4	やや密 長石・角閃石3.0 以下多量、クサ リ礫1.0以下少 量、雲母2.0以下 多量	1/8	粘土紐痕 在地産
図面番号 002	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(32.2) 器高(5.4)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 9条/cmのハケメ、ヘラガキ 沈線3本	内面 にぶい黄褐色 7YR6/3 外面 オリーブ黒色 7.5YR3/1 断面 灰白色 5YR7/2	やや密 長石・角閃石2.0 以下多量	小破 片	外面スス付着 在地産
図面番号 003	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(26.3) 器高(8.6)	ヨコナデ ナデ ユビ圧痕	ヨコナデ、口縁端部刻目 19条/cmのハケメ	内面 暗灰黄色 2.5Y4/2 外面 暗灰黄色 2.5YR4/2 断面 暗灰黄色 2.5Y4/2	やや粗 長石3.0以下中 量、雲母2.0以下 多量、角閃石1.0 以下多量	1/4	在地産
図面番号 004	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(30.8) 器高(5.8)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 ケズリ後ナデ	内面 にぶい黄褐色 10YR6/3 外面 にぶい褐色 7.5YR5/4 断面 淡黄色 2.5YR7/3	やや粗 長石・雲母2.0以 下多量、角閃石 2.0以下中量 クサリ礫1.0以下 中量	1/8	外面スス付着 在地産
図面番号 005	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(20.8) 器高(7.6)	12条/cmのハケメ後ヨコナデ ハケメ後部分的にナデ	口縁端部刻目 ヘラガキ沈線8本5条/cmの ハケメ後ヨコナデ	内面 にぶい黄褐色 10YR7/2 外面 褐灰色 10YR4/1 断面	やや密 長石・石英3.0以 下中量、角閃 石・雲母2.0以下 少量、クサリ礫 1.0以下少量	1/4	外面スス付着 粘土紐痕 在地産
図面番号 006	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(22.2) 器高(4.2)	ヨコナデ後ナデ ナデ ユビ圧痕	ナデ、口縁端部刻目 ナデ、ヘラガキ沈線3本	内面 暗褐色 7.5YR3/4 外面 淡黄色 2.5YR7/4 断面 淡黄色 2.5YR8/3	やや粗 長石・石英1.5以 下多量	1/6	他地域産
図面番号 007	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(25.2) 器高(5.6)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 ナデ、ヘラガキ沈線3本	内面 灰黄色 10YR6/2 外面 褐灰色 10YR4/1 断面 にぶい黄褐色 10YR6/4	やや粗 長石3.0以下中 量、角閃石1.5以 下多量、微細な 雲母多量、クサ リ礫1.0以下少量	1/4	外面スス付着 在地産
図面番号 008	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(20.3) 器高(5.6)	ヨコナデ後ナデ ナデ ユビ圧痕	ヨコナデ、口縁端部刻目 ナデ、ヘラガキ沈線2本	内面 灰褐色 7.5YR4/2 外面 にぶい黄褐色 10YR7/3 断面 にぶい黄褐色 10YR7/3	やや粗 長石・石英3.0以 下多量、チャ ット、クサリ礫2.0 以下少量	1/6	他地域産
図面番号 009	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(26.2) 器高(6.8)	風化のため調整不明	風化のため調整不明 ヘラガキ沈線4本以上	内面 褐色 7.5YR4/3 外面 にぶい黄色 5YR6/6 断面 明赤褐色 2.5YR5/8	やや粗 長石・雲母・角 閃石1.0以下多量	口縁 部 1/6	在地産
図面番号 010	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(15.8) 器高(7.0)	強いヨコナデ 斜め方向のケズリ後ナデ	強いヨコナデ、口縁端部刻目 10条/cmのハケメ後丁寧ナ デ、ヘラガキ沈線6本	内面 灰黄色 2.5YR7/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄色 2.5YR7/2	やや粗 長石3.0以下中 量、角閃石4.0以 下多量、雲母1.0 以下中量、クサ リ礫1.0以下少量	1/4	体部外面一部朱 (ベンガラ) 付着 在地産
図面番号 011	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(16.4) 器高(5.8)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 丁寧ナデ、ヘラガキ沈線6 本	内面 にぶい黄褐色 10YR6/3 外面 黒褐色 10YR3/1 断面 灰色 5YR6/1	やや密 長石1.0以下中 量、角閃石1.0以 下多量	1/8	在地産

表1 山賀遺跡4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 埋没器具特高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存率	備考
					内面	外面				
図面番号 012	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(17.8) 器高(4.0)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 7条/cmのハケメ後ヨコナ デ、ヘラガキ沈線5本以上	内面 明褐色 7.5YR5/6 外面 褐色 5YR6/6 断面 明赤褐色 2.5YR5/8	やや粗 長石2.0以下中 量、角閃石2.0以 下少量、クナリ 礫・石英1.0以下 少量	1/8	在地産
図面番号 013	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(19.4) 器高(3.8)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 9条/cmのハケメ	内面 暗灰色 N3/0 外面 灰黄褐色 10YR4/2 断面 明オリーブ灰色 2.5YR7/1	やや密 長石2.0以下中 量、微細な雲 母・石英多量	1/8	他地域産
図面番号 014	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(17.4) 器高(7.0)	ヨコナデ ヘラズリ後ナデ ユビ圧痕	ヨコナデ 縦方向の強いナデ、ヘラガキ 沈線2本	内面 暗褐色 10YR3/3 外面 褐色 7.5YR4/1 断面 灰白色 2.5YR7/1	やや粗 長石2.0以下中 量、角閃石2.0以 下少量、微細な 雲母多量	1/8	口縁部粘土痕 在地産
図面番号 015	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(15.1) 器高(6.8)	ヨコナデ 丁寧なナデ ユビ圧痕	ヨコナデ後ナデ 9条/cmのハケメ後ナデ、ヘ ラガキ沈線3本	内面 灰褐色 7.5YR4/2 外面 にぶい黄褐色 10YR5/3 断面 にぶい黄褐色 10YR6/3	密 長石1.0以下少 量、微細な角閃 石・雲母多量	1/4	内面指圧痕 在地産
図面番号 016	第12層 自然流路	弥生土器	甕	器高(7.2) 底径(6.2)	ナデ	9条/cmのハケメ後ナデ ナデ	内面 暗灰色 N3/0 外面 灰白色 2.5YR7/2 断面 灰白色 5YR8/2	粗 長石・石英3.0以 下少量、角閃 石・雲母2.0以下 少量、クナリ礫 2.0以下少量	底部 1/3	底部円孔1箇所 小高台 内面スス付着 在地産
図面番号 017	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(16.2) 器高(2.8)	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ、口縁端部刻目 ヘラミガキ	内面 褐色 10YR4/1 外面 褐色 10YR4/1 断面 黄灰色 2.5YR6/1	やや粗 長石2.0以下中 量、石英1.0以下 少量	口縁 部 1/8	他地域産
図面番号 018	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(17.8) 器高(4.8)	ナデ	ヨコナデ 10条/cmのハケメ後ナデ、ヘ ラガキ沈線1本以上	内面 にぶい黄褐色 7.5YR7/3 外面 灰褐色 7.5YR6/2 断面 灰色 5YR6/1	粗 チャート3.0以下 中量、長石・石 英1.5以下多量	口縁 部 1/8	他地域産
図面番号 019	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(21.0) 器高(2.8)	風化のため調整不明	風化のため調整不明	内面 淡黄色 2.5Y7/3 外面 淡黄色 2.5YR7/3 断面 淡黄色 2.5Y7/3	粗 長石3.0以下多 量、石英・雲 母・チャート1.0 以下少量	口縁 部 1/8	他地域産
図面番号 020	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(18.2) 器高(6.2)	横方向の密なヘラミガキ 横方向の粗いヘラミガキ	ヨコナデ 縦方向のヘラミガキ、ヘラガ キ沈線2本以上	内面 灰色 N6/0 外面 灰色 N6/0 断面 灰色 N6/0	やや密 長石1.0以下中 量、角閃石1.5以 下少量、微細な 雲母多量	口縁 部 1/6	在地産
図面番号 021	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(16.9) 器高(6.0)	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本以上	内面 にぶい黄色 2.5Y6/3 外面 にぶい黄色 2.5Y6/3	長石・チャート		他地域産
図面番号 022	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(13.8) 器高(5.6)	ヘラミガキ ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ、ヘラガキ沈線3 本以上	内面 淡黄色 2.5YR7/3 外面 褐色 7.5YR4/1 断面 淡黄色 2.5YR7/3	やや粗 長石・石英・角 閃石2.0以下多量	口縁 部 1/8	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径・高さ	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 023	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(18.6) 器高(2.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 ぶい黄褐色 10YR7/2 外面 ぶい黄褐色 10YR7/2 断面 ぶい黄褐色 10YR7/2	やや粗 長石・石英・チャ ート1.0以下多 量	口縁 部 1/8	他地域産
図面番号 024	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(16.9) 器高(3.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 褐灰色 10YR5/1 断面 灰白色 7.5YR7/1	やや粗 長石・石英4.0以 下多量	口縁 部 1/8	他地域産
図面番号 025	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(19.0) 器高(6.2)	風化のため調整不明	風化のため調整不明	内面 オリーブ褐色 7.5YR4/3 外面 浅黄色 2.5YR7/3 断面 浅黄色 2.5YR7/3	やや粗 長石・角閃石1.0 以下多量、チャ ート1.0以下中量	口縁 部 1/8	口縁部円孔2箇所 在地産
図面番号 026	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(31.0) 器高(6.8)	ヨコナデ 6条/cmのハケメ後ナデ	ヨコナデ ケズリ後ナデ	内面 明褐色 7.5YR5/6 外面 褐色 7.5YR6/6 断面 明黄褐色 10YR6/6	やや粗 長石・雲母1.0以 下少量、長石2.0 以下多量	小破 片	他地域産
図面番号 027	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(14.4) 器高(5.8)	ナデ	ヨコナデ 9条/cmのハケメ後ナデ	内面 ぶい褐色 7.5YR5/4 外面 灰褐色 7.5YR5/2 断面 ぶい褐色 7.5YR5/4	粗 石英3.0以下中 量、長石・雲母 2.0以下中量	1/8	外面スス付着 他地域産
図面番号 028	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(16.3) 器高(4.4)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 11条/cmのハケメ	内面 ぶい黄褐色 10YR5/3 外面 ぶい黄褐色 10YR6/3 断面 褐色 2.5YR6/6	やや粗 長石1.0以下少 量、角閃石1.0以 下少量、クヤリ 礫0.5以下少量	小破 片	内面スス付着 在地産
図面番号 029	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(17.8) 器高(5.4)	ナデ	ナデ 7条/cmのハケメ後ナデ	内面 褐色 7.5YR4/3 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 ぶい褐色 7.5YR5/4	やや粗 長石・石英・角 閃石2.0以下多 量、微細な雲母 多量	小破 片	粘土結痕 在地産
図面番号 030	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(15.4) 器高(5.0)	ヨコナデ 13条/cmのハケメ後ナデ ユビ圧痕	ヨコナデ	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰白色 5YR7/1	密 長石1.0以下少 量、微細な雲 母・角閃石多量	1/8	外面スス付着他 在地産
図面番号 031	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(21.4) 器高(5.4)	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ、ヘラガキ沈線1 本以上	内面 浅黄色 2.5YR7/3 外面 明灰黄色 2.5YR5/2	やや粗 長石・チャート 2.0以下中量	口縁 部 1/6	粘土結痕 他地域産
図面番号 032	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(18.6) 器高(8.4)	ヨコナデ ヘラミガキ後ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ、ヘラガキ沈線3 本	内面 灰黄色 10YR8/3 外面 黄灰色 2.5YR5/1 断面 灰黄色 2.5YR7/2	粗 長石4.0以下多 量、石英・チャ ート2.0以下多量	1/6	他地域産
図面番号 033	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(15.6) 器高(10.2)	ヘラミガキ ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ後ナデ ヘラミガキ 頸部に段・ユビ圧痕	内面 淡黄褐色 10YR8/3 外面 淡黄褐色 10YR8/3 断面 淡黄褐色 10YR8/3	粗 長石・チャート 2.0以下多量、石 英3.0以下多量	1/4	他地域産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径 () 器高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 034	第12層 自然流路	弥生土器	蓋	口径(10.8) 器高(1.4)	ヨコナデ ケズリ後ナデ、ユビ圧痕	ヨコナデ ケズリ後ナデ	内面 におい黄褐色 2.5YR6/3 外面 におい黄褐色 7.5YR6/4 断面 灰黄色 2.5YR7/2	やや密 長石4.0以下中 量、石英1.0以下 中量、角閃石2.0 以下多量、微細 な雲母多量	1/4	内面黒斑及び一 部スス付着 在地産
図面番号 035	第12層 自然流路	弥生土器	蓋	口径(12.1) 器高(3.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ後ナデ	内面 におい黄褐色 10YR7/2 外面 灰白色 2.5YR7/1	やや密 長石1.0以下少 量、石英2.0以下 中量、チャート 3.0以下中量	1/3	円孔2箇所 銚状把手2個 他地域産
図面番号 036	第12層 自然流路	弥生土器	浅鉢	口径(14.7) 器高(3.8)	ヨコナデ ヘラケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後ヨコナデ	内面 におい褐色 7.5YR5/4 外面 におい褐色 7.5YR5/4 断面 におい褐色 7.5YR5/4	やや密 長石1.5以下多 量、角閃石2.0以 下多量、クサリ 礫1.0以下少量	1/4	在地産
図面番号 037	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(12.8) 器高(3.8)	ナデ	ナデ	内面 におい褐色 7.5YR5/4 外面 褐色 10YR4/6 断面 褐色 10YR4/6	やや粗 長石1.0以下多 量、角閃石2.0以 下多量	小破 片	内面黒斑 在地産
図面番号 038	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(30.1) 器高(5.4)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ、6条/cmのハケメ	内面 明褐色 7.5YR7/1 外面 黒色 7.5YR2/1 断面 灰白色 7.5YR7/1	やや粗 長石2.0以下中 量、角閃石2.0以 下多量	1/8	外面スス付着 在地産
図面番号 039	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(14.8) 器高(5.4)	ヨコナデ ヘラケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ	内面 におい褐色 7.5YR5/4 外面 灰褐色 7.5YR4/2 断面 におい褐色 7.5YR5/4	粗 長石・石英3.0以 下多量、角閃 石・雲母2.0以下 多量	1/6	内面スス付着 在地産
図面番号 040	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(19.9) 器高(4.5)	ヨコナデ ヨコナデ後ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラガキ沈線4本	内面 におい黄褐色 10YR6/3 外面 におい黄褐色 10YR5/5 断面 灰白色 5YR7/2	やや密 長石2.0以下多 量、角閃石1.0以 下多量、石英1.0 以下少量	1/8	在地産
図面番号 041	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(19.4) 器高(4.5)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ部分的にナデ	内面 灰褐色 5YR5/2 外面 灰褐色 5YR5/2 断面 灰褐色 5YR5/2	角閃石・長石		在地産
図面番号 042	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(18.2) 器高(3.4)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	内面 黒褐色 10YR3/3 外面 灰褐色 5YR5/2 断面 黒褐色 10YR3/3	やや粗 長石3.0以下中 量、角閃石・雲 母1.0以下多量	小破 片	外面スス付着 在地産
図面番号 043	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(19.9) 器高(4.2)	ヨコナデ	ヨコナデ後一部ナデ	内面 淡黄色 2.5YR6/3 外面 におい黄褐色 10YR7/3 断面 灰黄色 2.5YR7/2	粗 長石・石英3.0以 下多量、雲母4.0 以下少量、チャ ート2.0.1個	口縁 部 1/5	他地域産
図面番号 044	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(17.8) 器高(2.5)	ナデ	ナデ	内面 灰黄色 2.5YR7/2 外面 明赤褐色 5YR5/8 断面 黄灰色 2.5Y6/1	粗 長石3.0以下中 量、石英2.0以下 中量	口縁 部 1/8	他地域産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 標準法	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 045	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(14.6) 器高(5.4)	ヨコナデ 縦方向のヘラミガキ後ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ、7条/cmのハケ メ後ナデ	内面 灰白色 2.5YR7/1 外面 灰褐色 5YR5/3 断面 灰白色 5YR5/2 灰白色 5YR7/1	やや密 長石2.0以下少 量、角閃石1.0以 下多量	小破 片	在地産
図面番号 046	第12層 自然流路	弥生土器	甕	器高 4.4 底径 (7.6)	ナデ	ナデ	内面 灰白色 2.5YR8/2 外面 灰褐色 7.5YR6/2 断面 灰白色 5Y6/1	やや粗 長石2.0以下少 量、石英・チャ ート3.0以下多 量、微細な雲母 少量	底部 1/4	底部粘土層痕 外面一部黒斑 他地域産
図面番号 047	第12層 自然流路	弥生土器	甕	口径(28.3) 器高(8.0)	ヨコナデ ヘラケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後7条/cmのハケ メ後ナデ	内面 浅黄色 2.5YR7/3 外面 浅黄色 2.5YR7/3 断面 浅黄色 2.5YR7/3	やや粗 長石、石英3.0以 下多量、角閃石 2.0以下多量	1/8	外面黒斑 在地産
図面番号 048	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(20.2) 器高(5.8)	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ	内面 褐色 7.5YR7/6 外面 褐色 5YR6/6 断面 灰白色 5Y7/1	粗 長石・石英・角 閃石5.0以下多量	口縁 部 1/8	在地産
図面番号 049	第12層 自然流路	弥生土器	鉢	口径(20.7) 器高(5.4)	ヨコナデ ヘラヘズリ後ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後丁寧なナデ	内面 黄灰色 2.5Y5/1 外面 灰褐色 7.5YR5/1 断面 灰白色 2.5YR8/2	やや粗 長石1.0以下多 量、角閃石2.0以 下少量、角閃石 2.0以下少量、雲 母1.0以下多量	小破 片	内面スス付着 在地産
図面番号 050	第12層 自然流路	弥生土器	壺	口径(4.5) 器高(8.8)	口縁部～頸部にかけてヘラガ キ直織文、竹管文、鋤齒文、 ヨコナデ	口縁部ヘラガキ沈線3本、 ナデ	内面 灰褐色 5YR6/2 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 褐色 7.5YR4/4	やや密 長石・角閃石0.5 以下多量	口縁 部 小破 片	在地産
図面番号 051	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヨコナデ	ヨコナデ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線2本	内面 明褐色 7.5YR5/6 外面 明褐色 7.5YR5/6 断面 明褐色 7.5YR5/6	長石・雲母	小破 片	他地域産
図面番号 052	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ナデ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線2本以上	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 褐色 7.5YR4/4	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 053	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 7.5YR4/4	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 054	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 にぶい黄褐色 10YR5/3 外面 にぶい黄褐色 10YR5/4	長石・雲母	小破 片	他地域産
図面番号 055	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	9条/cmのハケメ後ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 にぶい黄褐色 10YR5/3 外面 褐色 7.5YR4/2 断面 黄灰色 2.5Y6/1	やや密 長石1.0以下少 量、角閃石3.0以 下少量、微細な 雲母多量	小破 片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 埋蔵色・共存色	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 056	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 におい黄褐色 10YR5/4 外面 赤褐色 5YR4/6 断面 におい黄褐色 10YR5/4	やや粗 長石1.5以下多 量、角閃石3.0 以下多量、微妙 な雲母・クサリ 礫少量	小破 片	在地産
図面番号 057	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 明赤褐色 5YR4/6 断面 灰黄色 2.5Y7/2	粗 長石3.0以下多 量、角閃石1.0以 下多量	小破 片	在地産
図面番号 058	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・金雲母・ 角閃石	小破 片	在地産
図面番号 059	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラケズリ後ナデ	6条/cmのハケメ ヘラガキ沈線2本	内面 におい黄色 2.5Y6/5 外面 褐灰色 7.5YR4/1 断面 灰白色 5Y7/2	やや密 長石2.0以下中 量、角閃石1.0 以下多量、微細 な雲母少量	小破 片	在地産
図面番号 060	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本以上	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 061	第12層 自然流路	弥生土器			ヨコナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 におい黄褐色 10YR5/5 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰色 5Y6/1	密 長石1.0微妙な角 閃石・雲母多量 以下少々	小破 片	在地産
図面番号 062	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	7条/cmのハケメ ヘラガキ沈線2本	内面 黄灰色 2.5Y6/1 外面 におい黄褐色 10YR6/3 断面 におい黄褐色 10YR6/3	密 長石0.5以下少 量、雲母・角閃 石0.5以下多量	小破 片	在地産
図面番号 063	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本 竹管文	内面 赤褐色 10YR4/6 外面 赤褐色 10YR4/6 断面 赤褐色 10YR4/6	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 064	第12層 自然流路	弥生土器			風化のため調整不明	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 灰黄褐色 10YR5 外面 灰黄褐色 10YR5 断面 灰黄褐色 10YR5	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 065	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 066	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 黄褐色 10YR5/6	長石・金雲母・ 角閃石	小破 片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 遺留位置付高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 067	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本以上	外面 灰黄色 2.5YR6/2	やや密 長石0.5以下少量、 角閃石1.0以下多量、 雲母0.5以下多量	小破片	在地産
図面番号 068	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヨコナデ ヘラガキ沈線2本以上	内面 黄褐色 2.5Y5/3 外面 黄褐色 2.5Y5/3 断面 黄褐色 2.5Y5/3	長石・金雲母・ 雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 069	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ後ナデ ヘラガキ沈線1本	内面 にぶい黄褐色 10Y5/4 外面 灰黄色 2.5Y6/2 断面 灰白色 10Y7/1	やや粗 長石・石英3.0以下 中量、角閃石1.0以下 少量、微妙な雲母多量	小破片	在地産
図面番号 070	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線1本以上	内面 にぶい赤褐色 5YR5/3 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 5YR5/2	やや密 長石7.0以下中量、 角閃石・雲母2.0以下中量	小破片	在地産
図面番号 071	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線1本	内面 暗灰黄色 10YR5/2 外面 黒褐色 2.5Y3/2	長石・雲母・金 雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 072	第12層 自然流路	弥生土器	変		ナデ	ヨコナデ、口縁端部刻目 ヘラガキ沈線2本	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号 073	第12層 自然流路	弥生土器	変		ヨコナデ ナデ	横方向のハケメ 縦方向のハケメ 口縁端部刻目 ヘラガキ沈線1本	内面 暗灰黄色 2.5Y5/2 外面 暗灰黄色 2.5Y5/2 断面 暗灰黄色 2.5Y5/2	長石・金雲母・ 角閃石	小破片	在地産
図面番号 074	第12層 自然流路	弥生土器	変		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線1本	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 黄褐色 10YR5/6	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号 075	第12層 自然流路	縄文土器			風化のため調整不明	ナデ 口縁端部貼付突帯	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・石英・金 雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 076	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヨヘラガキ沈線1本	内面 にぶい黄色 2.5Y6/3 外面 にぶい黄色 2.5Y6/3 断面 にぶい黄色 2.5Y6/3	やや粗 長石2.0以下多量、 角閃石1.0以下多量、 微妙な雲母少量	小破片	内面一部スス付 在地産
図面番号 077	第12層 自然流路	縄文土器			風化のため調整不明	ナデ 貼付突帯1本	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・金雲母・ 石英・角閃石	小破片	

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()裏面直径	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 078	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ナデ 口縁端部刻目 ヘラガキ沈線5本	内面 褐色 10YR5/6 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 褐色 7.5YR4/4	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 079	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ナデ ヘラガキ沈線5本以上	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 黄褐色 10YR5/6	長石・雲母・金 雲母・角閃石	小破 片	在地産
図面番号 080	第12層 自然流路	弥生土器			ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ ヘラガキ沈線8本	内面 暗褐色 10YR3/4 暗褐色 外面 暗褐色 10YR3/4 断面 褐色 5YR6/6	やや密 長石1.0以下少 量、角閃石2.0以 下少量、雲母1.0 以下多量、クサ リ礫1.0以下少量	小破 片	在地産
図面番号 081	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	7条/cmのハケメ後ヘラミガ キ ヘラガキ沈線7本以上	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 7.5YR4/2 断面 明褐色 7.5YR5/6	やや密 長石4.0以下少 量、角閃石2.0以 下少量、微細な 雲母多量、微細 なクサリ礫少量	小破 片	外面一部黒斑 在地産
図面番号 082	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線7本以上	内面 にくい赤褐色 5YR5/4 外面 褐色 5YR5/1 断面 にくい黄褐色 10YR6/3	やや粗 長石3.0以下中 量、角閃石2.0以 下少量、雲母1.0以下中量	小破 片	在地産
図面番号 083	第12層 自然流路	弥生土器			ケズリ後ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本	内面 灰色 5Y5/1 外面 灰色 5Y6/1 断面 灰色 5Y7/1	密 長石3.0以下少 量、微細な雲 母・角閃石多量	小破 片	在地産
図面番号 084	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線5本以上2帯	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 黄褐色 10YR5/6	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 085	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線9本以上	内面 灰黄褐色 10YR4/2 外面 灰黄褐色 10YR4/2 断面 灰黄褐色 10YR4/2	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 086	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ケズリ後ナデ	5条/cmのハケメ後ナデ 口縁端部刻目 ヘラガキ沈線3本	内面 にくい黄褐色 10YR6/4 外面 灰黄色 2.5Y7/2 断面 灰黄色 2.5Y7/2	やや密 長石1.0以下少 量、角閃石・雲 母0.5以下中量、 クサリ礫1.0以下 少量	小破 片	在地産
図面番号 087	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 褐色 5YR4/6	やや粗 長石2.0以下中 量、角閃石1.0以 下中量、クサリ 礫1.0以下少量、 微妙な雲母少量	小破 片	在地産
図面番号 088	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本	内面 浅黄色 2.5Y7/3 外面 浅黄色 2.5Y7/3 断面 灰色 10Y6/1	やや密 長石・石英2.0以 下中量、角閃石 1.0以下中量	小破 片	一部黒斑 在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 遺器目録番号	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 089	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本以上	内面 明黄褐色 10YR6/6 外面 明黄褐色 10YR6/6 断面 明黄褐色 10YR6/6	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 090	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線6本	内面 黄灰色 2.5Y5/1 外面 褐灰色 10YR4/1 断面 灰白色 5Y7/1	やや密 長石3.0以下中 量、微細な雲母 多量	小破 片	外面スス付着 他地域産
図面番号 091	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線5本	内面 褐色 7.5YR4/3 外面 にぶい橙色 7.5YR7/4 断面 にぶい黄褐色 10YR5/3	やや粗 長石3.0以下多 量、角閃石2.0以 下多量、クサリ 礫1.0以下少量、 微細な雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 092	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 淡黄色 7.5Y8/3 外面 淡黄色 7.5Y8/3 断面 淡黄色 7.5Y8/3	長石・石英	小破 片	他地域産
図面番号 093	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線7本以上	内面 明褐灰色 5YR7/2 外面 灰色 7.5YR4/1 断面 灰色 7.5YR6/1	やや粗 長石2.0以下中 量、雲母1.0以下 多量	小破 片	外面スス付着 他地域産
図面番号 094	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線5本以上	内面 にぶい褐色 7.5YR5/3 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 黄灰色 2.5YR6/1	やや粗 長石5.0以下中 量、角閃石2.0以 下中量、クサリ 礫1.0以下少量、 微細な雲母少量	小破 片	在地産
図面番号 095	第12層 自然流路	弥生土器			ヨコナデ	ヘラガキ沈線5本以上	内面 灰褐色 7.5YR4/2 外面 褐灰色 10YR4/1 断面 灰ナリーブ色 5YR6/2	やや粗 長石・石英2.0以 下多量、微細な 雲母多量	小破 片	他地域産
図面番号 096	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ後ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線1本 山形文	内面 にぶい黄褐色 10YR5/4 外面 灰黄褐色 10YR4/2 断面 灰白色 2.5YR7/1	やや粗 長石・石英1.5以 下中量、角閃石 4.0以下少量、微 細な雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 097	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本 斜格子文	内面 黄褐色 2.5Y5/3 外面 にぶい褐色 7.5YR5/4 断面 灰黄色 2.5Y7/2	やや粗 長石1.5以下中 量、角閃石2.0以 下多量、クサリ 礫1.0以下少量、 微細な雲母少量	小破 片	在地産
図面番号 098	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線4本以上	内面 にぶい黄褐色 10YR6/4 外面 灰白色 5Y7/1 断面 灰白色 5Y7/1	やや粗 長石・石英3.0以 下多量、角閃石 1.0以下多量	小破 片	在地産
図面番号 099	第12層 自然流路	弥生土器			ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ ヘラガキ沈線3本	内面 にぶい黄褐色 10YR5/4 外面 黄灰色 2.5Y4/1 断面 灰白色 7.5Y7/2	やや粗 長石1.0以下中 量、角閃石1.0以 下少量、微細な 雲母少量	小破 片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 数量・存在感	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 100	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR5/4 外面 黄褐色 2.5Y4/1 断面 灰白色 7.5Y7/2	やや粗 長石1.0以下中量、 角閃石1.0以下少量、 微細な 雲母少量	小破片	在地産
図面番号 101	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本以上	内面 褐灰色 10YR5/1 外面 褐灰色 10YR5/1 断面 褐灰色 10YR5/1	長石・金雲母	小破片	他地域産
図面番号 102	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ナデ ヘラガキ沈線5本以上	内面 灰白色 7.5Y7/1 外面 ぶい黄褐色 10YR6/3 断面 灰白色 7.5Y7/1	やや粗 長石2.0以下中量、 角閃石・雲母1.0以下多量	小破片	在地産
図面番号 103	第12層 自然流路	弥生土器			5条/cmのハケメ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR6/3 外面 ぶい黄褐色 10YR6/3 断面 灰黄褐色 10YR6/2	やや粗 長石1.0以下中量、 角閃石2.0以下多量、 微妙な 雲母多量	小破片	在地産
図面番号 104	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヨコナデ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線4本以上	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 105	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ後ナデ	ヘラミガキ 列点文1本 ヘラガキ沈線3本以上	内面 灰黄色 2.5Y6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄色 2.5Y6/2	やや密 長石2.0以下中量、 角閃石0.5以下多量、 クサリ 礫1.0以下少量	小破片	在地産
図面番号 106	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 107	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	8条/cmのハケメ後ミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR6/3 外面 ぶい黄褐色 10YR6/3 断面 灰白色 7.5Y7/1	やや粗 長石・石英8.0以下中量、 角閃石2.0以下多量、 微細な雲母、 クサリ 礫少量	小破片	在地産
図面番号 108	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ハケメ後ミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 黄褐色 10YR5/6	長石・雲母・金雲母	小破片	他地域産
図面番号 109	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本 (大1)(小3)	内面 オリーブ黒色 5Y3/2 外面 ぶい褐色 10YR4/3 断面 ぶい黄褐色 10YR5/4	やや粗 長石4.0以下多量、 クサリ礫1.0以下少量、 微細な 角閃石・雲母多量	小破片	在地産
図面番号 110	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	10条/cmのハケメ後ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 灰黄色 2.5Y7/2 外面 ぶい黄褐色 10YR4/3 断面 灰白色 5Y8/2	やや粗 長石・角閃石1.5以下多量、 金雲母2.0以下少量、 微細な雲母多量	小破片	外面スス付着 在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()埋没生具存在	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 111	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線 4本	内面 ぶい黄褐色 10YR7/3 外面 ぶい黄褐色 2.5YR7/4 断面 灰白色 5Y7/2	やや粗 長石 2.0以下少量、 角閃石 2.0以下多量、 クサリ 礫 1.0以下少量、 微妙な雲母多量	小破片	外面一部スス付着 在地産
図面番号 112	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヨコナデ ヘラガキ沈線 3本以上	内面 純色 7.5YR4/4 外面 純色 7.5YR4/4 断面 7.5YR4/4	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号 113	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線 2本以上	内面 灰色 7.5Y6/1 外面 ぶい黄褐色 10YR6/3 断面 ぶい黄褐色 10YR7/2	やや粗 長石 2.0以下多量、 角閃石 1.0以下多量	小破片	在地産
図面番号 114	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ クシ描沈線 7条 2帯	内面 赤褐色 5YR4/6 外面 赤褐色 5YR4/6 断面 赤褐色 5YR4/6	長石・金雲母・ 雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 115	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線 2本以上	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・金 雲母	小破片	他地域産
図面番号 116	第12層 自然流路	弥生土器			風化のため調整不明	風化のため調整不明 ヘラガキ直線文 2本以上	内面 黄灰褐色 10YR5/2 外面 黄灰褐色 10YR5/2 断面 黄灰褐色 10YR5/2	長石・石英・金 雲母・雲母	小破片	他地域産
図面番号 117	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線 4本以上	内面 明黄褐色 10YR6/6 外面 明黄褐色 10YR6/6	長石・角閃石・ 雲母	小破片	在地産
図面番号 118	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線 7本以上	内面 明赤褐色 5YR5/6 外面 明赤褐色 5YR5/6 断面 明赤褐色 5YR5/6	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号 119	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線 4本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR5/3 外面 ぶい黄褐色 10YR5/3 断面 ぶい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号 120	第12層 自然流路	弥生土器			風化のため調整不明	ナデ ヘラガキ沈線 4本	内面 灰黄色 2.5Y7/2 外面 灰黄色 2.5Y7/2	長石	小破片	他地域産
図面番号 121	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ クシ描直線文 7条 2帯	内面 ぶい黄褐色 10YR5/4 外面 ぶい黄褐色 10YR5/4	長石・金雲母・ 角閃石・雲母	小破片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 標準土器存在	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号122	第12層 自然流路	弥生土器			ケズリ後ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本	内面 褐色 10YR6/1 外面 におい褐色 7.5YR5/4 断面 明オリープ色 2.5YR7/1	やや密 長石1.0以下多量、角閃石2.0以下多量、微細な雲母多量	小破片	在地産
図面番号123	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本以上	内面 灰黄色 2.5Y7/2 外面 灰黄色 2.5Y7/2 断面 灰黄色 2.5Y7/2	長石・チャート	小破片	他地域産
図面番号124	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ ユビ任痕	ナデ ヘラガキ沈線3本以上	内面 灰白色 5YR8/2 外面 淡黄色 2.5YR8/3 断面 淡黄色 2.5YR8/3	粗 長石1.0以下少量、石英4.0以下多量、クサリ礫1.0以下少量	小破片	他地域産
図面番号125	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・金雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号126	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 黄褐色 2.5Y5/3 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰白色 10Y7/1	やや粗 長石2.0以下中量、石英4.0以下少量、角閃石・雲母1.0以下多量	小破片	在地産
図面番号127	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本	内面 暗灰黄色 2.5Y4/2 外面 黄灰色 2.5Y5/1 断面 灰白色 2.5Y7/1	やや粗 長石1.0以下多量、角閃石1.0以下少量	小破片	在地産
図面番号128	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ハケメ後ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 におい黄褐色 10YR5/3 外面 におい黄褐色 10YR5/3 断面 におい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号129	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ハケメ後ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 明赤褐色 5YR5/6 外面 明赤褐色 5YR5/6 断面 明赤褐色 5YR5/6	長石	小破片	他地域産
図面番号130	第12層 自然流路	弥生土器			風化のため調整不明	風化のため調整不明 ヘラガキ沈線3本以上	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号131	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本以上	内面 におい黄褐色 10YR5/3 外面 におい黄褐色 10YR5/3 断面 におい黄褐色 10YR5/3	雲母・金雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号132	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 橙色 5YR6/8 外面 橙色 5YR6/8 断面 灰白色 10Y7/1	やや粗 長石2.0以下少量、角閃石2.0以下多量	小破片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 標準器基準	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 133	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ ヘラガキ沈線 8 本以上	内面 浅黄色 2.5Y7/3 外面 におい黄褐色 10YR6/3 断面 浅黄色 2.5Y7/3	やや密 長石 1.5 以下多 量、石英、角閃 石 2.0 以下少量、 微細な雲母少量	小破 片	在地産
図面番号 134	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ケズリ後ナデ	8 条/cm のハケメ後ナデ ヘラガキ沈線 7 本以上	内面 浅黄色 7.5YR8/4 外面 におい黄褐色 10YR8/3 断面 灰白色 5Y7/1	やや粗 長石・石英 2.0 以 下多量、雲母・ クサリ線 1.0 以 下少量	小破 片	他地域産
図面番号 135	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラケズリ	ヘラミガキ後ナデ ヘラガキ沈線 7 本以上	内面 におい赤褐色 5YR5/3 外面 褐色 5YR6/6 断面 褐色 5YR6/6	やや密 長石 3.0 以下少 量、角閃石・雲 母 1.0 以下少量	小破 片	在地産
図面番号 136	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線 7 本以上	内面 浅黄褐色 10YR6/3 外面 浅黄褐色 10YR8/3 断面 浅黄褐色 10YR8/3	長石	小破 片	他地域産
図面番号 137	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線 6 本	内面 明黄褐色 10YR7/6 外面 明黄褐色 10YR7/6 断面 明黄褐色 10YR7/6	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 138	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	15 条/cm のハケメ後ヘラミガキ ヘラガキ沈線 7 本以上	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄色 2.5Y7/2	やや密 長石 1.0 以下少 量、角閃石 2.0 以 下中量、微細な 雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 139	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線 5 本以上	内面 におい黄褐色 10YR5/3 外面 におい黄褐色 10YR5/3 断面 におい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 140	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ヘラミガキ 貼付突帯 1 本 突帯部ヘラケズリ	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 10YR4/4 断面 灰白色 7.5Y7/1	やや密 長石 3.0 以下多 量、角閃石 1.0 以 下多量、微細な 雲母中量	小破 片	在地産
図面番号 141	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ 貼付突帯 1 本 突帯部ヘラケズリ	内面 におい黄褐色 10YR7/3 外面 淡黄色 5YR8/3 断面 灰白色 5Y8/2	やや粗 長石・石英 2.0 以 下多量、微細な 雲母多量	小破 片	外面黒斑 他地域産
図面番号 142	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ヘラミガキ 木象文	内面 淡黄色 7.5Y8/3 外面 淡黄色 7.5Y8/3 断面 淡黄色 7.5Y8/3	長石・金雲母・ 雲母・角閃石	小破 片	在地産
図面番号 143	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ヘラガキ沈線 4 本以上	内面 におい黄褐色 10YR5/3 外面 におい黄褐色 10YR5/3 断面 におい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()埋込乳基存在	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号144	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヘラケズリ後ナデ 一部10条/cmのハケメ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線4本	内面 灰褐色 10YR5/3 外面 黒色 10YR2/1 断面 黄灰色 2.5Y6/1	やや粗 長石2.0以下多量、 角閃石0.5以下多量	小破片	在地産
図面番号145	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヨコナデ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線4本	内面 ぶい黄褐色 10YR5/3 外面 ぶい黄褐色 10YR5/3 断面 ぶい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・金 雲母・角閃石	小破片	外面一部スス付 在地産
図面番号146	不明	弥生土器	甕		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線4本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR5/3 外面 ぶい黄褐色 10YR5/3 断面 ぶい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号147	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 ぶい黄褐色 10YR6/5 断面 浅黄色 2.5Y7/3	やや密 長石2.0以下中 量、角閃石2.0以下 多量 雲母1.0以下中量	小破片	在地産
図面番号148	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本	内面 暗灰黄色 2.5Y5/2 外面 暗灰黄色 2.5Y5/2 断面 暗灰黄色 2.5Y5/2	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号149	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本以上	内面 黄灰色 2.5Y4/1 外面 黄灰色 2.5Y4/1 断面 黄褐色 10YR5/6	やや密 長石1.5以下少 量、角閃石・雲 母1.0以下多量	小破片	在地産
図面番号150	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラミガキ	ヘラミガキ 貼付突帯1本 突帯部刻目	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 褐色 7.5YR4/4	長石・金雲母・ 角閃石	小破片	在地産
図面番号151	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	9条/cmのハケメヨコナデ 貼付突帯1本 突帯部ヘラケズリ	内面 黄灰色 2.5Y6/1 外面 褐灰色 7.5YR6/1 断面 黄褐色 2.5Y7/2	やや密 長石2.0以下少 量、角閃石1.5以 下多量、クサリ 礫1.0以下少量、 微細な雲母多量	小破片	在地産
図面番号152	第12層 自然流路	弥生土器			ヨコナデ	ヨコナデ 貼付突帯1本 突帯部ヘラケズリ	内面 ぶい黄褐色 10YR5/4 外面 明褐色 7.5YR5/6 断面 ぶい褐色 7.5YR5/4	粗 長石1.5以下中 量、角閃石3.0以 下多量、クサリ 礫1.0以下少量、 微細な雲母多量	小破片	在地産
図面番号153	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線2本以上	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 褐色 7.5YR4/4	長石・雲母・角 閃石	小破片	在地産
図面番号154	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヨコナデ ナデ	ナデ 口縁部刻目 ヘラガキ沈線3本	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・雲母・金 雲母・角閃石	小破片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 遺器目録付	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 155	第12層 自然流路	弥生土器	壺		クラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 褐色 7.5YR4/3 外面 灰褐色 5YR5/2 断面 褐灰色 10YR4/1	やや密 長石1.5以下中 量、クサリ礫1.5 以下少量、微細 な角閃石・雲母 多量	小破 片	在地産
図面番号 156	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 暗灰黄色 2.5Y5/2 外面 黄灰色 2.5Y5/1 断面 暗灰黄色 2.5Y5/2	やや粗 長石4.0以下多 量、角閃石2.0以 下多量、微細な 雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 157	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・雲母・金 雲母・角閃石	小破 片	在地産
図面番号 158	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本	内面 にぶい黄色 2.5Y6/3 外面 にぶい黄褐色 10YR5/3 断面 にぶい黄色 2.5Y6/3	やや粗 長石4.0以下多 量、角閃石2.5以 下多量、微細な 雲母少量	小破 片	在地産
図面番号 159	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 淡黄色 2.5Y7/3 外面 にぶい黄褐色 10YR7/3 断面 灰色 5Y6/1	やや粗 長石・石英2.0以 下中量、長石・ 雲母1.0以下少量	顎部 1/4	在地産
図面番号 160	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ 貼付突帯4本以上 突帯部ヘラケズリ	内面 明黄褐色 10YR7/6 5/6 外面 にぶい橙黄色 7.5YR7/4 断面 明黄褐色 10YR7/6	やや密 長石2.5mm以下 中量、角閃石1.0 以下多量、クサ リ礫1.0以下少量	小破 片	内面一部スズ付 着 在地産
図面番号 161	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	8条/cmのハケメ後ナデ 貼付突帯1本 突帯部ヘラケズリ	内面 暗灰色 N3/0 外面 にぶい黄褐色 10YR6/3 断面 にぶい黄褐色 10YR6/3	やや密 長石・石英2.0以 下多量、微細な 雲母多量	小破 片	外面一部未付着 他地域産
図面番号 162	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヨコナデ 貼付突帯2本以上 突帯部刻目	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 163	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ヘラミガキ 貼付突帯1本以上 突帯部ヘラケズリ	内面 赤褐色 5YR4/6 外面 赤褐色 5YR4/6 断面 赤褐色 5YR4/6	長石・角閃石	小破 片	在地産
図面番号 164	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 縦方向のハケメ ヘラガキ沈線3本以上	内面 明赤褐色 5YR5/6 外面 灰褐色 5YR6/2	長石・雲母	小破 片	他地域産
図面番号 165	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ハケメ 口縁端部刻目 ヘラガキ沈線2本	内面 明黄褐色 10YR6/6 外面 明黄褐色 10YR6/6 断面 明黄褐色 10YR6/6	長石・雲母・角 閃石・チャート	小破 片	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 復原径, 法存径	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 166	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヘラケズリ ヘラガキ沈線1本	内面 黒褐色 7.5YR3/2 外面 黒褐色 7.5YR3/2 断面 黒褐色 7.5YR3/2	やや粗 長石2.0以下多 量、角閃石1.0以 下少量、微細な 雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 167	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ハケメ後ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本以上	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 灰黄褐色 10YR6/2	長石・雲母・角 閃石・金雲母	小破 片	在地産
図面番号 168	第12層 自然流路	弥生土器	甕		粗いナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 オリーブ褐色 2.5Y4/3 外面 にがい褐色 7.5YR5/3 断面 オリーブ褐色 2.5Y4/3	粗 長石5.0以下多 量、石英・角閃 石・雲母2.0以下 中量、クサリ礫 1.0以下少量	小破 片	在地産
図面番号 169	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 灰黄褐色 10YR6/2 外面 灰黄色 2.5Y6/2 断面 灰色 5Y5/1	粗 長石・石英2.0以 下多量、角閃石 2.0以下中量	小破 片	在地産
図面番号 170	第12層 自然流路	弥生土器			8 条/cmのハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ ヘラガキ沈線1本以上	内面 にがい褐色 7.5YR5/4 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 にがい褐色 7.5YR5/4	やや密 長石1.0以下中 量、角閃石1.5以 下少量、クサリ 礫1.0以下少量、 微細な雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 171	第12層 自然流路	弥生土器			ナデ	ナデ ヘラガキ沈線1本	内面 明赤褐色 5YR5/6 外面 明赤褐色 5YR5/6 断面 明赤褐色 5YR5/6	長石・角閃石	小破 片	在地産
図面番号 172	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ 貼付突帯3本以上 突帯部ヘラケズリ	内面 灰黄色 2.5Y7/2 外面 淡黄色 5Y8/3 断面 淡黄色 5Y8/3	やや粗 長石1.5以下中 量、石英3.0以下 多量、黒色鉱物 3.0以下多量	小破 片	他地域産
図面番号 173	第12層 自然流路	弥生土器			ヨコナデ	ヨコナデ 煎志文2本 百線1本	内面 灰色 5Y6/1 外面 にがい黄褐色 10YR5/4 断面 灰色 5Y6/1	やや粗 長石2.0以下中 量、角閃石1.5以 下多量、微細な 雲母多量	小破 片	在地産
図面番号 174	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 にがい黄褐色 10YR6/3 外面 淡黄色 2.5Y7/3 断面 淡黄色 2.5Y8/3	やや粗 長石1.0以下多 量、石英1.0以 下中量、角閃 石1.0以下少量	頸部 1/4	在地産
図面番号 175	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラミガキ後ナデ	ヘラミガキ後ナデ ヘラガキ沈線7本2帯	内面 にがい褐色 7.5YR5/4 外面 オリーブ褐色 2.5Y4/3 断面 灰白色 5Y7/1	やや粗 長石6.0以下中 量、雲母・角閃 石1.0以下多量、 クサリ礫0.5以下 少量	頸部 1/8	在地産
図面番号 176 実測図番号 拓109	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラミガキ	風化のため調整不明 ヘラミガキ沈線5本	内面 明褐色 7.5YR7/2 外面 明褐色 7.5YR7/2 断面 明褐色 7.5YR7/2	長石・石英	小破 片	他地域産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 遺器位置記載	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 177	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ ヘラガキ沈線4本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR7/6 外面 ぶい橙色 10YR6/5 断面 ぶい黄褐色 10YR7/6	やや粗 長石1.5以下多量、石英3.0以下多量、微細な雲母少量	頸部 小破片	他地域産
図面番号 178	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本	内面 暗赤褐色 5YR3/6 外面 暗赤褐色 5YR3/6 断面 暗赤褐色 5YR3/6	長石・雲母・角閃石	小破片	在地産
図面番号 179	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ハケメ	ハケメ 口縁端部刻目 貼付突帯1本突帯部刻目	内面 褐色 7.5YR4/6 外面 褐色 7.5YR4/6 断面 褐色 7.5YR4/6	長石・金雲母・角閃石・雲母	小破片	外面一部スズ付着 在地産
図面番号 180	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラミガキ	8条/cmのハケメ後ヘラミガキ ヘラガキ沈線3本	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄色 2.5Y6/2 断面 灰白色 10Y7/1	やや粗 長石2.0以下中量、角閃石2.0以下少量、クサリ礫1.0以下少量、微細な雲母多量	小破片	一部黒斑 在地産
図面番号 181	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラミガキ	14条/cmのハケメ後丁寧なヘラミガキ 貼付突帯2本 突帯部ヘラケズリ	内面 浅黄褐色 2.5YR7/3 外面 灰黄褐色 10YR6/2 断面 淡黄色 5Y8/3	やや粗 長石・チークト2.0以下多量、雲母1.0以下中量	頸部 1/4	他地域産
図面番号 182	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラケズリ後ナデ	10条/cmのハケメ後ナデ ヘラガキ沈線6本以上	内面 浅黄褐色 7.5YR8/4 外面 淡黄色 2.5Y8/3 断面 灰白色 10Y8/2	やや粗 長石2.0以下少量、石英2.5以下多量、角閃石1.5以下多量、クサリ礫2.0以下少量	小破片	在地産
図面番号 183	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線6本	内面 明黄褐色 10YR6/6 外面 明黄褐色 10YR6/6 断面 明黄褐色 10YR6/6	長石・雲母・金雲母・角閃石・クサリ礫	小破片	在地産
図面番号 184	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ 一部ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線4本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR4/3 外面 褐色 7.5YR4/6 断面 灰黄褐色 10YR6/2	やや密 長石2.0以下中量、角閃石2.0以下多量、微細な雲母少量	小破片	在地産
図面番号 185	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ヘラミガキ ナデ	ナデ 口縁端部刻目 ヘラガキ沈線2本	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・雲母・角閃石・金雲母	小破片	在地産
図面番号 186	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラケズリ後ナデ	10条/cmのハケメ後ヨコナデ ヘラガキ沈線2本以上	内面 淡黄褐色 2.5YR8/3 断面 (1部) 褐色 5YR7/6	やや粗 長石・石英2.0以下多量、珪石多量、微細な雲母多量	小破片	他地域産
図面番号 187	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ケズリ後ミガキ 受け部あり	貼付突帯7本 突帯部に刻目後ヨコナデ	内面 ぶい黄色 2.5YR6/3 外面 オリーブ黄色 5YR6/3 断面 オリーブ黄色 5Y6/3	やや粗 長石1.0以下多量、角閃石・チークト2.0以下多量、微細な雲母多量	頸部 1/4	在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 重量(g) 寸法	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 188	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ヨコナデ 口縁端部刻目 ヘラガキ沈線3本	内面 褐色 7.5YR4/4 外面 褐色 7.5YR4/4 断面 褐色 7.5YR4/4	長石・雲母・角 閃石	小破 片	外面一部スス付 岩 在地産
図面番号 189	第12層 自然流路	弥生土器			ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ 貼付突帯3本 突帯部布目痕 ヘラケズリ	内面 にぶい黄褐色 10YR6/3 外面 にぶい黄褐色 10YR5/4 断面 灰白色 5Y7/1	やや粗 長石2.5以下少 量、角閃石・雲 母1.0以下多量、 クサリ礫1.0以下 少量	小破 片	在地産
図面番号 190	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ ユビ圧痕	ナデ ヘラガキ沈線2本	内面 にぶい黄褐色 10YR5/3 外面 にぶい黄褐色 10YR5/3 断面 にぶい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 191	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラミガキ	ヨコナデ 貼付突帯5本以上 突帯部ヘラケズリ	内面 灰黄褐色 10YR5/2 外面 灰黄褐色 10YR5/2 断面 灰黄褐色 10YR5/2	長石・金雲母・ 角閃石	小破 片	在地産
図面番号 192	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	6条/cmのハケメ後ナデ ナデ ヘラガキ沈線6本	内面 にぶい黄褐色 10YR7/3 外面 にぶい黄褐色 10YR6/4 断面 灰黄色 2.5Y7/2	やや密 長石2.0以下中 量、石英2.0以下 少量、微細な雲 母多量	顎部 1/8	他地域産
図面番号 193	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線5本以上	内面 褐色 10YR4/4 外面 褐色 10YR4/4 断面 褐色 10YR4/4	長石・雲母・金 雲母・角閃石	小破 片	在地産
図面番号 194	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線6本	内面 浅黄色 2.5Y7/2 外面 浅黄色 2.5Y7/2 断面 浅黄色 2.5Y7/2	粗 長石3.0以下多 量、チナート2.0 以下多量、微細 な雲母多量	小破 片	他地域産
図面番号 195	第12層 自然流路	弥生土器	甕		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線4本 口縁端部刻目	内面 にぶい黄褐色 10YR5/3 外面 にぶい黄褐色 10YR5/3 断面 にぶい黄褐色 10YR5/3	長石・雲母・角 閃石	小破 片	在地産
図面番号 196	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線2本以上	内面 明黄褐色 10YR6/8 外面 明黄褐色 10YR6/8	長石・クサリ礫	小破 片	他地域産
図面番号 197	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ナデ	ナデ ヘラガキ沈線3本	内面 褐色 10YR4/4 外面 褐色 10YR4/6 断面 灰白色 5Y7/1	やや粗 長石・角閃石・石 英2.0以下多量、 微細な雲母中量	小破 片	在地産
図面番号 198	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラガキ沈線2本	内面 黄褐色 10YR5/6 外面 黄褐色 10YR5/6 断面 黄褐色 10YR5/6	長石・雲母・角 閃石	小破 片	他地域産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 標準器具等	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 199	第12層 自然流路	弥生土器	壺		ヨコナデ	ヨコナデ ヘラガキ沈線6本以上	内面 ぶい黄褐色 10YR5/3 外面 ぶい黄褐色 10YR5/3 断面 灰白色 7.5Y7/1	やや密 長石2.0以下中量、角閃石2.0以下中量	小破片	在地産
図面番号 200	井戸2 茶灰褐色 粘土	布留式土器	壺	口径 14.5 器高 23.4	ヨコナデ ナデ、ヘラケズリ ナデ、ユビ圧痕	ヨコナデ 10条/cmのハケメ後ヨコナデ、6条/cmのハケメ 10条/cmのハケメ	内面 ぶい黄褐色 10YR7/3 外面 灰白色 2.5Y8/2 断面 ぶい黄褐色 10YR7/3	やや密 チャート1.5以下中量、長石1.0以下中量、石英3.0以下少量	完形	体部～底部スス付着 他地域産
図面番号 201	井戸2 茶褐色粘 土	布留式土器	壺	口径(18.2) 器高 29.8	ヨコナデ ナデ、右上がりのヘラケズリ、 右下がりのヘラケズリ ナデ、ユビ圧痕	ヨコナデ 9条/cmのハケメ後ヨコナデ、 斜め方向のハケメ後横方向ハケメ、縦方向のハケメ	内面 灰白色 7.5Y8/1 外面 灰白色 7.5Y8/1 断面 灰白色 7.5Y8/1	やや密 長石・石英1.5以下少量、クサリ礫1.0以下少量 チャート以下中量(6.0は一個)	ほぼ 完形	体部～底部スス付着 他地域産
図面番号 202	溝4 茶褐色砂 質シルト	布留式土器	壺	口径(15.2) 器高 (3.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 ぶい黄褐色 10YR7/3 外面 黒褐色 7.5YR3/1 断面 灰白色 7.5YR8/2	やや密 長石1.0以下中量、石英1.0以下中量	口縁部 小破片	外面スス付着 他地域産
図面番号 203	井戸2 茶灰褐色 粘土	布留式土器	壺	口径 16.4 器高 (19.6)	ヨコナデ、ナデ 横方向のヘラケズリ	ヨコナデ 12条/cmのハケメ後ヨコナデ、 横方向のハケメ、縦方向のハケメ	内面 淡黄色 2.5Y8/3 外面 淡黄色 2.5Y8/3 断面 淡黄色 2.5Y8/3	やや密 長石1.0以下少量、石英1.0以下中量、クサリ礫1.5以下中量	完形 体部 1/8欠損	外面スス付着 他地域産
図面番号 204	井戸2	庄内式土器	壺	口径(14.0) 器高 (1.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 ぶい黄褐色 外面 黄褐色 10YR6/6 断面 灰白色 N7/0	やや粗 チャート1.0以下多量、雲母1.0以下多量、角閃石0.5以下多量	口縁部 1/8	外面スス付着 在地産
図面番号 205	井戸2 茶灰褐色 砂質シル ト	庄内式土器	壺	口径(11.6) 器高 (1.9)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 灰白色 5Y7/1 外面 灰白色 10YR8/1 断面 灰白色 5Y7/1	やや粗 角閃石・雲母0.5以下多量	口縁部 小破片	在地産
図面番号 206	井戸2	庄内式土器	壺	口径(14.8) 器高 (2.8)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ 右から左へのヘラケズリ	内面 灰白色 N7/0 外面 灰白色 N7/0 断面 灰白色 N7/0	やや密 角閃石0.5以下多量、雲母1.0以下中量、クサリ礫1.0以下少量	口縁部 1/8	外面スス付着 在地産
図面番号 207	井戸2 明茶褐色 粘土質シル ト	庄内式土器	壺	口径(15.0) 器高 (2.6)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 灰白色 7.5Y8/1 外面 褐色 10YR4/1 断面 灰白色 7.5Y8/1	やや粗 チャート2.0以下中量、石英・長石・角閃石2.0以下多量、クサリ礫2.0以下少量	口縁部 1/8	在地産
図面番号 208	井戸2 暗茶灰褐色 粘土	庄内式土器	壺	口径(15.6) 器高 (1.2)	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 灰オリーブ色 5Y4/2 外面 オリーブ黒色 5Y3/2 断面 灰色 5Y6/1	密 角閃石0.5以下多量、長石1.0以下少量	口縁部 1/8	在地産
図面番号 209	井戸2 黒灰褐色 砂質シル ト	庄内式土器	壺	口径(14.5) 器高 (2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 灰オリーブ色 5Y5/3 外面 黒色 N1.5/0 断面 灰色 5Y6/1	やや密 長石2.0以下少量、角閃石0.5以下多量、クサリ礫1.0以下	口縁部 1/8	外面スス付着 在地産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()内径・底径	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存率	備考
					内面	外面				
図面番号 210	第4層	土師器	脚部	器高 (2.5) 底径 (9.8)	脚部ヨコナデ	ヨコナデ	内面 褐色 5YR6/6 外面 灰白色 2.5YR2 断面 灰白色 2.5YR2 褐色 7.5YR4/4	やや粗 長石2.0以下中量、角閃石0.5以下中量、雲母・クサリ礫1.5以下中量	脚部小破片	在地産
図面番号 211	溝4 暗灰褐色砂質シルト	土師器	小型器台(杯部)	口径 8.1 器高 (2.2)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ ヘラケズリ	内面 におい褐色 7.5YR7/3 外面 褐色 7.5YR7/6 断面 暗褐色 7.5YR7/1	やや密 長石1.0以下多量、クサリ礫1.0以下少量	1/2	他地域産
図面番号 212	井戸2 一括茶灰褐色粘土	土師器	脚部	器高 (2.9) 底径 (11.8)	ヘラケズリ後丁寧なナデ	ヨコナデ一部ヘラミガキ	内面 淡褐色 5YR8/3 外面 淡褐色 2.5YR8/2 断面 淡褐色 5YR8/3	密 黒色鉱物0.2以下多量、長石・クサリ礫1.0以下少量	脚部小破片	外面一部黒斑 脚部1箇所円孔 他地域産
図面番号 213	溝4 茶褐色粘土質シルト	土師器	器台脚部	器高 (4.8) 底径 (11.5)	縦方向のケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ	内面 におい黄褐色 7.5YR7/4 外面 におい黄褐色 7.5YR7/4 断面 におい黄褐色 7.5YR7/4	やや密 長石3.0以下少量、クサリ礫1.0以下少量	脚部小破片	他地域産
図面番号 214	溝4 茶褐色砂質シルト	布留式土器	甕	口径(13.9) 器高 (3.7)	ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	内面 淡黄褐色 7.5YR8/4 外面 淡黄褐色 7.5YR8/4 断面 淡黄褐色 7.5YR8/3	やや粗 長石1.0以下多量、雲母1.0以下少量	口縁部1/8	他地域産
図面番号 215	井戸2	石製品	砥石	口径(10.4) 器高 3.5 底径 1.2		2面使用	内面 灰白色 N8/0 外面 灰白色 N8/0 断面 灰白色 N8/0		ほぼ完形	仕上砥石
図面番号 216	井戸2 茶灰褐色砂質シルト	土師器	小型丸底壺	口径(10.2) 器高 (3.5)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 灰白色 N8/0 外面 灰白色 5Y7/2 断面 灰白色 5Y7/2	密 長石0.5以下少量	口縁部1/8	他地域産
図面番号 217	井戸1	布留式土器	甕	口径 15.8 器高 20.6	粗いハケメ後ヨコナデ 横方向のヘラケズリ 縦方向のヘラケズリ	ヨコナデ 10条/cmのハケメ後ヨコナデ 縦方向のハケメ	内面 におい黄褐色 5Y7/2 外面 におい褐色 7.5YR6/4 断面 におい黄褐色 10YR5/4	やや粗 長石1.5以下多量、雲母1.0以下多量、角閃石1.0以下中量	完形	外面全体スス付着 在地産
図面番号 218	井戸1 下層	布留式土器	甕	口径(16.0) 器高(11.7)	ヨコナデ ナデ、横方向のヘラケズリ	ヨコナデ 8条/cmのハケメ後部分的にナデ	内面 におい褐色 7.5YR5/4 外面 におい褐色 7.5YR5/4 断面 におい褐色 7.5YR5/4	やや粗 長石3.0以下多量、石英4.0以下少量、チャート2.0以下少量、角閃石・クサリ礫1.0以下少量	1/4	外面スス付着 在地産
図面番号 219	溝1	庄内式土器	甕	口径(14.6) 器高 (3.6)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 オリーブ褐色 2.5YR4/4 外面 褐色 10YR4/4 断面 褐色 10YR6/1	粗 長石・石英3.0以下多量、雲母2.5以下多量、角閃石2.0以下多量、クサリ礫1.0以下少量	口縁部1/4	在地産
図面番号 220	溝4 茶褐色砂質シルト	布留式土器	甕	口径(15.9) 器高 (3.9)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヨコナデ	内面 褐色 10YR6/1 外面 褐色 7.5YR4/3 断面 褐色 7.5YR4/1	やや密 長石1.5以下少量、クサリ礫1.0以下少量、微細な雲母中量	口縁部小破片	他地域産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()直径()高さ	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 221	土壇 3 茶褐色粘 土質シル ト	庄内式土 器	寛	口径 (13.3) 器高 (2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 におい黄褐色 2.5YR6/3 外面 褐色 10YR4/4 断面 におい黄褐色 10YR6/3	やや粗 長石 1.0以下多 量、角閃石0.5以 下多量	口縁 部小 破片	在地産
図面番号 222	土壇 3 茶褐色粘 土質シル ト	土師器	小型 丸型 壺	口径 (9.8) 器高 (4.8)	ヨコナデ、ナデ ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ ヘラケズリ	内面 浅黄色 2.5YR3 外面 灰白色 5Y8/2 断面 灰色 5Y6/1	やや密 長石・クサリ礫 1.0以下中量	小破 片	他地域産
図面番号 223	井戸 1 下層	土師器	小型 丸型 壺	口径 (10.9) 器高 (6.4)	ヘラミガキ ヘラミガキ後ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	内面 淡赤褐色 2.5YR7/4 外面 淡赤褐色 2.5YR7/4 断面 淡赤褐色 2.5YR7/4	やや密 長石 1.0以下少 量、チャート 2.0 以下中量、石英 1.5以下少量	1/3	他地域産
図面番号 224	土壇 3 茶褐色粘 土質シル ト	布留式土 器	小型 寛	口径 (11.5) 器高 (1.6)	ヨコナデ、ケラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ	内面 灰白色 5Y8/2 外面 浅黄色 7.5YR8/4 断面 灰白色 5Y8/2	やや密 長石・石英1.0以 下多量	口縁 部小 破片	他地域産
図面番号 225	井戸 1 茶灰褐色 シルト質 砂	庄内式土 器	寛	口径 (17.7) 器高 (3.0)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 灰黄色 7.5YR8/6 外面 黒灰黄色 2.5YR4/2 断面 灰白色 N7.0、N8.0	やや密 長石・角閃石1.0 以下多量	口縁 部 1/8	在地産
図面番号 226	井戸 1	庄内式土 器	寛	口径 (12.7) 器高 (2.2)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 におい黄褐色 10YR6/4 外面 におい黄褐色 10YR6/4 断面 におい黄褐色 10YR6/4	やや密 長石・角閃石1.0 以下少量、雲母 2.0以下多量	口縁 部小 破片	在地産
図面番号 227	土壇 1 明灰青褐 色砂質シ ルト	布留式土 器	小型 鉢	口径 (13.2) 器高 (3.5)	ヨコナデ ヨコナデ後ヘラミガキ	ヨコナデ ヨコナデ後ヘラミガキ	内面 浅黄褐色 7.5YR8/6 外面 浅黄褐色 7.5YR8/6 断面 浅黄褐色 7.5YR8/6	密 長石・クサリ礫 1.0以下少量	小破 片	他地域産
図面番号 228	井戸 1	庄内式土 器	寛	口径 14.4 器高 18.8	ヨコナデ 左から右へのヘラケズリ 上から下へのヘラケズリ	ヨコナデ 縦方向の11条/cmのハケメ後 一部 横方向のハケメ ナデ	内面 黄褐色 2.5Y5/4 外面 黄褐色 2.5Y5/4 断面 黄褐色 2.5Y5/4	やや粗 長石・角閃石1.0 以下多量、微砂 な雲母多量	2/3	外面全体スス付 着 在地産
図面番号 229	第4層	庄内式土 器	寛	口径 (12.8) 器高 (2.6)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 浅黄色 5Y7/3 外面 浅黄色 5Y7/3 断面 灰色 5Y6/1	粗 長石 8.0以下中 量、角閃石・チ ャート 2.0以下多 量	口縁 部 1/8	在地産
図面番号 230	ピット 1	布留式土 器	小型 寛	口径 (11.2) 器高 (2.6)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	内面 淡褐色 5YR8/4 外面 淡褐色 5YR8/4 断面 灰白色 10Y7/1	やや密 長石 1.0以下多 量、角閃石1.0以 下多量	口縁 部 1/4	他地域産
図面番号 231	第4層	庄内式土 器	寛	口径 (15.8) 器高 (2.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 灰黄色 2.5Y7/2 外面 褐色 10YR4/4 断面 褐色 10YR4/4	やや粗 長石 1.0以下多 量、石英0.5以下 中量、黒色鉱物 2.0以下少量	口縁 部小 破片	他地域産

山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径 () 器高 ()	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 232	第4層 (3層下)	須臾器	杯蓋	口径 (12.0) 器高 (1.4)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	内面 オリーブ灰色 2.5GY7/1 外面 オリーブ灰色 2.5GY7/1 断面 オリーブ灰色 2.5GY7/1	密 長石1.0以下少 量、黒色鉱物1.0 以下少量	小破 片	

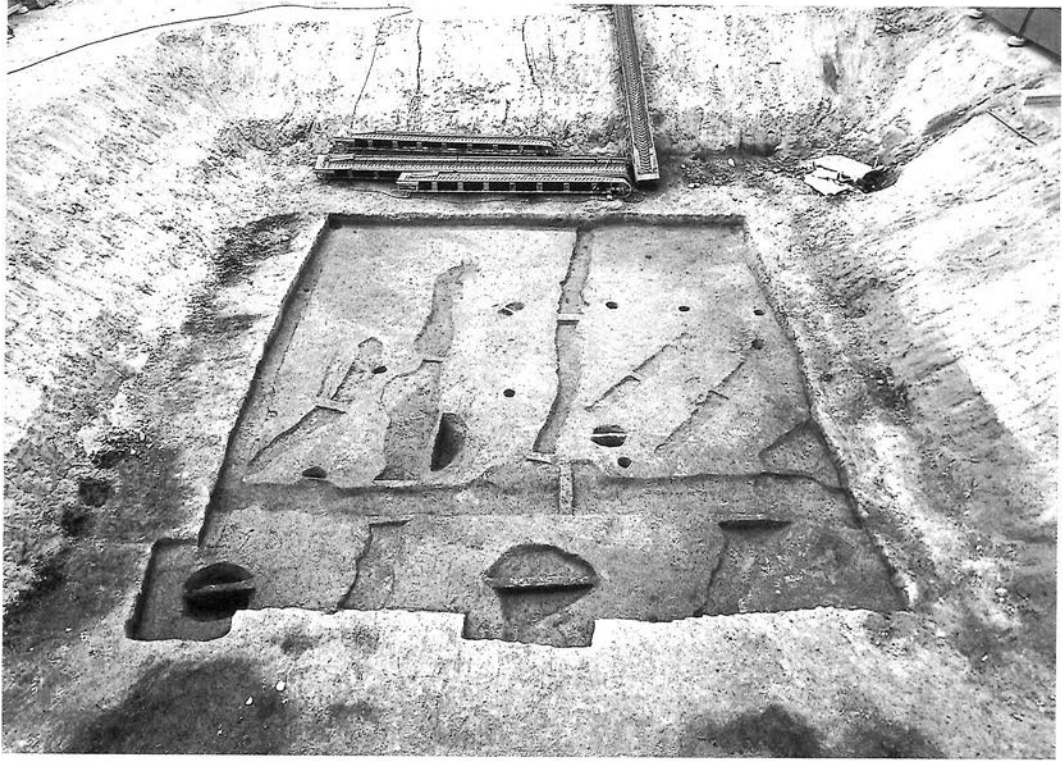
山賀遺跡第4次調査出土遺物観察表



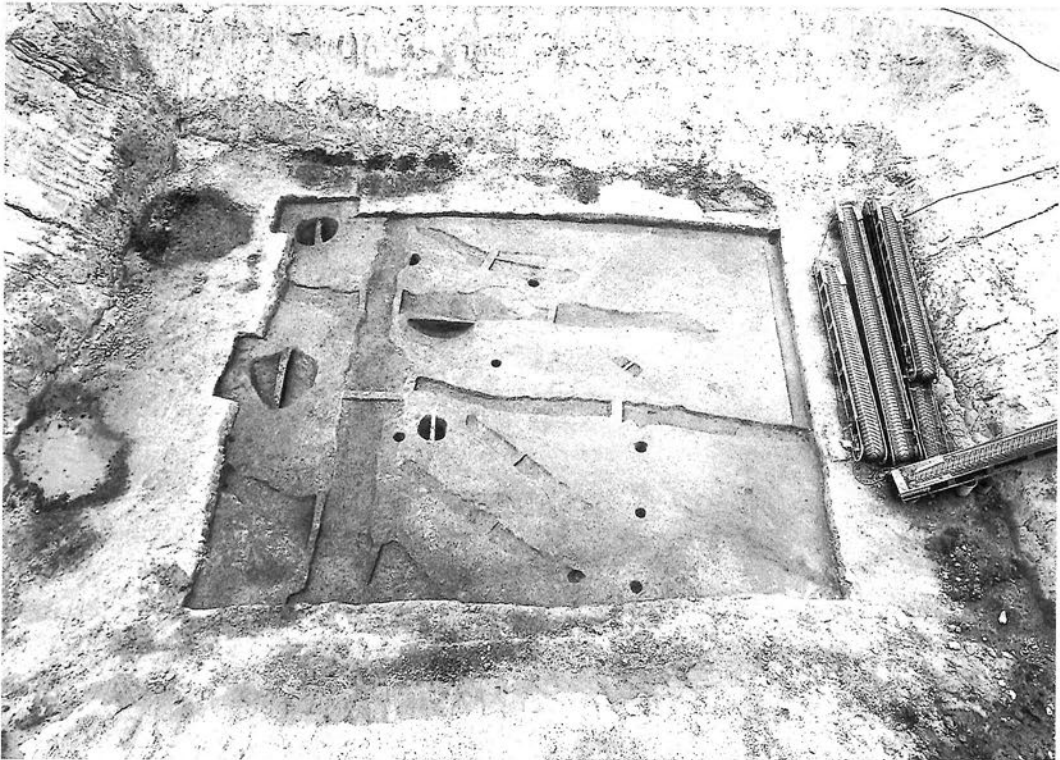
南壁断面（北より）



西壁断面（東より）



検出遺構全景（南より）



検出遺構全景（東より）



検出遺構全景（東より）



溝2検出状況（東より）



土壇2 遺物出土状況（南より）



井戸1 遺物出土状況（南より）



井戸2 堆積土層（南より）



柱穴検出状況（西より）



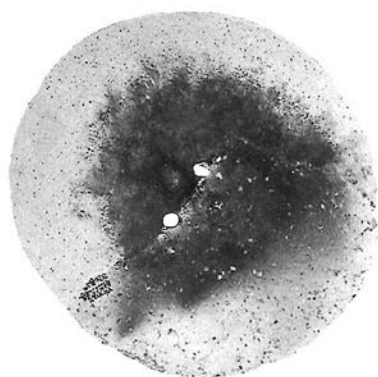
223



35



201



35'



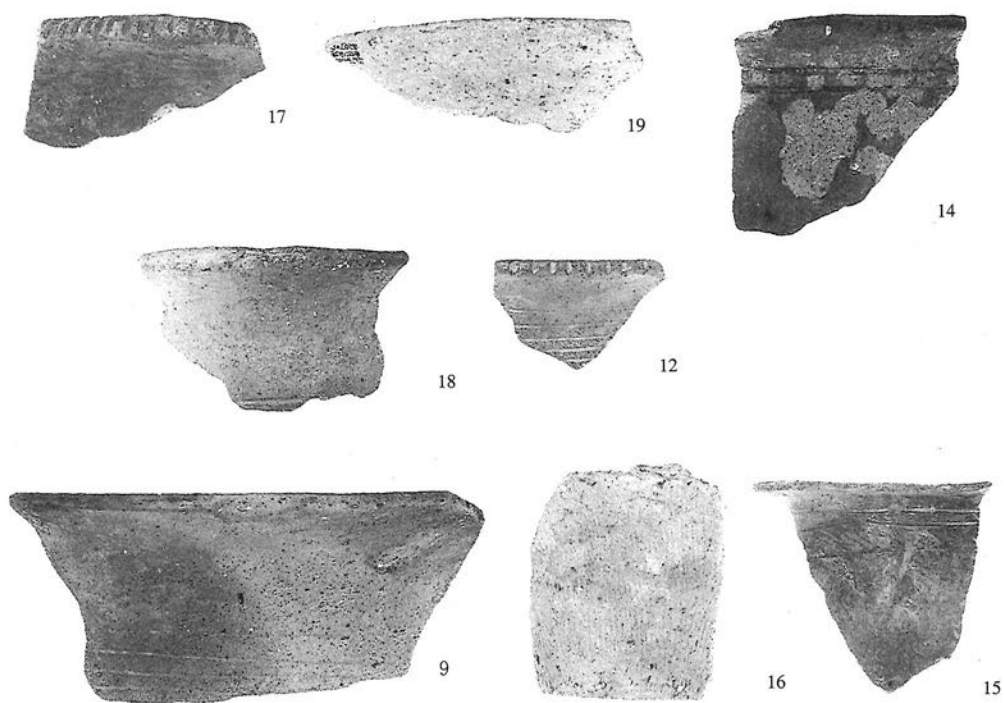
20



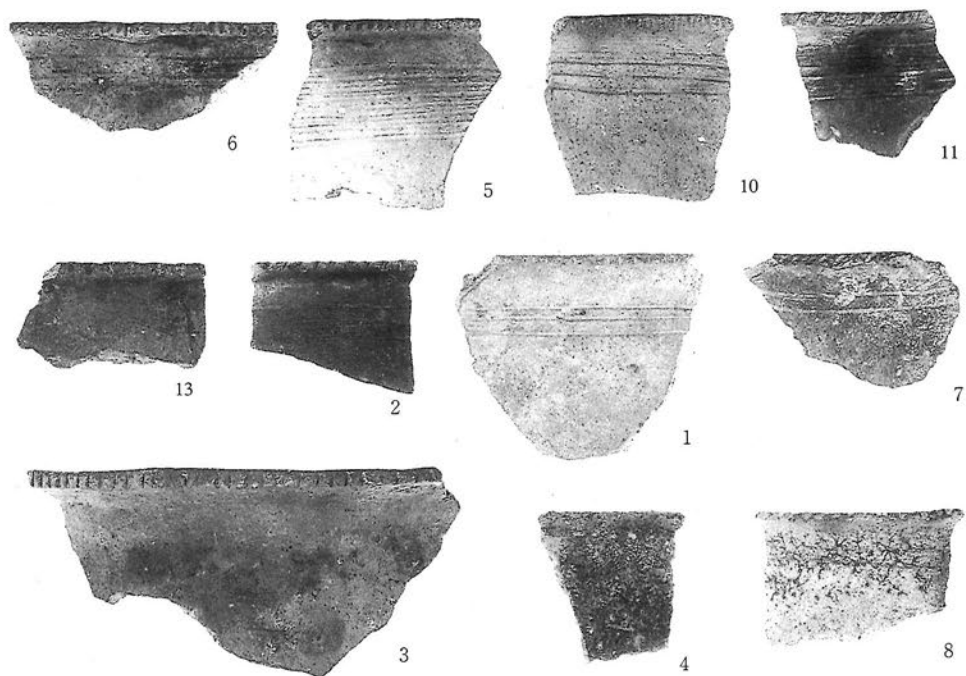
217



228

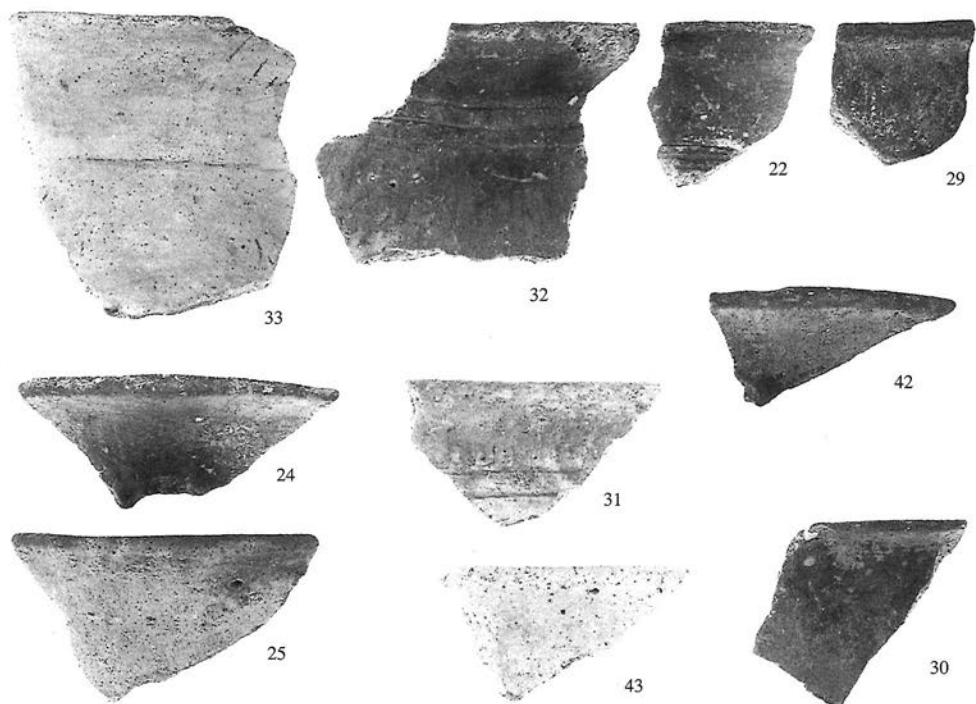


弥生土器

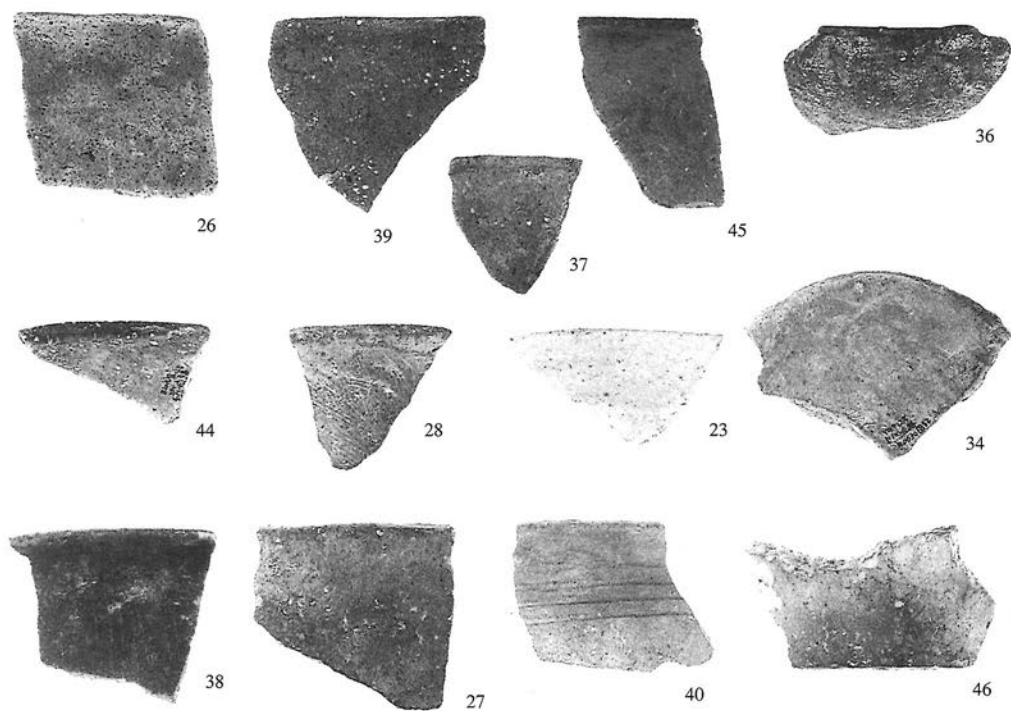


弥生土器

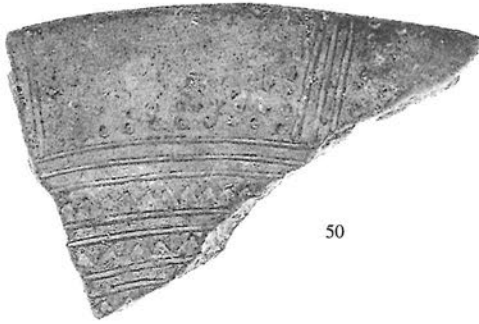
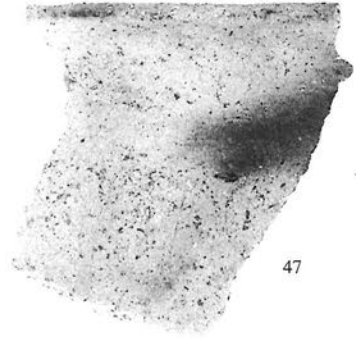
图版 8
遺物



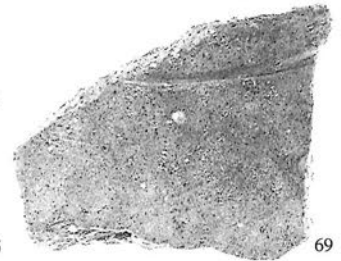
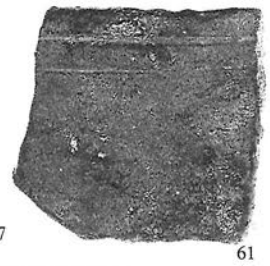
弥生土器



弥生土器

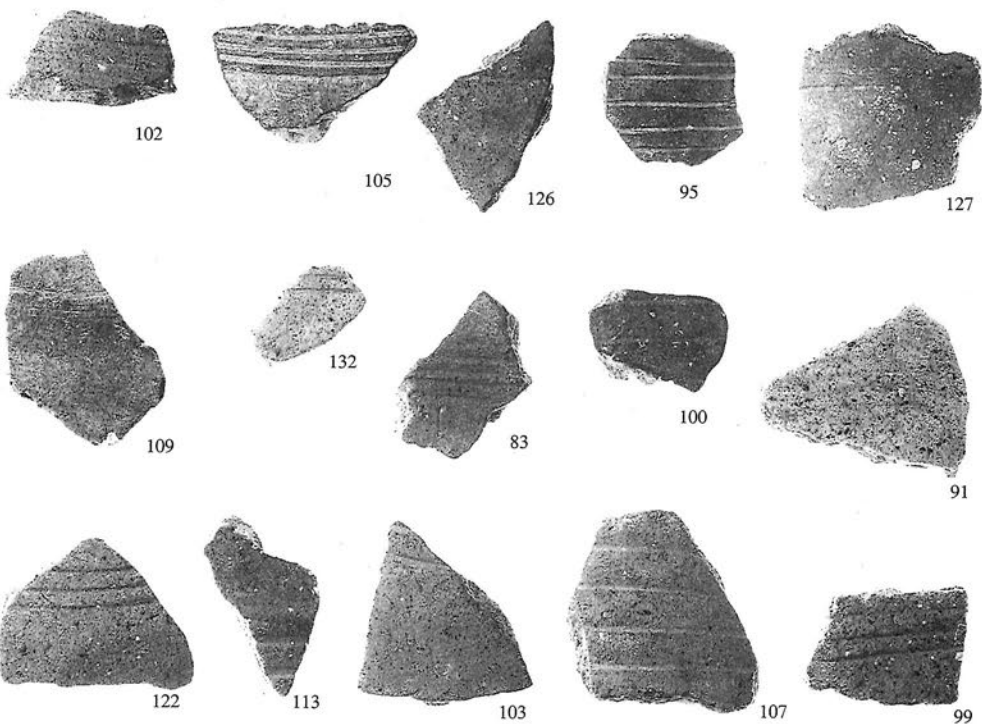


弥生土器

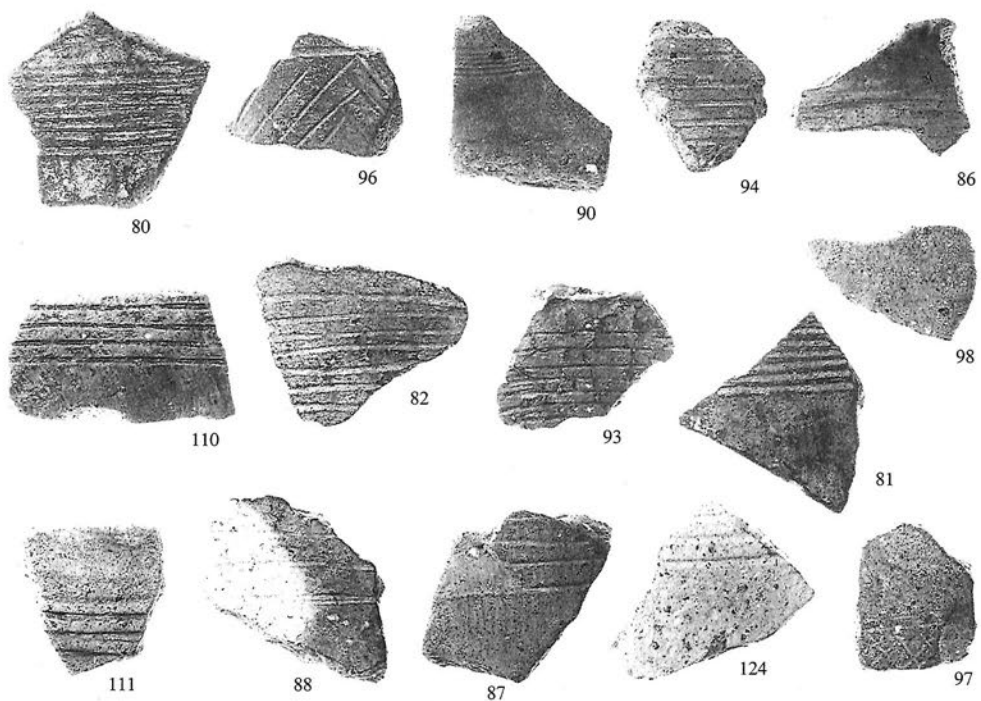


弥生土器

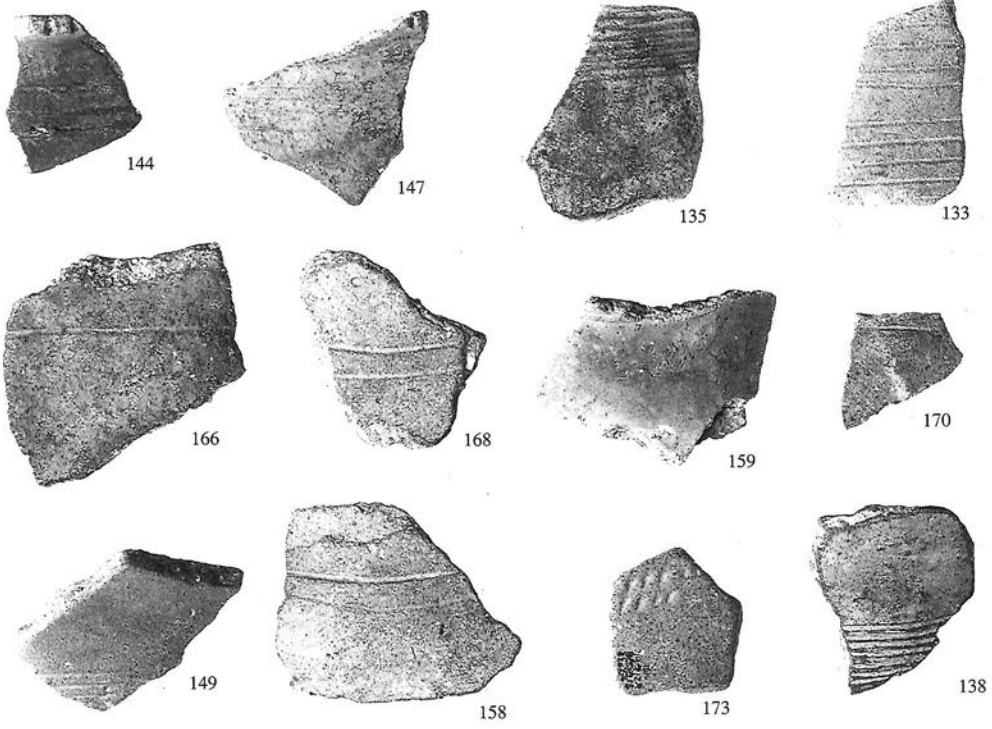
图版 10
遺物



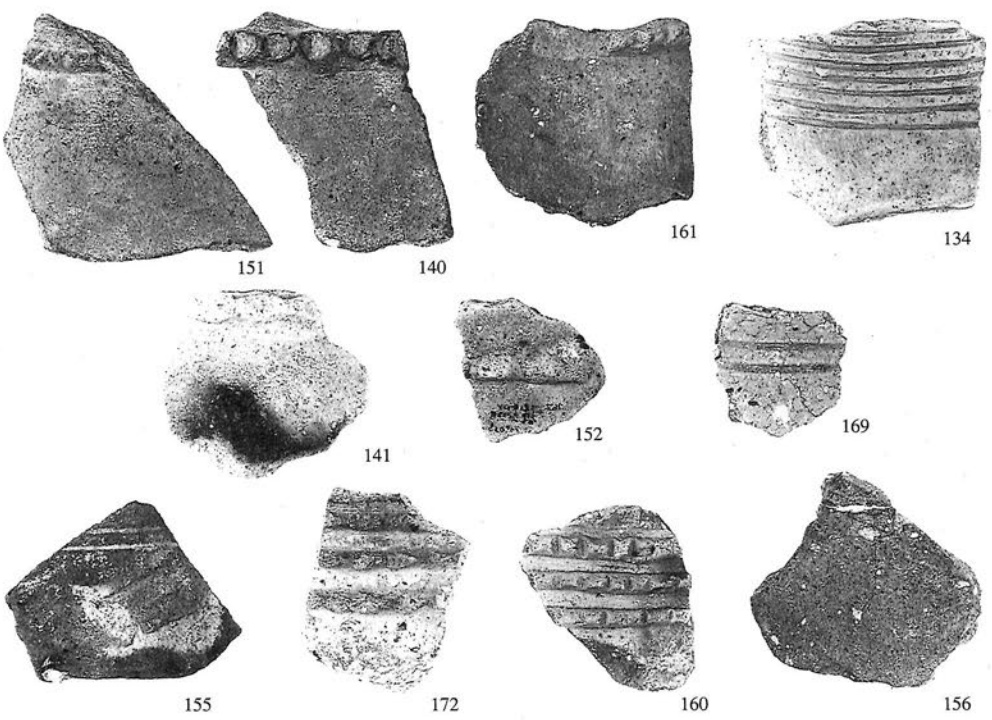
弥生土器



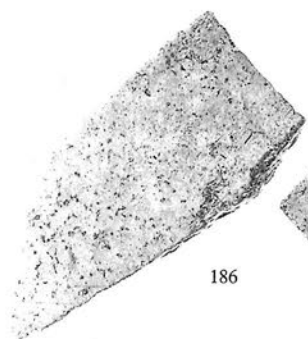
弥生土器



弥生土器



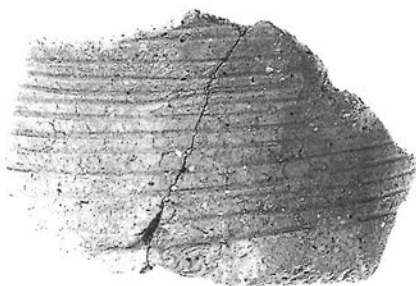
弥生土器



186



180



174



194



177



175

弥生土器



181



187



189



197



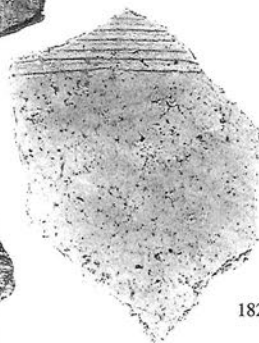
192



184



199



182

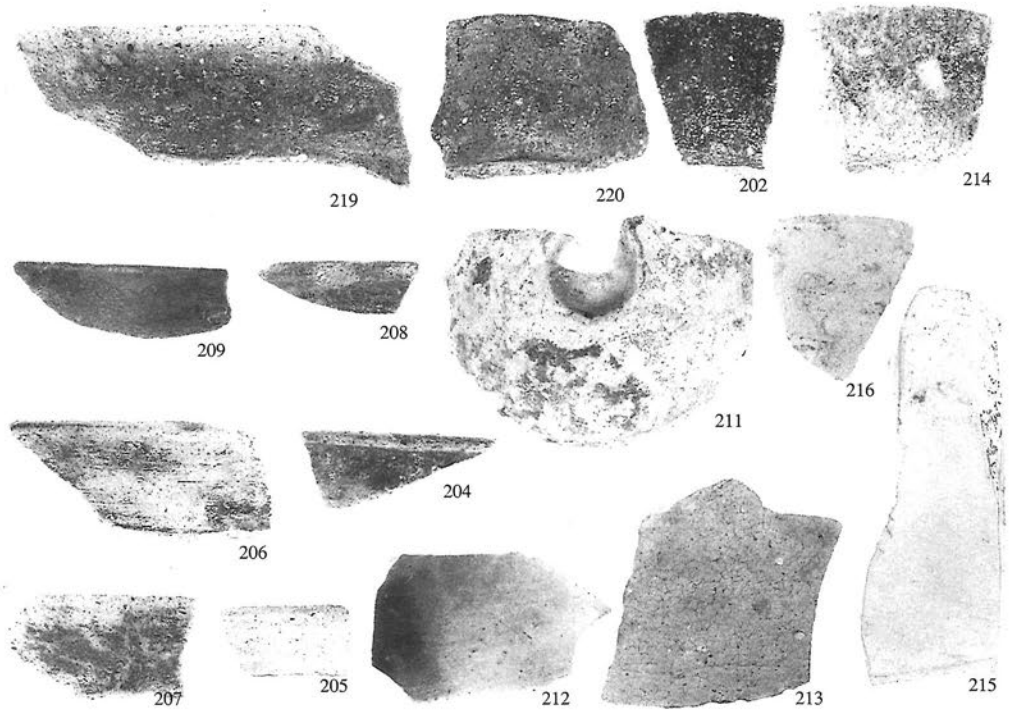
弥生土器



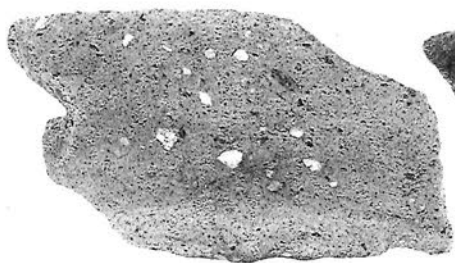
203

200

(左右) 土師器



土師器・砥石



229



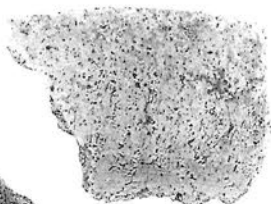
221



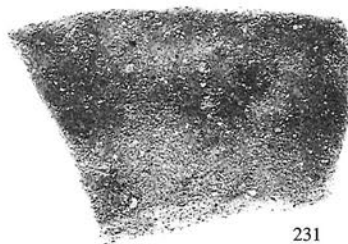
226



225



224



231

土師器



218



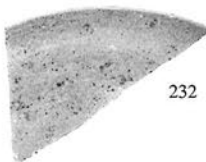
230



222



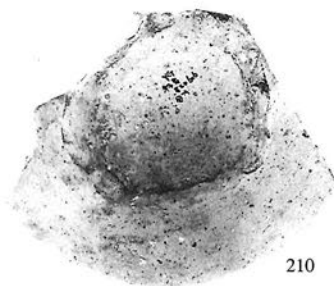
227



232



233



210

土師器

Ⅱ 西岩田遺跡第10次発掘調査概報

本文目次

I. はじめに	1
II. 遺跡	2
1. 層序	2
2. 遺構	4
3. 遺物	14
III. まとめ	20

挿図目次

第1図 調査地位置図	1
第2図 トレンチ配置図	2
第3図 No.4 トレンチ土層断面実測図（南壁）	1
第4図 No.1 トレンチ検出遺構平面実測図	7～8
第5図 No.2 トレンチ検出遺構平面実測図	7～8
第6図 No.3 トレンチ検出遺構平面実測図	9
第7図 No.4 トレンチ検出遺構平面実測図	10
第8図 No.5 トレンチ検出遺構平面実測図	11
第9図 井戸1・2、土壙2・8、住居址実測図	12
第10図 No.3 トレンチ中世遺構平面実測図	13
第11図 No.3 トレンチ中世遺構柱穴断面実測図	13
第12図 No.1 トレンチ倉庫柱穴断面実測図	13
第13図 土壙8出土土器実測図	15
第14図 土壙8出土土器実測図	16
第15図 土壙8出土土器実測図	17
第16図 竪穴住居址出土土器実測図	18
第17図 井戸2、土壙2・3・4出土土器実測図	19

表目次

表1 検出主要遺構一覧表	5
表2 出土遺物観察表	21

図版目次

- 図版1 調査地土層断面 上. No.4 トレンチ南壁断面 (北より)
下. No.4 トレンチ南壁断面 (北より)
- 図版2 遺構 右上. No.4 トレンチ検出遺構全景 (東より)
左上. No.3 トレンチ検出遺構全景 (西より)
右下. No.3 トレンチ検出遺構全景 (西より)
左下. No.1 トレンチ検出遺構全景 (北より)
- 図版3 遺構 上. No.1 トレンチ倉庫群検出状況 (東より)
下. No.3 トレンチ溝9 他検出状況 (南より)
- 図版4 遺構 上. No.4 トレンチピット群検出状況 (東より)
下. No.3 トレンチピット群検出状況 (南より)
- 図版5 遺構 上. No.5 トレンチ竪穴住居址検出状況 (東より)
下. No.3 トレンチ掘立柱建物検出状況 (東より)
- 図版6 遺構 上. No.5 トレンチ竪穴住居址・土壇8 遺物出土状況 (東より)
下. No.5 トレンチ竪穴住居址遺物出土状況 (東より)
- 図版7 遺構 上. No.4 トレンチ溝5 他検出状況 (南より)
下. No.4 トレンチ土壇1 遺物出土状況 (西より)
- 図版8 遺構 上. No.5 トレンチ土壇8 遺物出土状況 (北より))
下. No.5 トレンチ土壇8 遺物出土状況 (南より)
- 図版9 遺構 上. No.3 トレンチ土壇4 遺物出土状況 (南より)
下. No.3 トレンチ土壇4 遺物出土状況 (東より)
- 図版10 遺構 上. No.4 トレンチ土壇1 遺物出土状況 (西より)
下. No.4 トレンチ土壇1 遺物出土状況 (南より)
- 図版11 遺構 上. No.3 トレンチ土壇2 堆積土検出状況 (東より)
下. No.3 トレンチ土壇2 遺物出土状況 (南より)
- 図版12 遺物 右上、左上. 土師器壺、下. 記号文
- 図版13 遺物 右上、左上. 土師器壺、右下、左下. 記号文
- 図版14 遺物 土師器壺・甕
- 図版15 遺物 土師器甕
- 図版16 遺物 土師器甕・小型丸底壺・小型壺
- 図版17 遺物 土師器小型壺・小型丸底壺・壺
- 図版18 遺物 上. 土師器壺・小型丸底壺・小型壺・高杯
- 図版19 遺物 土師器甕・高杯・壺・小型丸底壺
- 図版20 遺物 土師器・甕・壺・小型丸底壺
- 図版21 遺物 土師器高杯

西岩田遺跡第10次発掘調査概報

I. はじめに

西岩田遺跡は、東大阪市西岩田町一帯にひろがる。弥生時代後期から古墳時代前期の集落址である。遺跡は、旧楠根川が形成した沖積平野上に位置し、標高約3～5mである。

本遺跡の周辺には、南に隣接して瓜生堂遺跡が西に隣接して意岐部遺跡などが所在し、古代に存在した河内湖の縁辺部に位置する遺跡として知られている。

現在まで幾度となく発掘調査が実施され、古墳時代前期の河川、溝、土壇、ピット等の遺構と、多量の遺物が検出されているが、今一つ、集落の性格、中心部が明確にされていなかった。今回、先年（昭和52年）調査を実施し、溝、円形周溝、ピットなどの遺構と、多量の土器を検出した三晃マンション・シャトー第2八戸ノ里のすぐ北側、東大阪市西岩田町3丁目地内の約1.300m²について、同じ三晃マンションが建設されるについて、当市教育委員会と原因者である三晃住宅株式会社と協議をかさねた結果、当マンション建設予定地（第1図）は、従来の調査結果より判断して、遺構・遺物の密集度が高く、遺跡のほぼ中心部であるため、設計変更を願い遺跡の保存を計りたいとの申し入れを行なったのであるが、種々の事情により、発掘調査を実施することに決定した。

調査は、文化財保護の立場より、マンションの基礎部分の土盛りを行ない、極力、地下の遺構を破壊しない方法での建設設計変更を行なった上で、立孔部分5ヶ所（No1～No5トレンチと仮称・第2図）を対象として実施した。調査は、三晃住宅株式会社の委託を受けて本協会が実施した。調査面積は約900m²（第2図）で、現場調査を昭和57年7月27日に開始し、11月11日に終了した。



第1図 調査地位置図

II. 遺跡

今回の調査で確認した層序・遺構・出土遺物の順に以下、記述する。

1. 層序

No.1トレンチから、No.5トレンチでは、各トレンチごとに若干の層序の相違が見られるが、基本的には、共通するのでここでは基本層序を記述する。代表的な第4トレンチの断面図（第3図）を図示したので参照されたい。

第1層 盛り土

第2層 旧耕土

第3層 茶褐色砂質シルト（床土）

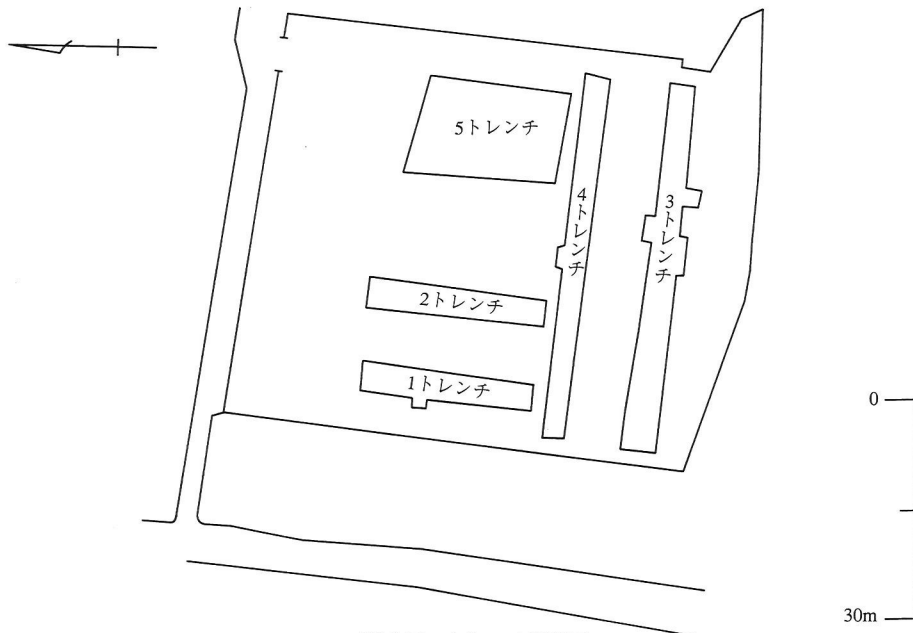
第4層 茶褐色粘土質シルト

第5層 黄茶褐色シルト

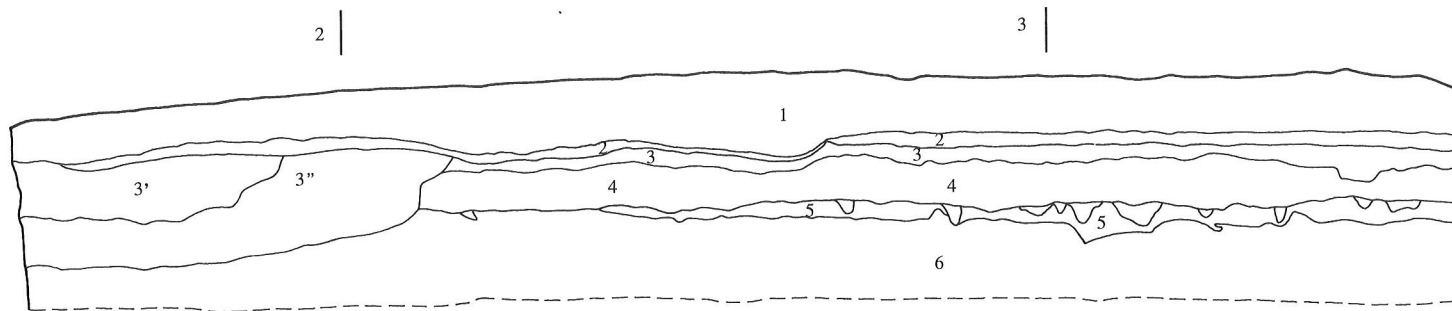
第6層 黄褐色砂礫

以上のように、基本的には、6層に分層できる。この中で、第3層は、いわゆる床土である。この層中には、遺物が多く包含されている。遺物は、古墳時代から中世期にいたる土師器、須恵器、瓦器、陶磁器である。

第4層は、遺物包含層である。古墳時代前期から中期の土師器、須恵器を多く含んでいる。第5層は、第4層に対応する遺構面であると同時に若干の遺物を含む遺物包含層である。第6層は、遺跡全体にひろがりを持つ自然流路の堆積土と考えられる。層厚は1m以上あり、非常に多量の畿内第V様式に属す土器や庄内、布留式土器を包含している。

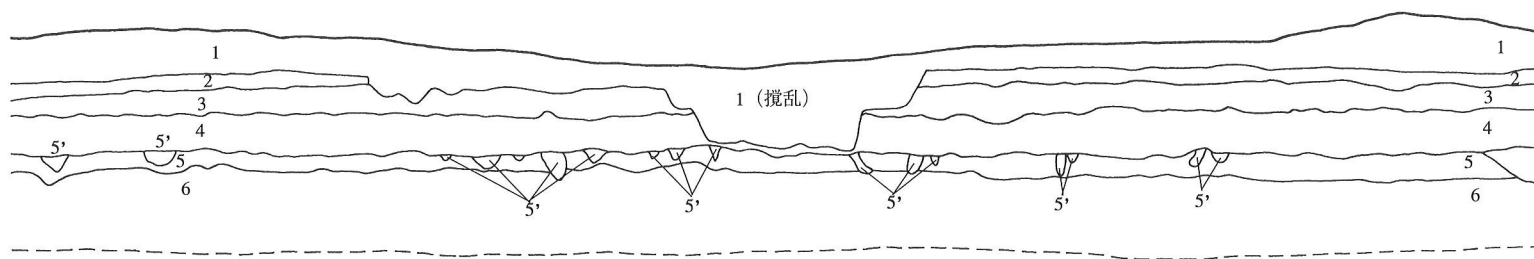


第2図 トレンチ配置図



第1層 盛土
 第2層 旧耕土
 3' 茶灰褐色粗砂混り砂
 3'' 灰青褐色シルト質砂 (砂礫多く混る)

第3層 茶褐色砂質シルト (粗砂多く含む)
 第4層 茶褐色粘土質シルト (砂はい・砂粒多く含む)
 第5層 黄茶褐色シルト
 5' 黄茶褐色粘土質シルト
 第6層 黄褐色砂礫



第3図 NO.4トレンチ土層断面実測図 (南壁)

2.遺構

今回の調査で検出した遺構は、非常に多いが、所属時期は、中世と古墳時代前期から中期にかけての2時期に分けられる。以下、時期毎に記述する。

中世の遺構

すべてNo.3トレンチに集中している。その他のトレンチでは確認していない。古墳時代の包含層である第4層上面で、建物1棟、溝2条、井戸2基、落ち込み1基を検出した。

建物1は掘立柱で構成される。南北に長い3×4間（柱間94cm）の規模をもつ。柱穴の掘り方の平面形は方形を呈し、深さは30cm前後である。これらの遺構は、遺物はあまり多くなく細かな時期は決めがたいが、出土遺物からみて13世紀～14世紀代のものである。

古墳時代の遺構

第5層・第6層上面で、竪穴住居址1軒、土壙8基、井戸2基、溝9条、落ち込み2基、倉庫群、ピット群など多数の遺構を検出した。竪穴住居址、土壙、井戸などの埋土内には、多数の土器が含まれていた。

出土遺物から見れば、これらの遺構はすべて古墳時代前期（4世紀後半から5世紀初頭）に属するものである。特に、竪穴住居址、土壙8、土壙4、井戸2出土品は、一括性が高く、編年等の研究には貴重な資料である。

報告する遺物と関係する遺構を中心に以下、説明する。その他の主要な遺構については、一覧表（表1 No.1.2）を作成したので参照していただきたい。

竪穴住居址は、No5トレンチで検出した。平面形が長辺5.8m短辺4.3mの長方形を呈するものである。検出面から床面の深さは、0.3mで断面形は逆台形である。柱穴は各隅に1個、計4個が認められた。柱穴の掘り方は平面形が楕円形を呈し、深さは20cm前後である。

土壙8は、竪穴住居址のすぐ南側で検出した。平面形が円形で径約2m深さ0.5mの規模をもつ。断面形は、皿状を呈する。完形品を含む多量の土器が出土している。体部に穿孔をもつ甕（図16）や記号文を施す壺（図5・8）が存在することから祭祀に用いた土器を一括投棄した土壙と考えることもできる。

土壙2は、No.3トレンチで検出した。平面形は楕円形で、長軸2.4m、深さ約0.8mの規模をもつ。断面形は、椀状を呈する。

土壙3は、No.3トレンチで検出した。平面形は長方形で、長辺2.2m、短辺1.2m、深さ約0.3mの規模をもつ。断面形は、逆台形を呈する。

土壙4は、No.3トレンチで検出した。平面形は径約2.7mの円形で、深さ約0.9mの規模をもつ。断面形は、椀状を呈する。

井戸2は、No.4トレンチで検出した。平面形が円形で径約2m深さ約9mの規模をもつ。断面形は、椀状を呈する。

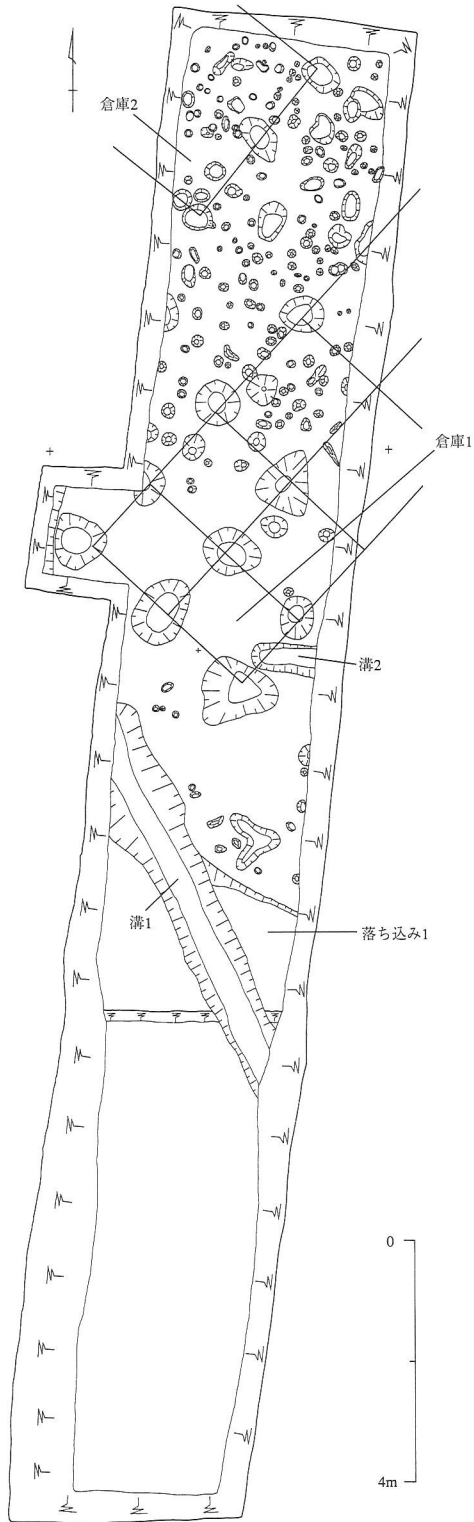
倉庫1は、No.5トレンチで検出した。掘立柱で構成される。南北に長い2×4間（柱間1.5m）以上の規模をもつ総柱の建物である。柱穴の掘り方の平面形は径80cm前後の不整円形を

表1 検出主要遺構一覧表 (No.1)

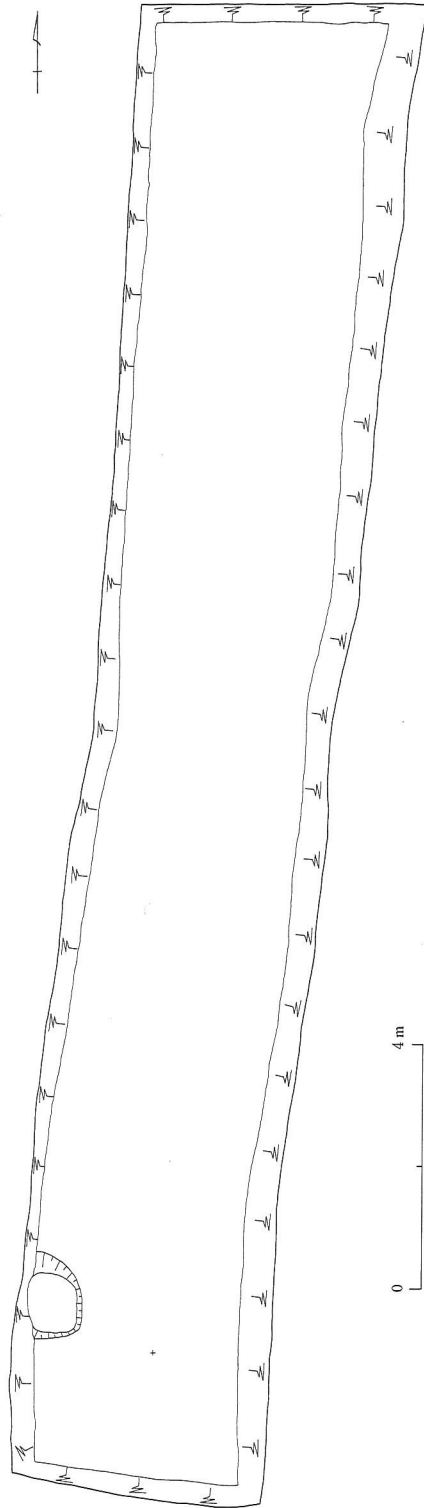
遺構名・番号	計測値		平面形態	断面形態	埋土・堆積土
	幅	深さ			
井戸・1	227cm	94cm	円形	逆台形	黄茶褐色粘土質シルト、茶灰褐色粘土質シルト
井戸・2	204cm	89cm	円形	椀状	黄灰褐色粘土質シルト 暗灰褐色粘土、黄褐灰色細砂、 茶灰色砂礫、黄茶褐色砂質シルト
井戸・3A	91cm	155cm	楕円形	椀状	黄茶褐色粘土質シルト、黄茶灰色砂質シルト、茶灰褐色砂
井戸・3B	55cm	48cm	楕円形	椀状	黄茶褐色粘土質シルト、茶褐色粘土質シルト、黄茶褐色砂質シルト、暗茶褐色粗砂、茶灰褐色細砂
溝・1	80cm	50cm	—	椀状	黄茶褐色粘土質シルト (下半は茶褐色シルト)
溝・2	50cm	20cm	—	皿状	黄茶褐色粘土質シルト
溝・3	70cm	20cm	—	逆台形	
溝・4	最大幅 480cm	20cm	—	逆台形	黄茶褐色粗砂質シルト
溝・5	100cm	40cm	—	椀状	黄茶褐色粗砂質シルト
溝・6	100cm	20cm	—	皿状	茶褐色粘土質シルト (砂っぽい)
溝・7	45cm	10cm	—	皿状	茶灰褐色砂質シルト
溝・8	110cm	30cm	—	皿状	黄灰褐色砂質シルト
溝・9	85cm	34cm	—	逆台形	茶灰褐色砂質シルト、灰褐色シルト、 灰茶褐色砂質シルト、
土壇・1	最大幅 130cm	25cm	—	皿状	暗茶褐色砂質シルト

表1 検出主要遺構一覧表 (No.2)

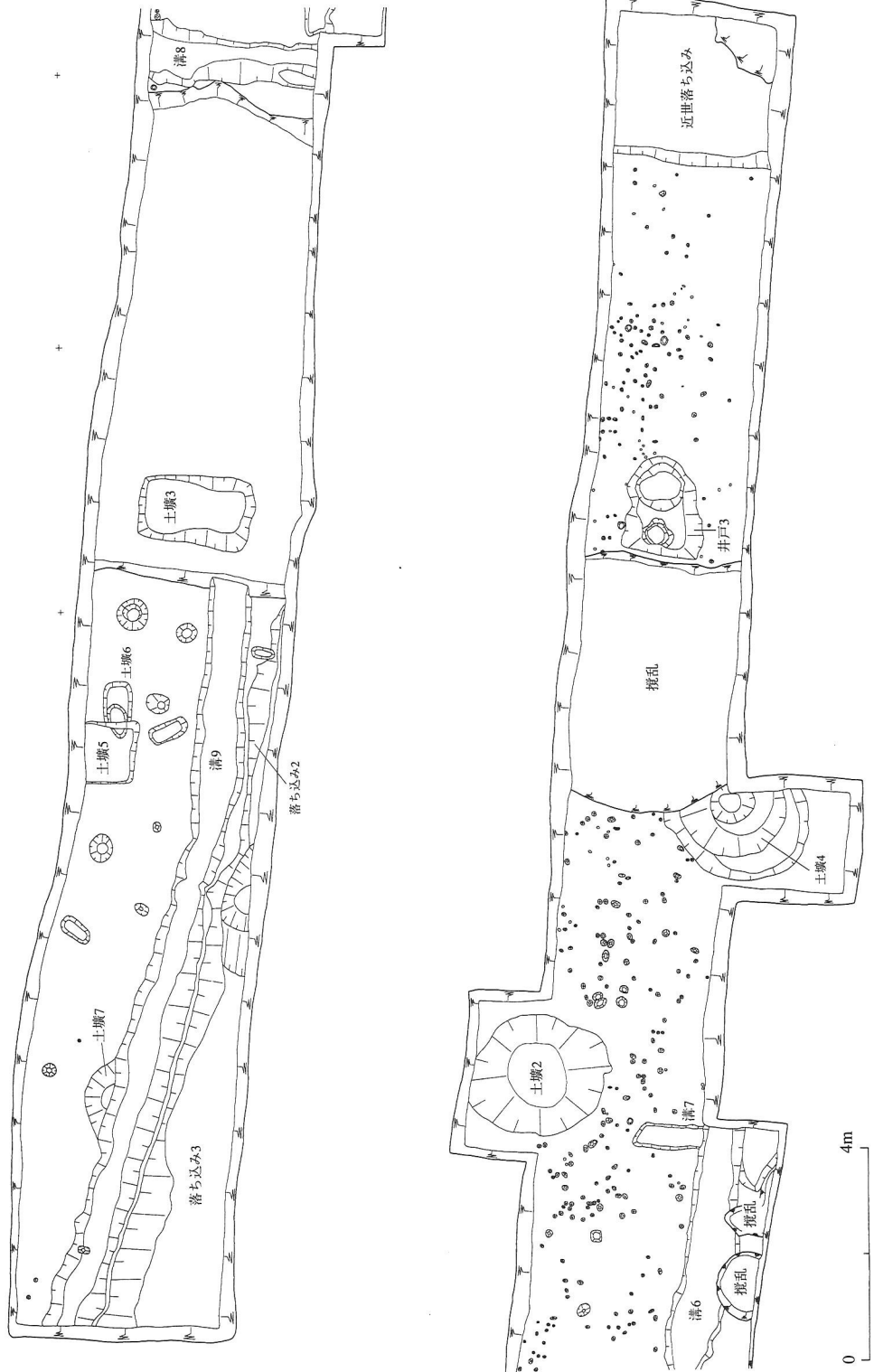
遺構名・番号	計測値		平面形態	断面形態	埋土・堆積土
	幅	深さ			
土壇・2	240cm	85cm	楕円形	椀状	暗茶褐色粘土質シルト、茶灰褐色砂質シルト、黄褐色シルト、黄茶灰色砂礫
土壇・3	短120cm 長220cm	30cm	長方形	逆台形	上層 茶褐色砂質シルト 下層 暗褐色粘土質シルト
土壇・4	270cm	90cm	円形	椀状	黄茶褐色砂質シルト、茶灰色粗砂質シルト、灰茶褐色シルト(砂質っぽい)
土壇・4'	280cm	100cm	楕円形	椀状	灰褐色砂(若干シルト) 灰青色シルト(砂っぽい)
土壇・5	120cm	15cm	平面	逆台形	黄茶褐色粘土質シルト(砂礫多く混じる)
土壇・6	60cm	30cm	楕円形	椀状	黄茶褐色粘土質シルト(砂礫多く混じる)
土壇・7	150cm	60cm	円形	椀状	
土壇・8	202cm	51cm	円形	皿状	茶灰褐色砂質シルト、暗灰褐色粘土質シルト、暗黄灰褐色砂礫
落ち込み・1	最大幅 170cm	20cm	不定形	逆台形	黄褐色粘土質シルト、黄褐色粘土質シルト
落ち込み・2	700cm	700cm	不定形	皿状	黄茶褐色砂質シルト
落ち込み・3	650cm	60cm	不定形	皿状	暗茶褐色砂質シルト
落ち込み・4	最大幅 800cm	30cm	不定形	皿状	暗茶褐色砂質シルト
落ち込み・5	150cm	30cm	不定形	皿状	暗茶褐色粘土質シルト
住居跡	580cm 430cm	30cm	長方形	逆台形	暗黄茶褐色砂質シルト、黄灰褐色砂質シルト、黄褐色砂質シルト、灰黄褐色砂
建物・1	2間×4間以上		総柱	—	黄褐色粘土質シルト(粗砂あるいは砂礫を多く含む)
建物・2	2間×1間以上		—	—	黄褐色粘土質シルト(粗砂あるいは砂礫を多く含む)



第4図 NO.1トレンチ検出遺構平面実測図



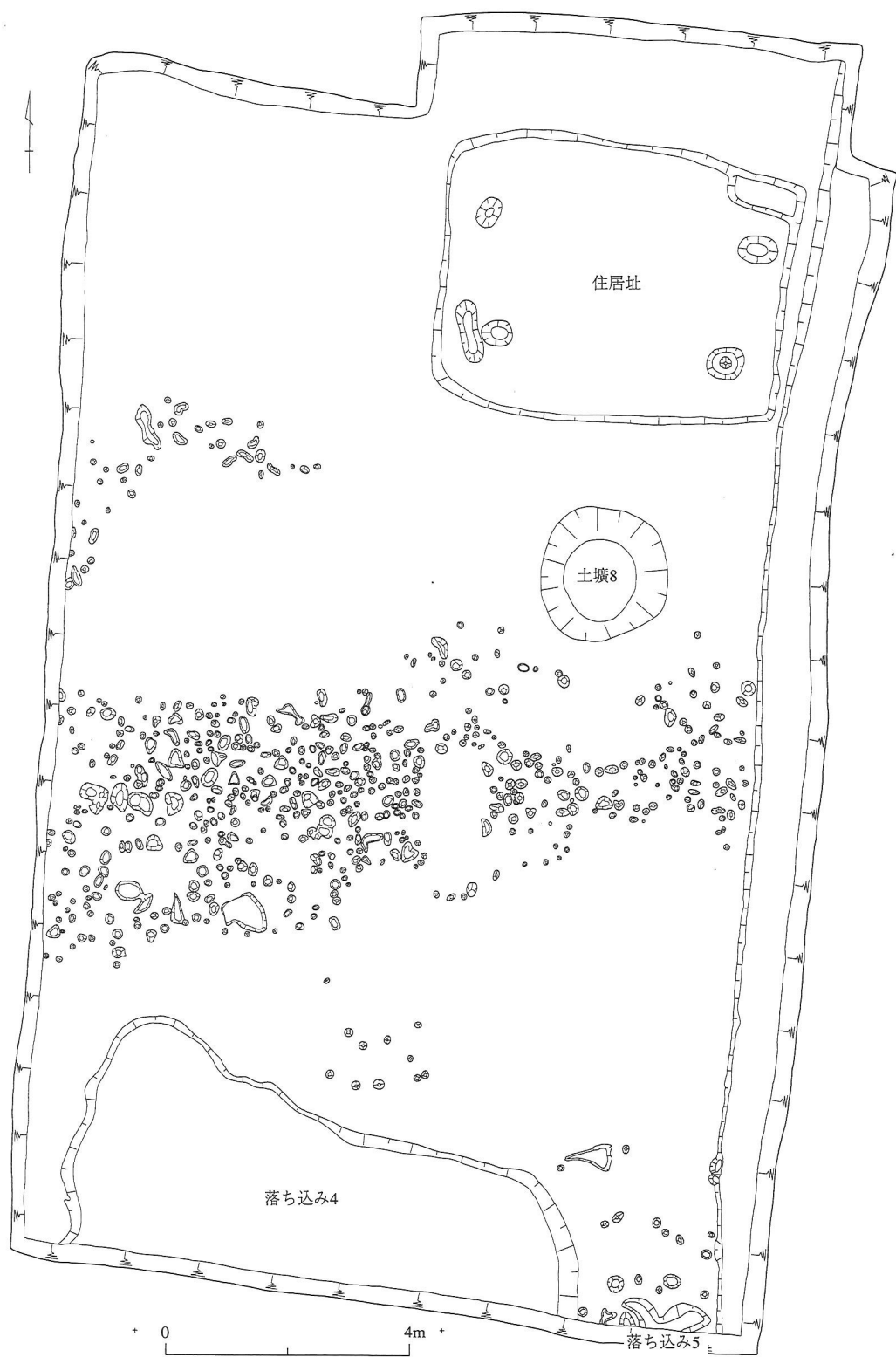
第5図 NO.2トレンチ検出遺構平面実測図



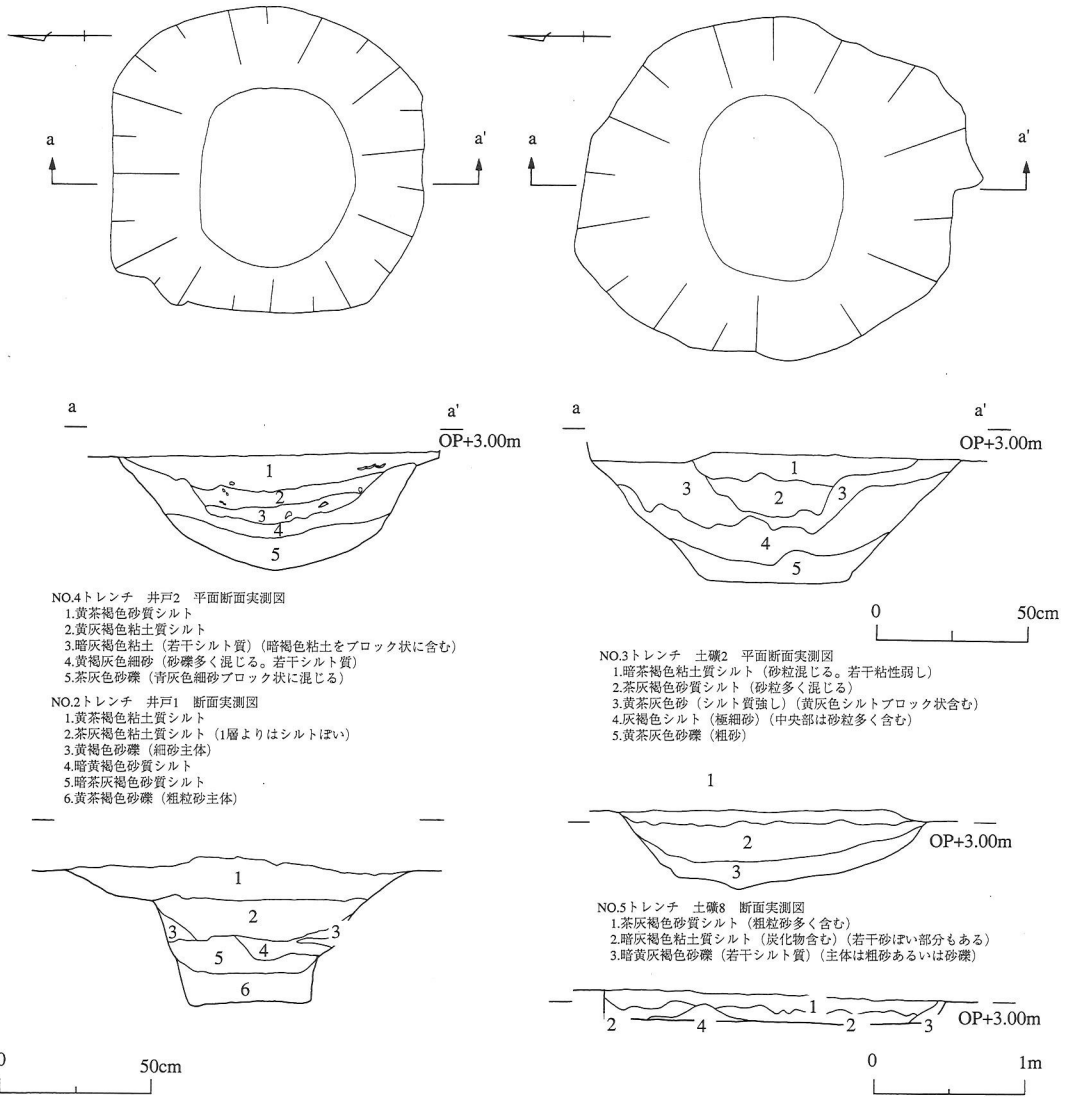
第6図 NO.3トレンチ検出遺構平面実測図



第7図 NO.4トレンチ検出遺構平面実測図



第8図 NO.5トレンチ検出遺構平面実測図

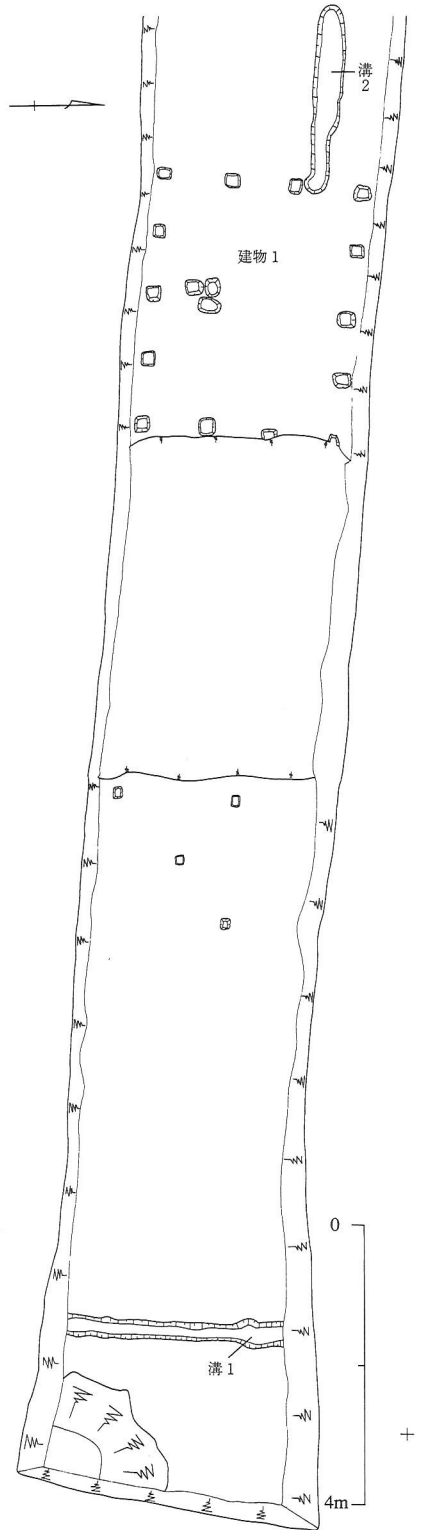


第9図 井戸1・2, 土蔵2・8, 住居址実測図

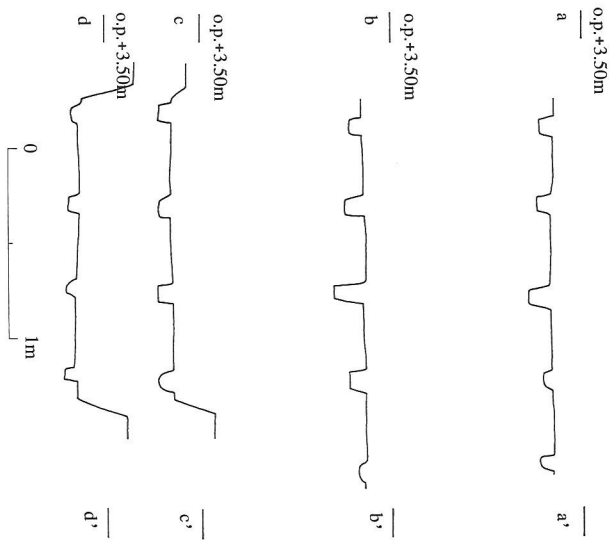
呈し、深さは30cm前後である。掘り方の埋め土は、黄褐色粘土質シルト1層である。平面の規模に対して深さが浅いことから上部を後世に削平されていると考えられる。

倉庫1の南側に並行して幅0.8m、深さ0.5mの溝1が掘られている。位置から見て倉庫1に関係する溝と考えられる。

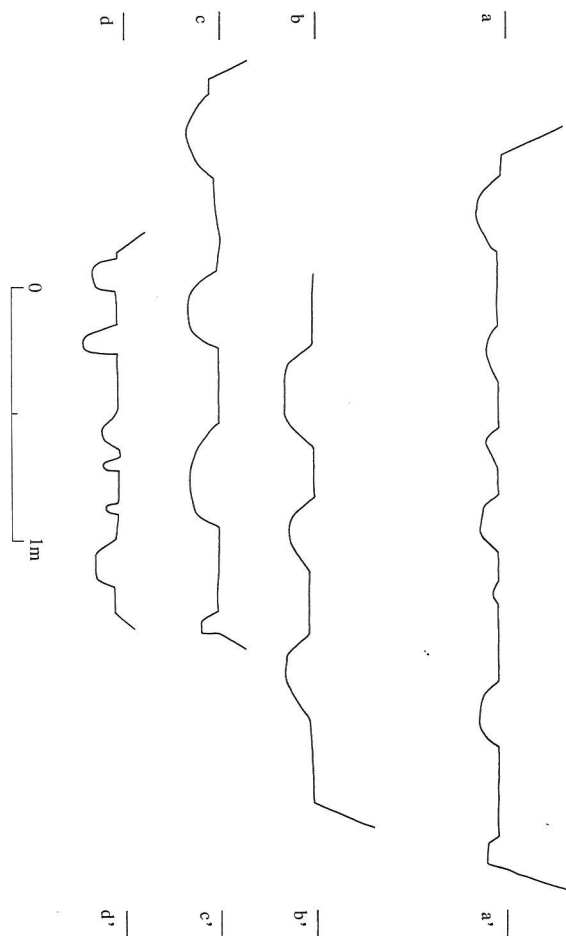
倉庫2は、倉庫1の西側に近接して建物が確認された。掘立柱で構成される。南北に長い2×1間(柱間1.4m)以上の規模をもつ。柱穴の掘り方の平面形は倉庫1に比してやや小さく径50cm前後の不整形円ないし楕円形を呈し、深さは30cm前後である。掘り方の埋め土は、黄褐色粘土質シルト1層である。倉庫1同様に上部を削平されていると考えられる。位置から見て同時に存在したとは考えられず、時期差が認められる。いずれにしても、古墳時代前期後半から中期初頭の間に営まれたと思われる。



第10図 NO.3トレンチ中世遺構平面実測図



第11図 NO.3トレンチ中世遺構柱穴断面実測図



第12図 NO.1トレンチ倉庫柱穴断面実測図

3.遺物

遺物は、第3層、第4層、第5層、第6層の遺物包含層、自然流路内と各遺構内より多数出土した。その種類は、土器、石器、鉄器である。土器は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器があり、土師器が大部分を占め、中でも庄内式土器、布留式土器が中心である。石器は、石鏃、滑石製石帯、勾玉、管玉があり、鉄器は、鉄鉾、鉄ノミ、鉄釘などがある。

今回は、一括性が高いと考える土壙8・竪穴住居址・井戸2・土壙2・3・4出土の古墳時代前期に属す土器について概要を報告する。その他の遺物については事情により、報告を割愛する。図示した個々の土器の詳細については、観察表を参照されたい。なお、観察表および本文中で在地産としたのは、角閃石を含み茶褐色を呈するいわゆる生駒山西麓産と呼ばれる土器である。この種以外の土器は、他地域産とした。

土壙8出土遺物

甕・壺・小型丸底壺・高杯・鉢などがある。完形品が多く含まれる。

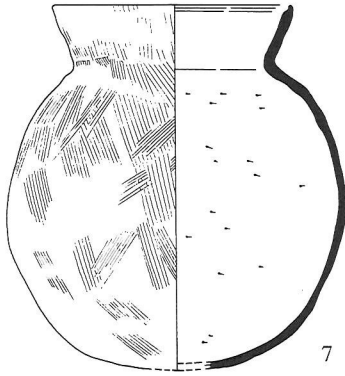
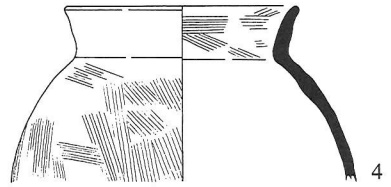
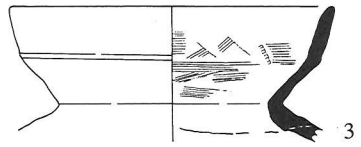
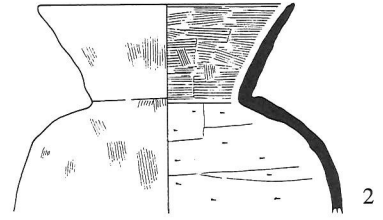
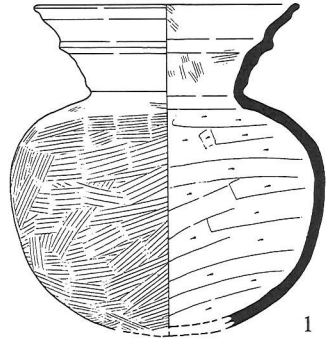
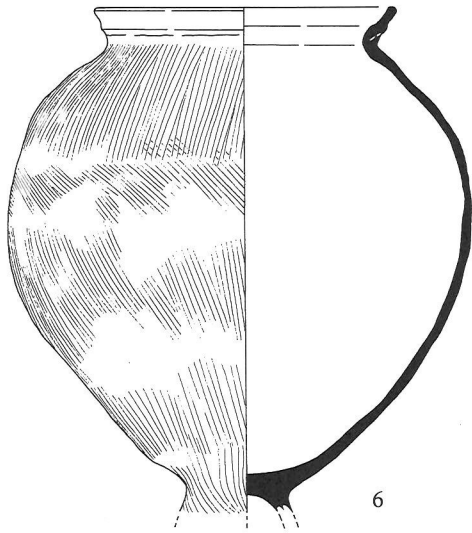
甕は、口径14cm・器高22cm前後の大型品と、口径11cm・器高15cm前後の小型品が見られる。また、口縁端部を肥厚するものと丸くおさめるものが存在する。図15は口径13.2cm器高23.1cmで、体部外面はタタキの後ナデを施す。他地域産である。他は、体部外面にハケメを施すものが多い。体部内面は、ヘラケズリを施す。体部は図7のようにやや平底ぎみのものも見られるが、基本的には球体である。図16のように体部に焼成後の穿孔をもつものも見られる。図9は口径11.2cm、器高14.7cmの在地産である。図17は、口径13.3cmで黒斑が認められる。

図6は、東海地方系のいわゆるS字状口縁をもつ脚台付の甕である。口径15.7cmで口縁部は2段に短く外反し体部外面に粗いハケメを施す。脚台部は欠失する。灰白色を呈する他地域産の製品である。

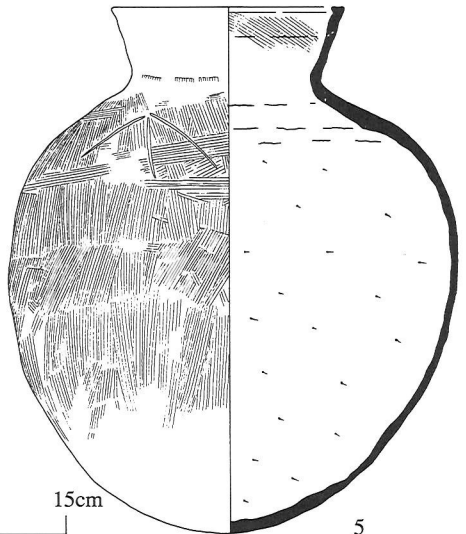
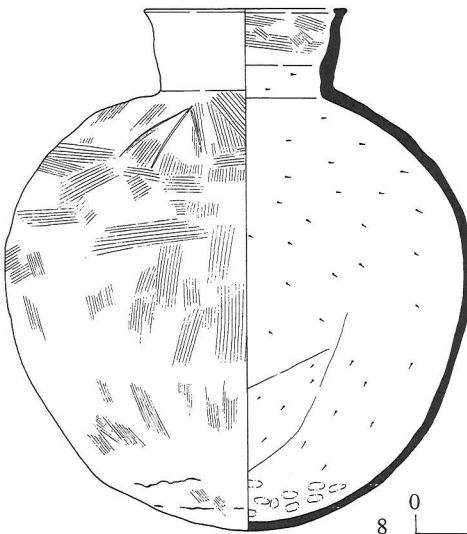
壺は、二重口縁(図1・3)と直口の口縁部(2・5・8など)をもつものがある。体部外面はハケメを施すものが多い。図1は、体部外面に煤の付着が認められる他地域産である。図2は口径13.5cm、口縁部内外面と体部外面にハケメを施す。体部外面に煤が付着し、黒斑がある。体部外面に朱が認められる。他地域産である。

図5・8は、直口の口縁部をもつ大型の壺で、口縁部内面にもハケメを施し口縁端部は内側に肥厚する。体部はハケメを施した後、肩部にヘラ描きによる記号文がそれぞれ2箇所描かれる。図5は、口径16.2cm器高36.9cm、図8は口径14.0cm器高36.6cmで底部内面に指頭圧痕が認められる。いずれも他地域産である。図20は口径9.5cm器高12.1cmの小型の壺である。体部外面にハケメを施す。外面に黒斑が認められる他地域産である。

小型丸底壺は、図23のように体部外面を削るものとハケメを施すものがある。量的には、ハケメを施すものが多い。図18は小型壺とも考えられるもので口径7.5cm器高8.5cm、他地域産である。図23は、口径8.7cm器高7.4cm、口縁部内面にハケメを施す。他地域産でこの遺構出土品の中では、古い形態を残している。新しい形態を示すと考える図27は、口径6.5cm

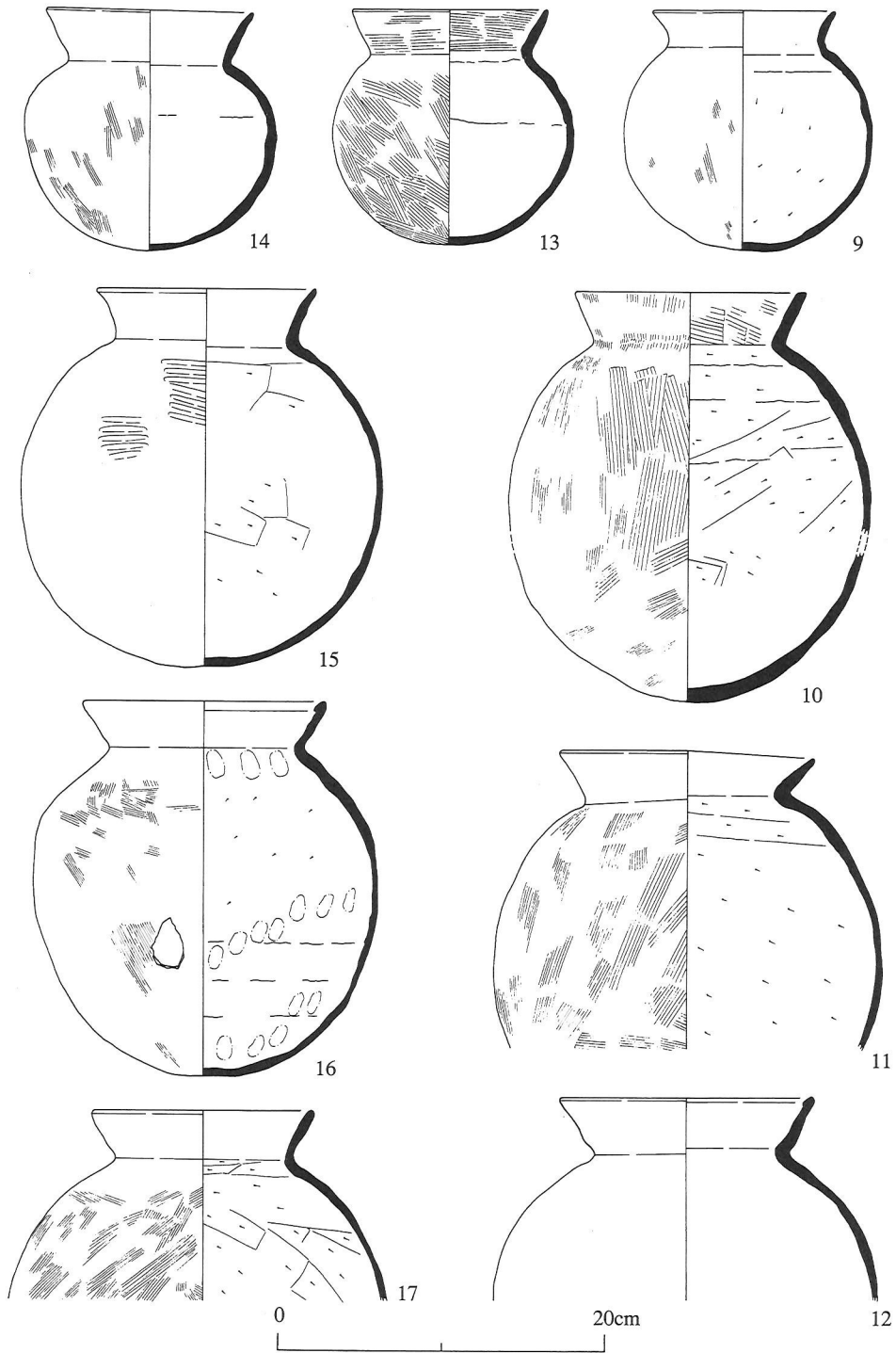


0 20cm



0 15cm

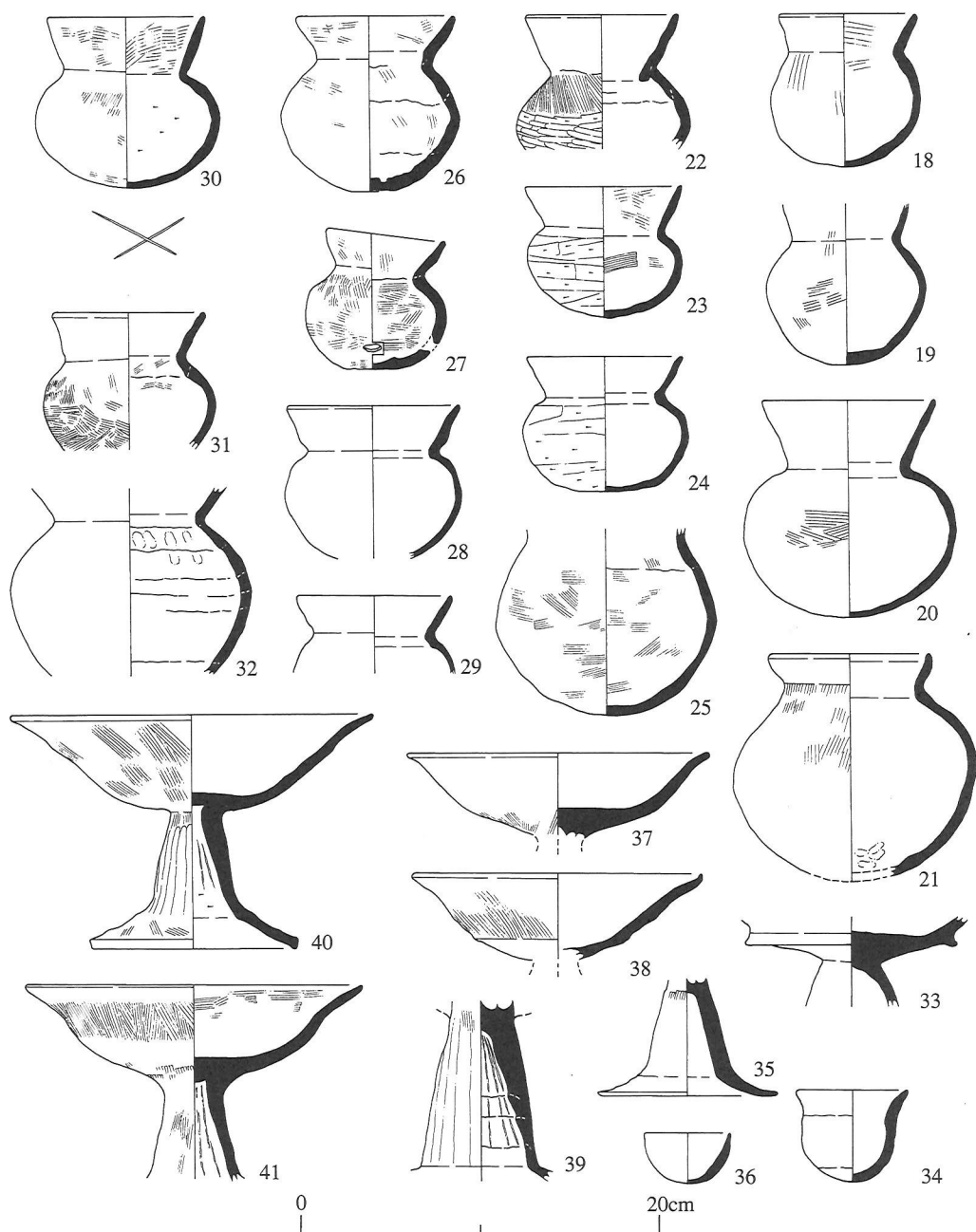
第13图 土壙8出土土器实测图



第14図 土壙8出土土器実測図

器高7.9cm、口縁部と体部内外面にハケメを施す。底部は平底ぎみである。黒斑が認められる他地域産である。図19は口縁部を欠失する。在地産で体部外面に朱が認められる。

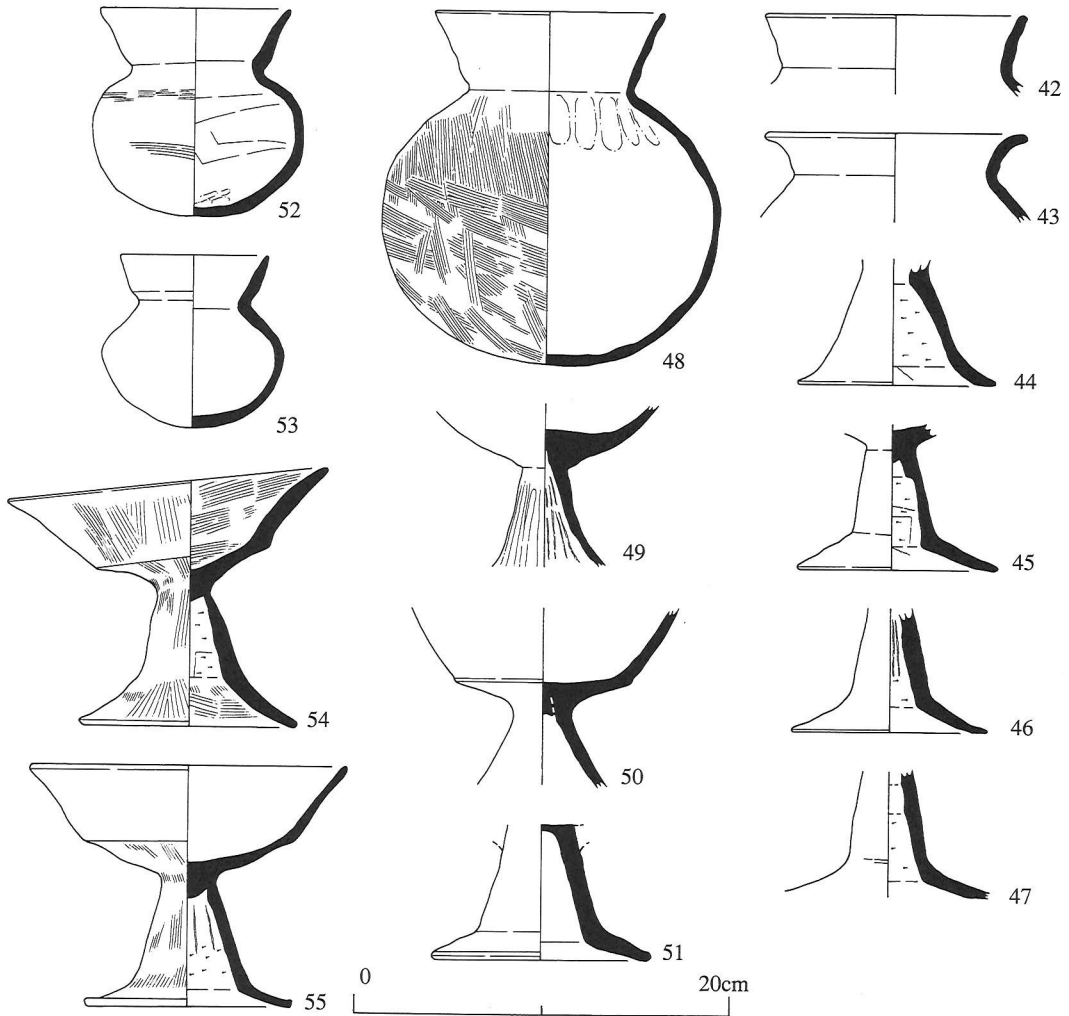
高杯は、口縁端部を肥厚するものと丸くおさめるものが存在する。外面はハケメを施すもの



第15図 土壙8出土土器実測図

が多い。図40はほぼ完形で口径20 c m器高13 c m、杯部外面にハケメを施す他地域産である。図41は口縁部が強く外反するもので口径18.7 c m、杯部内外面にハケメを施す。他地域産である。図33は杯底部と口縁部の外面に凸線をもつ。他地域産である。図37は口径16.7 c mで他地域産である。

図34は小型丸底壺のミニチュアと考えられる。口径6.1 c m器高5.1 c mの他地域産である。図36は鉢のミニチュアと考えられるもので口径4.7 c m器高2.8 c mの他地域産である。



第16図 竪穴住居址出土土器実測図

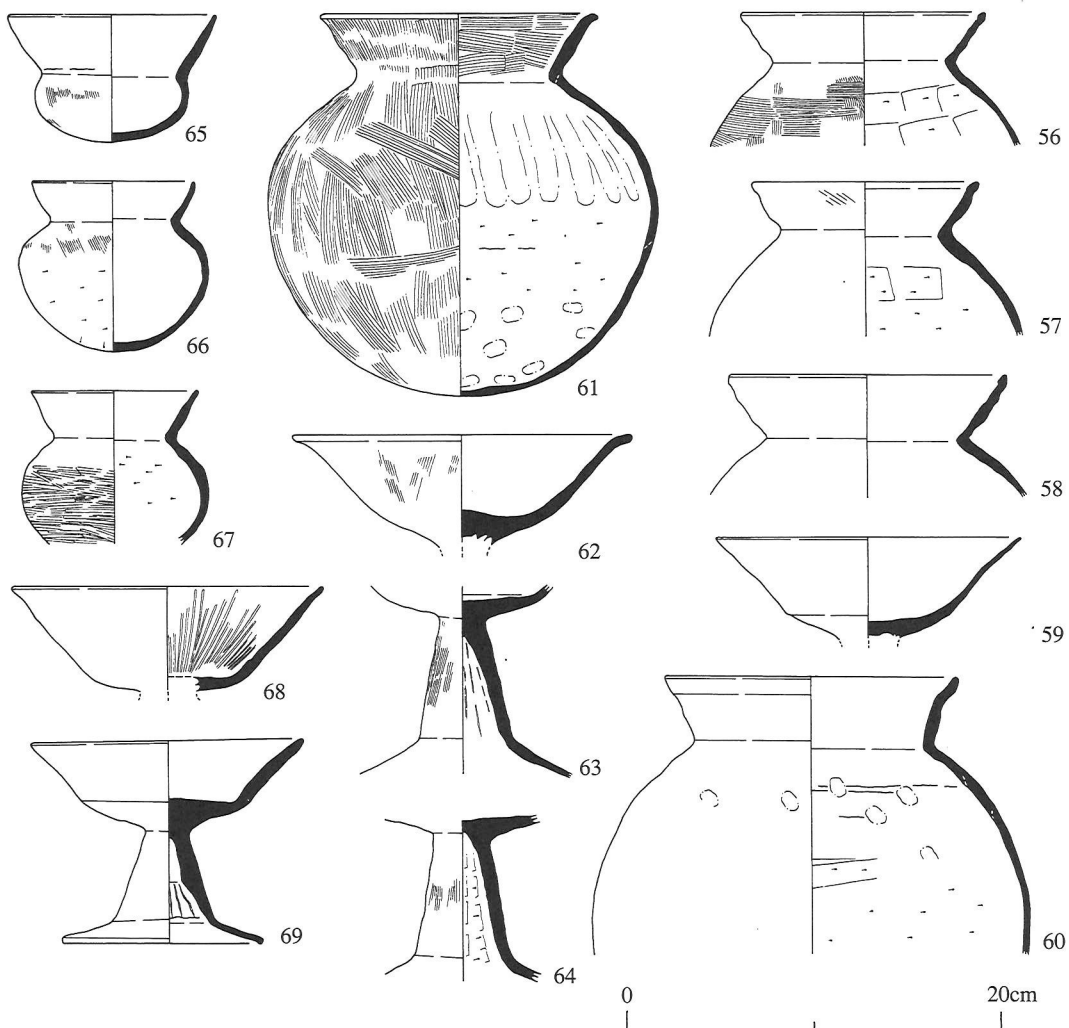
竪穴住居址出土遺物

甕・壺・小型丸底壺・高杯などがある。完形品が多く含まれる。内外面共に風化しているものがかなり認められる。甕は、口縁端部を丸くおさめる図42・43を図示した。図42の口径は13.4cmである。2点とも他地域産である。

壺は、直口の口縁部をもつものを図示した。図48は口径12.0cm器高18.7cmで体部外面にハケメを施す。体部に煤の付着が認められる。他地域産である。

図52は小型丸底壺で口径9.9cm器高11.0cm、体部外面にハケメの後ナデを施す。他地域産である。

高杯は脚部と裾部内面の境に稜をもつものが多い。図54は口径16.7cm器高13.7cmで体部外面と杯部内面にハケメを施す。他地域産である。



第17図 井戸2・土壌2・3・4出土土器実測図

井戸2・土壌2・3・4出土遺物

甕・壺・小型丸底壺・高杯などがある。完形に復元できるものは多くない。

甕は、口縁部を肥厚するものと丸くおさめるものがある。図56の甕は、井戸2出土で口径12.8cm、体部内面はヘラケズリ体部外面にハケメを施す。他地域産である。図60は口径15.4cm、体部内外面にヨコナデを施す在地産の甕である。

壺は、ほぼ完形に復元できた図61を図示した。土壌4出土で口径14.2cm器高20.2cm、口縁部内面に横方向のハケメ、体部外面にハケメを施す。底部内面に指頭圧痕が認められる。他地域産である。

小型丸底壺のうち図65は井戸2出土で、今回報告したこの種の器形の中では最も古式の形態を示す。口径10.8cm器高6.75cmで体部外面にハケメの後ナデを施す。在地産である。

図69の高杯は、土壌4出土で口径14.2cm器高10.8cmである。他地域産である。

Ⅲ. まとめ

今回の調査では、いくつかの新知見を得た。ただ事情により全てを報告できないことを遺憾とするが、以下、簡単に箇条書きで記し、まとめとしたい。

(A) 従来、知られていなかった布留期後半の遺構を多数検出した。この時期の集落域の中心地の一画を調査したことになる。特に倉庫、竪穴住居址などは、本遺跡においては初めての検出であり、西岩田遺跡の集落の変遷や性格を知る上で貴重な資料である。

現在の知見では、本遺跡は弥生時代後期後半に集落が営まれ、古墳時代中期後半から後期初頭まで継続して存在することが判明している。居住域は、まだ全域が調査されていないので遺構などは断片的に知られるに過ぎないが、遺物の出土状況などから時代により今回の調査地点周辺をわずかずつ移動することが想定できる。

河内湖の縁辺部に位置し、当時の港の役割を果たしていたと思われる本遺跡から、倉庫と考えられる総柱の掘立柱建物を検出したことは、水運を考えるうえに非常に重要な事実と考える。

過去の調査において、前代の庄内期の段階で山陽・山陰・東海地方などの土器や、河内ではほとんど出土例のない紀伊地方の製塩土器などが出土しているが、これも港ゆえのことではないかと思われる。

低湿地に位置する本遺跡において、布留期においても竪穴住居址が存在する事実は、当時の家を考えるうえで興味深い。

本遺跡の実態を知る手がかりを上述のようにいくつも得たことにより、従前の調査成果と併せて、今後の研究により庄内期～布留期の集落形態がより鮮明になるとと思われる。

(B) 竪穴住居址、井戸2、土壙などの遺構より布留期後半の土器を多量に検出した。すべて、一括遺物で須恵器が出現する直前の資料を含む4世紀後半から5世紀にかけての土器群と考える。中には、他地域では既に須恵器が出現している段階のものも含む可能性があるが今回の調査では出土していない。

特に土壙8出土品は、完形品を含む土器が非常に多く出土しており、須恵器出現期直前の中河内の土器の実態を知る上で資料的価値が高い。弥生時代後期の土器にしばしば見られる記号文を施した土器がこの段階まで存在することは、この種の記号文が何を意味するのか明らかにできないが、注目すべき事実と考える。また、東海地方のいわゆるS字状口縁の脚台付きの甕の存在も当時の交流を知るうえで重要と考える。

(C) 従来、本遺跡では存在の知られていない中世の建物を含む遺構を検出した。13世紀～14世紀代と考えられる建物1棟、溝2条、井戸2基、落ち込み1基である。No.3トレンチ第4層上面でしか確認できず、遺構の切り合いも存在せず遺物もあまり出土していないため、短期間の小規模な居住地と考えられる。古墳時代後期以降、居住域として利用されなかった本遺跡が、この時期に再度、短期間とはいえ集落が営まれる背景を今後、自然環境の変化も含めて考える必要があるだろう。

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 遺構基準高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 1	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 (13.6) 器高 (17.1)	口縁部ヨコナデ 頸部ハケメ6条/cm後ヨコナデ 体部ヘラケズリ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部5条/cm横方向ハケメ	内面 10YR7/4にぶい 黄褐色 外面 2.5Y7/3浅黄褐色 断面 10YR7/6明黄褐色	4.0以下の角閃石・長石・雲母	1/2弱	体部外面・煤付着 二重口縁 他地域産
図面番号 2	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 13.5 器高 (11.0)	口縁部10条/cmのハケメ 体部ヘラケズリ	口縁部10条/cmのハケメの後ヨコナデ 体部10条/cmのハケメの後ナデ	内面 5YR6/3にぶい 褐色 外面 5YR6/3にぶい 褐色 断面 5YR6/3にぶい 褐色	1.5以下の石英・長石・クサリ礫・雲母	2/3	体部に2ヶ所の黒斑 体部外面に一部朱 他地域産
図面番号 3	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 17.0 器高 (7.1)	口縁部ヨコナデ 口頸部7条/cmのハケメ 体部ナデ	口頸部ヨコナデ 体部ナデ	内面 2.5Y8/3淡黄褐色 外面 2.5Y8/3淡黄褐色 断面 2.5Y8.3淡黄褐色	4.0以下の長石・クサリ礫	3/4	他地域産
図面番号 4	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 (12.2) 器高 (9.3)	口縁部ハケメ7条/cm 体部板状工具によるナデ	口縁部ヨコナデ 体部7条/cmのハケメ	内面 5YR7/4にぶい 褐色 外面 2.5Y8/3淡黄褐色 断面 2.5Y8/3淡黄褐色	2.0以下のチャート・長石	1/4	他地域産
図面番号 5	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 16.2 器高 36.9	口縁部6条/cmのハケメ後ナデ 肩部ナデ 体部ケズリ 底部ケズリ	口縁部ヨコナデ 体部6条/cmのハケメ 体部6条/cmのハケメ	内面 7.5YR7/6褐色 外面 7.5YR7/6褐色 断面 7.5YR7/6褐色	5.0以下のチャート・長石・クサリ礫・雲母	ほぼ完形	内面粘土経痕 外面肩部に2ヶ所 に記号文
図面番号 6	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕 (脚台付)	口径 15.7 器高 (26.9)	口縁部ヨコナデ 口縁部ヨコナデ 体部ナデ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部4条/cmのハケメ 底部ハケメ 脚台部ハケメ	内面 7.5YR8/1灰白色 外面 7.5YR8/1灰白色 断面 7.5YR8/1灰白色	3.0以下の長石・石英・クサリ礫・チャート・雲母	4/5	内外面風化 他地域産
図面番号 7	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 12.5 器高 (19.3)	口縁部ヨコナデ 体部横方向のケズリ	口縁部5条/cmの縦方向のハケメ後右廻りのナデ 体部5条/cmの粗いハケメ後ナデ 体部11条/cmの密なハケメ後ナデ	内面 10YR8/2灰白色 外面 7.5YR8/3浅黄褐色 断面 7.5YR8/3浅黄褐色	3.0以下の長石・チャート	2/3	体部外面煤付着 外面肩部2ヶ所に記号文 他地域産
図面番号 8	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 14.0 器高 36.6	口縁部6条/cmのハケメ 体部ケズリ 底部ユビオサエ	口縁部ヨコナデ 体部6条/cmのハケメ 底部6条/cmのハケメ	内面 10YR8/4浅黄褐色 外面 7.5YR8/4浅黄褐色 断面 10YR8/4浅黄褐色	5.0以下の長石・クサリ礫・金雲母	ほぼ完形	外面肩部二ヶ所に記号文 外面底部磨滅 他地域産
図面番号 9	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 (11.2) 器高 14.7	口縁部ヨコナデ 体部ケズリ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部11条/cmのハケメ 底部ナデ	内面 7.5YR5/3にぶい 褐色 外面 7.5YR4/2にぶい 灰褐色 断面 7.5YR5/3にぶい 褐色	3.0以下の長石・角閃石・雲母	ほぼ完形	内外面体部煤付着 内面肩部粘土結痕 在地産
図面番号 10	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 (14.1) 器高 (25.0)	口縁部5条/cmの斜めハケメ 体部ヘラケズリ 底部工具によるナデ	口縁部5条/cmのハケメ 体部5条/cmのハケメ 底部5条/cmのハケメ	内面 5YR6/6褐色 外面 10YR7/2にぶい 黄褐色 断面 5YR6/6褐色 外面底部 5YR3/1黒褐色	5.0以下の長石・クサリ礫・金雲母	3/4	外面体部朱 (ベンガラ) 付着 外面底部煤付着 内外面風化 他地域産
図面番号 11	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 15.3 器高 (18.2)	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 体部7条/cmのハケメ	内面 2.5YR8/3淡黄褐色 外面 7.5YR6/6褐色 断面 7.5YR6/6褐色	3.0以下の長石・クサリ礫	1/4	

表2 西岩田遺跡第10次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()埋没状態	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 12	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 15.2 器高 12.4	風化のため不明	風化のため不明 横方向のハケメ	内面 2.5YR7/6橙色 外面 2.5YR7/6橙色 断面 2.5YR7/6橙色	2.0以下の長石	ほぼ 完形	内外面風化著しい。 他地域産
図面番号 13	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 (11.8) 器高 14.4	口縁部横方向5条/cmのハケメ 体部、底部ナデ	口縁部横方向の7条/cmのハケメ 体部7条/cmのハケメ後ナデ	内面 7.5YR6/4にぶい 橙色 外面 7.5YR7/3にぶい 橙色	1.0の雲母・長石・クサリ礫	ほぼ 完形	体部1ヶ所黒斑 底部煤付着 他地域産
図面番号 14	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 12.5 器高 14.7	口縁部ヨコナデ 肩部ヨコナデ 体部ナデ	口縁部ヨコナデ 肩部10条/cmのハケメ後ナデ 体部10条/cmのハケメ後ナデ	内面 10YR7/3にぶい 黄橙色 外面 10YR7/3にぶい 黄橙色 断面 10YR7/3にぶい 黄橙色	3.0以下の長石・石英・クサリ礫・チャート	ほぼ 完形	内外面風化著しい。 外面体部に黒斑 他地域産
図面番号 15	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 13.2 器高 23.1	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 体部平行タタキ後ナデ	内面 7.5YR8/4淡黄橙色 外面 7.5YR8/4淡黄橙色 断面 7.5YR8/4淡黄橙色	3.0以下の長石・石英・クサリ礫・チャート		外面風化著しい 外面2ヶ所黒斑 他地域産
図面番号 16	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 14.6 器高 22.8	口縁部、ヨコナデ 体部ケズリ、肩部から底部にかけてユビオサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部から底部8条/cmのハケメ	内面 7.5YR7/6橙色 外面 7.5YR7/6橙色 断面 7.5YR7/6橙色	3.0以下の長石・クサリ礫	完形	風化著しい 体部粘土繊維、穿孔 他地域産
図面番号 17	No.5トレンチ土壌8	土師器	甕	口径 13.3 器高 (11.6)	口縁部ヨコナデ 体部10条/cmのハケメ	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内面 5YR7/4にぶい 橙色 外面 5YR7/4にぶい 橙色 断面 5YR7/4にぶい 橙色	2.0以下の長石・クサリ礫	1/2	黒斑 他地域産
図面番号 18	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 7.5 器高 8.5	口縁部4条/cmのハケメ後ヨコナデ 体部4条/cmのハケメ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部4条/cmのハケメ後ナデ	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 5YR6/6橙色	3.0以下の長石・石英・チャート・クサリ礫	ほぼ 完形	内面黒斑 他地域産
図面番号 19	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型丸底壺	器高 (9.0)	口縁部ヨコナデ 体部ナデ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 肩部ヨコナデ 体部7条/cmのハケメ後ナデ 底部7条/cmのハケメ後ナデ	内面 7.5YR6/4にぶい 橙色 外面 7.5YR6/4にぶい 橙色 断面 7.5YR6/4にぶい 橙色	2.0以下の石英・長石・角閃石・クサリ礫・雲母	1/4	肩部に黒斑、体部外面一部に朱(ベンガラ)在り 他地域産
図面番号 20	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 9.5 器高 12.1	口縁部ヨコナデ 体部から底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部8条/cmの横方向ハケメ 後丁寧なヨコナデ	内面 2.5Y7/3淡黄色 外面 2.5YR8/4淡黄橙色	3.5以下の石英・長石・チャート・雲母	ほぼ 完形	外面黒斑 風化している 他地域産
図面番号 21	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 (8.8) 器高 (12.4)	口縁部ヨコナデ 体部工具による縦方向ナデ 底部ユビオサエ	口縁部ヨコナデ 体部5条/cmのハケメ	内面 10YR7/3にぶい 黄橙色 外面 10YR7/3にぶい 黄橙色 断面 10YR7/3にぶい 黄橙色	5.0以下の長石・チャート	1/2	他地域産
図面番号 22	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型丸底壺	口径 8.4 器高 (7.5)	口縁部ヨコナデ 体部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部8条/cmのハケメ、横方向のケズリ後ミガキ	内面 7.5YR7/4にぶい 橙色 外面 7.5YR6/4にぶい 橙色 断面 7.5YR7/4にぶい 橙色	3.0以下の長石・クサリ礫・雲母	1/3	他地域産

表2 西岩田遺跡第10次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 遺器目録基準	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 23	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型丸底壺	口径 8.7 器高 7.4	口縁部ヨコナデ 口縁部ハケメ後ヨコナデ 体部ハケメ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ後ナデ	内面 5YR7/6褐色 外面 5YR7/6褐色 断面 5YR7/6褐色	0.5以下の長石・クサリ礫	ほぼ完形	他地域産
図面番号 24	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 8.6 器高 7.5	口縁部ヨコナデ 体部丁寧ナデ	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内面 5YR7/6褐色 外面 5YR7/6褐色 断面 5YR7/6褐色	2.0以下のクサリ礫・雲母・長石	ほぼ完形	他地域産
図面番号 25	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型丸底壺	器高 (10.4)	口縁部 8 条/cm のハケメ後ナデ 体部 8 条/cm のハケメ後ナデ 底部 8 条/cm のハケメ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部ヨコナデ、8 条/cm のハケメ後ナデ 底部ヨコナデ 8 条/cm のハケメ後ナデ	内面 7.5YR6/9 に近い褐色 外面 7.5YR6/9 に近い褐色 断面 7.5YR6/9 に近い褐色	2.5以下の石英・長石・クサリ礫・雲母	2/3	肩部黒斑 肩部に粘土繊維 他地域産
図面番号 26	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 8.6 器高 9.7 底径 2.2	口縁部 8 条/cm のハケメ後ヨコナデ 体部ハケメ後ナデ	口縁部ハケメ後ヨコナデ 体部 8 条/cm のハケメ後ナデ	内面 10YR8/4 浅黄褐色 外面 10YR8/4 浅黄褐色	3.5以下の石英・長石・クサリ礫・チャート	ほぼ完形	粘土繊維 底部上げ底気味 や風化 他地域産
図面番号 27	No.5トレンチ土壌8	土師器	壺	口径 6.5 器高 7.9 底径 2.9	口縁部 6 条/cm のハケメ後ヨコナデ 体部ハケメ後ナデ	口縁部 6 条/cm のハケメ後ヨコナデ 体部 6 条/cm のハケメ後ナデ	内面 10YR7/4 に近い黄褐色 外面 10YR7/4 に近い黄褐色 断面 2.5Y7/3 浅黄褐色	2.0以下の長石・石英・チャート・雲母・クサリ礫	ほぼ完形	黒斑 穿孔 頸部粘土繊維 他地域産
図面番号 28	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型丸底壺	口径 (9.4) 器高 (8.5)	口縁部ヨコナデ 口縁部ハケメ後ヨコナデ 頸部ハケメ後ヨコナデ 体部ナデ	口縁部ヨコナデ 口縁部ヨコナデ 頸部ヨコナデ 体部ナデ	内面 10YR7/4 に近い黄褐色 外面 7.5YR7/6 褐色 断面 7.5YR7/6 褐色	2.5以下の長石・チャート・クサリ礫	1/2	他地域産
図面番号 29	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 8.6 器高 (4.3)	口縁部ヨコナデ 体部横方向のナデ	口縁部ヨコナデ 体部横方向のナデ	内面 5YR7/6 褐色 外面 5YR7/6 褐色 断面 5Y7/6 褐色	1.5以下の長石・金雲母・クサリ礫	口縁部完形	他地域産
図面番号 30	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 8.6 器高 9.5	口縁部ハケメ後ヨコナデ 体部ケズリ後ナデ	口縁部ハケメ後ヨコナデ 体部 8 条/cm の不定方向のハケメ	内面 5YR6/8 褐色 外面 5YR6/8 褐色 断面 5YR6/8 褐色	2.5以下の長石・雲母	ほぼ完形	底部鋭刺「X」 他地域産
図面番号 31	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型壺	口径 8.2 器高 (7.7)	口縁部ヨコナデ 体部 9 条/cm のハケメ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部 9 条/cm のハケメ	内面 7.5YR7/4 に近い褐色 外面 10YR8/4 浅黄褐色 断面 7.5YR7/4 に近い褐色	6.0以下の長石・雲母・クサリ礫	2/3	粘土繊維 内外面黒斑 他地域産
図面番号 32	No.5トレンチ土壌8	土師器	小型丸底壺	器高 (10.5)	口縁部ヨコナデ 体部ナデ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部ハケメ後ナデ 底部ハケメ後ナデ	内面 10YR5/1 褐色 外面 7.5YR7/4 に近い褐色 断面 7.5YR7/4 に近い褐色	1.5以下の石英・長石・クサリ礫・雲母	3/4	体部、底部に黒斑 体部、底部内面 粘土繊維 他地域産
図面番号 33	No.5トレンチ土壌8	土師器	高杯	器高 (5.1)	風化のため不明	風化のため不明	内面 7.5YR8/4 浅黄褐色 外面 7.5YR7/4 に近い褐色 断面 7.5YR8/4 浅黄褐色	3.0以下の長石・クサリ礫・チャート	杯底部から脚部	他地域産

表 2 西岩田遺跡第10次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 34	No.5トレンチ 土壌8	土師器	ミニチュア小型丸底甕	口径 6.1 器高 5.1	横方向のナデ	口縁部ヨコナデ 体部ユビ調整	内面 5YR7/6橙色 外面 5YR7/6橙色 断面 5YR7/6橙色 外面底部一部 5YR5/1 褐色	3.0以下の長石・クサリ礫	ほぼ 完形	他地域産
図面番号 35	No.5トレンチ 土壌8	土師器	高杯	器高 (6.5) 底径 9.8	柱状部ナデ 裾部ヨコナデ	裾部ハケメ後ナデ 柱状部ハケメ、原体幅1.5cm	内面 10YR8/4淡黄橙色 外面 10YR8/4淡黄橙色 断面 5Y4/1灰色	1.5以下の長石・石英・チャート	脚部のみ	他地域産
図面番号 36	No.5トレンチ 土壌8	土師器	ミニチュア鉢	口径 4.7 器高 2.8	ユビ調整	ユビ調整	内面 7.5YR7/6橙色 外面 7.5YR7/6橙色 断面 7.5YR7/6橙色	2.0以下の長石	ほぼ 完形	他地域産
図面番号 37	No.5トレンチ 土壌8	土師器	高杯	口径 (16.7) 器高 (4.7)	風化のため不明	口縁部ヨコナデ 体部9条/cmのハケメ後ナデ	内面 7.5YR7/3にぶい 橙色 外面 7.5YR7/3にぶい 橙色 断面 7.5YR7/3にぶい 橙色	3.0以下の長石・石英・チャート	杯部 2/3	他地域産
図面番号 38	No.5トレンチ 土壌8	土師器	高杯	口径 (16.0) 器高 (4.8)	口縁部ヨコナデ 体部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部ハケメ後ナデ	内面 5YR8/5淡橙色 外面 10YR7/4にぶい 黄橙色 断面 10YR5/1褐色	3.0以下の長石	杯部 1/2	内外面風化著しい 内面体部に黒斑 他地域産
図面番号 39	No.5トレンチ 土壌8	土師器	高杯	器高 (9.9)	柱状部シボリメ 裾部ヨコナデ	柱状部ハケメ後ヘラミガキ 裾部風化のため不明	内面 5YR6/4にぶい 橙色 外面 5YR6/4にぶい 橙色 断面 5YR6/4にぶい 橙色	2.0以下の長石・石英・クサリ礫・チャート	柱部のみ	粘土紐柱状部から裾部に向かつて巻いている 他地域産
図面番号 40	No.5トレンチ 土壌8	土師器	高杯	口径 20.0 器高 13.0 底径 11.2	杯部ナデ 柱状部ヘラケズリ 裾部ハケメ後ヨコナデ	杯部6条/cmのハケメ後ナデ 柱状部ハケメ後ヘラミガキ 裾部ハケメ後ヨコナデ	内面 5YR7/6橙色 外面 5YR7/6橙色 断面 5YR7/6橙色	2.0以下の長石・金雲母	ほぼ 完形	内外面風化著しい 他地域産
図面番号 41	No.5トレンチ 土壌8	土師器	高杯	口径 (18.7) 器高 (10.7)	口縁部8条/cmのハケメ 体部8条/cmのハケメ 体部ナデ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部8条/cmのハケメ 杯底部ハケメ後ナデ 脚部ハケメ後ナデ	内面 10YR7/5にぶい 黄橙色 外面 7.5YR7/4にぶい 橙色 断面 10YR7/5にぶい 黄橙色	3.0以下の長石・石英	1/3	他地域産
図面番号 42	No.5トレンチ 住居址	土師器	甕	口径 (13.4) 器高 (4.2)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	内面 2.5YR8/3淡黄橙色 外面 10YR8/4淡黄橙色 断面 10YR8/4淡黄橙色	3.0以下のチャート・長石・クサリ礫	1/3	他地域産
図面番号 43	No.5トレンチ 住居址	土師器	甕	口径 (13.4) 器高 (4.6)	口縁部風化のため不明 体部風化のため不明	口縁部ヨコナデ 体部風化のため不明	内面 7.5YR6/4にぶい 橙色 外面 7.5YR6/4にぶい 橙色 断面 7.5YR6/4にぶい 橙色	3.0の長石・クサリ礫	1/4	口縁部内面黒斑 他地域産
図面番号 44	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (6.6) 裾径 (10.2)	脚部ヘラケズリ 裾部工具痕	風化のため不明	内面 2.5YR5/8明赤褐色 外面 7.5YR2/1にぶい 橙色、7.5YR7/4 にぶい橙色 断面 2.5YR5/8明赤褐色	1.2.0以下の長石・黒雲母	脚部のみ	内外面風化 他地域産
図面番号 45	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (7.7) 裾径 (10.2)	脚部ヘラケズリ 裾部ハケメ木口	ナデ	内面 2.5Y8/3淡黄褐色 外面 2.5Y8/3淡黄褐色 断面 2.5Y4/1黄灰色	1.0以下の長石・クサリ礫	脚部のみ	内外面風化 他地域産

表2 西岩田遺跡第10次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 直径 高さ	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 46	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (6.5) 裾径 10.2	柱状部ケズリ 裾部ヨコナデ	柱状部11条/cmのハケメ	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 5YR6/6橙色	3.0以下の石英・ 長石・雲母	脚部 完形	内外面覆部に黒 斑 他地域産
図面番号 47	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (6.7)	ヘラケズリと思われるが風化 のため不明	一部にハケメ木口あり	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 5YR6/6橙色	2.0以下の長石・ 角閃石	脚部 のみ	内外面風化 在地産
図面番号 48	No.5トレンチ 住居址	土師器	壺	口径 12.0 器高 18.7	口縁部ヨコナデ 体部エビオサエ、ナデ	口縁部ヨコナデ 体部7条/cmのハケメ後一部 ナデ 底部7条/cmのハケメ後一部 ナデ	内面 7.5YR7/4にぶい 橙黄色 外面 10YR6/4にぶい 黄橙色 断面 7.5YR7/4にぶい 橙黄色	0.6以下のチャート 雲母・長石・ク サリ礫	完形	口縁部・体部黒 斑 体部煤付着 他地域産
図面番号 49	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (8.7)	柱状部シボリメ	杯底部ナデ 柱状部ヘラミガキ	内面 5YR7/6橙色 外面 5YR7/6橙色 断面 5YR7/6橙色	1.0以下の雲母・ 長石・クサリ礫	1/3	他地域産
図面番号 50	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (9.4)	杯部ヨコナデ・ナデ 脚部風化のため不明	杯部風化のため不明 脚部風化のため不明	内面 10YR7/4にぶい 黄橙色 外面 10YR7/4にぶい 黄橙色 断面 10YR7/4にぶい 黄橙色	2.0以下のチャ ート・長石・クサ リ礫	1/3	他地域産
図面番号 51	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	器高 (7.1) 底径 (11.2)	風化のため不明	風化のため不明	内面 10YR8/3浅黄橙 色 外面 10YR8/3浅黄橙 色 断面 10YR8/3浅黄橙 色	2.0以下の長石・ クサリ礫	脚部 のみ	裾部一部煤付着 他地域産
図面番号 52	No.5トレンチ 住居址	土師器	小型丸 底壺	口径 9.9 器高 11.0	口縁部ヨコナデ 体部工具によるナデ 底部エビオサエ	口縁部ヨコナデ 体部3条/cmのハケメ後ナデ 底部5条/cmのハケメ後ナデ	内面 5YR7/6橙色 外面 10YR7/6明黄褐 色	3.0以下の長石・ クサリ礫・金雲 母	完形	内外面風化 他地域産
図面番号 53	No.5トレンチ 住居址	土師器	小型丸 底壺	口径 7.7 器高 9.1	口縁部ヨコナデ 体部ナデ	口縁部ヨコナデ。 体部風化のため不明	内面 10YR7/2にぶい 黄橙色 外面 10YR7/2にぶい 黄橙色 断面 10YR7/2にぶい 黄橙色	1.0以下の長石・ 金雲母	ほぼ 完形	他地域産
図面番号 54	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	口径 16.7 器高 13.7 底径 11.1	杯部ハケメ 脚部ヘラケズリ 裾部4条/cmのハケメ	杯部4条/cmのハケメ 脚部ハケメ後ナデ	内面 5YR8/4淡黄色 外面 2.5YR8/4淡黄色 断面 2.5YR8/4淡黄色	1.0以下の長石・ クサリ礫	ほぼ 完形	他地域産
図面番号 55	No.5トレンチ 住居址	土師器	高杯	口径 (16.8) 器高 12.7 底径 (10.6)	杯部風化のため不明 脚部ケズリ	杯部・体部風化のため不明 底部8条/cmのハケメ後一部 ナデ 脚部8条/cmのハケメ後一部 ナデ	内面 7.5YR6/4にぶい 橙黄色 外面 7.5YR7/6橙色 断面 7.5YR7/6橙色	2.0以下の長石・ 雲母	1/3	杯体部黒斑 他地域産
図面番号 56	No.4トレンチ 井戸2	土師器	壺	口径 (12.8) 器高 (7.0)	口縁部ヨコナデ 体部左から右方向へのヘラケ ズリ	口縁部ヨコナデ 体部11条/cmの縦方向のハケ メ後、横方向のハケメ	内面 7.5YR7/4にぶい 橙黄色 外面 10YR8/5浅黄橙 色 断面 7.5YR7/4にぶい 橙黄色	1.0以下の長石・ 金雲母	1/3	風化著しい 外面煤付着 他地域産
図面番号 57	No.4トレンチ 井戸2	土師器	壺	口径 (11.8) 器高 (8.1)	口縁部ハケメ後ナデ 体部ナデ	口縁部ハケメ後ナデ 体部ナデ	内面 7.5YR6/6橙色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 7.5YR8/4浅黄橙 色	4.0以下の長石・ クサリ礫・チャ ート	1/4	他地域産

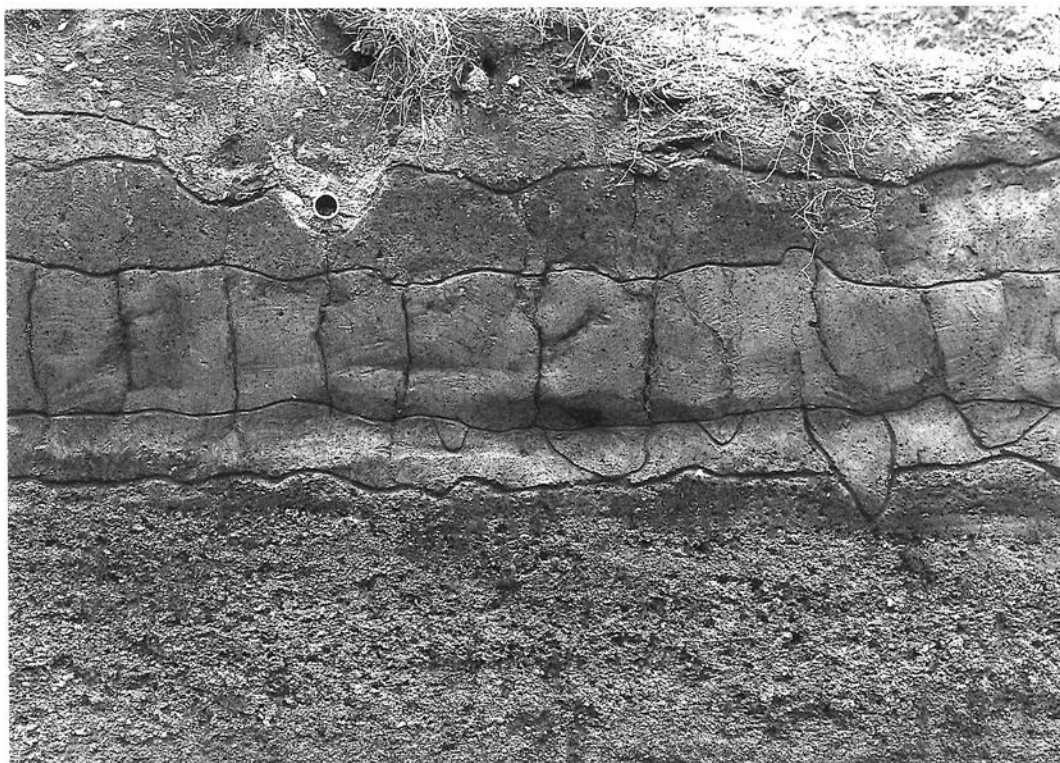
表2 西岩田遺跡第10次調査出土遺物観察表

図面番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 復原器具存在	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図面番号 58	No.4トレンチ 井戸2	土師器	甕	口径 (14.5) 器高 (6.5)	口縁部ヨコナデ 肩部ナデ	口縁部ヨコナデ 肩部ヨコナデ	内面 5YR6/6橙色 外面 7.5YR7/4にぶい 橙色 断面 7.5YR6/1弱灰色	4.0以下の長石・ 雲母	口縁部 1/2	他地域産
図面番号 59	No.4トレンチ 井戸2	土師器	高杯	口径 (16) 器高 (5.3)	風化のため不明	風化のため不明	内面 7.5YR7/6橙色 外面 7.5YR7/6橙色 断面 7.5YR7/6橙色	1.5以下の長石・ クサリ礫	4/5	他地域産
図面番号 60	No.5トレンチ 土壌8	土師器	甕	口径 (15.4) 器高 (14.6)	口縁部ヨコナデ 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 口縁部ヨコナデ 体部ユビオサエ・ナデ	内面 10YR6/4にぶい 黄橙色 外面 10YR5/4にぶい 黄橙色 断面 10YR6/4にぶい 黄橙色	3.0以下の長石・ 角閃石・雲母	4/5	外面二次焼成に よる煤付着 在地産
図面番号 61	No.3トレンチ 土壌4	土師器	壺	口径 14.2 器高 20.2	口縁部8条/cmの横方向の ハケメ 口縁部8条/cmの横方向のハ ケメ 頸部8条/cmの横方向のハケ メ 体部ヘラケズリ後ナデ 底部ユビオサエ	口縁部ヨコナデ 口縁部縦方向ハケメ 頸部縦方向ハケメ 体部ハケメ 底部ハケメ	内面 7.5YR7/6橙色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 7.5YR6/6橙色	5.0以下の長石・ 石英・チャー ト・雲母	ほぼ 完形	内外面風化著し い 他地域産
図面番号 62	No.3トレンチ 土壌2上層	土師器	高杯	口径 17.6 器高 (5.7)	風化のため不明	口縁部10条/cmのハケメ 体部風化のため不明	内面 5YR7/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 7.5YR7/6橙色	2.0以下の長石・ クサリ礫・チャー ト	杯部 3/4	他地域産
図面番号 63	No.4トレンチ 井戸2	土師器	高杯	器高 (10.1)	柱状部シボリメ 裾部風化のため不明 杯部風化のため不明	柱状部11条/cmのハケメ 裾部風化のため不明 杯部風化のため不明	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 7.5YR7/4にぶい 橙色	2.0以下の長石・ クサリ礫	1/3	全体に風化著し い 他地域産
図面番号 64	No.4トレンチ 井戸2	土師器	高杯	器高 (8.6)	杯部風化のため不明 柱状部ヘラケズリ 裾部ナデ	杯部風化のため不明 柱状部10条/cmのハケメ 裾部風化のため不明	内面 5YR5/6明赤褐色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 7.5YR6/6橙色	5.0以下の長石・ 角閃石	1/3	全体に風化著し い 在地産
図面番号 65	No.4トレンチ 井戸2	土師器	小型丸 底壺	口径 (10.8) 器高 6.7	口縁部ヨコナデ 体部ナデ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部11条/cmのハケメ後ナデ 底部ケズリ	内面 7.5YR5/4にぶい 褐色 外面 7.5YR7/4にぶい 藍色 断面 7.5YR6/4にぶい 褐色	2.0以下の角閃 石・長石・雲母	ほぼ 完形	外面肩部に粘土 柱痕 口縁部・底部黒 灰 在地産
図面番号 66	No.3トレンチ 土壌4	土師器	小型丸 底壺	口径 8.5 器高 9.1	口縁部ヨコナデ 体部から底部ナデ	口縁部ヨコナデ 肩部から体部10条/cmのハケ メ 体部から底部ケズリ	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 5YR6/6橙色	3.0以下の石英・ 長石・クサリ礫	完形	風化著しい 他地域産
図面番号 67	No.3トレンチ 土壌2上層	土師器	小型丸 底壺	口径 (8.7) 器高 (8.1)	口縁部ヨコナデ 体部ケズリ 底部ナデ	口縁部ヨコナデ 体部横方向のヘラミガキ	内面 10YR7/3にぶい 黄褐色 外面 10YR7/3にぶい 黄褐色 断面 10YR6/2灰黄褐 色	1.0以下の長石・ クサリ礫	1/2	他地域産
図面番号 68	No.4トレンチ 井戸2	土師器	高杯	口径 16.4 器高 (5.6)	杯部放射線状の暗文	杯部ナデ	内面 5YR4/4にぶい赤 褐色 外面 5YR4/4にぶい赤 褐色 断面 5YR6/4にぶい橙 色	2.0以下の長石・ 角閃石・金雲母	2/3	風化著しい 在地産
図面番号 69	No.3トレンチ 土壌4	土師器	高杯	口径 14.2 器高 10.8 底径 (9.4)	風化のため不明	風化のため不明	内面 5YR7/4にぶい橙 色 外面 5YR7/4にぶい橙 色 断面 5YR7/4にぶい橙 色	7.0以下の長石・ クサリ礫・金雲 母	杯部 脚部 完形	

表2 西岩田遺跡第10次調査出土遺物観察表



No. 4 トレンチ南壁断面 (北より)



No. 4 トレンチ南壁断面 (北より)



No. 3 トレンチ検出遺構全景（西より）



No. 4 トレンチ検出遺構全景（東より）



No. 1 トレンチ検出遺構全景（北より）



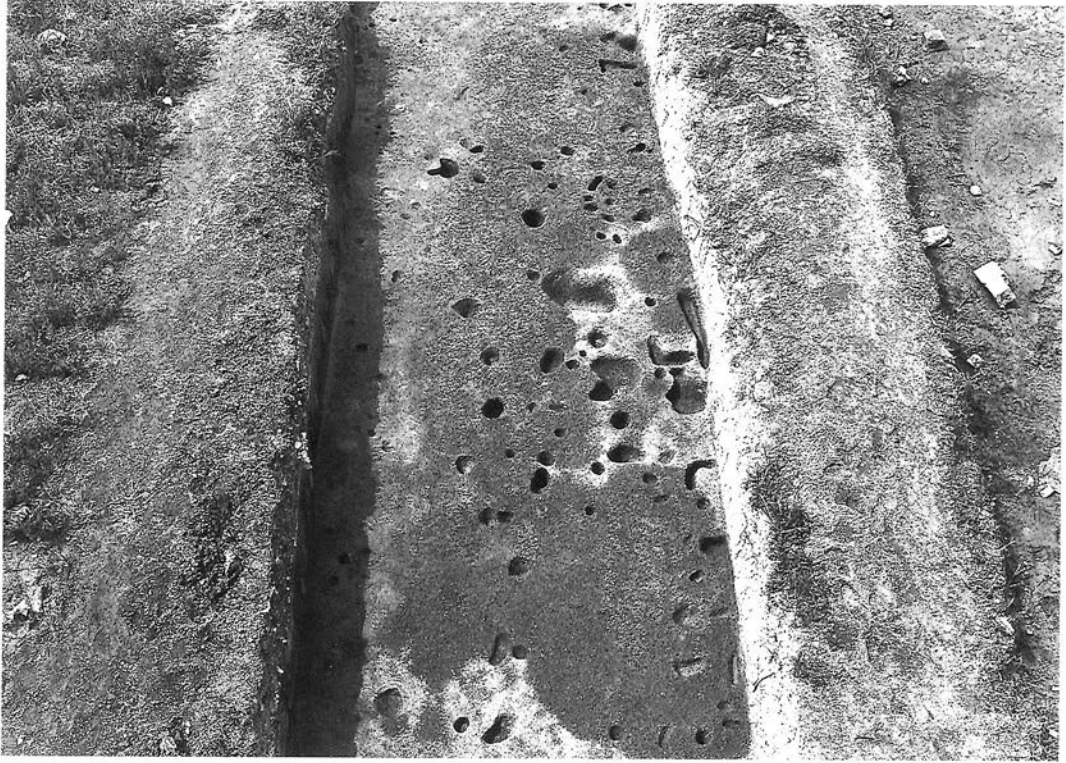
No. 3 トレンチ検出遺構全景（西より）



No. 1 トレンチ倉庫群検出状況（東より）



No. 3 トレンチ溝9他検出状況（南より）



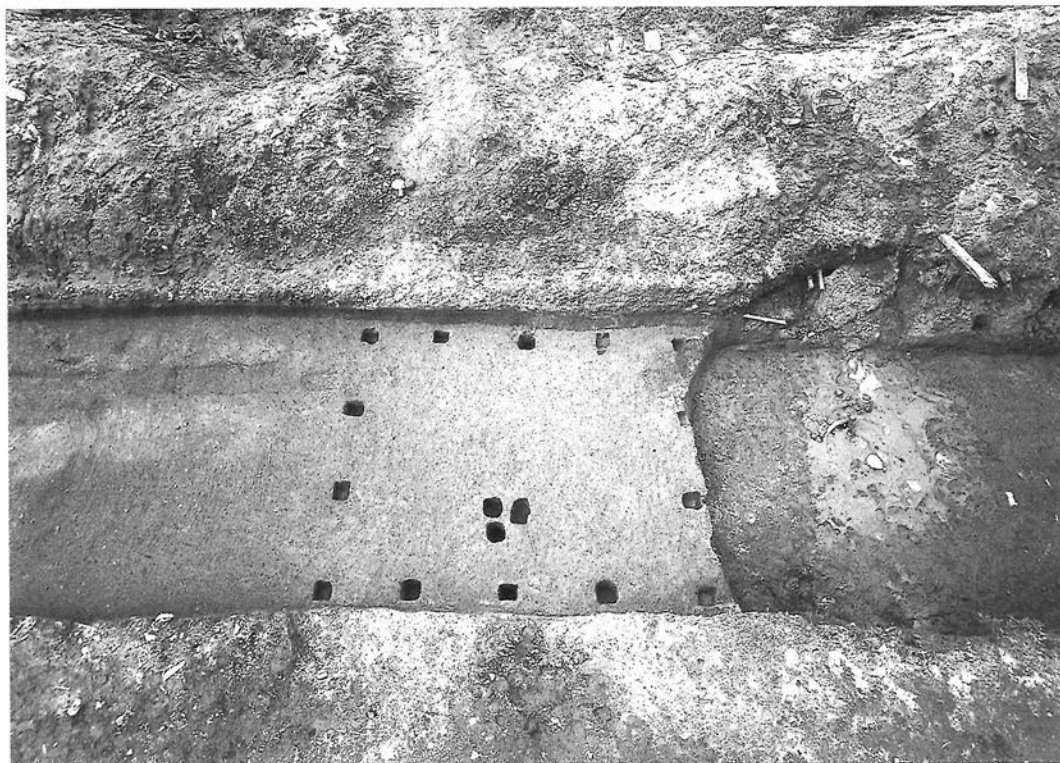
No.4 トレンチピット群検出状況（東より）



No.3 トレンチピット群検出状況（南より）



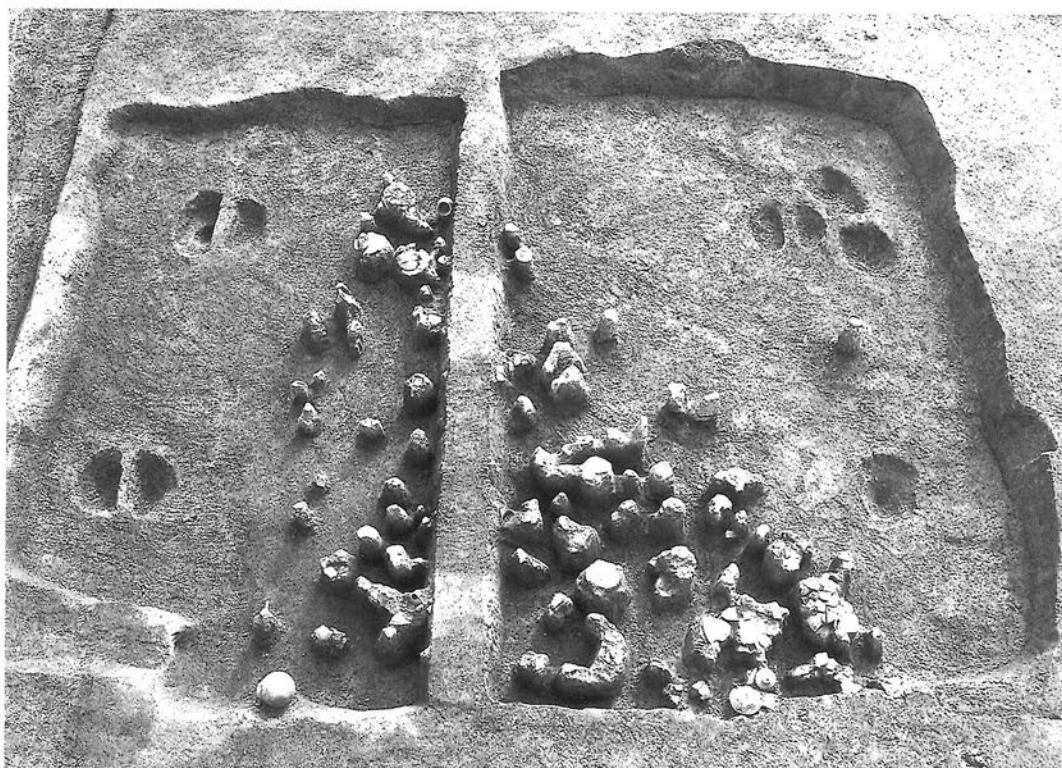
No. 5 トレンチ 竪穴住居址検出状況 (東より)



No. 3 トレンチ 掘立柱建物検出状況 (東より)



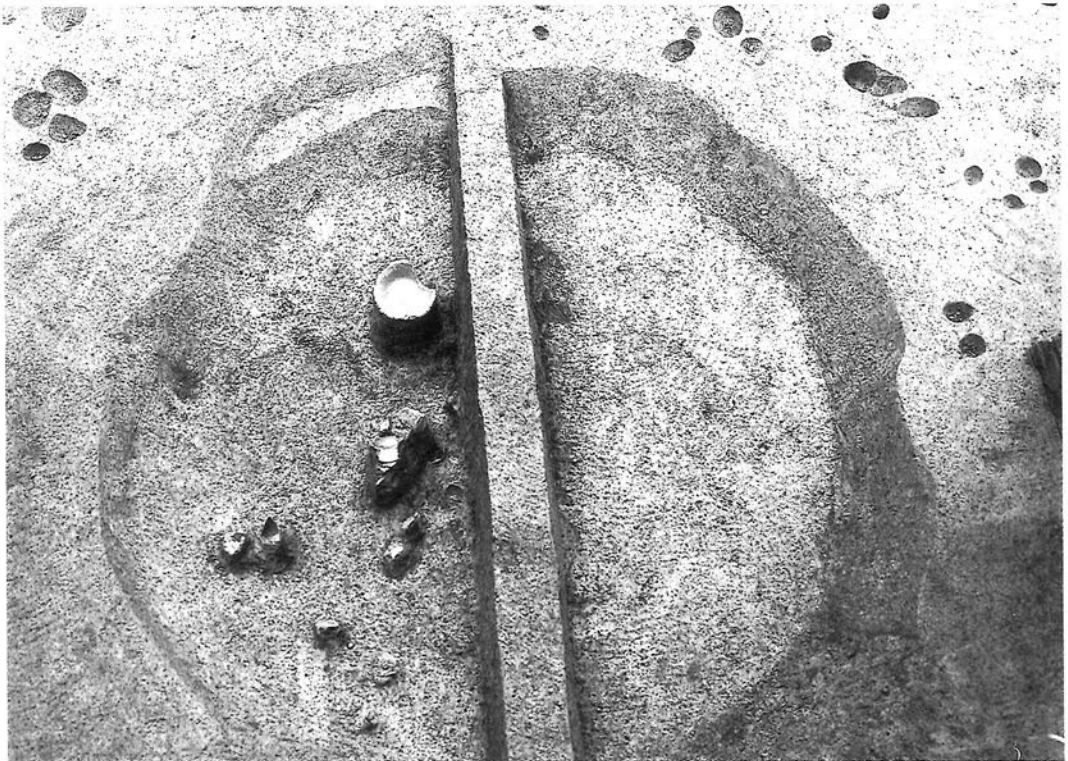
No. 5 トレンチ縦穴住居址・土壙8 遺物出土状況（東より）



No. 5 トレンチ縦穴住居址・遺物出土状況（東より）



No. 4 トレンチ溝5 他検出状況 (南より)



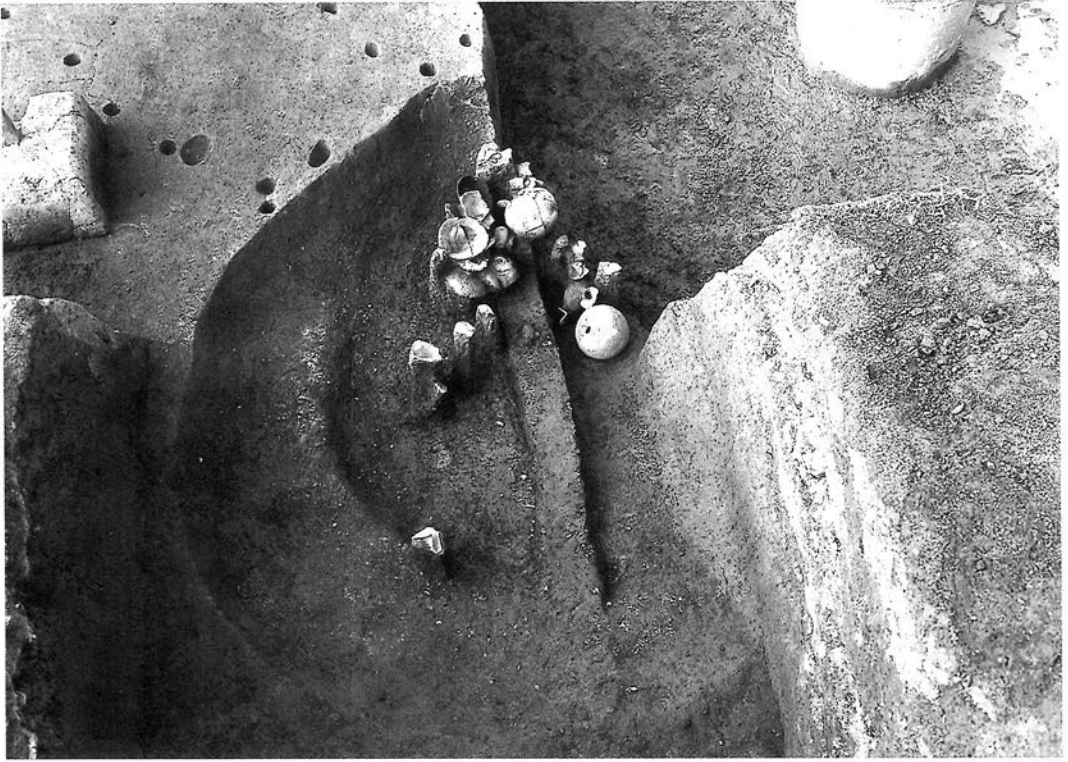
No. 4 トレンチ土壙1 遺物出土状況 (西より)



No. 5 トレンチ土壙 8 遺物出土状況（北より）



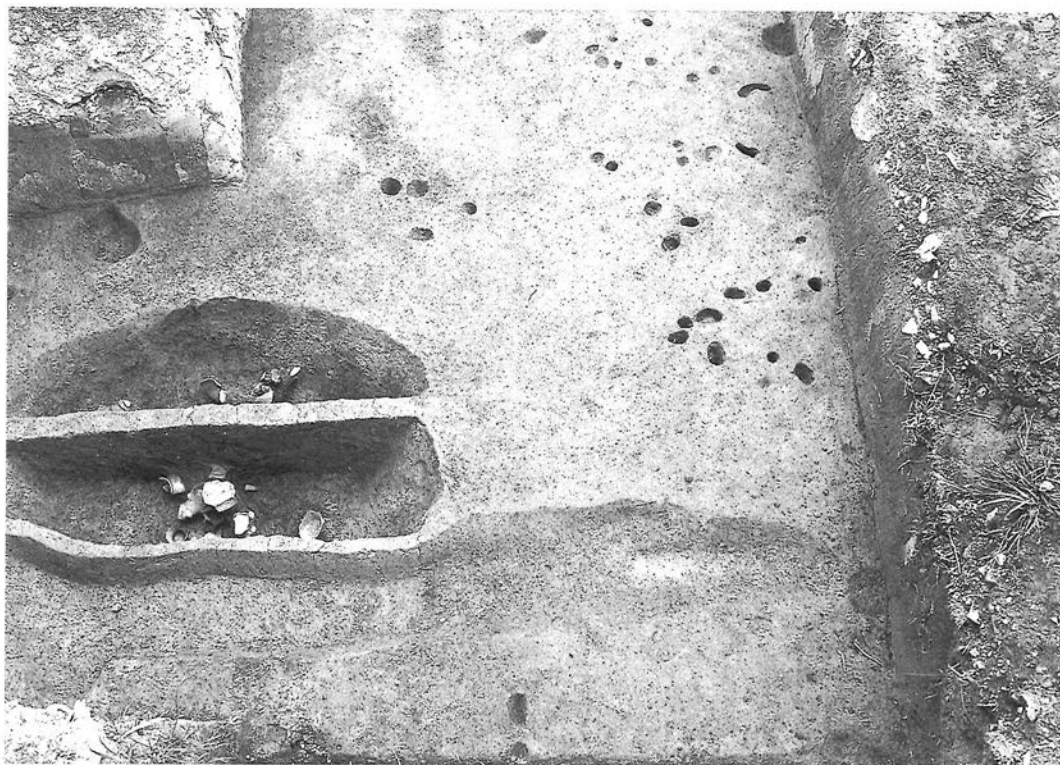
No. 5 トレンチ土壙 8 遺物出土状況（南より）



No. 3 トレンチ土壙 4 遺物出土状況（南より）



No. 3 トレンチ土壙 4 遺物出土状況（東より）



No. 4 トレンチ土壙1 遺物出土状況（西より）



No. 4 トレンチ土壙1 遺物出土状況（南より）



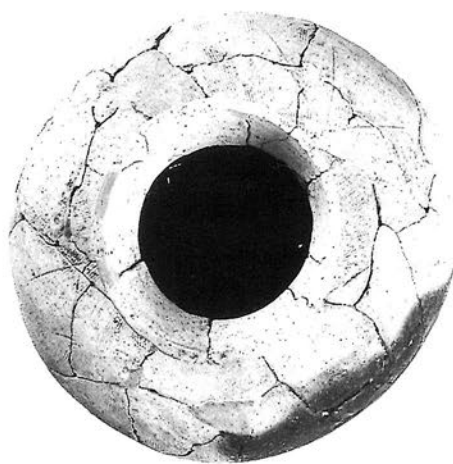
No.3 トレンチ土壙2 堆積土検出状況（東より）



No.3 トレンチ土壙2 遺物出土状況（南より）



5

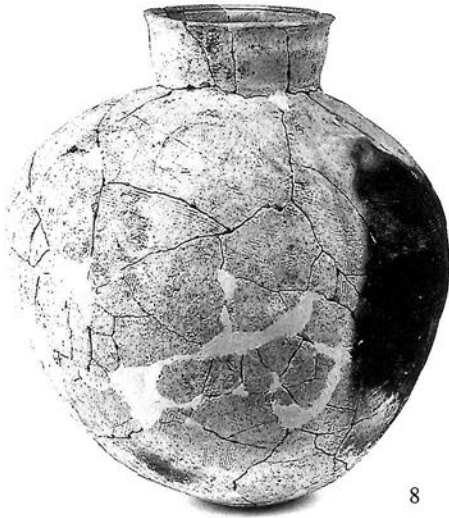


5'

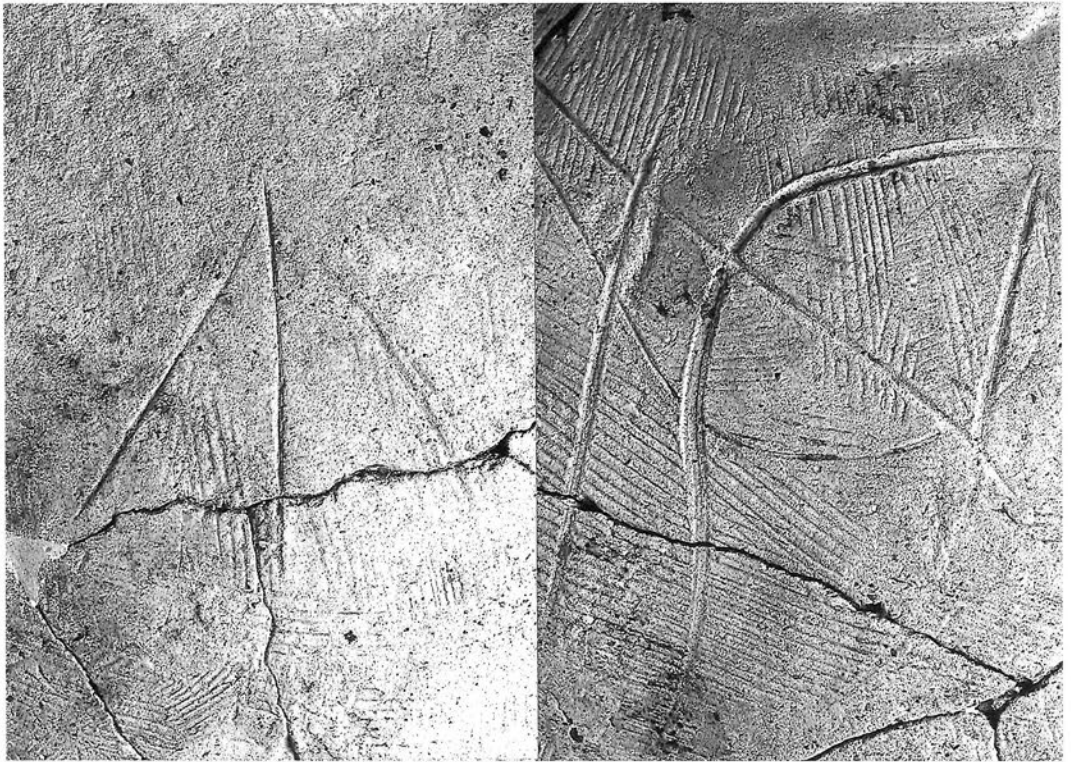
土師器壺



記号文



土師器壺



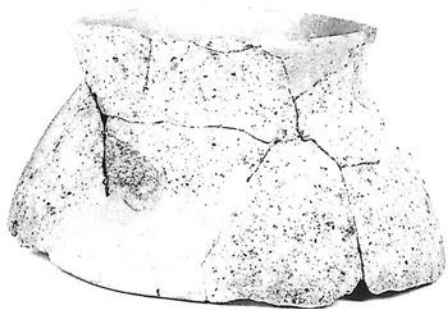
記号文



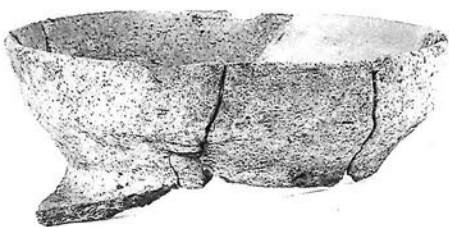
6



7



4



3



100



2



9



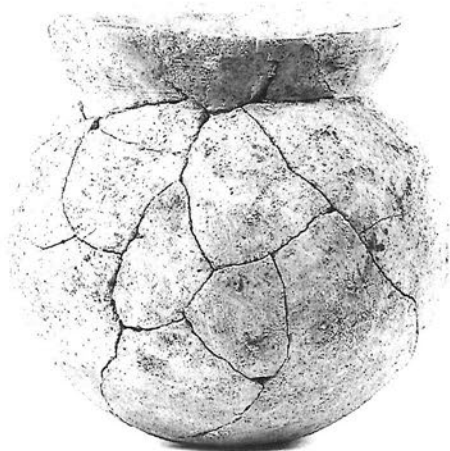
10



11



12



13



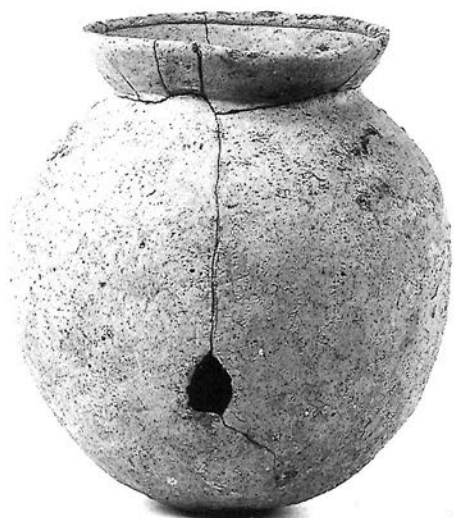
14



15



20



16



21



17



19



30



18



24



23



27



26



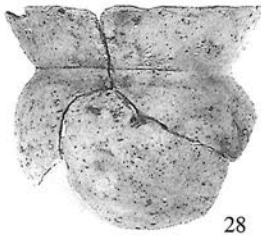
34



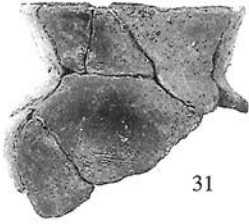
36



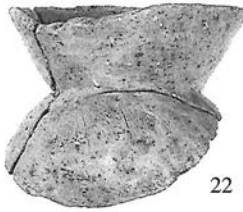
29



28



31



22



1



40



33



37



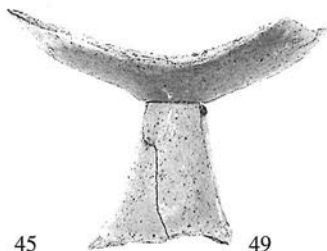
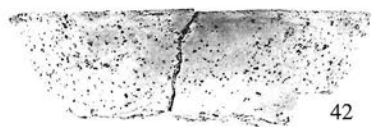
38



35



41



土師器甕・高杯・壺・小型丸底壺



66



65



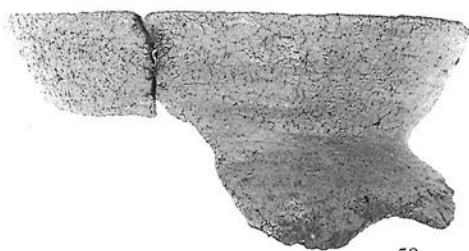
60



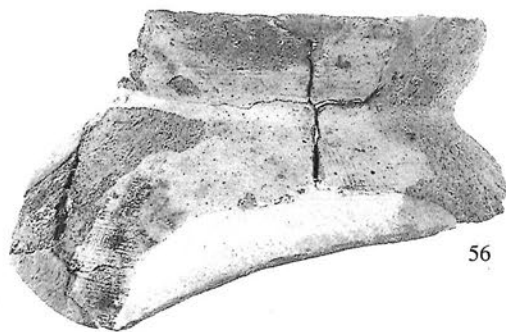
61



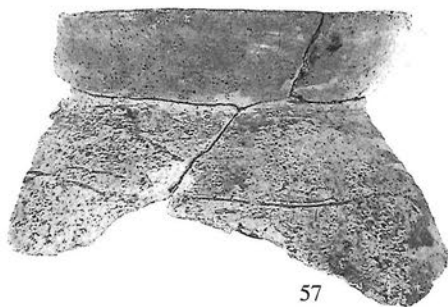
67



58



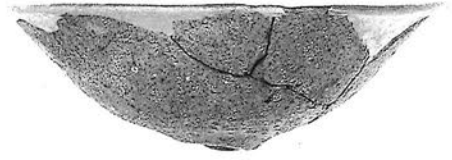
56



57



62



59



69



68



63



64

土師器高杯

Ⅲ 辻子谷遺跡第 1 次発掘調査報告

例 言

1. 本書は大阪府東大阪市中石切町2丁目210～212番地に所在する辻子谷遺跡第1次の発掘調査報告である。
2. 調査はマンション建設工事に伴う事前調査として実施した。
3. 調査は、財団法人東大阪市文化財協会が東大阪市教育委員会の依頼により勝田邦夫を調査担当として実施した。
4. 調査期間は1985年1月18日から3月30日までである。
5. 調査対象面積は260m²である。
6. 発掘調査の参加者は、藤田伸一、堀内正己、益田佳明、山藤誠、平田哲也、築地勇、浅村隆で整理作業には上記以外に川越菊美、北田千香子、植田久美、万谷祥子、速水善洋が行なった。
7. 本書の執筆、編集は勝田が行なった。本書に掲載した遺物写真は、新生堂フォト落合信生氏に委託して撮影した。
8. 調査の実施に当たっては山崎芳子、山崎秀一両氏、東レ建設株式会社、安西工務店の方々に御協力を頂いた。記してお礼申し上げます。

本文目次

I. はじめに	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の概要	4
層序	4
第3層上面の遺構	5
第11層上面の遺構	7
第12層上面の遺構	9
第14層上面の遺構	11

挿図目次

第1図 墓誌板	1
第2図 遺跡周辺図	3
第3図 調査地点位置図	4
第4図 層位図	4
第5図 地区割図	5
第6図 第3層上面の遺構	6
第7図 水路実測図	7
第8図 第11層上面の遺構	8
第9図 第12層上面の遺構	10
第10図 第14層上面の遺構	12
第11図 遺物実測図	14
第12図 遺物実測図	15
第13図 遺物実測図	16
第14図 遺物実測図	17
第15図 製塩土器実測図	18
表1 遺物観察表	19

図 版 目 次

- | | | |
|------|----------------|---------------|
| 図版 1 | 1. 調査前の状況 | 2. 溝 |
| 図版 2 | 1. 溝 | 2. 近世の水路 |
| 図版 3 | 1. 古墳時代遺物出土状況 | 2. 古墳時代遺物出土状況 |
| 図版 4 | 1. 古墳時代遺物出土状況 | 2. 古墳時代遺物出土状況 |
| 図版 5 | 1. 溝・土坑 | 2. 土坑 1.3、溝25 |
| 図版 6 | 1. 土坑 1 遺物出土状況 | 土坑 3 遺物出土状況 |
| 図版 7 | 1. 遺物出土状況 | 2. 溝25遺物出土状況 |
| 図版 8 | 1. 第12層上面の遺構 | 2. 溝29遺物出土状況 |
| 図版 9 | 1. 第14層上面遺物跡 | 2. 第14層上面建物跡 |
| 図版10 | 1. ピット19柱根 | 2. ピット13根石 |
| 図版11 | 1. ピット20 | 2. ピット截ち割り |
| 図版12 | 1. 南側断面 | 2. 北側断面 |
| 図版13 | 遺物 | |
| 図版14 | 遺物 | |
| 図版15 | 遺物 | |
| 図版16 | 遺物 | |
| 図版17 | 遺物 | |
| 図版18 | 遺物 | |
| 図版19 | 遺物 | |
| 図版20 | 遺物 | |
| 図版21 | 遺物 | |

辻子谷遺跡第1次発掘調査報告

I. はじめに

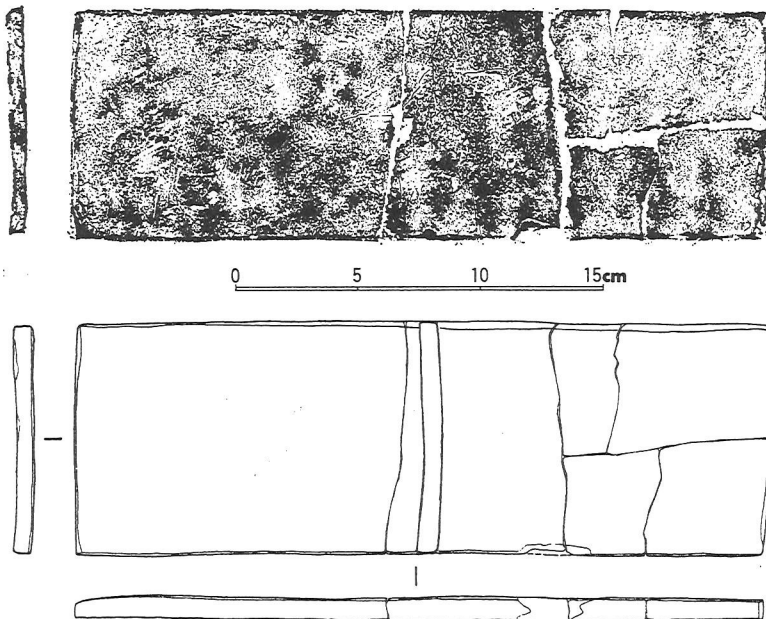
辻子谷遺跡は、東大阪市中石切町2丁目を中心として、東西約200m、南北300mに及ぶ範囲と推定される縄文時代から歴史時代（江戸時代）に至る複合遺跡である。

明治の初年、辻子谷北岸で凝灰岩の石材とともに薄い2枚の土師器製墓誌板が出土したことから遺跡として周知されるようになった。2枚のうち1枚には墨で文字が記されていたというが現存せず、縦28.5cm、横9.3cm、厚さ0.8cmの板状土製品が残るのみである。文字を墨書していたものを身、現存する文字のないものを蓋とする墓誌板であったと考えられる。胎土は水簸した良質の粘土が用いられ、全体に赤褐色を呈し、一部に黒色の部分のあるものである。製作年代は焼成手法の上から奈良時代と考えられ、わが国において墓誌の盛行した時期に当たっている。この墓誌板とともに出土したという凝灰岩は、おそらく火葬骨とこの墓誌板をおさめた蔵骨器であったと推定されている。（枚岡市史第3巻参照）

しかしながら、現在まで発掘調査等は一度も行われておらず詳細については不明である。今回の調査は、東大阪市中石切町2丁目210～212番地においてマンション建設工事が計画された。調査地は墓誌板出土地の南西130m、辻子谷南岸の標高34m前後の扇状地上である。予定地は辻子谷遺跡内にあたるため東大阪教育委員会が昭和59年6月11日に試掘調査を実施した。その結果、東側トレンチの第3層、第4層から古墳時代の遺物が、西側トレンチの第3層、第4層から古墳時代の須恵器・土師器を検出し同時期の遺構の存在が推定された。このため届出者と

協議の結果、発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、昭和60年1月18日より1月20日まで耕土の機械掘削、1月21日から人力掘削を実施し3月29日まで現場作業を行なった。



第1図 墓誌板

II. 位置と環境

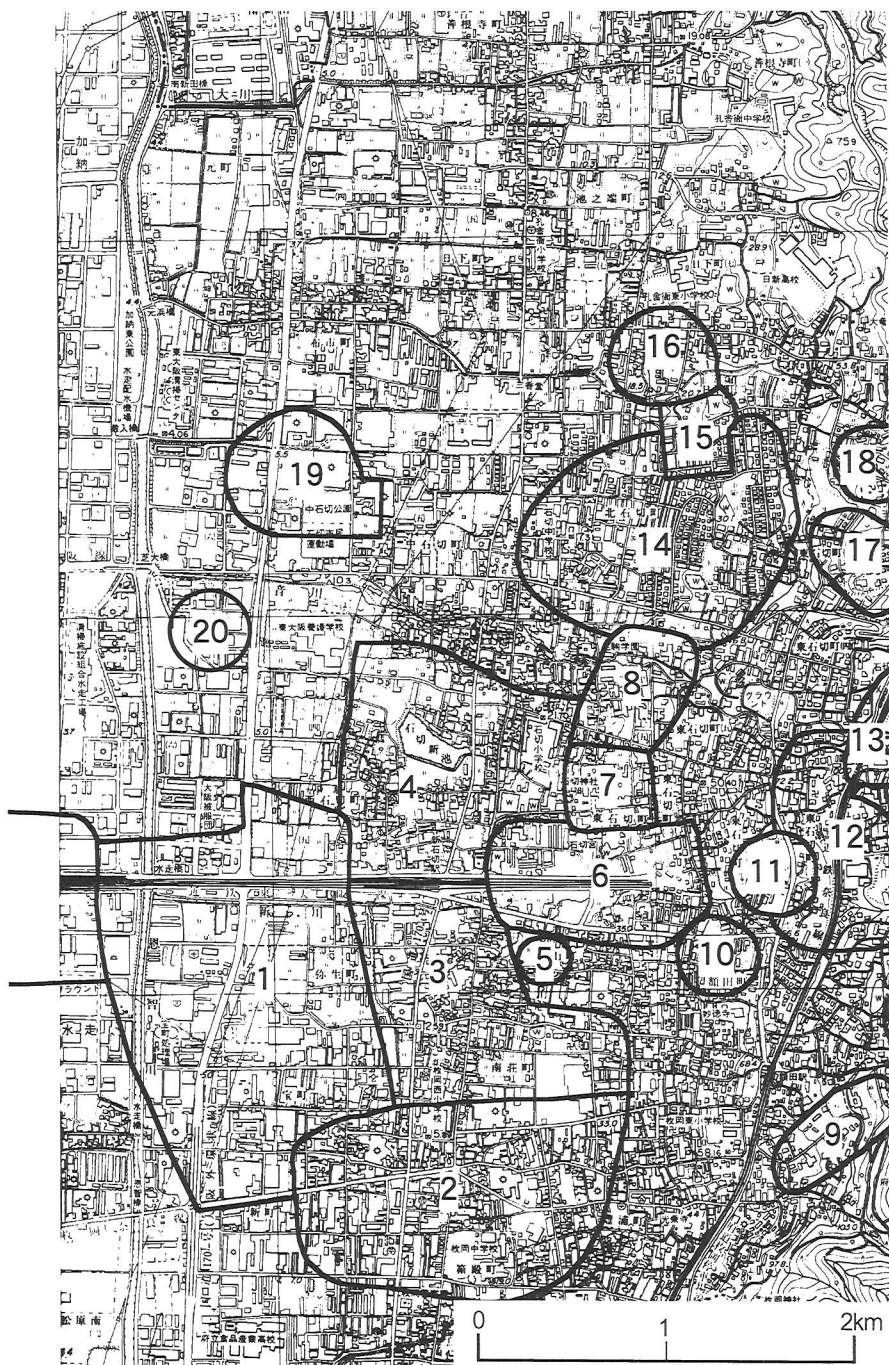
辻子谷遺跡は、東大阪市中石切町2丁目に所在する縄文時代から歴史時代（江戸時代）にかけての複合遺跡です。本遺跡の標高は約23～41mで、中位段丘面とこれを覆う扇状地扇央部の堆積物のうえに形成されたと推定されている。

辻子谷遺跡の周辺地域で生活が開始されたのは旧石器時代で、日下、芝坊主山、千手寺山、正興寺山、山畑などの遺跡でナイフ形石器および尖頭器が出土している。旧石器時代から縄文時代の過渡期では、神並、草香山、日下、六万寺などの遺跡で有舌尖頭器が出土している。縄文時代では、早期の神並遺跡、中期の善根寺遺跡、後期の日下遺跡、縄手遺跡、晩期の日下、芝ヶ丘、鬼塚、馬場川遺跡がある。これらの遺跡は、生駒山西麓の段丘上、標高15～80mに位置し、前面に広がる河内湾と背後に位置する生駒山の豊かな自然を背景として集落が営まれたものと考えられる。

弥生時代では、中垣内、和泉、高井田、瓜生堂、山賀といった標高1～7mの低地を中心に集落が営まれる。南西1.2kmにある鬼虎川遺跡では、幅5m、深さ1.2～1.5mの環濠に囲まれた集落があり、集落の東側では方形周溝墓、土壇墓、木棺墓、土器棺といった墓地域、西側では杭などで護岸された水利施設をもった水田などが広がっていたものと考えられる。しかし、中期末になって衰退し後期には廃絶してしまう。西ノ辻遺跡では、中期中葉から集落が営まれ後期には集落の規模が拡大する傾向にある。この違いは遺跡の立地に大きな要因があると考えられる。弥生時代後期では中期のような大規模な集落は影をひそめ、小規模なものとなる。ただ、鬼虎川遺跡を中心として西ノ辻遺跡、植附遺跡、鬼塚遺跡が隣接して存在するが、集落の配置、集団関係、生業、変遷といった詳細なことは現段階では明確ではない。

古墳時代では、馬場、日下、芝ヶ丘、辻子谷、神並、西ノ辻、鬼塚、縄手といった扇状地、新家、西岩田、意岐部、西堤、岩田、瓜生堂、小若江、池島東といった沖積平野で集落が営まれているが概して規模の小さいものが多い。また、生駒山西麓の各尾根筋には古墳が数多く作られている。

歴史時代では、扇状地上に寺院や集落がみられ、また沖積平野の微高地にも集落や寺院が立地し、その周辺部では人間の活動の痕跡が多く見られる。掘立柱建物、井戸、溝、土坑、耕作痕といった遺構、土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、国産陶磁器、漆器、石製品といった当時の生活がかがえる遺物が出土している。



- | | | | |
|----------|------------|------------|------------|
| 1. 鬼虎川遺跡 | 6. 神並遺跡 | 11. 正興寺山遺跡 | 16. 日下遺跡 |
| 2. 鬼塚遺跡 | 7. 法通寺跡 | 12. 神並古墳群 | 17. 芝坊主山遺跡 |
| 3. 西ノ辻遺跡 | 8. 辻子谷遺跡 | 13. 千手寺山遺跡 | 18. 正法寺山遺跡 |
| 4. 植附遺跡 | 9. みかん山古墳群 | 14. 芝ヶ丘遺跡 | 19. 和泉遺跡 |
| 5. 舩古墳 | 10. 若宮古墳群 | 15. 馬場遺跡 | 20. 北島遺跡 |

第2図 遺跡周辺図

Ⅲ. 調査の概要

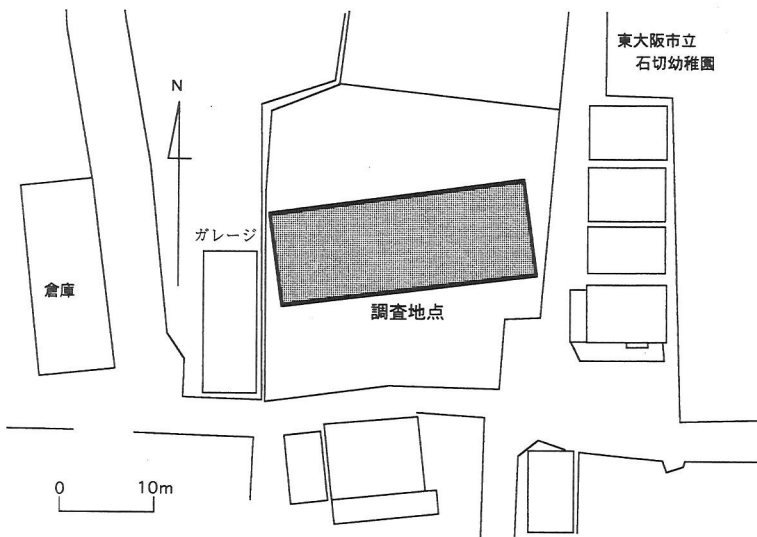
調査地点は、辻子谷遺跡のほぼ中央部にあたるところであり、標高34m前後である。調査は東西26.5m、南北9.8m、面積260m²を対象として実施した。

今回の調査地は、国家座標第VI座標系で東端がY=-32,040.50、西端がY=-32,067.00、北端がX=-146,207.00南端がX=-146,217.00である。

層序

調査地点の層序は、南壁・北壁断面をもとにして行なった。以下、確認した土層を列挙したうえで特徴を記す。

第1層 耕土 層厚7~20cm。明治初年頃に地上げして水田化されたもので現在にまで残っている。



第3図 調査地点位置図

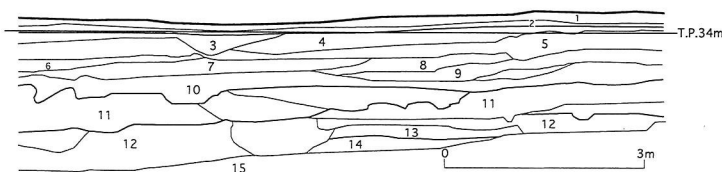
第2層 オリーブ黒色 (5Y3/2) 細礫混じり極細粒砂~シルト。水田化する時に東側の高い部分の土を削り、西側の低い部分に入れたもので厚さ40~60cmある。客土である。

第3層 灰オリーブ色 (5Y4/2) 細礫混じり極細粒砂~シルト。江戸時代中期以降の耕作面。

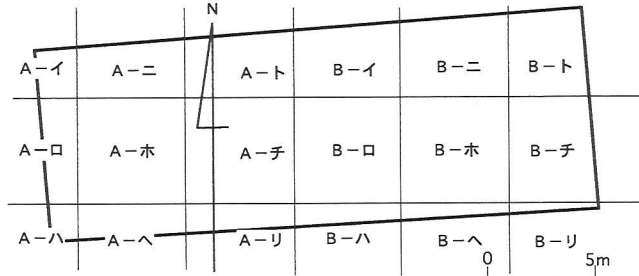
第4層 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 極細粒砂~シルト。江戸時代の耕作面。

第5層 灰オリーブ色砂まじりシルト、(12~13世紀代の瓦器・土師器・須恵器出土)

第6層 灰オリーブ色粗砂 (須恵器・土師器出土)



第4図 層位図



第5図 地区割図

- 第7層 灰オリーブ色粗砂（須恵器・土師器出土）
- 第8層 灰オリーブ色中粒砂（須恵器・土師器出土）
- 第9層 オリーブ灰色小礫まじりシルト（須恵器・土師器出土）
- 第10層 暗緑灰色シルト、
- 第11層 灰オリーブ色シルト（土師器・須恵器出土）
- 第12層 黒褐色小礫まじりシルト、
- 第13層 黒色シルト（土師器・須恵器・製塩土器出土）
- 第14層 暗赤褐色小礫まじりシルト、
- 第15層 緑黒色シルトと続く。

各層の時期は、第1・2層が近現代、第3層が江戸時代中期以降、第4層が江戸時代、第5層が平安～鎌倉時代、第6～10層が奈良時代、第11～13層が古墳時代中期後半から後期前半（5世紀後半～6世紀前半）、第14層が縄文時代中期である。

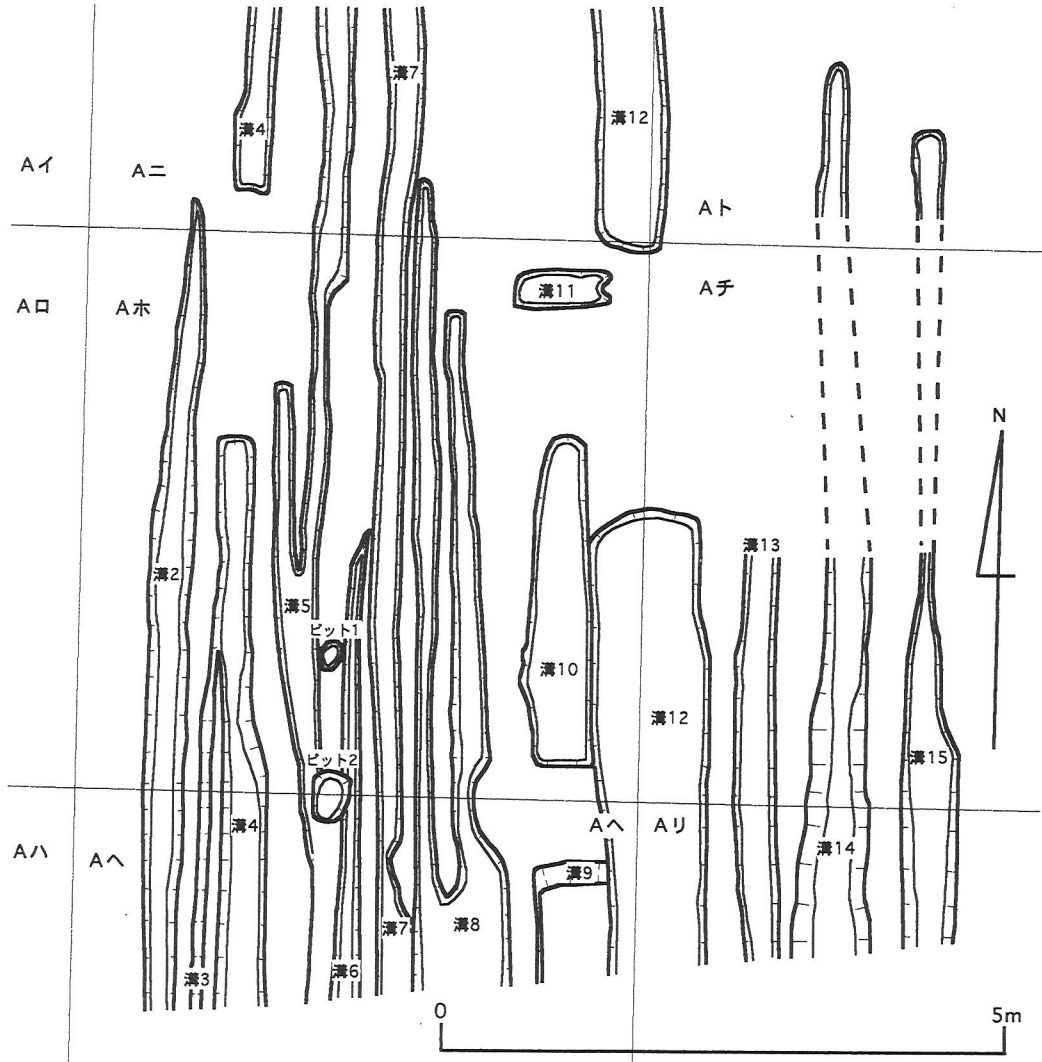
遺構

遺構は第3層、第11層、第12層、第14層上面で検出した。

第3層上面の遺構

溝

第3層上面では幅20cm前後、深さ4～5cmの南北に平行して走る溝を14本検出した。西端に位置する溝2は北に向かって約1.5cm下がる。東へ順に溝3は北へ0.7cm、溝4は北へ1.4cm、溝5は北へ7.7cm、溝6は北へ3cm、溝7は北へ7.2cm、溝8は北へ3.2cm、溝10は北へ2.7cm、溝12は北へ2.3cm、溝13は北へ1.3cm、溝14は南へ0.4cm、溝15は南へ4cm下がる。溝の幅は溝2が35cm、溝3が11cm、溝4が40cm、溝5が26cm、溝6が21cm、溝7が14cm、溝8が24cm、溝9が21cm、溝10が45cm、溝11が33cm、溝12が62cm、溝13が33cm、溝14が40cm、溝15が46cmであった。これらの溝は水田の耕作時に生じた鋤溝と思われる。出土遺物は溝2が須恵器、瓦器、土師器羽釜片、溝6が土師器皿、瓦器片、溝7が須恵器、瓦器、土師器皿、製塩土器片、溝8が土師器、瓦器片、溝9が土師器、製塩土器片、溝10が土師器皿片、溝12が須恵器、土師器、瓦、瓦器製塩土器片、溝13が須恵器、瓦器片、溝14が土師器、磁器（伊万里焼茶碗）片、溝15が土師器片

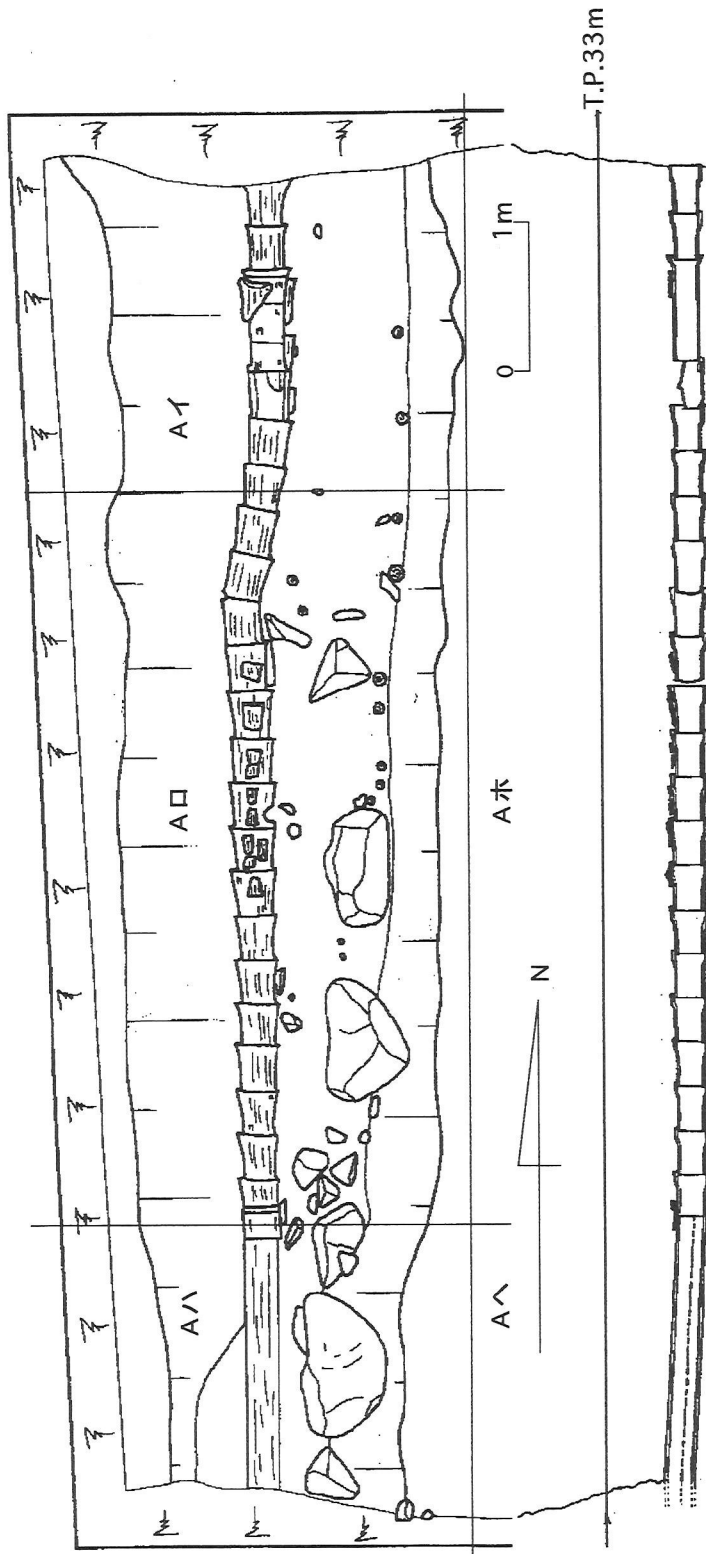


第6図 第3層上面の遺構

で、須恵器・土師器に混って伊万里焼茶碗片が出土している。

水路

調査地の西端では、推定上面幅2.7m、深さ約1mの溝が走っている。溝内の堆積土は上層から灰オリーブ色（5Y 4 / 2）小礫混じりシルト、暗赤褐色（2.5Y R 2 / 2）小礫混じりシルト、暗褐色（7.5Y R 3 / 4）細礫混じりシルト、褐色（7.5Y R 4 / 3）細礫混じりシルト、オリーブ黒色（10Y 3 / 2）細礫混じりシルト、黒褐色（7.5Y R 3 / 2）細礫混じりシルトなどが堆積し、溝中央部の底には暗渠水路を設置している。この暗渠水路は調査地の南側、明治12年9月編集、明治13年作成刊行の河内国河内郡芝村、神並村、芝神並村入組地引図によれば、芝神並421番地は池となっていて（清水池と呼ばれていた）この池から水を引いて各水田



第7図 水路実測図

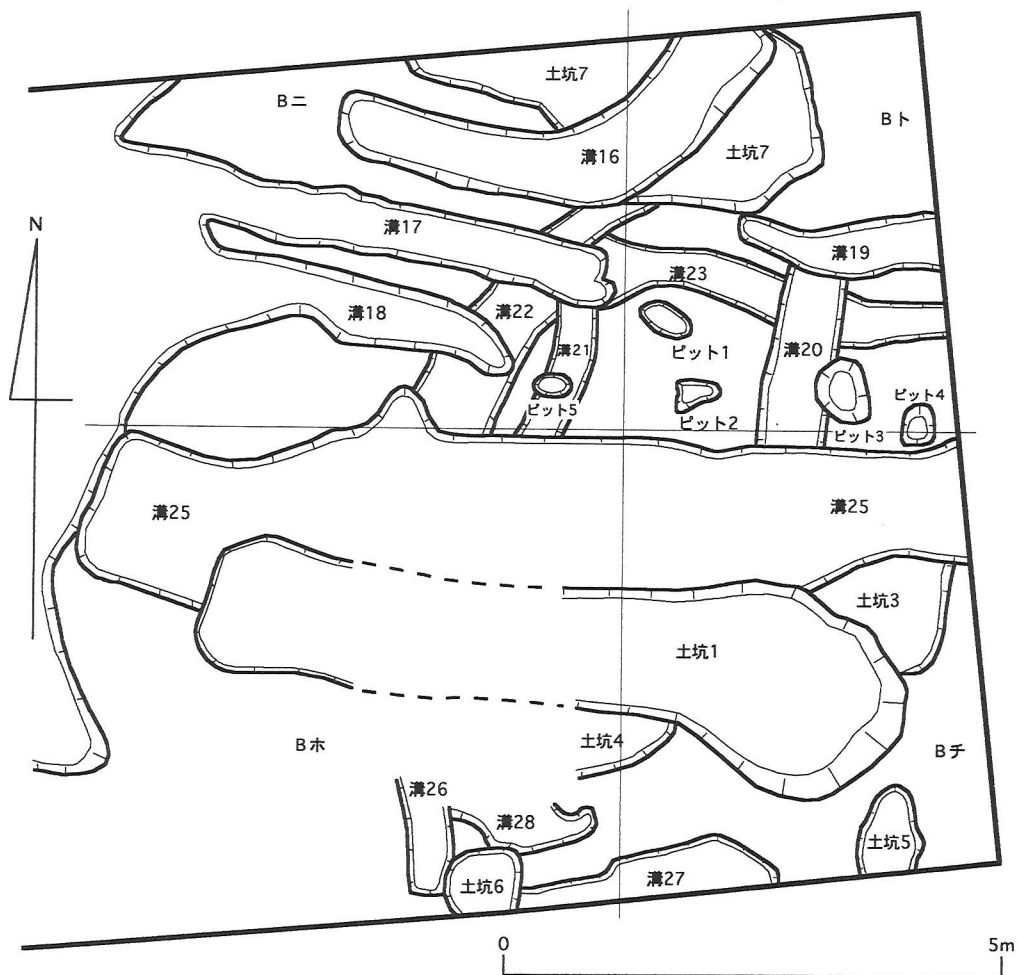
に入れられる用水施設であったものと思われる。水路の東側底部付近には杭列や石積みの残石がみられ土留めとして使用していたものであろう。この溝の中央部には青灰色シルトを切つて樋が設置されている。この樋は第2層で埋土し整地する前に設置されたもので瓦製円筒管と木製管とで成り立っている。瓦製円筒管は直径21～25cm、長さ32cmのものを21個、途中補修のために使用した長さ64cmの常滑焼と思われる土管が1個使われている。木製管は調査地の南端部分にあり、直径26cmの丸太材を半截し、内側を削り抜いて再び合わせたもので検出長1.8m、さらに調査地の南側へと続いている。木製管は1.8mで約10cmの落差があるが瓦製円筒管はほぼ水平に設置されている。近世から近代にかけて使用されていたものと思われる。

第11層上面の遺構

溝13条、土坑7基、ピット5個を検出した。各遺構は切りあいが多くみられ3～4期に小区分できる。

溝

溝16は幅67cm、深さ



第8図 第11層上面の遺構

10cm、長さ4.6mでL字形に屈曲して延びる溝である。溝底は両端が高く中央部が1.5cmとやや低くなっている。溝17は幅52cm、深さ21cm、長さ4.2mの東西方向に延びる溝である。溝18は溝17と分岐しほぼ平行に延びる溝である。幅60cm、深さ9cm、長さ3.5mである。溝19は幅55cm、深さ5cm、検出長2mで調査地外へ延びている。溝20は南北方向に延びる溝で幅66cm、深さ10cmで溝19と25に切られ、溝23を切っている。土坑を中心に溝16、24、25、26では炭化物を含む層の中に多量の製塩土器が検出され、塩の精製が付近で行われていたと思われる。

土坑

土坑1は幅1.28m、長さ7.05m、深さ20cmで土坑3、4、溝25を切っている。須恵器杯身、杯蓋、土師器甕、壺、高杯、杯、甌、製塩土器、滑石双孔円板、サヌカイトが出土した。土坑2は幅0.28m、長さ1.06m、深さ8cmで、溝21を切り、溝25、ピット5に切られている。土師器片が出土した。土坑3は幅1.2m以上、長さ1.3m以上、深さ15cmで、溝25、土坑1に切られて

いる。土師器甕、高杯、壺、甌、製塩土器、砥石、サヌカイトが出土した。土坑4は幅0.7m以上、長さ1m以上、深さ9cmで、土坑1に切られている。土師器片が出土した。土坑5は幅0.66m、長さ0.85m以上、深さ14cmである。土師器器台、製塩土器が出土した。土坑6は幅0.76m、長さ0.63m以上、深さ10cmで、溝26、27、28を切っている。土師器甕、高杯、サヌカイトが出土した。土坑7は幅2.3m、長さ4m、深さ12cmで、溝16に切られている。須恵器杯身、高杯、土師器高杯、壺、甕が出土した。

ピット

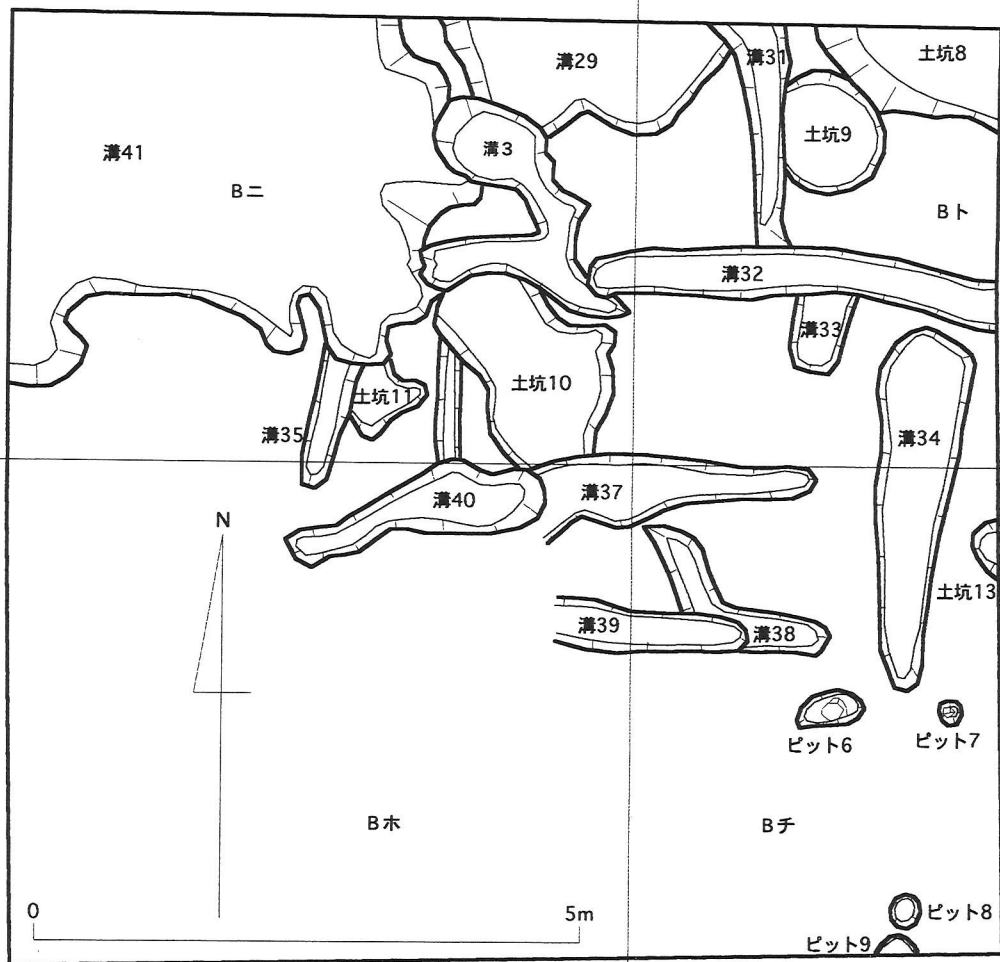
B2地区で検出した。ピット1は長径54cm、短径29cmの楕円形で深さ5cm、断面は台形を呈する。須恵器杯身が出土した。ピット2は長径43cm、短径27cmで深さ5cm、断面は台形を呈する。土師器高杯、壺、製塩土器が出土した。ピット3は長径66cm、短径51cmで深さ9cm、断面は台形を呈する。土師器椀が出土した。ピット4は長径35cm以上、短径33cmで深さ9cm、断面は台形を呈する。土師器片、製塩土器が出土した。ピット5は長径38cm、短径23cmで深さ4cm、断面は皿状を呈する。

第12層上面の遺構

第12層上面では溝13条、土坑6基、ピット4個を検出した。土坑29においても多量の製塩土器を検出した。

溝

溝29はBニ～ト地区で検出した。不定形な土坑となる可能性もある。幅1.2m以上、長さ1.06m以上、深さ14cm、北へやや低くなっている。堆積土は暗緑灰色シルト(10GY4/1)で須恵器杯身、杯蓋、高杯、土師器高杯が出土した。溝30はBニ地区で検出した。幅74cm、長さ2.62mの不定形なもので、深さ10cmである。溝29、41、土坑10を切り、溝32に切られている。堆積土は暗緑灰色シルト(7.5GY4/1)である。溝31はBト地区で検出した。幅37cm、長さ1.92mの南北方向の溝である。溝29、土坑9を切っている。深さ32cmでU字形の断面である。堆積土はオリーブ褐色中粒砂(2.5Y4/3)で土師器片が出土した。溝32はBニ～ト地区で検出した。幅44cm、長さ3.65m以上、深さ15cmの東西方向の溝で溝30、31、33を切っている。溝底は西側がやや低くなっている。断面形は西側が皿状、東側がV字形である。堆積土は暗灰黄色細礫混じりシルト(2.5Y4/2)で土師器片が出土した。溝33はBト地区で検出した。幅50cm、長さ0.75m以上、深さ9cmで、堆積土はにぶい黄褐色細礫混じりシルト(10YR4/3)である。溝34はBト～チ地区で検出した。幅76cm、長さ1.52m以上、深さ6cmで断面は皿状を呈する。堆積土は緑灰色細礫混じりシルト(7.5GY5/1)で、須恵器杯蓋、土師器高杯が出土した。溝35はBニ～ホ地区で検出した。幅34cm、長さ1.24m以上、深さ6cmで、断面は皿状を呈する。堆積土は灰オリーブ色細礫混じりシルト(5Y4/2)で須恵器・土師器片が出土した。溝36はBニ地区で検出した。幅20cm、長さ1.15m以上、深さ6cmで、断面は皿状を呈する。堆積土はオリーブ褐色細礫混じりシルト(2.5Y4/3)で土師器片、石鏃が出土した。溝37はBホ～チ地区で検出した。幅53cm、長さ2.63m以上、深さ8cmで、



第9図 第12層上面の遺構

東から西に徐々に低くなっている。断面は皿状を呈する。堆積土は灰オリーブ色細礫混じりシルト（7.5Y 5 / 2）である。溝38はBチ地区で検出した。幅38cm、長さ2.15m、深さ8cmで、L字形に屈曲する。底は東が高く北側が低くなっている。堆積土は緑灰色細礫混じりシルト（7.5GY 5 / 1）である。溝39はBホ～チ地区で検出した。幅38cm、長さ1.88m以上、深さ11cmで、断面は台形を呈する。堆積土は灰オリーブ色細礫混じりシルト（7.5Y 5 / 2）で縄文土器片、須恵器・土師器片、製塩土器が出土した。溝40はBホ地区で検出した。幅50cm、長さ2.38m、深さ28cmで、溝底は東側が低くなっている。堆積土は暗緑灰色シルト（7.5GY 4 / 1）である。土師器片、製塩土器が出土した。堆積土は暗緑灰色細礫混じりシルト（5G 4 / 1）である。溝41はBニ地区で検出した。幅255cm以上、長さ4.35m以上、深さ20cmで、堆積土は灰色シルト（10Y 4 / 1）で、土師器片、製塩土器が出土した。

土坑

土坑8は幅0.78m、長さ1.7m、深さ22cmで土坑9に切られている。須恵器無蓋高杯、土師器甕、壺、高杯、製塩土器が出土した。土坑9は直径1.15mで、深さ35cmである。堆積土は上層が暗灰黄色細礫混じりシルト(2.5Y5/2)、下層が暗オリーブ灰色シルト(2.5GY4/1)である。溝31に切られている。土坑10は幅1.15m、長さ1.8m以上、深さ6cmで、溝30、37、40に切られている。土坑11は幅0.6m、長さ0.5m以上、深さ9cmで、堆積土は灰オリーブ色細礫混じりシルト(5Y4/2)である。溝35、41に切られている。土坑12は直径2.3m、深さ11cmで断面は皿状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色細礫混じりシルト(10YR4/3)である。縄文土器、土師器、サヌカイトが出土した。土坑13は直径0.42m、深さ19cmである。堆積土は暗オリーブ灰色細礫混じりシルト(2.5GY4/1)である。

ピット

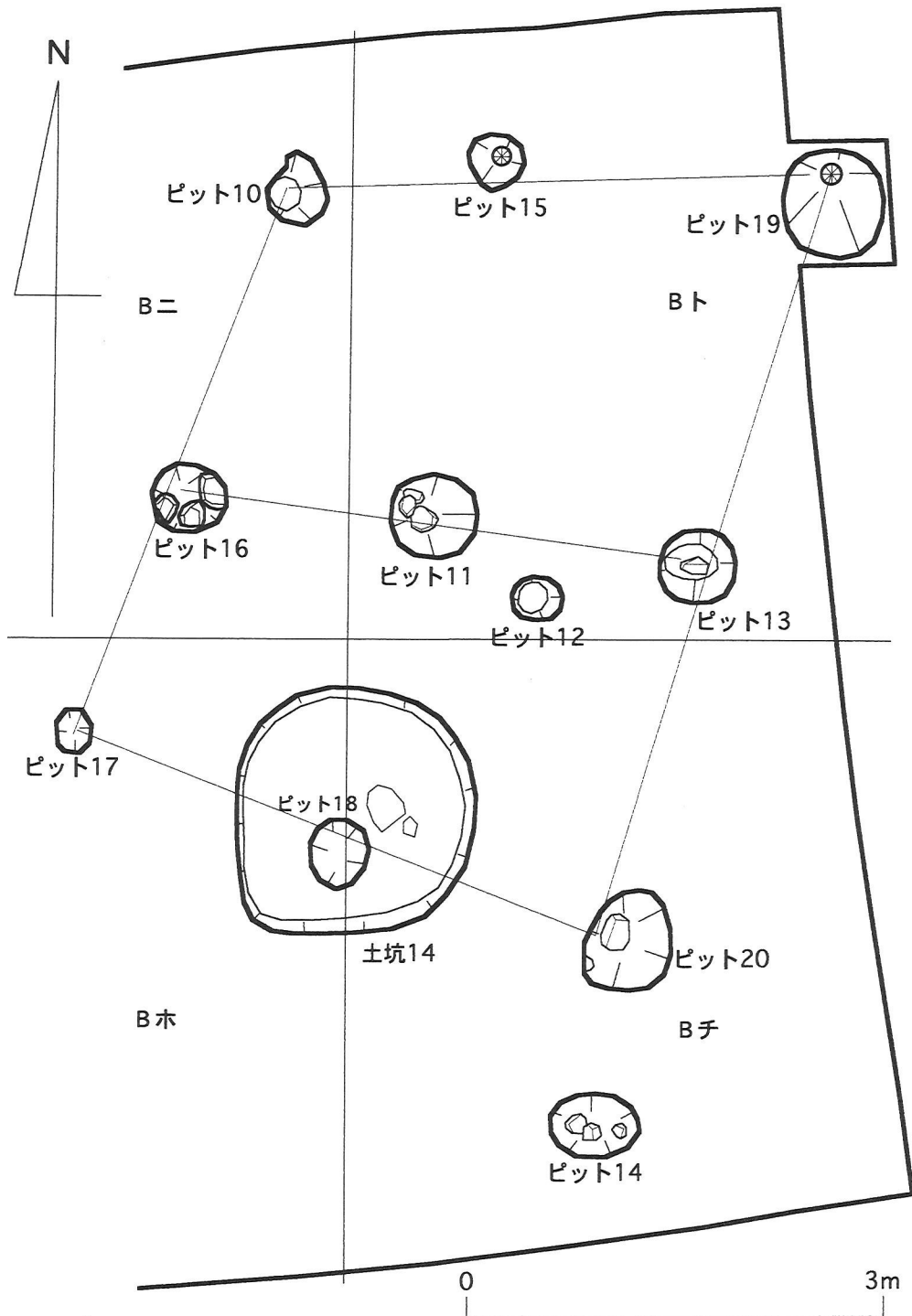
Bチ地区で検出した。ピット6は長径67cm、短径31cmの楕円形で深さ47cm、断面はU字形を呈する。底には一辺26cmの隅丸三角形をした石が据えられている。ピット中央には直径24cmの直立して柱が建っていたようでオリーブ灰色シルト(5GY5/1)が堆積していた。周辺部は暗オリーブ灰色シルト(5GY4/1)である。須恵器杯蓋、土師器高杯、椀が出土した。ピット7は直径23cm、深さ12cm断面はU字形を呈する。ピット中央には直径12cmの柱があったようで緑灰色シルト(7.5GY5/1)が、周辺部には暗緑灰色シルト(7.5GY4/1)堆積している。土師器片が出土した。ピット8は直径27cm、深さ20cm、断面はU字形を呈する。柱はピットの西側に建てられており直径は11cmである。柱の部分はオリーブ灰色シルト(2.5GY5/1)、埋土はオリーブ灰色シルト(2.5GY6/1)である。ピット9は直径41cm、深さ30cmである。堆積土は灰色細礫混じりシルト(10Y6/1)である。

第14層上面の遺構

第14層上面ではピット11個、土坑1基を検出した。

ピット

ピットは2間×2間の建物が考えられ、梁間2m、桁行2.7mである。ピット15・19には柱痕が残っている。ピット15の柱痕は直径11cmで下端をV字形に削り尖らせている。ピット19の柱痕は直径16cmで外周を14面に面取りをしている。底面はいずれもフラットであるが、円周から3cm、長さ4cmにわたって削り込みが見られる。ピット11・13・14・16には根石が見られる。ピットの大きさはピット10が直径46cm、深さ38cm、ピット11が直径65cm、深さ25cm、ピット12が直径38cm、深さ20cm、ピット13が直径59cm、深さ28cm、ピット14が長径68cm、短径46cmの楕円形で、深さ40cm、ピット15が直径41cm、深さ35cm、ピット16が長径55cm、短径50cmの楕円形で、深さ16cm、ピット17が直径27cm、深さ18cm、ピット18が直径43cm、深さ20cm、ピット19が直径78cm、深さ45cm、ピット20が長径76cm、短径65cmの楕円形で、深さ18cmである。ピット10からは土師器杯、甕、高杯が、ピット13からは土師器片、ピット17からはサヌカイト片が、ピット18からは土師器甕、サヌカイト片が出土した。ピット



第10図 第14層上面の遺構

の堆積土は10の中心部が暗緑灰色シルト (10G 3 / 1)、周辺部が暗緑灰色シルト (10G 4 /

1)、11が灰色シルト(10Y 5/1) 12の中心部が暗オリーブ灰色シルト(5GY 4/1)、周辺部が灰色シルト(7.5Y 4/1)、13の中心部がオリーブ灰色シルト(2.5GY 5/1)、周辺部がオリーブ灰色シルト(2.5GY 6/1)、14の中心部が褐色シルト(7.5Y 4/4)、周辺部が暗オリーブ灰色シルト(5GY 4/1)、15が暗青灰色シルト(5BG 3/1)、16が黒褐色シルト(2.5Y 3/2)、17が暗緑灰色シルト(5G 3/1)、18が黒褐色細礫混じりシルト(2.5Y 3/2)、19が暗緑灰色シルト(5G 4/1)、20が灰色細礫混じりシルト(10Y 5/1)である。

土坑

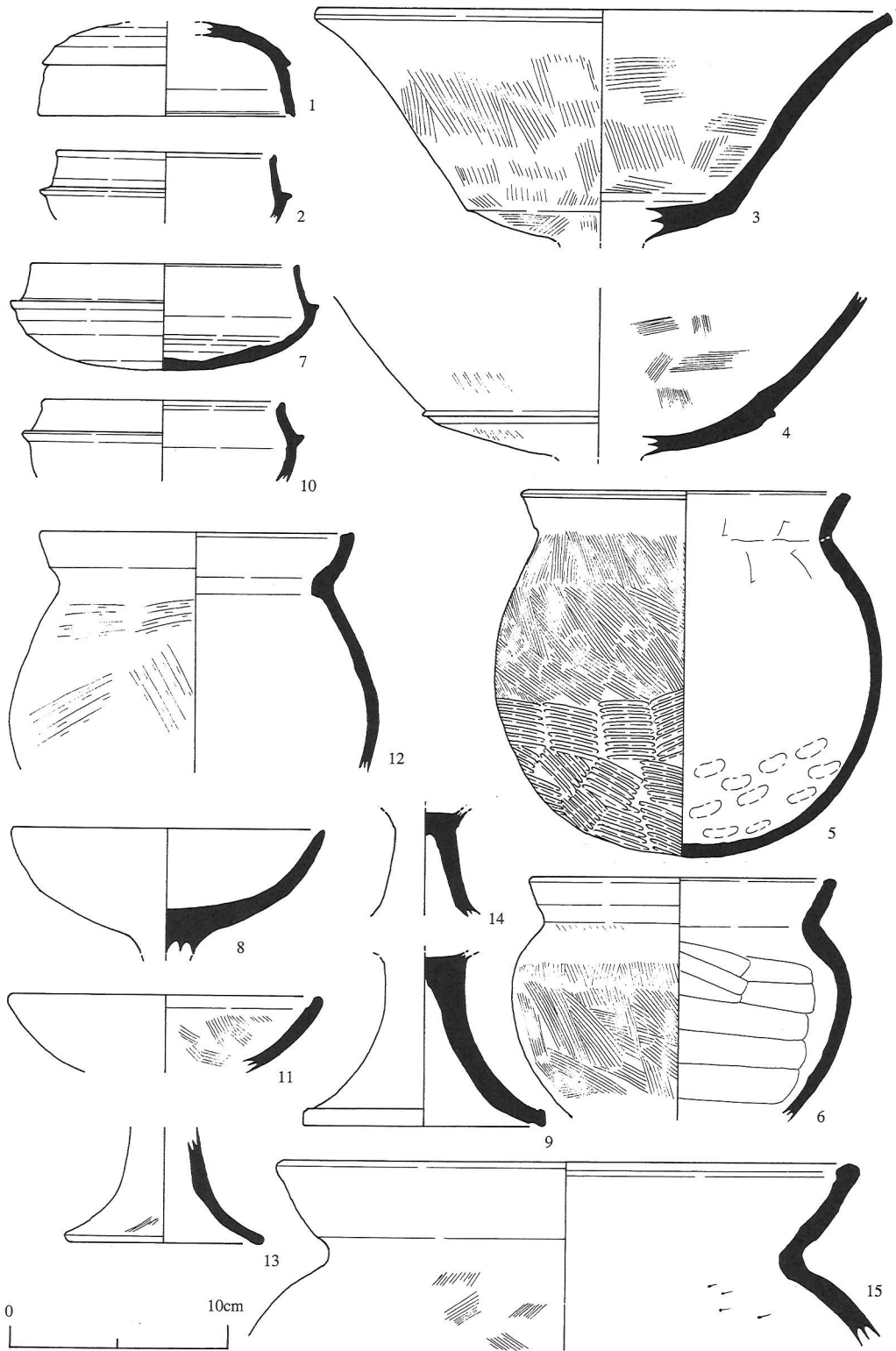
土坑14は直径1.9m、深さ6cmの円形の浅い皿状の落ち込みで、中には縄文土器片に混じってサヌカイトの剥片が多く見られた。剥片の出土状況などから石器の製作場所であった可能性がある。

この他に第7～8層で多量の須恵器が出土した。出土状況は50～80cm大の石の東側及び南北に集中してあったり、20～40cm大の石の下にあって、これらは山側から土石流となって流れついたものと思われる。

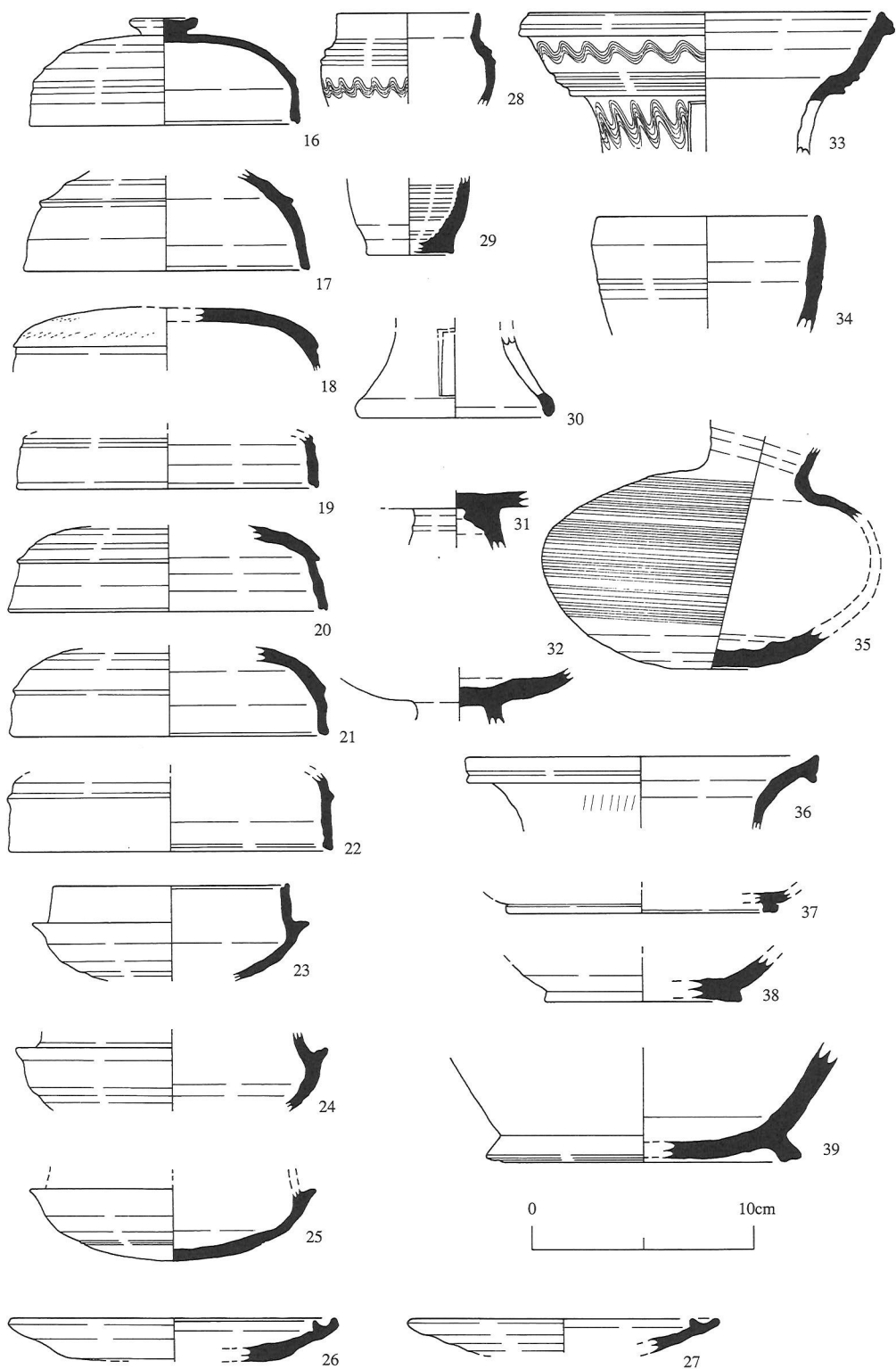
以上のように今回の調査では当遺跡が縄文時代中期から始まること。縄文土器や石器を含む層が今回の調査地の南東地区にしかみられないことから、この時期の遺構は当地より南東方向に拡がっていることが予想されること。

古墳時代中期後半～後期初頭の建物、溝、土坑などの遺構、須恵器、土師器、製塩土器などの遺物が多く検出されたことから、古墳時代の集落が周辺に拡がっていることがわかった。これらの集落は、周辺に存在した芝山古墳をはじめとする古墳築造の基盤となったものと思われ、古代の社会を考える上に非常に重要なものである。

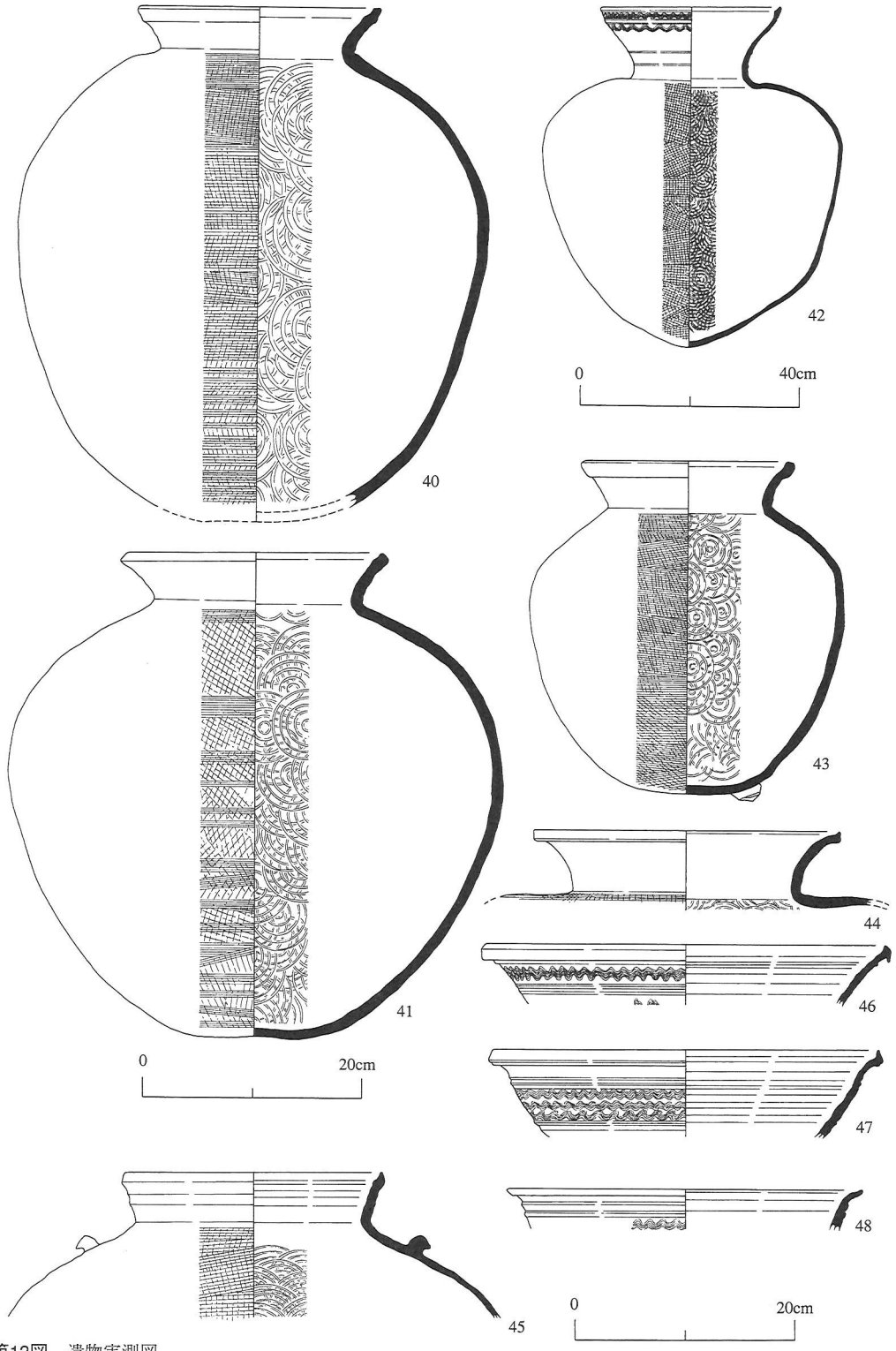
奈良時代のものについては遺構は検出されなかったが、多量の遺物が出土した。遺物はあまり摩耗しておらず東及び南東のそう遠くない所に集落があるものと思われる。



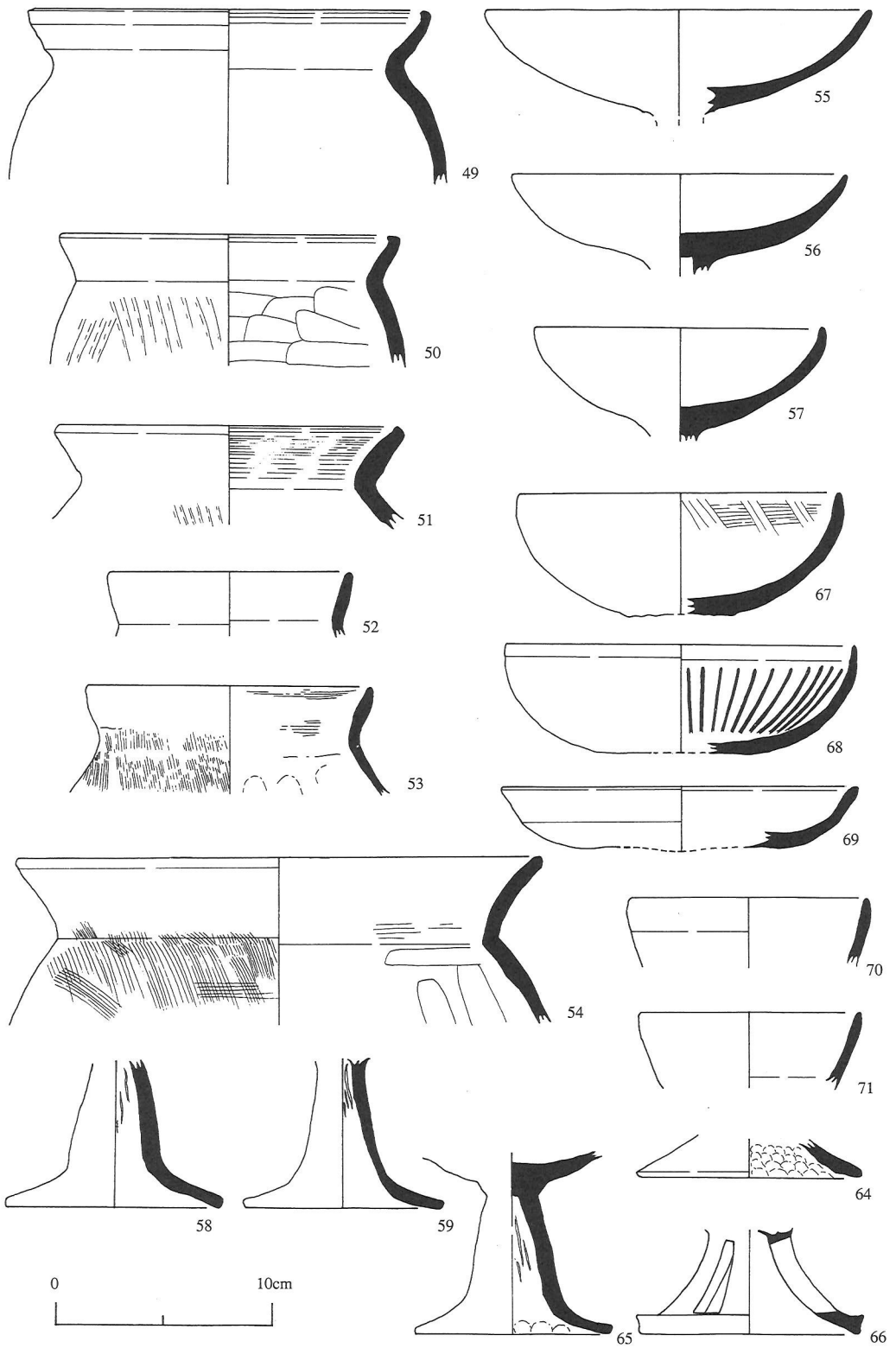
第11図 遺物実測図



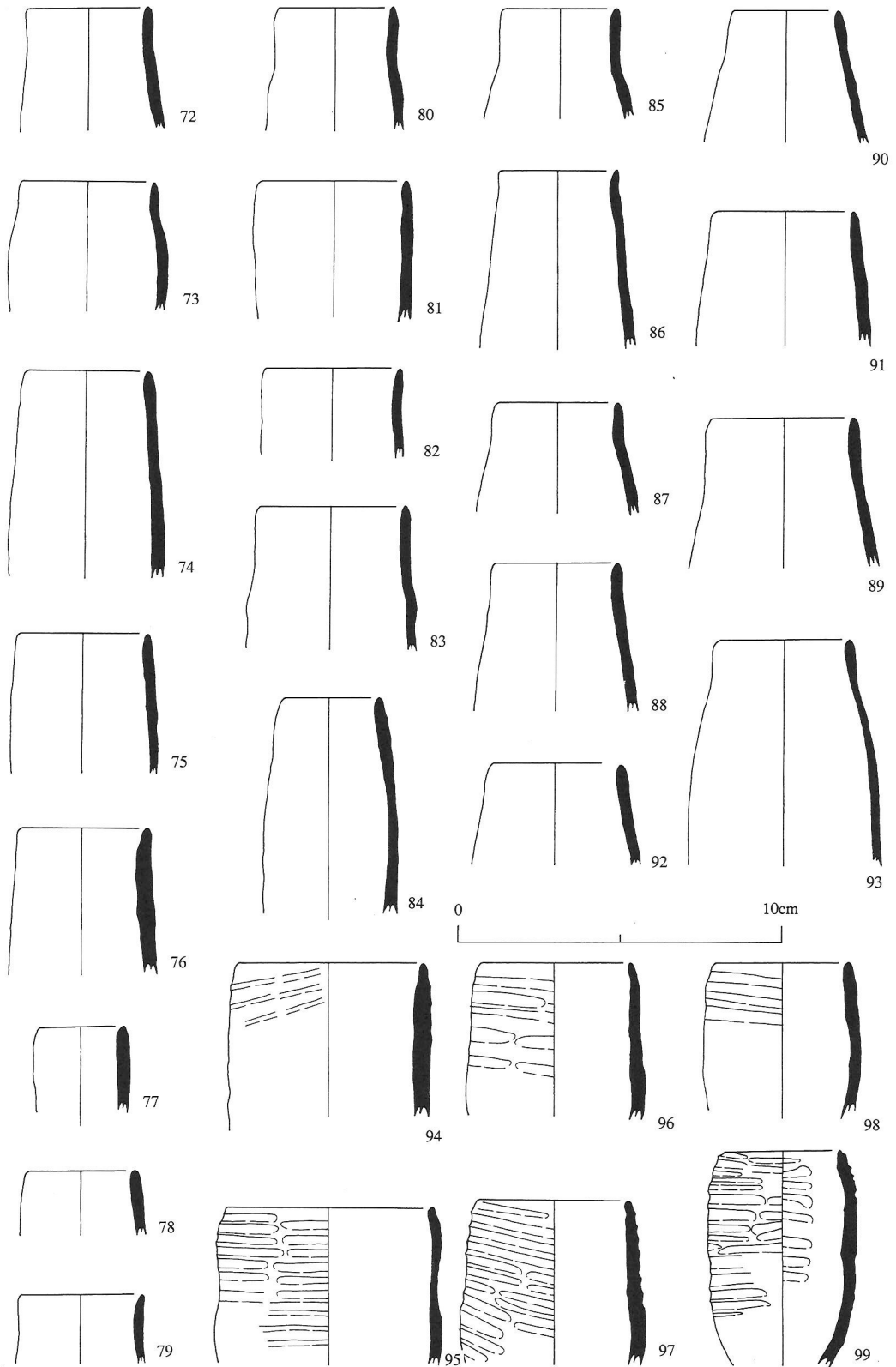
第12图 遗物实测图



第13図 遺物実測図



第14图 遺物実測図



第15图 製塩土器実測图

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 標準法量	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 1	BチSK01	須恵器	杯蓋	口径(11.6) 器高(4.3)	天井部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	天井部右まわりのヘラケズリ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	内面 5Y7/1灰白色 外面 N7/0灰白色 断面 5Y7/2灰白色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	1/4	外面に灰かぶり、 自然釉。
図 2	BチSK01	須恵器	杯身	口径(10.0) 器高(3.3)	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	内面 5Y5/2灰白色 外面 10YR6/2灰黄褐色 断面 5YR5/2灰褐色	2.0以下の長石。	口縁部 1/4	
図 3	BチSK01	土師器	高杯	口径(26.0) 器高(10.7)	口縁部ヨコナデ。 体部7条/1cmのハケメ。 底部ハケメ後ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部～底部7条/cmのハケ メ。	内面 7.5YR6/6淡黄褐色 外面 7.5YR8/3淡黄褐色	5.0以下の長石・ クサリ礫。	口縁部 1/5	
図 4	BチSK01、 SK03	土師器	高杯	器高(7.7)	体部～底部ハケメ後ナデ。	体部～底部ナデ。	内面 10YR7/3にぶい 黄褐色 外面 10YR7/4にぶい 黄褐色 断面 10YR7/3にぶい 黄褐色	1.0以下の長石・ 黒色砂粒。	杯部 3/4	
図 5	BチSK01	土師器	壺	口径(14.8) 器高 16.7	口縁部ヨコナデ後板ナデ。 肩部板ナデ。 体部板ナデ、ナデ。 底部エビノサエ。	口縁部ヨコナデ。 肩部～体部8条/cmのタタキ メ。 底部4条/cmのタタキメ。	内面 7.5YR6/4にぶい 褐色 外面 50YR6/6褐色	2.0以下の長石・ クサリ礫。	1/3	
図 6	BチSK03	土師器	壺	口径(14.0) 器高(11.1)	口縁部ヨコナデ。 肩部～体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 肩部～体部7条/cmのハケ メ。	内面 7.5YR7/4にぶい 褐色 外面 7.5YR6/4にぶい 褐色 断面 7.5YR7/4にぶい 褐色	2.0以下の長石・ クサリ礫。	小破 片	外面一部継付着。
図 7		須恵器	杯身	口径(12.2) 器高 4.9	体部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。 底部の一部ヨコナデ後ナデ。	体部ヨコナデ。 底部左まわりのヘラケズリ。	内面 5PB5/1青灰色 外面 N4/0灰色 断面 N5/0灰色	3.0以下の長石。	体部 1/2	
図 8	SK07	土師器	高杯	口径(14.2) 器高(5.7)	口縁部ヨコナデ 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 10YR7/2にぶい黄 褐色 外面 7.5YR7/4にぶい 褐色 断面 10YR7/2にぶい黄 褐色	1.0以下の長石。	杯口 縁部 1/5	
図 9	BチSK03	土師器	高杯	器高(7.7) 底径(11.0)	肩部ヘラケズリ後ナデ 裾部端面ヨコナデ。	肩部ナデ。 裾部端面ヨコナデ。	内面 5YR5/4にぶい赤 褐色 外面 5YR5/4にぶい赤 褐色 断面 5YR5/6明赤褐色	1.0以下の長石・ クサリ礫・黒色 砂粒。	脚部 1/3	
図 10	BトSP01	須恵器	杯身	口径(11.0) 器高(3.7)	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 体部(下部)ヘラケズリ。	内面 5YR5/3淡黄色 外面 5YR5/3淡黄色 断面 5YR5/3淡黄色	1.0以下の長石。	小破 片	
図 11	Bト、SD19	土師器	高杯	口径(14.0) 器高(3.6)	口縁部ヨコナデ。 体部7条/cmのハケメ。	口縁部～体部ヨコナデ。	内面 5YR6/6褐色 外面 5YR6/6褐色	2.0以下のクサリ 礫、長石。	小破 片	

表 1 辻子谷遺跡第 1 次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 器高 (器高)	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 12	BトSD20	土師器	甕	口径(14.2) 器高(11.0)	口縁部ヨコナデ。 肩部～体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 肩部～体部3条/cmのタタキメ。	内面 10YR8/3浅黄褐色 外面 10YR8/4浅黄褐色	3.0以下の長石。	口縁部 1/3	内外面共に黒斑あり。
図 13	BトSD21	土師器	高杯	器高 (5.4) 底径 8.8	柱状部シボリメ。 柱状部(下部)ナデ。 裾部ヘラによる刺突文。 裾部端面ヨコナデ。	柱状部～裾部ケズリ後ナデ。 裾部端面ヨコナデ。	内面 10YR7/3にぶい黄褐色 外面 10YR7/3にぶい黄褐色 断面 10YR7/3にぶい黄褐色	2.0以下の長石・ 金雲母・クサリ礫。	裾部 1/2	
図 14	BトSD24	土師器	高杯	器高 (4.8)	柱状部ヘラケズリ。	杯底部ナデ。 柱状部ヘラケズリ。	内面 5YR6/4にぶい 褐色 外面 10YR7/4にぶい黄 褐色 断面 10YR7/4にぶい黄 褐色	3.0以下の砂粒・ 石英・長石。	小破 片	
図 15	BホSP26 BチSD26	土師器	甕	口径(26.0) 器高 (8.1)	口縁部ヨコナデ。 肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 肩部ハケメ。	内面 7.5YR7/4にぶい 褐色 外面 7.5YR7/4にぶい 褐色 断面 10YR8/5浅黄褐色	6.0以下のクサリ 礫・長石・金雲 母。	小破 片	
図 16	Bチ5Y4/2	須恵器	杯蓋	口径(12.0) 器高 4.9	天井部ナデ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	天井部ヘラケズリ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	内面 N6/0灰色 外面 7.5Y5/1灰色 断面 10R5/2灰赤色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	1/3	外面灰かぶり。 ツマミ擬宝珠。
図 17	Bト	須恵器	杯蓋	口径(12.6) 器高 (4.5)	天井部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	天井部ヘラケズリ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	内面 10YR6/1褐灰色 外面 10Y6/1灰色 断面 10YR6/1褐灰色	3.0以下の長石。	小破 片	
図 18	BトSD16	須恵器	杯蓋	器高 (2.9)	天井部ナデ。	天井部杉紋状の烈点文。	内面 7.5Y7/6褐色 外面 7.5Y7/6褐色 断面 7.5Y7/6褐色	2.0以下のクサリ 礫・長石。	小破 片	
図 19	Aチ 2.5YR1.7/1	須恵器	杯蓋	口径(13.4) 器高 (2.4)	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	内面 7.5Y6/1灰色 外面 7.5Y6/1灰色 断面 10YR6/1褐灰色	1.0以下の長石。	小破 片	
図 20	Aト	須恵器	杯蓋	口径(14.2) 器高 (3.9)	天井部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	天井部ヘラケズリ。 口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	内面 7.5Y7/1灰白色 外面 N7/0灰白色 断面 7.5Y7/1灰白色	0.5以下の長石・ 黒色鉱物。	小破 片	
図 21	Aニ	須恵器	杯蓋	口径(14.0) 器高 (4.0)	天井部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	天井部右まわりのヘラケズリ。 体部ヨコナデ。 口縁部ヨコナデ。	内面 7.5Y6/1灰色 外面 7.5Y7/1灰白色 断面 7.5Y6/1灰色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	1/3	
図 22		須恵器	杯蓋	口径(14.3) 器高 (3.4)	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	内面 5Y6/1灰色 外面 N6/1灰色 断面 5Y6/1灰色	3.0以下の長石。	小破 片	

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 23	Bニ	須恵器	杯蓋	口径 (10.5) 器高 (4.3)	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 底部ヘラケズリ。	内面 N50灰色 外面 N60灰色 断面 10YR5/1褐灰色	2.0以下の長石・ 黒色鉱物。	口縁部 1/4	
図 24	Bロ	須恵器	杯蓋	器高 (3.5)	体部ナデ。	受部ナデ。 体部ヘラケズリ。	内面 7.5YR7/6橙色 外面 10YR7/4にぶい黄 橙色 断面 10Y7/1灰白色	1.0以下のクサリ 礫。	小破 片	
図 25	Aニ	須恵器	杯身	器高 (3.3)	体部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	体部ヨコナデ。 底部ヘラケズリ。	内面 N60灰色 外面 N6/0灰色 断面 N6/0灰色	3.0以下の長石・ 黒色鉱物。	体部 1/2	外面底部「X」の 線刻。
図 26	Aホ	須恵器	杯身	口径 (14.4) 器高 2.0	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。 底部ヘラケズリ。	内面 N70灰白色 外面 10Y7/1灰白色 断面 N8/0灰白色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	小破 片	
図 27	Aホ	須恵器	杯身	口径 (13.7) 器高 (1.6)	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	内面 2.5GY7/1明ナリ ーブ灰色 外面 7.5Y7/1灰白色 断面 7.5Y7/1灰白色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	小破 片	
図 28	Aニ	須恵器	椀	口径 (6.4) 器高 (4.2)	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部突帯2条、波状文7条/ 0.7cm。	内面 N50灰色 外面 N50灰色 断面 N70灰白色	0.5以下の長石・ 黒色鉱物。	小破 片	
図 29		須恵器	小型 壺	器高 (3.6) 底径 (3.6)	体部ヨコナデ。	体部 (上部) ヨコナデ。 体部 (下部) ヘラケズリ。 底部糸切り痕。	内面 N70灰白色 外面 N50灰色 断面 N40灰色	2.0以下の長石。	底部 1/3	
図 30	Bニ	須恵器	高杯	器高 (3.9) 底径 (8.5)	脚部ヨコナデ。	脚部ヨコナデ。	内面 N80灰白色 外面 N50灰色 断面 N70灰白色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	脚部 1/4	脚部に長方形の 透し窓。
図 31	Aチ	須恵器	高杯	器高 (2.6)	杯底部ナデ。 脚部ヨコナデ。	杯底部ナデ。 脚部ヨコナデ。	内面 杯部7.5Y6/1灰色、 脚部10YR11/2に ぶい黄褐色 外面 7.5Y7/1灰白色 断面 杯部7.5Y6/1灰色、 脚部10YR11/2に ぶい黄褐色	1.0以下の長石。	小破 片	
図 32	Aホ	須恵器	高杯	器高 (2.6)	杯底部ヨコナデ。 脚部ヨコナデ。	杯底部ヨコナデ。 脚部ヨコナデ。	内面 N50灰色 外面 N50灰色 断面 7.5YR6/3にぶい 褐色	1.0以下の長石・ 黒色鉱物。	小破 片	
図 33	Aチ	須恵器	器台	口径 (15.8) 器高 (6.5)	柱状部ヨコナデ。 裾部ヨコナデ。	体部9条/1.4cmの波状文、 突帯2条。 脚部9条/1.4cmの波状文。	内面 2.5GY4/1暗ナリ ーブ灰色 外面 N50灰色 断面 5YR6/1褐灰色	4.0以下の長石。	体部 脚部 1/4	長方形の透し窓。

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径・底径・器高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 34		須恵器	提瓶	口径 (9.8) 器高 (5.2)	口縁部ヨコナデ。 頸部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 頸部カキメ。	内面 N70灰白色 外面 N70灰白色 断面 N80灰白色	1.0以下の長石。	小破片	
図 35		須恵器	平瓶	器高 (11.3)		頸部～体部カキメ。				
図 36	Aト	須恵器	壺	口径 (15.8) 器高 (3.35)	口縁部ヨコナデ。 頸部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 頸部裾揃突文。	内面 2.5Y42灰赤色 外面 2.5Y42灰赤色 断面 2.5Y42灰赤色	1.0以下の長石。	口縁部 1/4	
図 37		須恵器	杯身	器高 (2.0) 底径 (12.0)	底部ヨコナデ。	底部ヨコナデ。	内面 N60灰色 外面 2.5GY5/1オリーブ 灰色 断面 N60灰色	0.5以下の長石。	小破片	高台をもつ。
図 38		須恵器	鉢	器高 (2.0) 底径 (8.6)	体部 (下部) ヨコナデ。	体部ヨコナデ。 底部糸切り痕。	内面 N80灰白色 外面 N80灰白色 断面 N80灰白色	1.0以下の長石。	底部 1/4	
図 39		須恵器	壺	器高 (5.2) 底径 (12.8)	体部 (下部) ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	体部 (下部) ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	内面 N70灰白色 外面 N80灰白色 断面 7.5R6/1赤灰色	1.0以下の長石。	底部 1/3	
図 40	Bロ	須恵器	甕	口径 21.0 器高 (45.7)	口縁部ヨコナデ。 体部同心円文。 底部同心円文。	口縁部ヨコナデ。 体部タタキ後ハケメ。 底部タタキ後ハケメ。	内面 10Y6/1灰色 外面 10Y6/1灰色 断面 7.5Y6/1灰色	2.0以下の黒色鉱物。	口縁部 2/3 体部 3/4	外面口縁部、体部上部灰降着あり。 口縁部～体部にかけて暗緑色の自然釉。 内面口縁部、体部上部灰降着あり。
図 41	A4、7.5Y 灰オリーブ 中粒砂	須恵器	甕	口径 23.4 器高 44.4	口縁部ヨコナデ。 体部同心円文。 底部同心円文。	口縁部ヨコナデ。 体部タタキ後カキメ。 底部タタキ後カキメ。	内面 5GY6/1オリーブ 灰色 外面 5GY6/1オリーブ 灰色 断面	3.0以下の黒色鉱物・長石・雲母。	口縁部はほぼ完全形、体部 4/5	外面口縁部～体部にかけて緑色の自然釉。
図 42		須恵器	壺	口径 (34.4) 器高 62.4	口縁部ヨコナデ。 体部同心円文。 底部同心円文。	口縁部ヨコナデ、3条/cmの 波状文2帯。 体部～底部格子タタキ。	内面 10Y4/1灰色 外面 10Y4/1灰色			
図 43		須恵器	甕	口径 (18.0) 器高 30.7	口縁部ヨコナデ。 体部同心円文。 底部同心円文。	口縁部ヨコナデ。 体部タタキ後カキメ。 底部タタキ後カキメ。	内面 N7/1灰白色 外面 N7/1灰白色 断面 N7/1灰白色	4.0以下の長石・黒色鉱物・雲母。	口縁部 1/3、体部 2/3	外面灰降着あり。 口縁より体部にかけて暗緑色の自然釉。 内面口縁部灰降着あり。
図 44	Aト7.5Y5/2	須恵器	甕	口径 17.8 器高 6.8	口縁部ヨコナデ。 肩部同心円文。	口縁部ヨコナデ。 肩部タタキ。	外面 灰白色			

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 45	Bへ 7.5Y5/2	須恵器	甕	口径 (23.4) 器高 (13.2)	口縁部ヨコナデ。 肩部～体部背海波文。	口縁部ヨコナデ。 肩部4条/cmの平行タタキメ。 体部4条/cmの平行タタキメ。	内面 7.5Y7/1灰白色 外面 7.5Y8/2灰白色 断面 7.5Y6/1灰色	5.0以下の長石・ 黒色鉱物。	1/3	内面口縁部自然 釉。 外面口縁部、肩 部、体部、自然 釉。 外面肩部にカギ 状の把手。
図 46	Bチ	須恵器	甕	口径 (36.4) 器高 (5.5)	口縁部ヨコナデ。	口縁部突帯1条と突帯2条の 間に10条/cmの波条文。	内面 5Y6/1灰色 外面 N4D0灰色 断面 5YR5/1褐灰色	1.0以下の長石。	小破 片	
図 47	Bト	須恵器	器台	口径 (35.4) 器高 (8.0)	口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部突帯2条、9条/cmの波 状文3帯、突帯1条。	内面 N5D0灰色 外面 5PB5/1青灰色 断面 7.5R6/2灰赤色	1.0以下の長石。	小破 片	
図 48	Bチ	須恵器	甕	口径 (36.4) 器高 (5.5)	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ後1条の段と 5条/cmの波状文。	内面 N6/4灰色 外面 5Y4/1灰色 断面 10R6/2灰赤色	1.0以下の長石。	小破 片	
図 49	Bニ SK08	須恵器	壺	口径 (14.4) 器高 (4.7)						
図 50		土師器	甕	口径 (15.6) 器高 (6.2)	口縁部ヨコナデ。 肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 肩部4条/cmのハケメ。	内面 7.5YR6/4にぶい 橙色 外面 5YR6/4にぶい橙 色 断面 7.5YR6/4にぶい 橙色	1.0以下の長石・ タサリ礫・金雲 母。	小破 片	風化している。
図 51	Bニ	土師器	甕	口径 (15.6) 器高 (4.8)	口縁部6条/cmのハケメ。 肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 肩部6条/cmのハケメ。	内面 2.5Y8/3淡黄色 外面 2.5Y7/2淡黄色 断面 2.5Y8/3淡黄色	1.0以下の長石・ 黒色砂粒。	小破 片	
図 52	Aト	須恵器	甕	口径 11.2 器高 (3.0)	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	外面 淡青灰色			
図 53	Bチ5Y4/2	土師器	甕	口径 (13.0) 器高 (5.0)	口縁部8条/cmの横方向のハ ケメ。 肩部ユビオサエ。	口縁部ヨコナデ。 肩部8条/cmの縦方向のハ ケメ。	内面 7.5YR6/4にぶい 橙色 外面 7.5YR6/4にぶい 橙色 断面 7.5YR6/4にぶい 橙色	1.0以下の長石・ 金雲母・黒色砂 粒。	口縁 部 1/3	風化している。
図 54	Aホ	土師器	甕	口径 (24.2) 器高 (7.8)	口縁部ヨコナデ。 肩部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 肩部8条/cmのハケメ。	内面 10YR5/4にぶい黄 褐色 外面 7.5YR5/4にぶい 褐色 断面 10YR5/4にぶい黄 褐色	2.0以下の長石・ 黒色砂粒。	小破 片	
図 55	Aイ	土師器	高杯	口径 (17.8) 器高 (4.9)	口縁部ヨコナデ。 体部風化のため調整不明。 底部風化のため調整不明。	口縁部ヨコナデ。 体部風化のため調整不明。 底部風化のため調整不明。	内面 10YR8/2灰白色 外面 10YR7/2にぶい黄 褐色 断面 7.5YR6/4にぶい 橙褐色	1.0以下の長石・ 黒色砂粒。	小破 片	

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径 () 器高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 56	Aニ	土師器	高杯	口径 (15.6) 器高 (4.7)	口縁部ヨコナデ。 体部～底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。 底部 (上部) ナデ。 底部 (下部) ヘラケズリ。	内面 5YR7/4にぶい 橙色 外面 7.5YR7/4にぶい 橙色	1.0以下の長石・ クサリ礫。	1/4	内面風化してい る。
図 57	Aニ	土師器	高杯	口径 13.2 器高 (5.3)	口縁部ヨコナデ。 体部～底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。 底部ヘラケズリ。	内面 7.5YR7/4にぶい 橙色 外面 10YR7/3にぶい 黄 橙色 断面 10YR7/3にぶい 黄 橙色	3.0以下の長石・ クサリ礫・黒色 砂粒。	杯部 ほぼ 完形	内外面共媒付着。
図 58	B=SD22	土師器	高杯	口径 6.9 器高 9.8	柱状部 (上部) シボリメ。 柱状部 (下部) ユビオサエ後 ナデ。 底部ヘラミガキ。	柱状部 縦方向のヘラケズ リ。 底部ヘラミガキ。				
図 59	Aニ	土師器	高杯	器高 (7.0) 底径 9.0	柱状部 (上部) シボリメ。 柱状部 (中～下部) ヘラケズ リ。	柱状部～裾部縦方向のヘラケ ズリ。 裾部端面ヨコナデ。	内面 10YR7/3にぶい 黄 橙色 外面 7.5YR7/4にぶい 橙色 断面 7.5YR7/4にぶい 橙色	1.0以下の長石・ クサリ礫。	裾部 1/3	
図 64	Bへ	土師器	高杯	器高 (1.7) 底径 (10.0)	裾部ユビオサエ。	裾部ナデ。	内面 7.5YR6/6橙色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 10YR7/3にぶい 黄 橙色	0.5以下の長石。	脚部 3/1	
図 65	Aホ	土師器	高杯	器高 (8.5) 底径 (8.9)	杯底部ナデ。 柱状部シボリメ。 裾部ユビオサエ後ナデ。	杯底部ナデ一部ユビオサエ。 柱状部縦方向のヘラケズリ後 ナデ。 裾部ヨコナデ。	内面 10YR8/3浅黄橙色 外面 10YR8/3浅黄橙色 断面 10YR8/3浅黄橙色	3.0以下の砂粒・ 石英・長石。	裾部 1/3	
図 66	表探	須恵器	高杯	器高 (5.0) 底径 (10.0)	柱状部ヘラケズリ。 裾部風化のため不明。	柱状部から裾部。 ヘラケズリ。	内面 7.5YR7/4にぶい 橙色 外面 5YR6/4にぶい 橙色 断面 10YR8/3浅黄橙色	1.0以下のクサリ 礫・長石。	脚部 1/4	方形の透し孔。
図 67	Aニ	土師器	杯	口径 (14.8) 器高 (3.8)	口縁部ヨコナデ。 体部ヘケメ後ヨコナデ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部～底部ナデ。	内面 10YR6/4にぶい 黄 橙色 外面 10YR6/4にぶい 黄 橙色 断面 10YR6/4にぶい 黄 橙色	3.0以下の長石・ クサリ礫。	1/3	
図 68	Aチ	土師器	杯	口径 (16.2) 器高 (5.1)	口縁部ヨコナデ。 体部放射線状のヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。 体部 (上部) ヘラミガキ。 体部 (下部) ヘラケズリ。 底部ヘラケズリ。	内面 10YR7/3にぶい 黄 橙色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 7.5YR6/6橙色	1.0以下の長石。	口縁 部 1/3	
図 69	Aニ Bロ、ハ	土師器	杯	口径 (16.5) 器高 (2.8)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。 底部ナデ。	内面 2.5Y7/2明赤灰色 外面 2.5Y7/2明赤灰色 断面 2.5Y7/2明赤灰色	1.0以下の長石・ クサリ礫。	口縁 部 1/2	
図 70		須恵器	甌	口径 11.0 器高 3.2	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	外面 にぶい灰白色			

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径 () 器高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 71		須恵器	鉢	口径 10.2 器高 (3.4)	口縁部ナデ。 体部ナデ。	口縁部ナデ。 体部ナデ。	外面 青灰色			
図 72	B口SD24	製塩土器		口径 (3.8) 器高 (3.8)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 10YR8/3浅黄褐色 外面 7.5Y7/1灰白色 断面 7.5Y7/1灰白色	0.5以下の長石。	口縁部 1/4	
図 73	B口SD29	製塩土器		口径 (4.1) 器高 (4.0)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 7.5YR7/4にぶい 褐色 外面 5YR7/4にぶい 褐色 断面 N2/0黒色	1.0以下のクサリ 礫・長石。	口縁部 1/4	
図 74	BチSK01	製塩土器		口径 (3.8) 器高 (6.5)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 10YR7/3にぶい 黄褐色 外面 2.5Y7/4浅黄色 断面 2.5Y7/4浅黄色	1.0以下の長石。	口縁部 1/4	
図 75	BチSK01	製塩土器		口径 3.8 器高 (4.2)	口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部ナデ。	内面 5YR7/4にぶい 褐色 外面 5YR6/6褐色 断面 10YR1.7/1黒色	1.0以下のクサリ 礫・長石。	口縁部 1/4	
図 76	BチSK01	製塩土器		口径 (4.0) 器高 (4.5)	口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部ナデ。	内面 2.5Y8/3淡黄色 外面 5Y8/1灰白色 断面 5Y8/1灰白色	0.5以下の長石・ 金雲母。	口縁部 1/3	
図 77	BチSK01	製塩土器		口径 (2.6) 器高 (2.6)	口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部ナデ。	内面 7.5Y3/2オリーブ 黒色 外面 7.5Y3/2オリーブ 黒色 断面 7.5Y3/2オリーブ 黒色	1.0以下の長石。	口縁部 1/4	
図 78	BチSK01	製塩土器		口径 3.2 器高 (1.9)	口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部タタキ。	内面 7.5Y7/6褐色 外面 7.5Y7/6褐色 断面 7.5Y7/6褐色	0.5以下の長石。	口縁部 1/4	風化している。
図 79	BチSK01	製塩土器		口径 (3.8) 器高 (2.0)	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	内面 5Y8/3淡黄色 外面 5Y8/3淡黄色 断面 5Y6/1灰色	0.5以下の黒色砂 粒。	口縁部 1/4	
図 80	BチSK01	製塩土器		口径 (3.6) 器高 (3.8)	口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部ナデ。	内面 10YR7/4にぶい黄 褐色 外面 2.5R7/3浅黄色 断面 2.5R7/3浅黄色	1.0以下の長石。	口縁部 1/6	
図 81	BチSK01	製塩土器		口径 (4.4) 器高 (4.3)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 10YR7/4にぶい黄 褐色 外面 10YR7/4にぶい黄 褐色 断面 2.5Y3/1黒褐色	2.0以下の長石・ クサリ礫。	口縁部 1/4	

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) () 口径 () 器高	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 82	B-チSK01	製塩土器		口径 (4.2) 器高 (2.7)	口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部ヨコナデ。	内面 2.5Y8/3淡黄色 外面 2.5Y8/3淡黄色 断面 2.5Y8/3淡黄色	1.0以下の長石・クサリ礫。	口縁部 1/4	
図 83	B-チSD26	製塩土器		口径 (4.5) 器高 (4.4)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 5Y4/1灰色 外面 5Y8/1淡黄色 断面 5Y8/1淡黄色	1.0以下のクサリ礫・長石。	口縁部 1/6	
図 84	B-二	製塩土器		口径 (3.8) 器高 (4.7)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 7.5YR8/4浅黄橙色 外面 7.5YR8/1灰白色 断面 7.5YR8/1灰白色	1.0以下のクサリ礫	口縁部 1/6	
図 85	B-チSK01	製塩土器		口径 (2.5) 器高 (3.6)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 5YR6/6橙色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 7.5YR6/6橙色	1.0以下のクサリ礫。	口縁部 1/4	
図 86	B-チSK01	製塩土器		口径 (3.6) 器高 (5.5)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 10YR8/4浅黄橙色 外面 10YR7/4にぶい黄橙色 断面 10YR7/4にぶい黄橙色	1.0以下のクサリ礫。	口縁部 1/4	
図 87	B-チSK01	製塩土器		口径 (3.8) 器高 (3.5)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR6/6橙色 断面 5YR6/6橙色	1.0以下のクサリ礫・長石。	口縁部 1/3	
図 88	B-チSK01	製塩土器		口径 (3.8) 器高 (4.8)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 7.5YR6/6橙色 外面 10YR8/4浅黄橙色 断面 10YR8/4浅黄橙色	3.0以下の長石。	口縁部 1/4	
図 89	B-チSK01	製塩土器		口径 (4.4) 器高 (4.3)	口縁部～体部横方向のナデ。	口縁部～体部縦方向のナデ。	内面 10YR7/4にぶい黄橙色 外面 10YR7/4にぶい黄橙色 断面 2.5Y3.1黒褐色	1.0以下の長石・クサリ礫。	口縁部 3/4	
図 90	B-チSK01	製塩土器		口径 (3.2) 器高 (4.1)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 2.5Y8/4淡黄色 外面 2.5Y8/4淡黄色 断面 2.5Y8/4淡黄色	2.0以下の長石・クサリ礫。	口縁部 1/3	
図 91	B-チSK01	製塩土器		口径 (4.2) 器高 (3.5)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 2.5Y8/3淡黄色 外面 2.5Y8/3淡黄色 断面 2.5Y8/3淡黄色	0.5以下の長石。	口縁部 1/4	
図 92	B-チSK01	製塩土器		口径 (4.0) 器高 (3.3)	口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部ナデ。	内面 10YR7/4にぶい黄橙色 外面 10YR7/4にぶい黄橙色 断面 2.5YR3/1黒褐色			

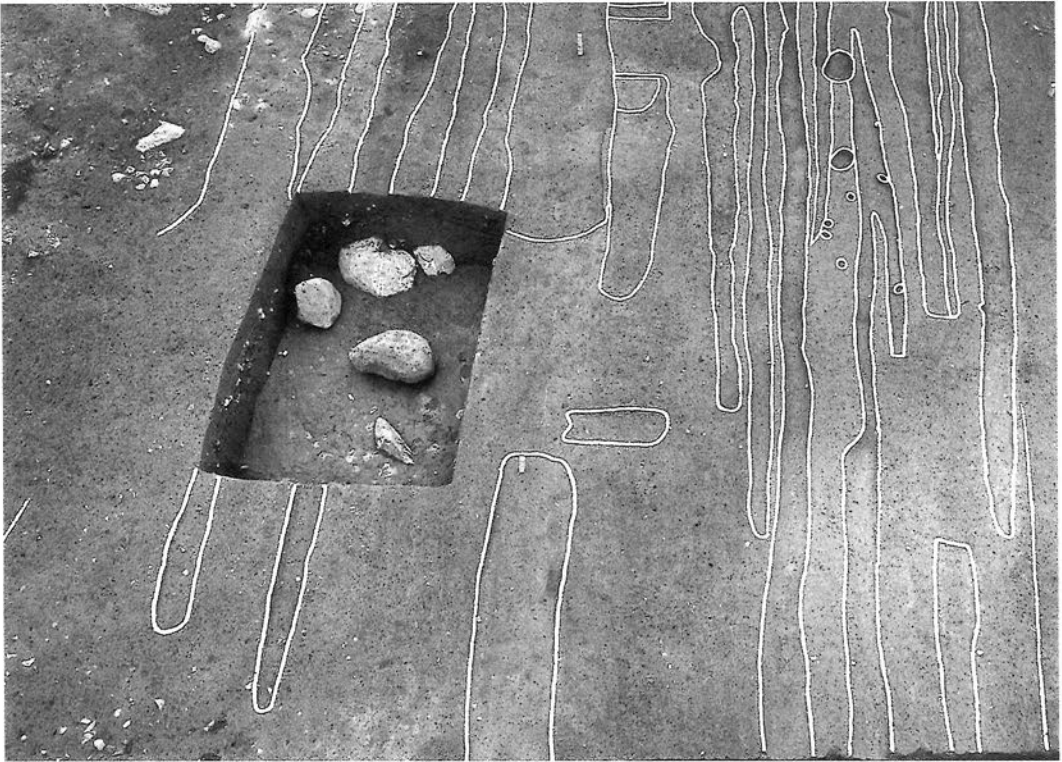
辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表

図番号	遺構・層	種類	器形	法量 (cm) ()遺跡保存係	調整・手法		色調	含有鉱物種 (mm)	残存度	備考
					内面	外面				
図 93	BチSK01	製塩土器		口径 4.1 器高 (6.9)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	内面 5YR6/6橙色 外面 5YR7/6橙色 断面 5YR7/6橙色	3.0以下の長石。	口縁部 完存	
図 94	BチSK01	製塩土器		口径 5.8 器高 (4.8)	口縁部～体部縦方向のナデ。	口縁部 2条/cmのタタキ。	内面 2.5YR8/4淡黄色 外面 5YR6/4にぶい橙 色 断面 2.5YR8/4淡黄色	1.0以下の長石。	口縁部 1/6	
図 95	BチSD25	製塩土器		口径 (6.3) 器高 (4.3)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部 3条/cmのタタキ。	内面 2.5Y7/4淡赤橙色 外面 2.5Y7/4淡赤橙色 断面 5Y2/1黒色	2.0以下の長石。	口縁部 1/6	
図 96	BトSD16	製塩土器		口径 (4.6) 器高 (4.9)	口縁部～体部縦方向のナデ。	口縁部～体部 2条/cmのタ タキ。	内面 5YR6/6橙色 外面 7.5YR6/6橙色 断面 7.5YR6/6橙色	1.0以下の長石。	少破 片	
図 97	BチSD25	製塩土器		口径 (4.6) 器高 (5.1)	口縁部ヨコナデ。 体部ナデ。	口縁部 3条/cmのタタキ。	内面 2.5YR6/3にぶい 橙色 外面 10YR6/3にぶい 橙色 断面 5Y3/4オリーブ黒 色	1.0以下の長石。	口縁部 1/4	
図 98	BトSP06	製塩土器		口径 (4.2) 器高 (4.85)	口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部 3条/cmのタ タキ。	内面 10YR8/4浅黄橙色 外面 7.5YR7/6橙色 断面 10YR8/4浅黄橙色	3.0以下の長石・ タナリ礫。	口縁部 1/3	
図 99	Bホ	製塩土器		口径 (3.6) 器高 (6.8)	口縁部～底部縦方向のナデ。	口縁部～体部 3条/cmのタ タキ。 底部ナデ。	内面 10YR5/3にぶい黄 褐色 外面 5YR4/1褐灰色 断面 10YR5/3にぶい黄 褐色	1.0以下の長石。	口縁部 1/4	

辻子谷遺跡第1次調査出土遺物観察表



1. 調査前の状況



1. 溝



1. 溝



2. 近世の水路



1. 古墳時代遺物出土状況



2. 古墳時代遺物出土状況



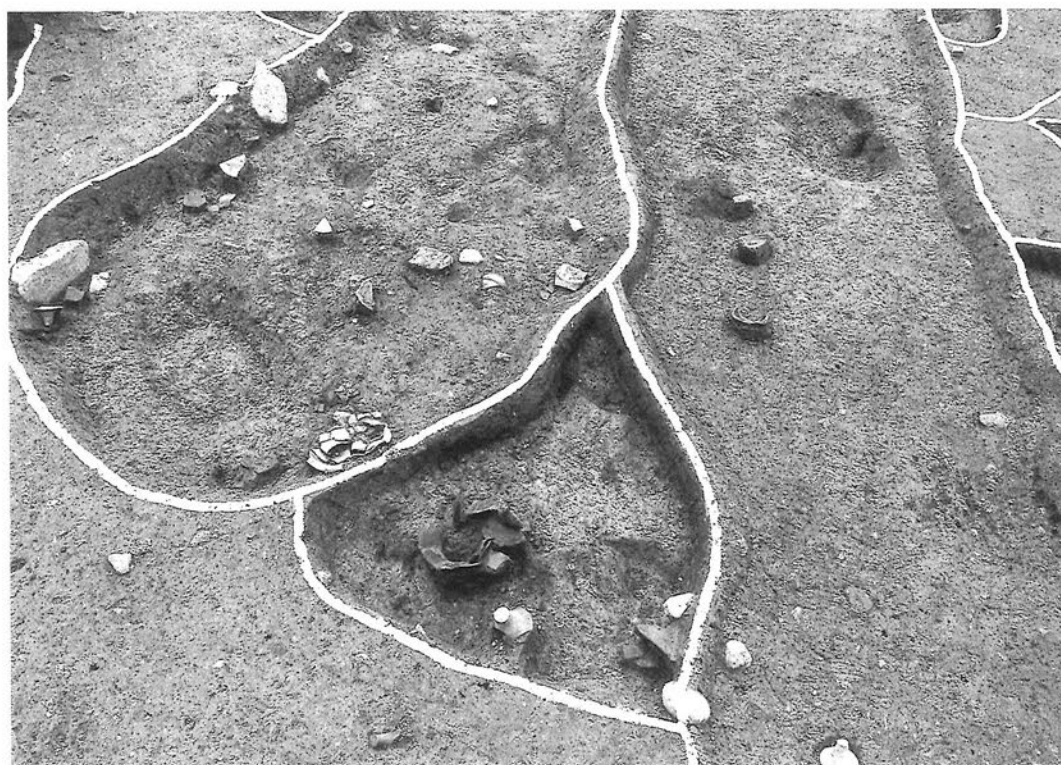
1. 古墳時代遺物出土状況



2. 古墳時代遺物出土状況



1. 溝、土坑



2. 土坑1. 3、溝25



1. 土坑 1 遺物出土状況



2. 土坑 3 遺物出土状況



1. 土坑7遺物出土状況



2. 溝25遺物出土状況



1. 第12層上面の遺構



2. 溝29遺物出土状況



1. 第14層上面建物跡



2. 第14層上面建物跡



1. ピット19 柱根



2. ピット13 根石



1. ピット20



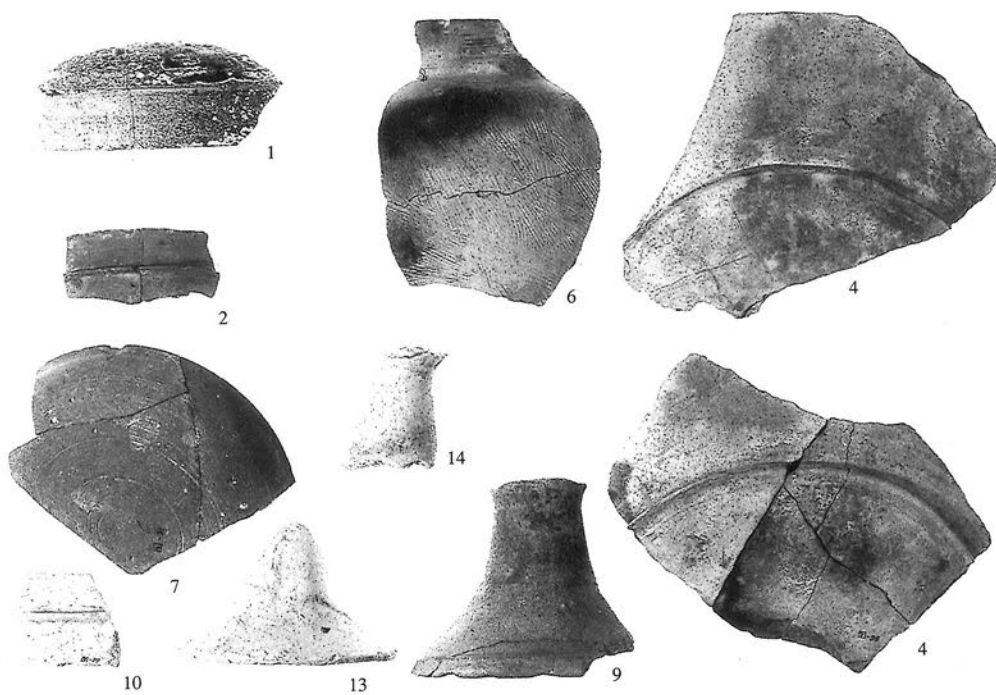
2. ピット截ち割り



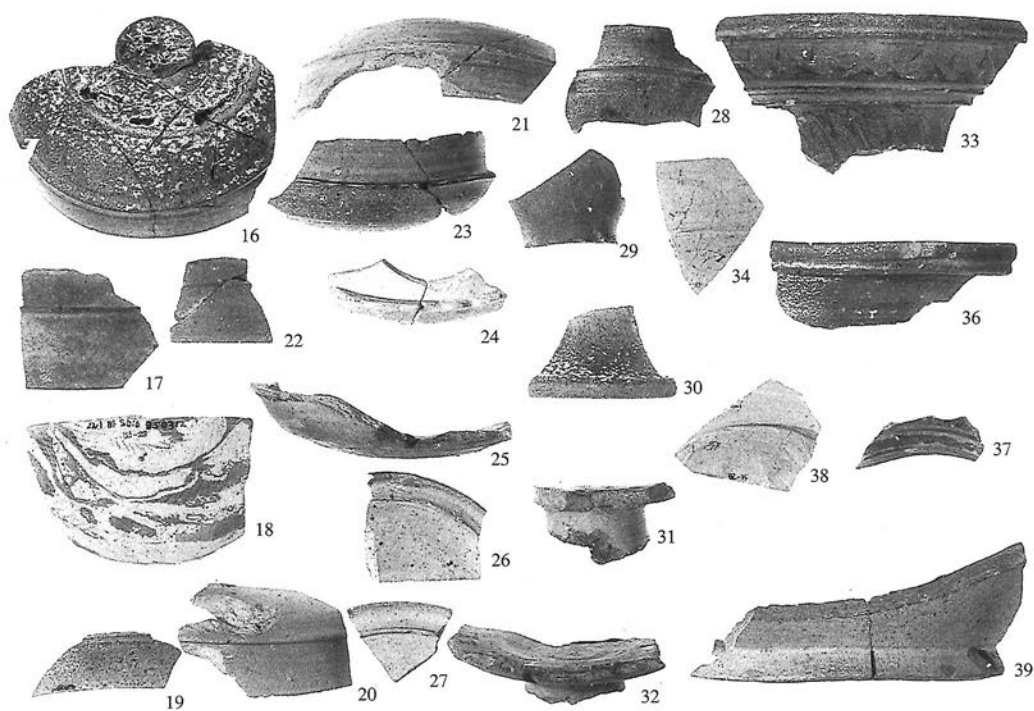
1. 南側断面



2. 北側断面



須恵器・土師器



須恵器



3



8



5



12



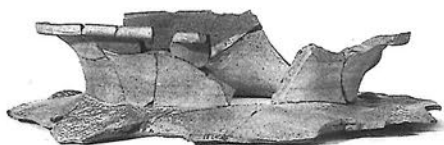
15



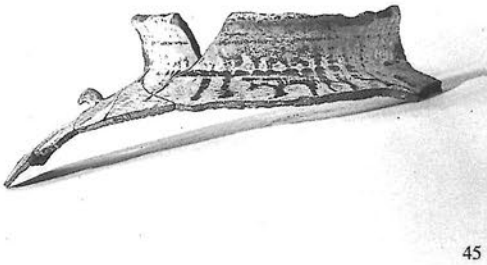
15'

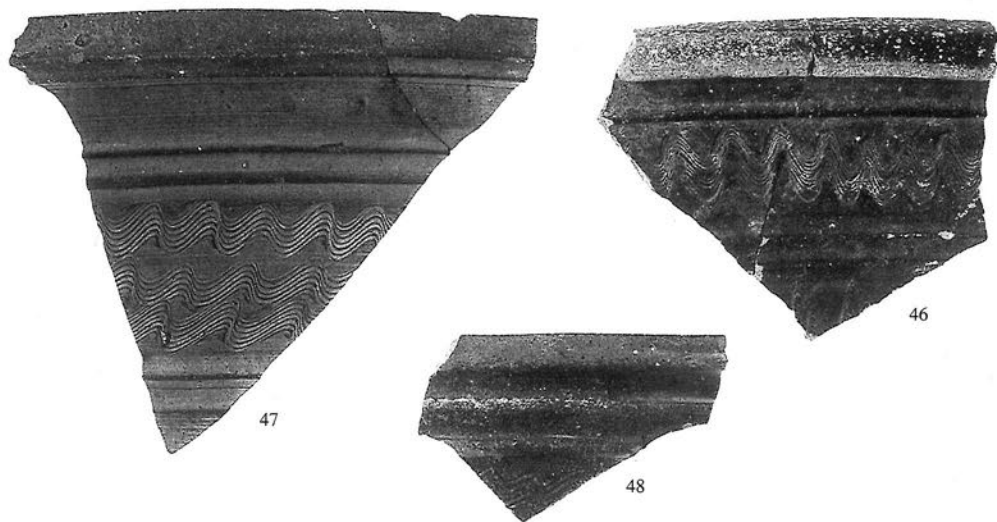


35

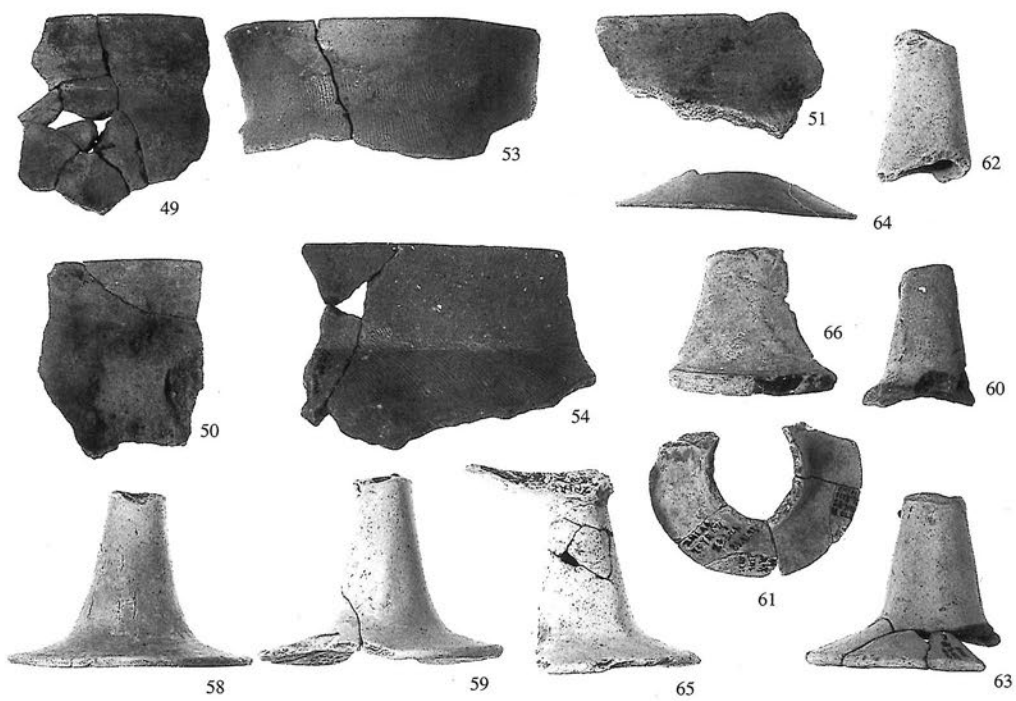


44

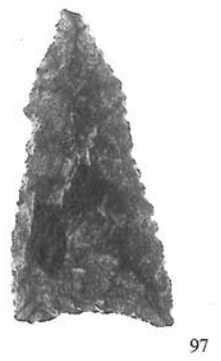
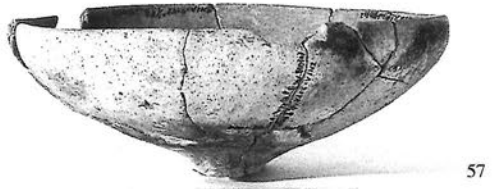
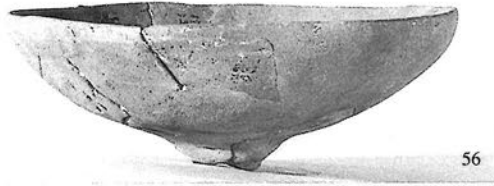
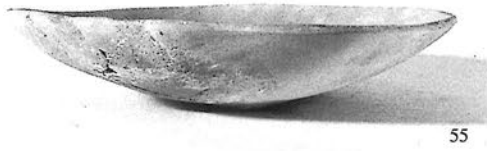


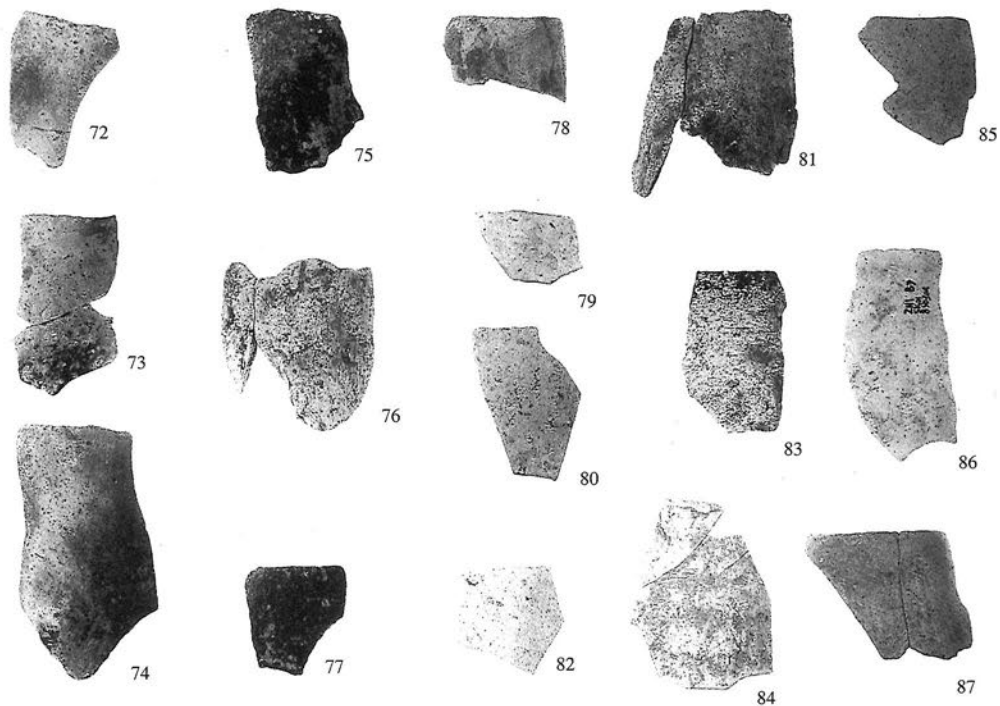


須恵器

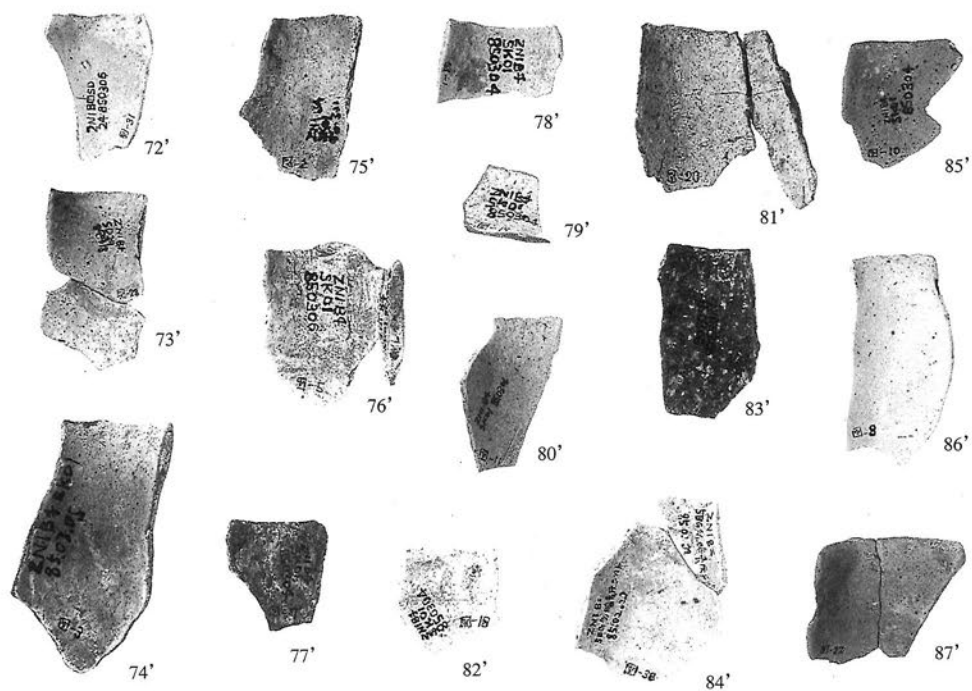


土師器

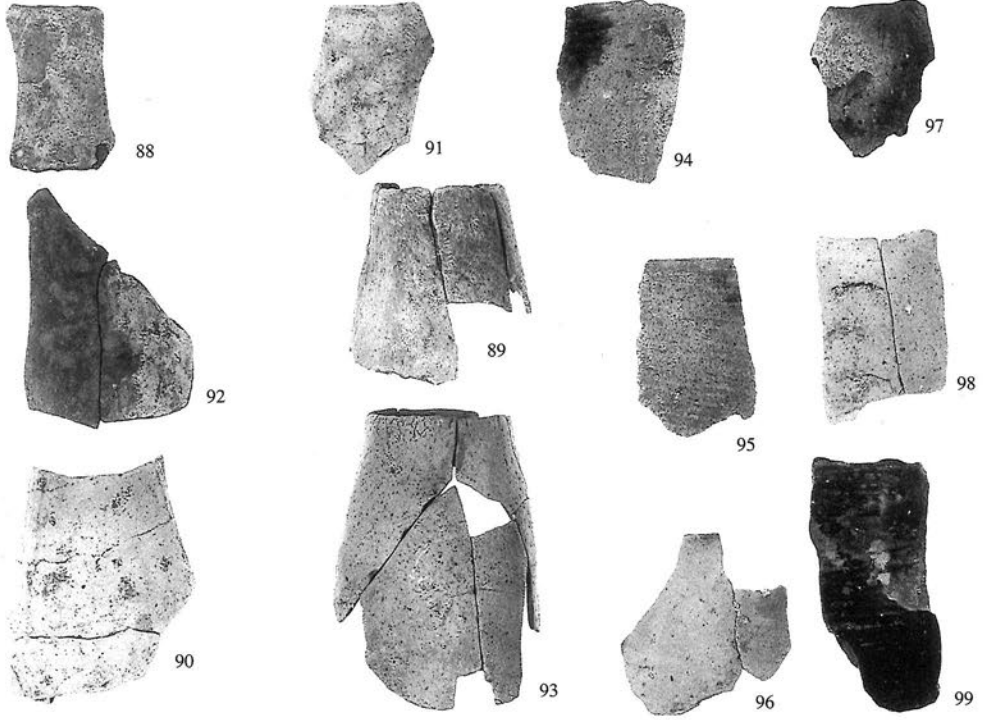




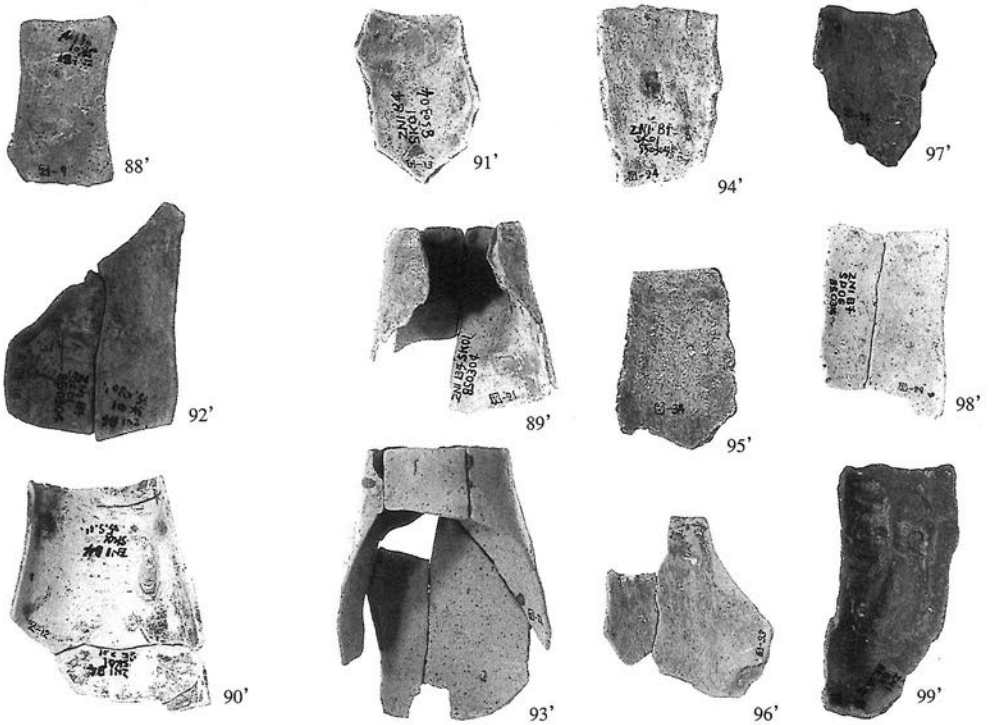
製塩土器



製塩土器



製塩土器

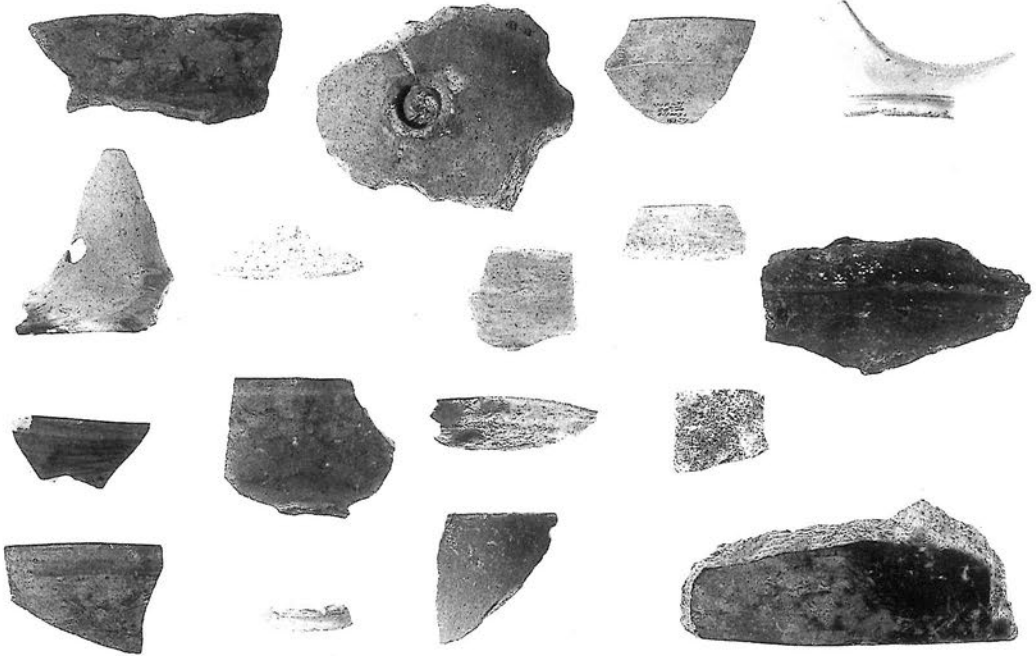


製塩土器

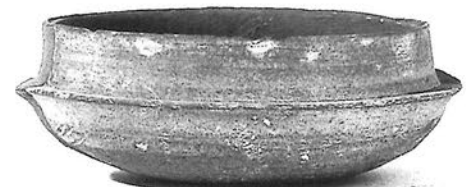
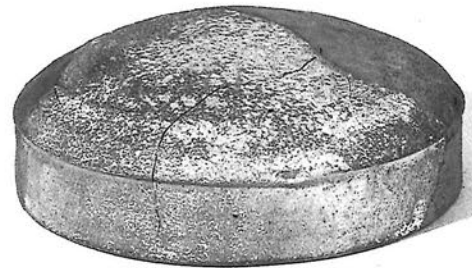
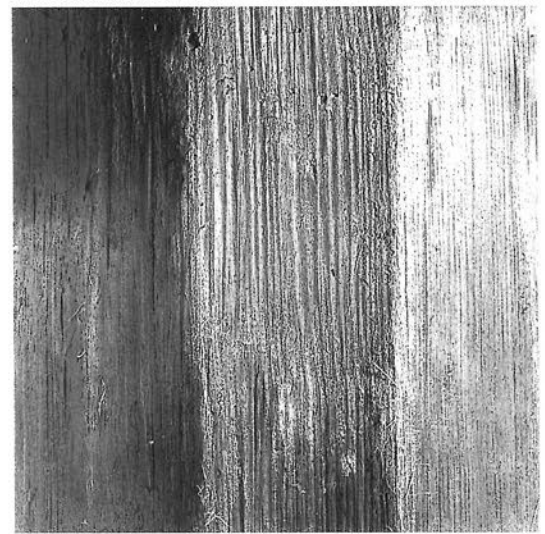
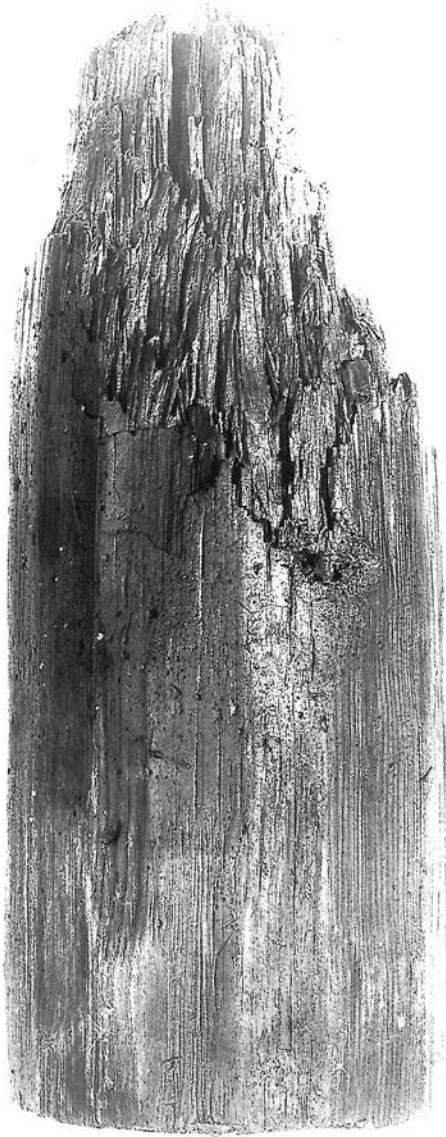


土師器

土師器



土師器・瓦器・国産陶磁器 他



須恵器・木製品

Ⅳ 若江遺跡第30・31次発掘調査概報

例 言

1. 本書は東大阪市若江北町3丁目、若江本町3丁目地内で実施した電路管理設に伴う若江遺跡第30・31次発掘調査報告書である。
2. 本調査は、財団法人東大阪市文化財協会が、関西電力株式会社の委託を受けて実施した。
3. 現地調査は、第30次調査を昭和59年8月20日から昭和60年2月1日、昭和60年6月 6日から6月14日、第31次調査を昭和60年9月19日から11月12日まで実施した。
5. 現地の土色及び土器の色調は、農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠し、記号表示もそれに従った。
4. 本書の執筆及び編集は第30次を上野利明、第31次を勝田邦夫が行った。
5. 図版に納めた遺構写真は上野、勝田が撮影し、遺物写真はスタジオG・Fプロ谷川喜一氏に委託して実施した。
6. 調査の実施にあたっては、関西電力株式会社のご協力を頂いた。記してお礼申し上げます。

本文目次

I. はじめに	1
II. 調査の概要	3
第30次調査 (A～I 地区)	3
第31次調査	4
III. まとめ	10

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	2
第2図 調査地点位置図	3
第3図 A地区実測図	11
第4図 B地区実測図	12
第5図 C地区実測図	13
第6図 D地区実測図	14
第7図 E地区実測図	15
第8図 F地区実測図	16
第9図 G地区実測図	17
第10図 H・I地区実測図	18
第11図 第31次調査 遺構実測図1	19
第12図 第31次調査 遺構実測図2	20
第13図 第31次調査 遺構実測図3	21
第14図 第31次調査 遺構実測図4	22
第15図 第31次調査 遺構出土遺物実測図	23
第16図 第31次調査 包含層出土遺物実測図	24

図版目次

図版1 第30次調査 遺構	上. E-1地区遺構検出状況	下. C地区遺構検出状況
図版2 第30次調査 遺構	上. E-2地区遺構検出状況	下. F地区遺構検出状況
図版3 第30次調査 遺構	上. F地区井戸2検出状況	下. F地区溝2(暗渠)検出状況
図版4 第30次調査 遺構	上. G地区柱穴検出状況	下. G地区柱根検出状況
図版5 第31次調査 遺構	上. c-4地区溝6	下. d-1地区溝5

- 図版 6 第31次調査 遺構 上. e-2 地区池検出状況 下. e-2 地区池検出状況
- 図版 7 第31次調査 遺構 上. d-4 ~ c-2 地区ピットと溝 下. c-2 地区ピット 6
- 図版 8 第31次調査 遺構 上. c-1 地区ピット 5 溝 4 下. c-1 地区ピット 4
- 図版 9 第31次調査 遺構 上. d-4 地区ピット 2.3 下. a-3 地区ピット 1
- 図版 10 第31次調査 遺物 上. 須恵器、土師器 下. 瓦器、土師器、陶磁器

I. はじめに

若江遺跡は、東大阪市若江本町、若江北町、若江南町付近を中心として、東西約650m、南北約950mに及ぶ範囲と推定される弥生時代から歴史時代（江戸時代）に至る複合遺跡である。

本遺跡の立地は、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地に囲まれた河内平野の中央部、標高4～5mにある。

河内平野は6000年～7000年前、地球規模の温暖化に伴い海水面が上昇し、生駒山麓まで海水が入り込んで湾をなしていた。しかし、3000年～2000年前頃には海退に移り、それとともに淀川、旧大和川の土砂の運搬、堆積作用により陸化が進んだ。堆積した平地にも蛇行原、三角州など形態の特徴、形成過程の異なる地形に細分され、さらにその中にも河道ぞいに細長く伸びる平滑な微高地（自然堤防）、その後背の低平地（後背低地）、あるいは旧河道跡の微高地などが認められる。

若江遺跡周辺で生活が開始されたのは弥生時代からである。前期には山賀、瓜生堂、高井田、鬼虎川、中垣内といった遺跡で集落が営まれるようになる。これらの遺跡は、当時の河内湖のほとりにあたるところであり、水稻栽培に適した低湿地のある低地である。河川の堆積作用で陸地となったところで粘土やシルト、砂などから構成されている。

古墳時代になると、西岩田、意岐部、岩田、小若江、若江北などの遺跡で集落が営まれる。当遺跡でも、遺跡の南東端で土坑や溝などが見られる。

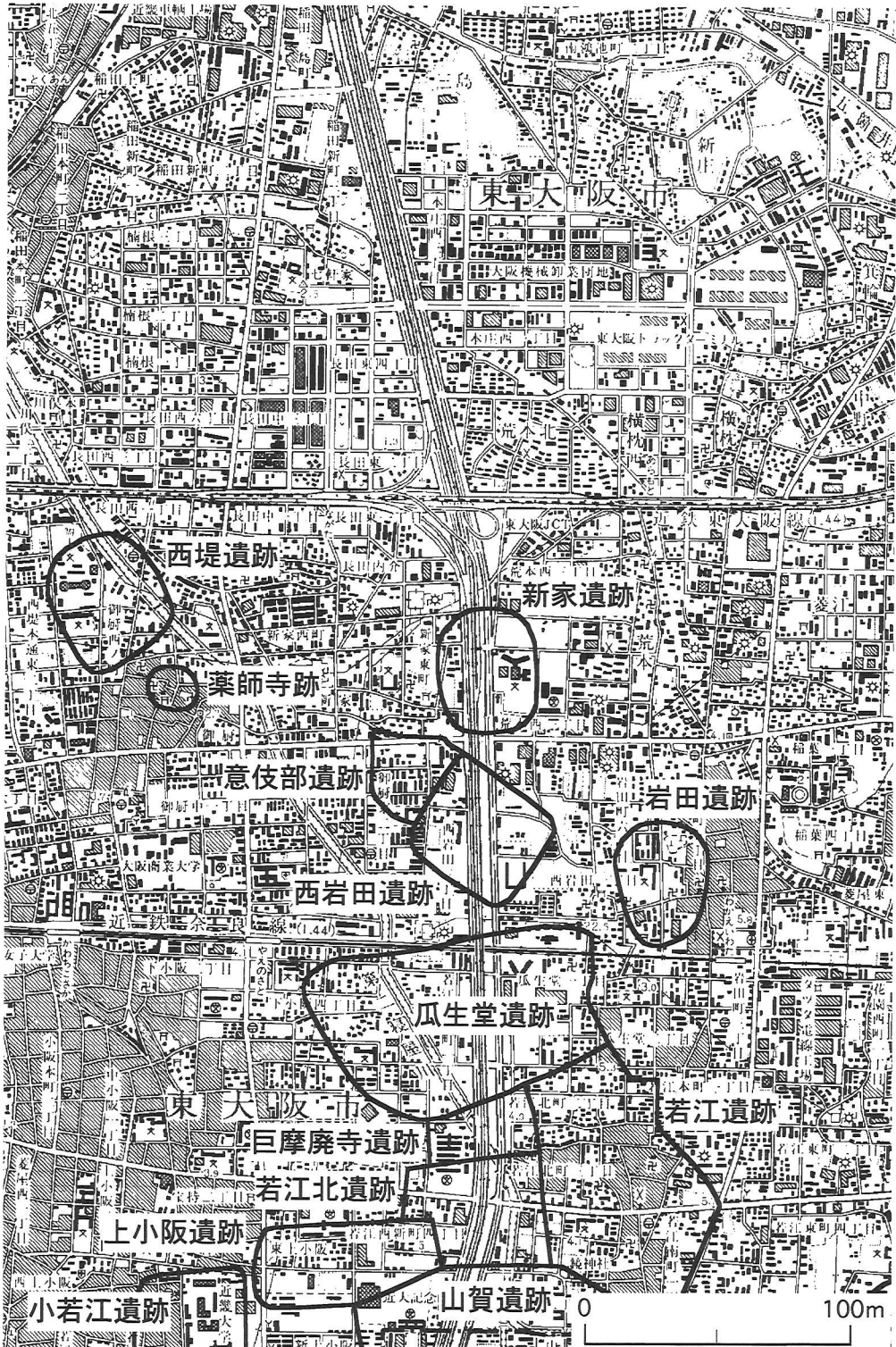
歴史時代に入ると、瓜生堂、小若江、弥刀、神並、植附、西ノ辻などで集落が見られる。当遺跡では、平安時代の元慶年間（877～885）に若江寺があったことが『尊意贈僧正伝』によって知られ、奈良時代から室町時代に至る各時代の瓦や土器が出土している。

室町時代には、畠山氏が河内国守護に任ぜられ、河内国支配の拠点として若江城を築いた。しかし、畠山氏の家督相続争いにより畠山氏は衰退、かわって三好氏が勢力を伸ばすが、三好氏も織田信長により滅ぼされ池田丹後守教正が城主となる。若江城は、信長の石山本願寺攻めの拠点として使われるが、天正8年に和議が成立し、役目を終え廃城となる。

このような地理的環境、歴史的環境の中で、若江遺跡では、昭和47年に発掘調査が開始されて以来、ほぼ毎年調査が実施されている。これらの調査では、弥生時代から歴史時代（江戸時代）にわたる様々な遺構や遺物を検出し、若江地域の歴史が徐々に明らかになってきた。

今回刊行することが出来た若江遺跡第30・31次調査報告は、関西電力株式会社の電路管埋設に伴う調査であり、府道大阪東大阪線に沿って東西に長く範囲を対象とし、本遺跡の中心部をほぼ東西に貫く調査となった。

この調査の結果、古墳時代の土坑、12世紀後半から16世紀後半にかけての溝、土坑、ピット、近世から現代にかけての池などが検出され、弥生土器、古墳時代の土師器須恵器、製塩土器、奈良時代の土師器、平安時代末～室町時代末の瓦器、白磁、青磁、土師器皿・羽釜、陶器播鉢、磁器片、多量の瓦、獣骨が出土し、当時の人々の生活を窺うことができた。



第1図 周辺遺跡分布図

II. 調査の概要

調査は若江北町3丁目・若江本町4丁目地内における府道大阪東大阪線の拡幅予定地の道路敷で、道路の北側に位置した限られた範囲を、東西約500m、幅約1.2mについて実施した。

第30次(A～I地区)

B地区では、幅20～30センチ、深さ10～20センチの溝状遺構。幅約1.2m。周囲との比高約0.5mの南北方向の畦畔を検出した。詳細な時期は不明であるが、14c以降と考えられる。この系は、2度の修復を受けていると考えられ、継続した水田工作の痕跡がうかがえる。

C地区では、B地区から続く溝状遺構と、近世の井戸1基を検出した。井戸は、下部に方形の木組を用いたもので、上部は抜きとられている。

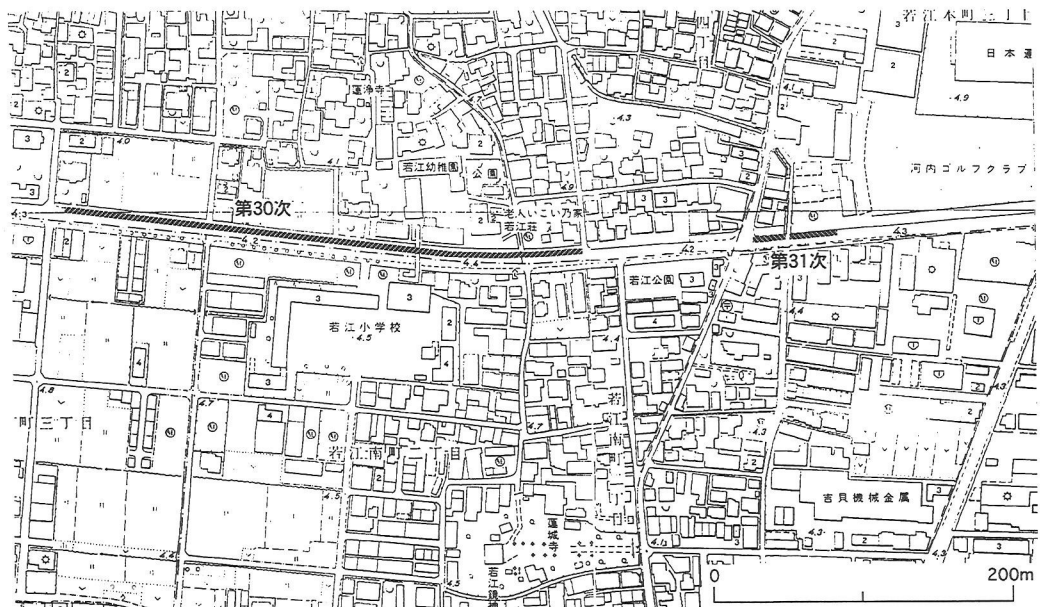
D地区では、南北方向の大溝を検出した。溝の廃絶は、17cと考えられる。幅約7mを計り、若江城廃絶期以降のものと考えられる。

また、E地区に続く灰層の堆積した溝状遺構を検出した。この溝状遺構は、若江城廃絶期にあたるものと考えられ、若江城関係の遺構の西限と考えられる。他に柱穴、土坑等を確認した。

E地区では、D地区から続く溝状遺構、6c中頃の土坑1基を検出した。

F地区では、南北方向の若江城の堀、井戸、暗渠、柱穴、土坑等を検出した。堀内には、多量の瓦が堀の肩に沿って、落ち込むように堆積している。

G地区では、柱痕の残る柱穴、溝状遺構、土坑、井戸を検出した。柱穴は、一辺12～15cmの方形のものが多く、認められる。いずれの遺構も若江城の最終の時期と考えられる。



第2図 調査地点位置図 (1/5,000)

H地区では、溝状遺構、土坑と、東北東に伸びる堀の北肩を検出した。I地区は、すべて堀内の堆積物である。

第31次調査

遺構

検出した遺構は溝6条、土坑1基、ピット6個、池1である。検出した層は池を除いて第5層上面である。

溝1 調査地区の東端 a-1、2地区において検出した。東南東から西北西に伸びる溝で、幅95cm、深さ26.4cm、検出長4.5mである。埋土は2.5Y4/2暗灰黄色粘土で、直径4～8mmの茎の痕跡が多く見られ、その茎の周囲には鉄、マンガン等の沈着がみられた。遺物が出土しなかったため時期は不明である。

溝2 a-5地区で検出した。南北方向に伸びる溝で、幅112cm、深さ13.4cmである。南端、北端とも破壊されていたため検出したのは20cm幅だけである。埋土は10Y R 2/3黒褐色中粒砂で古墳時代後期の須恵器・土師器、平安時代後半の瓦器椀・土師器皿、平瓦が出土した。瓦器椀より12世紀前半に埋まったものと思われる。

溝3 b-1～2地区で検出した。東西方向に伸びる溝で、溝の北岸は調査地区外に広がっており南岸肩部を検出しただけであるので幅は不明である。深さ37.8cm、検出長5.5mである。埋土は上下2層に分かれ、上層が5B G 3/1暗青灰色細粒砂、下層が5G 1.7/1緑黒色シルトで、上層からは古墳時代の土師器・須恵器、奈良時代の土師器杯、平安時代末～鎌倉時代初頭の瓦器椀・土師器皿、平瓦、下層からは古墳時代の須恵器・土師器高杯・甑、平安時代末の瓦器椀・甕が出土した。埋まった時期は瓦器椀より上層が13世紀前半、下層が12世紀後半である。

溝4 c-1地区で検出した。南北方向に伸びる溝で、幅180cm、深さ10cmである。埋土は上下2層に分かれ、上層が7.5G Y 4/1暗緑灰色極細粒砂、下層が5B 1.7/1青黒色粘土である。古墳時代の土師器・須恵器・製塩土器、平安時代の瓦器椀・甕が出土した。埋まった時期は瓦器椀より12世紀後半と思われる。

溝5 c-3～d-1地区において検出した。東南東から西に伸びる溝で、溝の南岸は調査区外に広がっており北岸肩部を検出しただけであるので幅は不明である。深さ25cm、検出長4.7mである。埋土は上層が2.5Y 5/6黄褐色中粒砂、2.5Y 6/1黄褐色中粒砂、5G Y 5/1オリーブ灰色細粒砂～中粒砂で、下層が10B G 1.7/1青黒色中粒砂、5B G 4/1暗青灰色粘質シルトである。上層からは古墳時代の土師器高杯・須恵器、鎌倉時代～室町時代にいたる瓦器椀・同羽釜脚部・同火舎脚部、白磁片、土師器皿・同羽釜、多量の瓦が出土した。土師器皿、陶器播り鉢より16世紀後半から末に埋まったものと思われるが、土師器等には特に磨滅したものが多く見られ、流れ込んで二次堆積したものであろう。

溝6 c-4地区で検出した。西北西から東南東に伸びる溝である。幅60cm、深さ21cmで6.2m分を検出した。埋土は2.5Y 5/6黄褐色中粒砂、5B G 4/1暗青灰色粘質シルトで、古墳時代

の須恵器杯身をはじめとする須恵器片、土師器高杯をはじめとする土師器片、鎌倉時代～室町時代にいたる瓦器椀・同羽釜・同羽釜脚部・同火舎・同甕、土師器皿・同羽釜、青磁片、陶器片、磁器片、瓦が出土した。溝5と同じく磨滅したものが多く、溝5と同時期に二次堆積したものである。

土坑1 径70cm、深さ40cmである。埋土は7.5Y5/3灰オリーブ色中粒砂、2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂、N3暗灰色極細粒砂、5G2/1緑黒色シルトがブロック状に入り交じったもので、古墳時代の須恵器・土師器、鎌倉時代の瓦器が出土した。埋まった時期は瓦器椀より13世紀中葉と思われる。平面形態は円・楕円・方形である。柱根を残すものもあるが規模は様々で一定せず、規則的な配列も見られない。

ピット1 a-3地区で検出した。上面の推定直径77cm、深さ30～34cmである。埋土は上から10GY2/1緑黒色シルト、10GY4/1暗緑灰色粘土、5GY5/1オリーブ灰色極細粒砂、2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂、10GY4/1暗緑灰色砂質シルトで、古墳時代前期から中期の土師器片、平安時代末の瓦器椀・土師器皿が出土した。埋まった時期は瓦器椀より12世紀前半と思われる。

ピット2 b-4地区で検出した。直径80cm、深さ40cmである。埋土は上層が7.5R3/2暗赤褐色シルト、下層が7.5GY4/1暗緑灰色極細粒砂で、内面ヘラケズリ、外面ハケメを施した土師器片5点が出土した。調整技法などから古墳時代のものと思われるが詳細な時期は不明である。

ピット3 b-4地区で検出した。直径60cm、深さ40cmである。ピット2の西約2.7mにあり、V字形に近い堀形をもつ。埋土は上層が7.5R3/2暗赤褐色シルト、下層が2.5GY4/1暗緑灰色極細粒砂で、土師器高杯・同壺、内面ヘラケズリ、外面ハケメで器面調整した土師器片、製塩土器などが出土しており、5世紀後半のものと思われる。

ピット4 c-1地区で検出した。一辺35cmの隅丸方形である。深さ14cmである。埋土は10BG4/1暗青灰色中粒砂混じりシルトで、古墳時代の須恵器杯、土師器片、平安時代から鎌倉時代の瓦器、土師器が出土したが、いずれも細片のため詳しい時期は不明である。

ピット5 c-1地区で検出した。ピット4の西約1.7mにある。深さ14cmである。直径30cm、深さ25cmである。ピットのほぼ中央に埋土は10BG4/1暗青灰色中粒砂混じりシルトで、古墳時代の須恵器杯、土師器片、平安時代から鎌倉時代の瓦器、土師器が出土したが、いずれも細片のため詳しい時期は不明である。直径14cm、長さ90cmの柱根が残る。埋土は5PB3/1暗青灰色極細粒砂で、出土遺物がまったくないため時期は不明であるが、溝4が埋まった後で構築されているため12世紀後半以降のものである。

ピット6 c-2地区で検出した。一辺70cmの隅丸方形である。深さ39cmである。埋土は上層が10GY3/1暗緑灰色中粒砂混じり細粒砂、下層が5PB2/1青黒色粘土で、平瓦、土師器大皿、瓦器椀、須恵器、獣骨が出土した。瓦器椀、土師器皿より13世紀前半から中葉に埋まったものと思われる。

池 e-2 地区から 3 地区にかけて検出した。護岸の一部である。池の岸に沿って径 8～18cm の丸太材をほぼ 1m 間隔で打ち込み、池の底への傾斜面に長さ 3.5m、幅 20～35cm、厚さ 0.8cm の板材を積み上げ、板が崩れないように幅 16cm、厚さ 0.8cm の板を 2 枚重ねて縦に長く打ち込んでいる。池の深さは、湧水による断面崩壊などにより調査の継続が困難となり確認することができなかった。池からの出土遺物は、古墳時代の須恵器、土師器、鎌倉時代から室町時代の瓦器椀・同羽釜・同羽釜脚部・同火舎、土師器皿、陶器、近世以降の磁器片である。池が掘削された時期は今回の調査では判明しなかったが近世以降と思われる、廃絶は府道大阪東大阪線が敷設された昭和 9 年頃といわれている。^(注)

注 池についての資料を調べるために若江農業協同組合を訪れ、元理事長藤原氏、元参事玉里氏に古地図、地籍図等の資料を拝見させていただき、お話をうかがった。記して謝意を表します。

出土遺物

今回の調査で出土したのは、弥生土器、須恵器、土師器、製塩土器、瓦器、陶器、磁器、瓦などである。出土量の多いものは瓦、土師器、須恵器、瓦器でそれ以外は少量である。また地区別では c 地区が圧倒的に多く、以下 a 地区、b 地区、d 地区、e 地区となっている。層位別では 5 層からの出土が多く、以下 4 層、3 層、6 層、7 層の順である。出土遺物のほとんどが細片であり図化できるものが少なかった。したがって、ここでは図化できたものについてのみ記す。

遺構出土の遺物

土師器

ピット 1、3、6、溝 3～6 から出土した。甕、高杯、小型丸底壺、皿、羽釜などがある。1～3 は甕である。口縁部は「く」字形に屈曲し外上方に立ち上がる。1 は球形、丸底の体部をもつ甕である。口縁部はやや内彎気味に立ち上がる。口縁端部は内面にやや肥厚させているが内傾する面はもたず丸くおさめる。口縁部外面はヨコナデであるが内面はハケメである。体部外面は 12 本/cm の細かいハケメ、内面は上半がハケメであるが下半はヘラケズリである。外面には煤が多く付着している。色調は煤の付着状態によって異なるが 2.5 Y 7/4 浅黄色から 2.5 Y 4/1 黄灰色を呈する。胎土には 0.1mm 以下の非常に細かい長石・石英を含む。2、3 はやや外湾しながら立ち上がる口縁部をもつ。体部は球形を呈し、外面はハケメ（9～10 本/cm）を施すが内面はヘラケズリはほとんど見られず、粘土の接合痕が顕著である。外面には煤が付着している。色調は 5 Y 5/2 灰オリーブ色で胎土には長石を多く含む。ピット 3 出土。

4～6 は高杯である。4、5 は脚部で 4 はゆるやかに外反するいわゆるラッパ状を呈するものである。表面は磨耗が著しいため調整手法が明確ではないが、外面はヘラナデ、内面はヘラケズリと思われる。色調は 2.5 Y 6/6 明黄褐色で胎土に長石・石英・金雲母・角閃石の細粒を多

く含む。溝3出土。

5は途中で屈曲して広がる。脚端部には沈線が一条めぐる。色調は10Y R 8/3浅黄橙色で胎土には非常に細かい角閃石・長石・金雲母・石英を含む。ピット3出土。

6は杯底部である。杯部と脚部との接合には凹凸を利用しているため杯底部にヘソ状の突起を残している。表面の磨耗が著しいため調整は不明である。色調は7.5Y R 6/1褐灰色で、胎土には石英・長石を多く含む。溝5出土。

7は小型丸底壺の口縁部である。口縁は直線的に外上方に開き、端部を尖りぎみにおさめる。内外面ともていねいにヨコナデ調整している。色調は7.5Y R 6/6橙色で、胎土には長石の微粒以外ほとんど鉱物を含まない。ピット1出土。8～10は皿である。8は平底で体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。体部は2段のヨコナデ調整、底部内面は一方向のナデを施すが、底部外面は未調整である。色調は2.5Y 7/3浅黄色で、胎土には非常に細かい長石・金雲母・角閃石を含む。溝4出土。

9は平底から内彎して外上方に短く立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。口縁部は右回りのヨコナデ、底部外面は未調整である。色調は10Y R 8/4浅黄橙色で、鉱物を含まず水簸された精良な胎土である。ピット6出土。

10は体部がほぼ直線的に立ち上がり、口縁端部は尖りぎみにおさめる。口縁部はヨコナデ調整を施す。色調は10Y R 8/3浅黄橙色である。溝6出土。

11は羽釜の口縁部である。内彎ぎみに内傾する口頸部である。口縁端部は外側に肥厚している。

瓦器

溝3、5、6、ピット1、6から出土した。椀、小皿、羽釜、脚付羽釜、甕、火舎、香爐などがある。12～15は椀である。体部は内彎しながら立ち上がる。12は口縁部内側に沈線がめぐり、ヘラミガキも細く密でていねいである。水簸された精良な粘土でいわゆる大和型である。溝3出土。

13、14はヘラミガキが太く粗雑である。口縁部はヨコナデ調整を施す。体部外面にはヘラミガキはなく指頭圧痕が目立つ。ピット6出土。15は椀底部である。断面三角形の高い高台を有する。ピット1出土。16は皿である。平底の底部から外上方にやや外反しながら短く立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。口縁部はヨコナデ、底部内面はナデを施す。溝3出土。

17は香爐である。直線的にやや外上方に立ち上がる。体部内面には布目痕らしきものが見られる。口縁部はヨコナデ調整を施す。ピット6出土。18は火舎の底部である。体部は内彎しながら立ち上がり、三脚を有するものと思われる。体部、底部ともヨコナデのあと5～6mmの太いヘラミガキを施している。色調は5B G 4/1暗青灰色で、胎土には0.1mm大の長石・石英を含む。溝5出土。

陶磁器

溝5、ピット4から出土した。播鉢、椀などがある。19は播鉢である。体部はゆるやかに内

彎しながら外上方に立ち上がる。口縁は縁帯をなし、上下両方に拡張する。体部、口縁部内外面ともヨコナデを施し、のち底部から口縁部に向かって7本以上の櫛状施文具ですり目を施す。粘土紐巻き上げ成形と思われ、内外面に接合痕が残る。色調は2.5 Y R 4/3にぶい赤褐色で長石を多く含む。備前焼。溝5出土。

20は椀である。分厚い底部に内彎して立ち上がる体部をもつ。明緑灰色の磁胎にほぼ同色の釉を分厚くかけている。高台畳付の釉を幅1.5cm分を円形に掻き取り重ね焼きしている。伊万里焼と思われる。ピット4出土。

包含層出土の遺物

盛土を除き旧耕土、床土以下第7層まですべて遺物を包含していた。遺物には須恵器、土師器、瓦器、輸入陶磁器、国産陶磁器、瓦、鉄釘、鉄滓、貨銭がある。

須恵器

杯、高杯、椀、甕、壺、鉢などがある。1～4は杯である。1のたちあがりはやや内傾度が大きい。端部は欠失しているが丸くおさめるものであろう。受部はほぼ水平に伸び端部は丸くおさめる。残存部でのヘラケズリはみられず、内外面ともヨコナデ調整を施す。

2～4は高台である。高台はあまり高くなく、わずかに外方へふんばる。貼り付けの高台である。3の端面には柁目状の圧痕がついている。5は高杯脚部である。脚部は短く、脚端部を上下に突出させ尖りぎみにおさめる。透かしは長方形で3方にもつものと思われる。内外面ともヨコナデ調整を施す。色調は10 B G 5/1青灰色である。

6は椀である。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり端部は丸くおさめる。口縁部と体部の境に1本の凸帯が巡るが丸みをもっている。内外面ともヨコナデ調整を施す。色調は7.5 G Y 6/1緑灰色である。

土師器

甕、高杯、鉢、椀などがある。7～9は甕である。7はやや外反しながら外上方に立ち上がる口縁部を持つ。口縁端部は外傾する面をもち、内側に巻き込む感じで肥厚する。内外面ともヨコナデ調整を施す。色調は2.5 Y 8/3淡黄色である。8は口縁端を丸くおさめる。内外面ともヨコナデ調整で、色調は2.5 Y 5/4黄褐色である。胎土には0.1～2mm大の長石、石英、雲母、角閃石を多く含む。9は球形に近い器体と、強く外反する口縁部とからなる広口の甕である。体部内面と口縁部はヨコナデ調整を施すが体部外面は未調整である。色調は5 Y R 6/6橙色で、0.1～0.5mm大の長石を少量含む。

10、11は椀である。10は口縁部が短く外反し、端部は丸くおさめる。肩部は外方に張りをもち底部に続く。口縁部と体部内外面はヨコナデ調整を施す。色調は5 Y 6/2灰オリーブ色で、胎土には0.3mm以下の細かい長石を多く含む。11は口縁部が短く外上方に開く。口縁部と体部内面はヨコナデ調整を施す。外面に黒斑がある。7.5 Y R 7/4にぶい橙色である。胎土には鉾物をほとんど含んでいない。

12～14は高杯脚部である。12は内面上部にしぼり目を残すが下半はヘラケズリを施している。13は内面を上下からヘラケズリ、外面はヘラナデを施す。14は棒状のものに粘土を巻きつけて作ったもので、外面は鋭い稜角をもち7角形を呈する。胎土には長石を少量含む。

22～26は皿である。22、23は口縁部を外反させ端部を内側に肥厚させるものである。22は器壁が厚い。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。24はなだらかに外上方に短く立ち上がる口縁部で端部は尖り気味におさめる。口縁部はヨコナデ調整を施す。

25、26は大皿である。25は内彎気味に立ち上がるが上半を強くヨコナデするため外反する。口縁端は丸くおさめる。体部内面と口縁部はヨコナデ調整を施す。26は口縁部が外半気味に外上方に立ち上がる。口縁端部は肥厚させ尖り気味におさめる。ヨコナデ調整を施す。

瓦器

椀、皿がある。15～19は椀である。体部は内彎しながら立ち上がる。15、19はヨコナデ調整が強いいため、あるいはユビオサエのため外半する。15の内面と口縁部外面に圏線状のヘラミガキを施す。16、19は内面のみヘラミガキを施すが粗くなり、19では6～7回となっている。

17、18は底部の破片である。17は内底面（見込み）にナデを施したのち、幅の細い並行の暗文を、18は幅の太い斜格子の暗文を施す。

20、21は皿である。平底から外上方に短く立ち上がる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。21はヘラミガキは全くない。20は摩耗しているため不明である。

輸入陶磁器

白磁椀・皿、青磁椀・盤がある。27、28は白磁椀である。体部は内彎気味に外上方へ立ち上がり、口縁部は外側に折り返し玉縁を形成する。釉色は5G Y 8/1灰白色、磁胎は白色で黒色微粒を含む。27は玉縁が小さく器壁は薄い。28は玉縁の断面が三角形を呈し稜をなす。釉色は透明感のある5G Y 7/1明オリーブ灰色、磁胎は灰白色である。

29は白磁皿である。釉色は7.5 Y 8/2灰白色で全体に薄く施釉されていて細かい貫入がみられる。内底面には目跡があり、高台畳付の四方に浅い削り込みがみられるものである。

30、31は青磁椀底部である。30は透明感のある5 Y 6/3オリーブ黄色の釉で粗い貫入がみられる。底部内面には圏線状の削り込がある。高台にはほとんど釉がかかっていない。31は不透明な2.5 Y 6/2灰黄色の釉で、粗い貫入がみられる。全体に施釉したのち見込みと畳付の釉を掻き取っている。磁胎は5 Y R 5/3にぶい赤褐色で0.1～0.3mm大の石粒を多く含む。

32は鉢である。体部はやや内湾しながら外上方に立ち上がり、口縁部を「く」字状に外折させている。

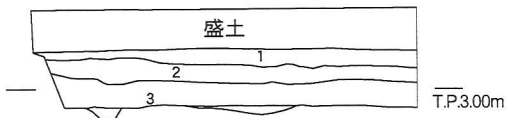
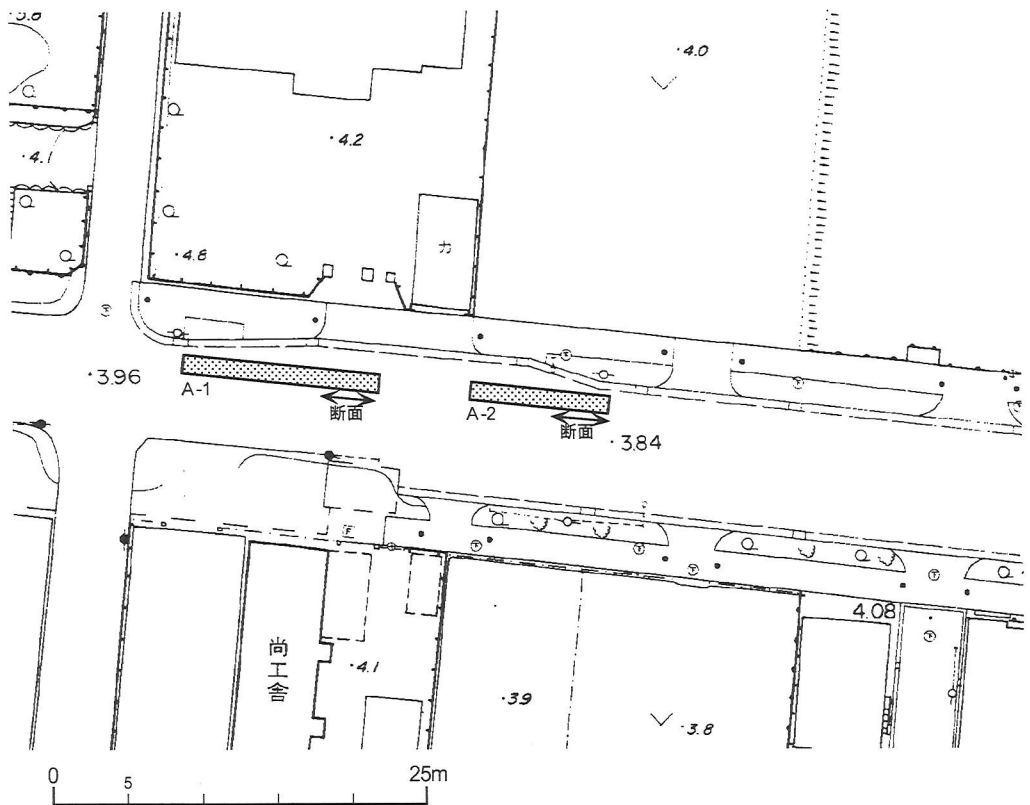
Ⅲ. まとめ

今回の調査では、近世から近代にかけての池、室町時代後半の溝、鎌倉時代の溝、ピット、土坑、平安時代の溝、ピット、古墳時代のピット・土坑が出土した。

若江城の遺構は、若江本町4丁目の若江派出所あたりにある堀外側の土塁を境に東側は検出されていない。また、D地区付近を西限として、その間が微高地となっていたようである。周辺は低地で深田となっていたと考えられる。

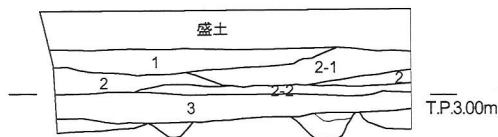
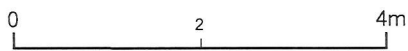
平安時代後半から鎌倉時代の溝、ピットが検出され、若江の集落に関するものと考えられるが周辺の調査の進展を待ちたい。

遺物では、弥生土器、須恵器、土師器、製塩土器、瓦器、陶器、磁器、瓦などが出土した。出土量の多いものは瓦、土師器、須恵器、瓦器でそれ以外は少量である。時期的には平安時代から鎌倉時代のものが多く、古墳時代の遺物が認められた。



A-1地区断面図

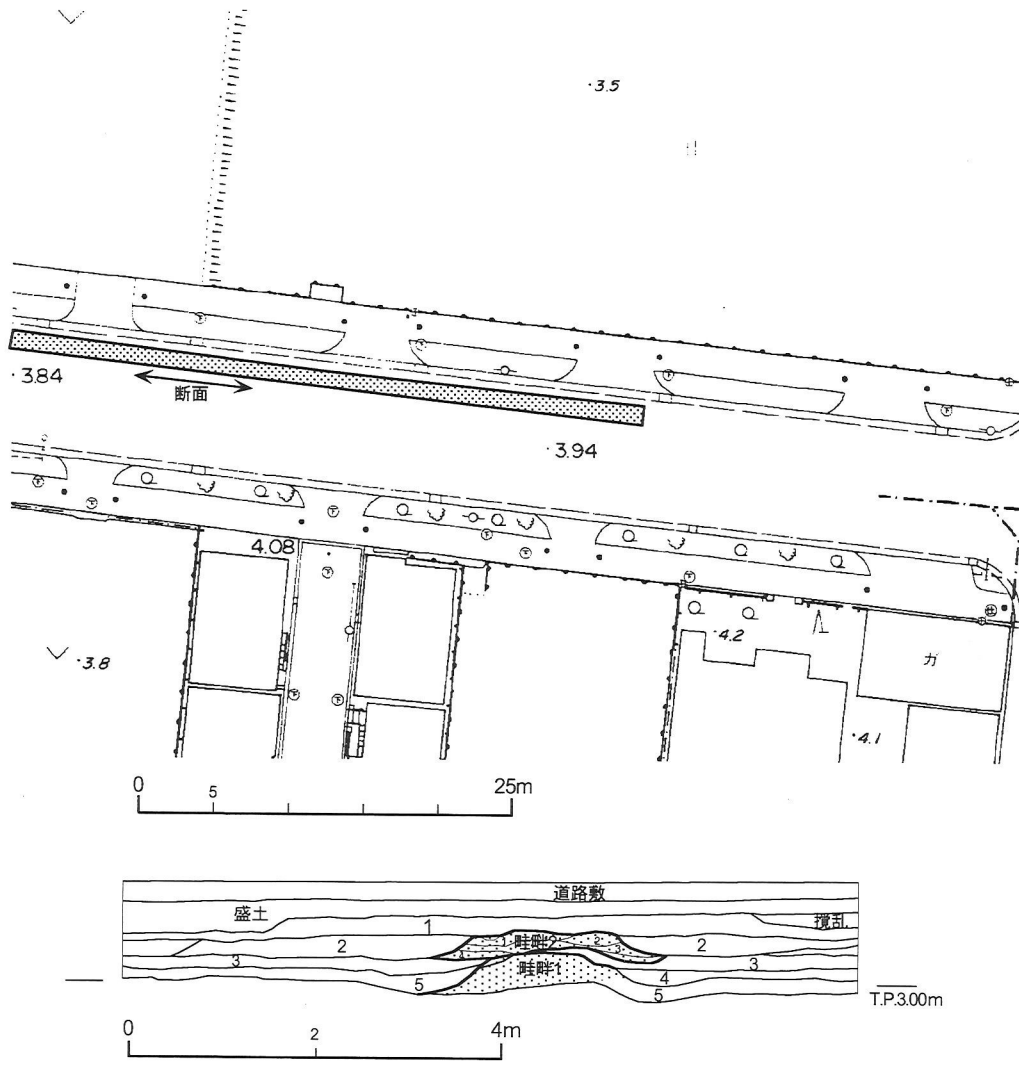
- 1 7.5Y3.6/2 灰褐色砂質シルト
- 2 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質シルト
- 3 10G3.5/1 暗緑灰色シルト質粘土



A-2地区断面図

- 2-1 暗灰黄色砂質シルト
- 2-2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト

第3図 A地区実測図



- 1 10YR4/2 黒褐色砂質シルト。粗粒砂～細礫多量に混じる。
- 2 5Y5/1 灰色砂質シルト。中粒砂～細礫多量にまじる。
- 3 10GY4/1 暗緑灰色粘土。粗粒砂少量混じる。
- 4 10G4.2/1 暗緑灰色粘土。細・中粒砂、細礫多量に混じる。
- 5 10G3.8/1 暗緑灰色粘土。細・中粒砂、細礫多量に混じる。

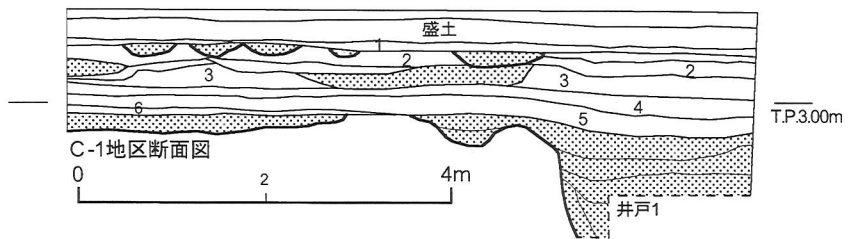
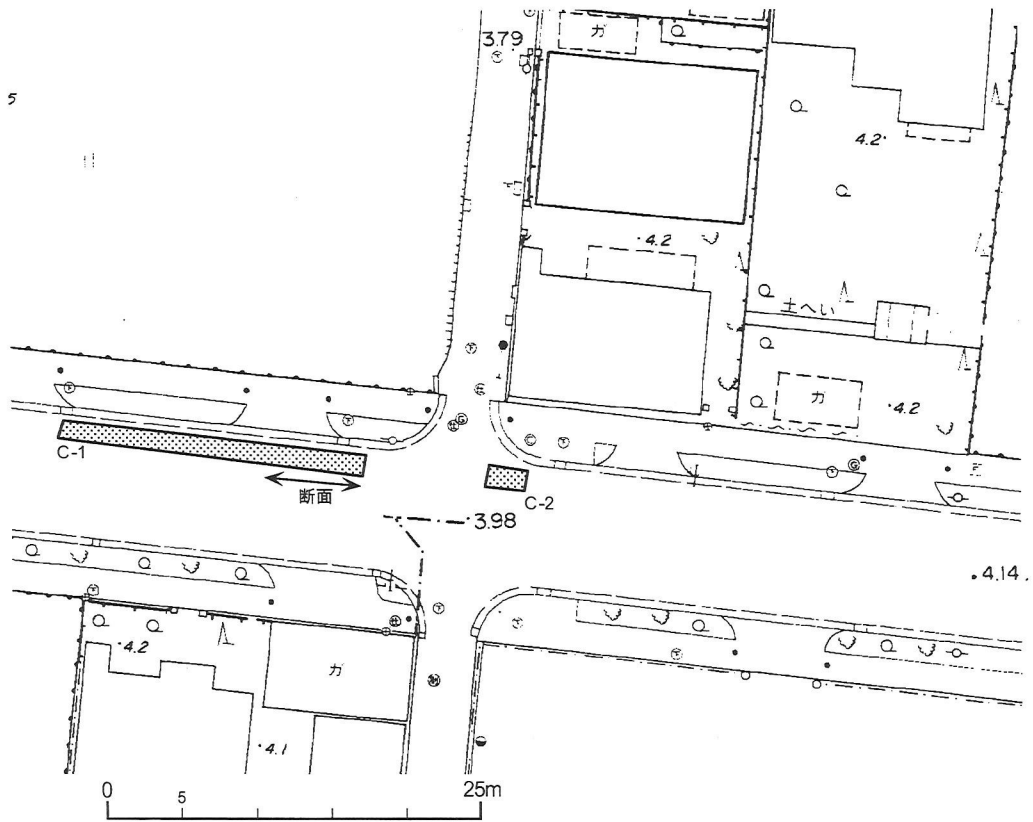
畦畔1

- 1 10Y5/1 灰色砂質シルト。細～中粒砂多し。細礫混じる。
- 2 7.5Y4.6/1.6 灰オリーブ色砂質シルト。細～中粒砂多し。細礫混じる。
- 3 7.5Y4/2 灰オリーブ色粘質シルト。粗粒砂～細礫多量。
- 4 10Y4/1 灰色粘質シルト。中～粗粒砂多量。炭化物少量混じる。

畦畔2

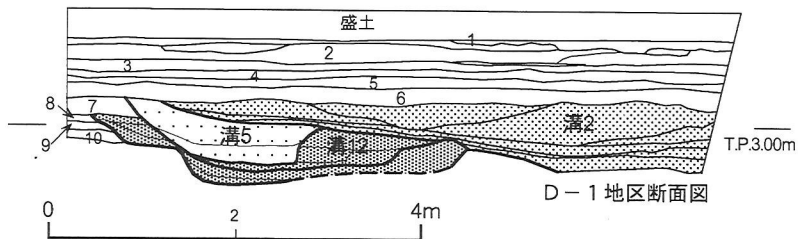
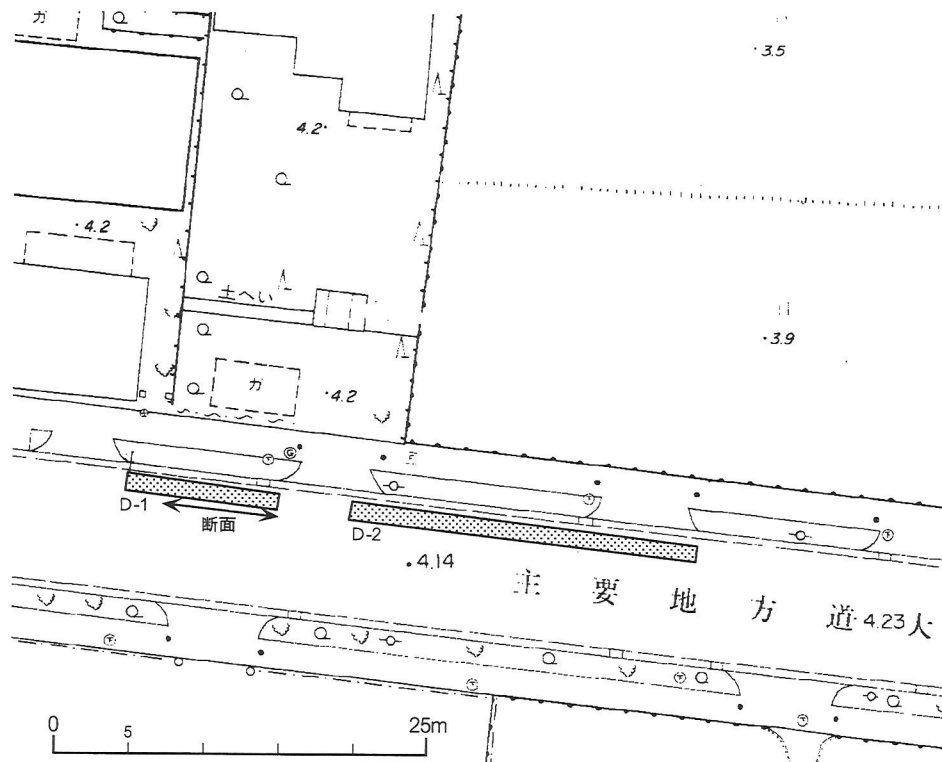
2.5ん5/1 シルト質粘土と、10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルトの混合。

第4図 B地区実測図

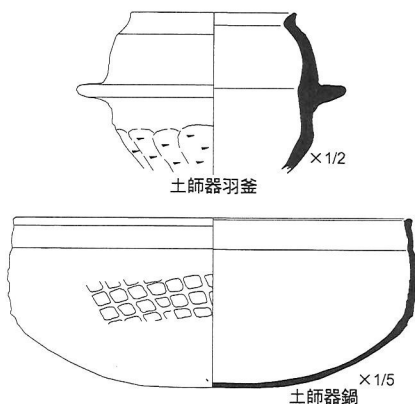


- 1 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト。中～粗粒砂、細～中礫多量に混じる。
- 2 10YR4/3.5 にぶい黄褐色砂質シルト。細粒砂、細～中礫多量に混じる。
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト。中粒砂、細礫多量。10YR5/4.5 にぶい黄褐色砂質シルトのブロック多量に混合。
- 4 5GY4/1 オリーブ黒色砂質シルト。2.5Y5/5 黄褐色砂質シルトのブロック少量混じる。
- 5 5GY4/1 オリーブ黒色シルト質粘土。5Y5/5 黄褐色砂質シルトのブロック少量混じる。

第5図 C地区実測図



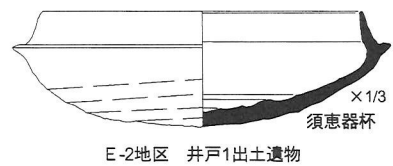
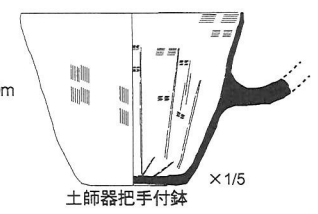
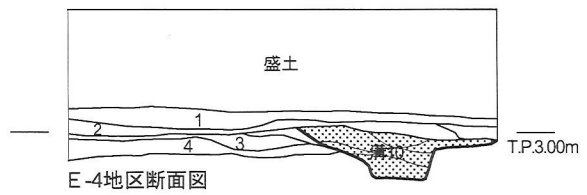
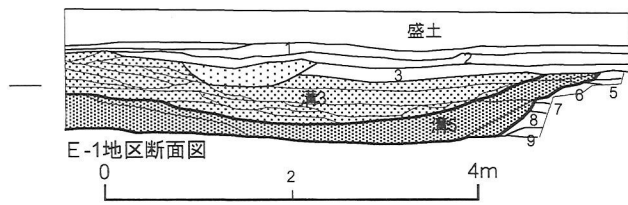
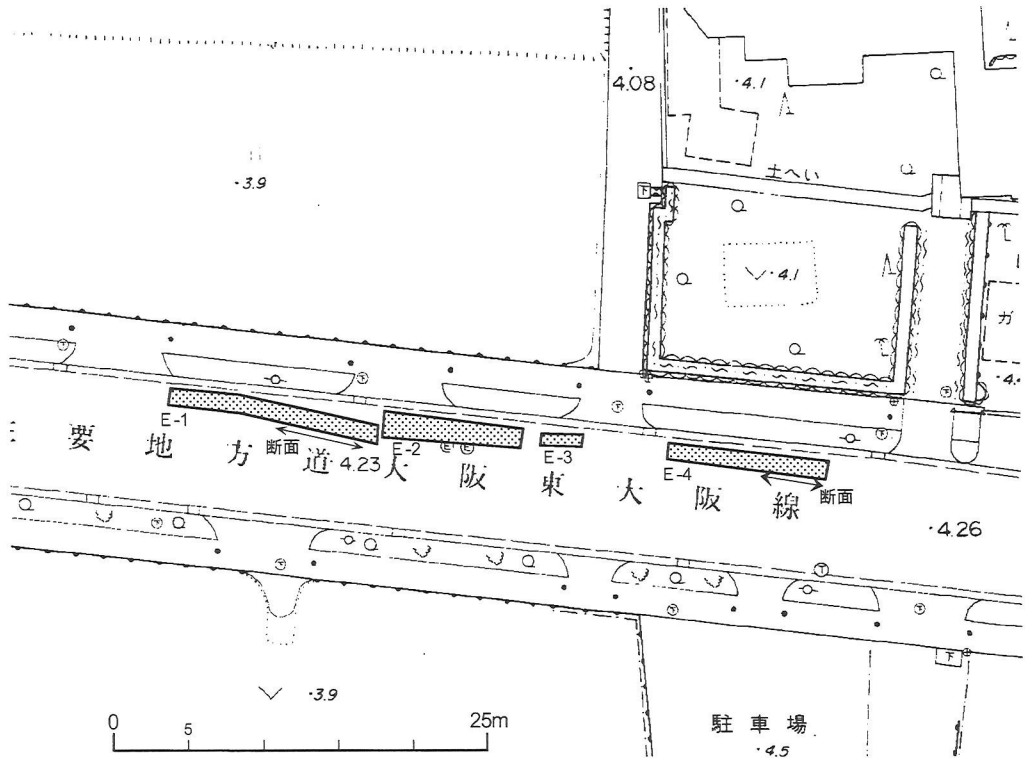
D-1地区断面図



D-1地区 溝2出土遺物

- 1 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質シルト。
- 2 10YR4/3.5 にぶい黄褐色砂質シルト。
粗粒砂、細礫多量、中礫少量混じる。
- 3 2.5Gん5/1 暗オリーブ灰色砂質シルト。
粗粒砂、細礫多量に混じる。
- 4 7.5Y4/2 オリーブ黒色砂混じりシルト。
細粒砂少量混じる。
- 5 2.5Y4/2 黒褐色砂混じりシルト。
細～中粒砂少量、炭化物少量混じる。
- 6 5Y4/2 灰オリーブ色シルト。
中～粗粒砂多量に混じる。
- 7 5Y4/2 オリーブ黒色シルト。
中～粗粒砂多量に混じる。
- 8 7.5Y6/2.5 灰オリーブ色粘質シルト。
- 9 5Y5/1.5 灰色砂混じりシルト。
- 10 7.5ん6/2 灰オリーブ色シルト。

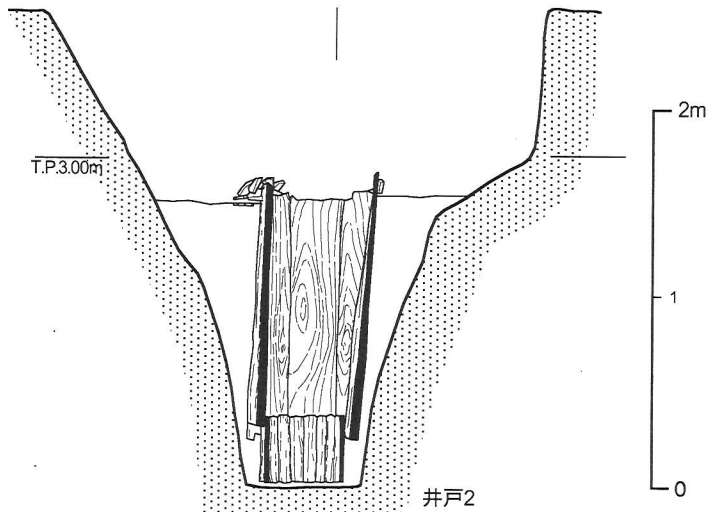
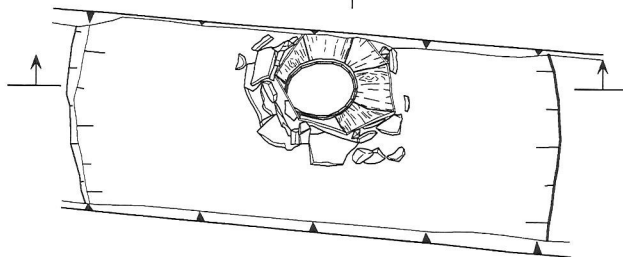
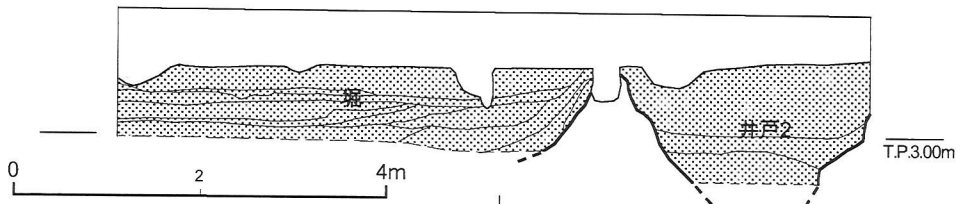
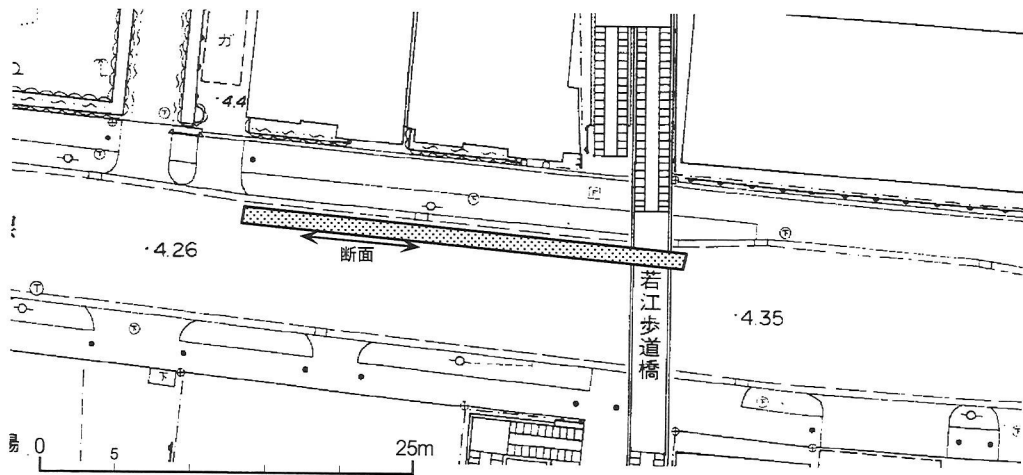
第6図 D地区実測図



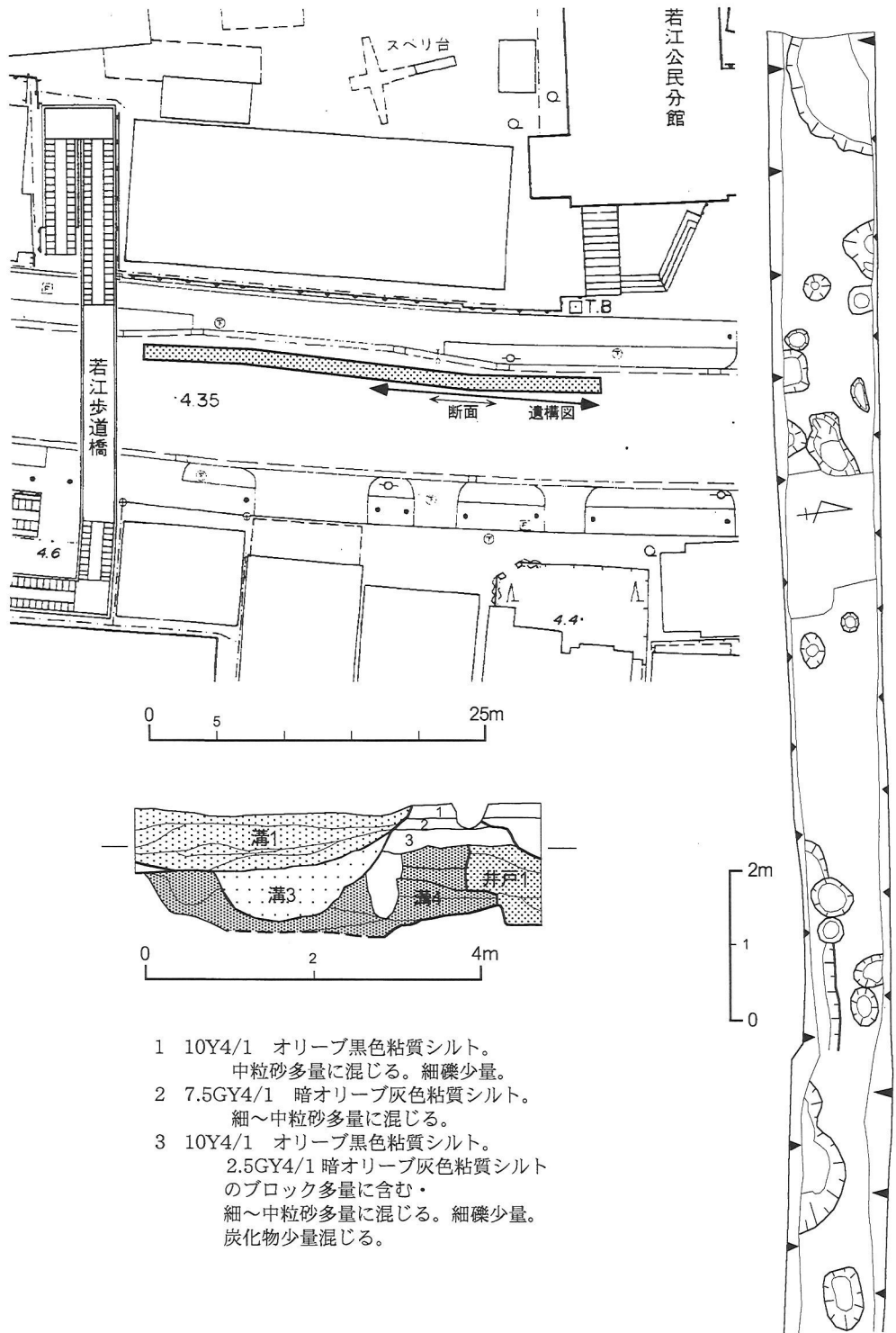
- E-1断面
- 1 7.5Y4/1.5 オリーブ黒色砂混じりシルト。
 - 2 5Y4/2 灰オリーブ色粘質シルト。
 - 3 5Y4/2 灰オリーブ色粘質シルト。
 - 4 7.5Y5/1.5 灰色砂混じりシルト。
 - 5 5Y5/2 灰オリーブ色砂混じりシルト。
 - 6 5Y6/2 灰オリーブ色シルト。
 - 7 5GY5/1 暗緑灰色粘質シルト。
 - 8 10YR4/1 黒褐色砂。
 - 9 7.5GY4/1 暗緑灰色シルト質粘土。

- E-4断面
- 1 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質シルト。
 - 2 7.5GY4/1 暗緑灰色粘質シルト。
 - 3 10GY4/1 緑暗灰色粘質シルト。
 - 4 5G5/1 灰色粘質シルト。

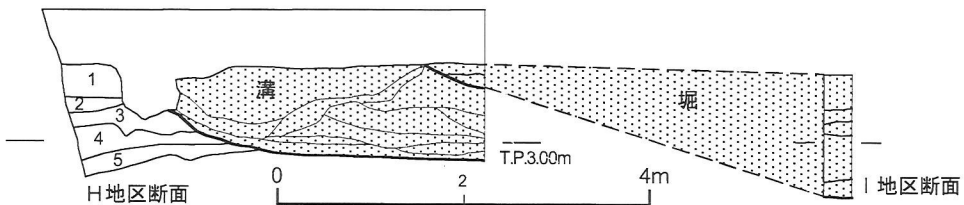
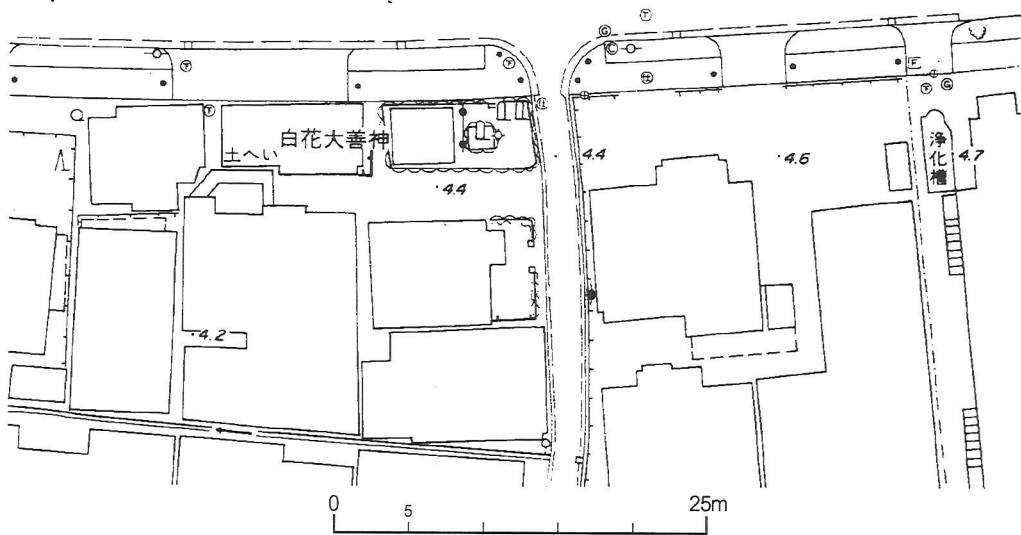
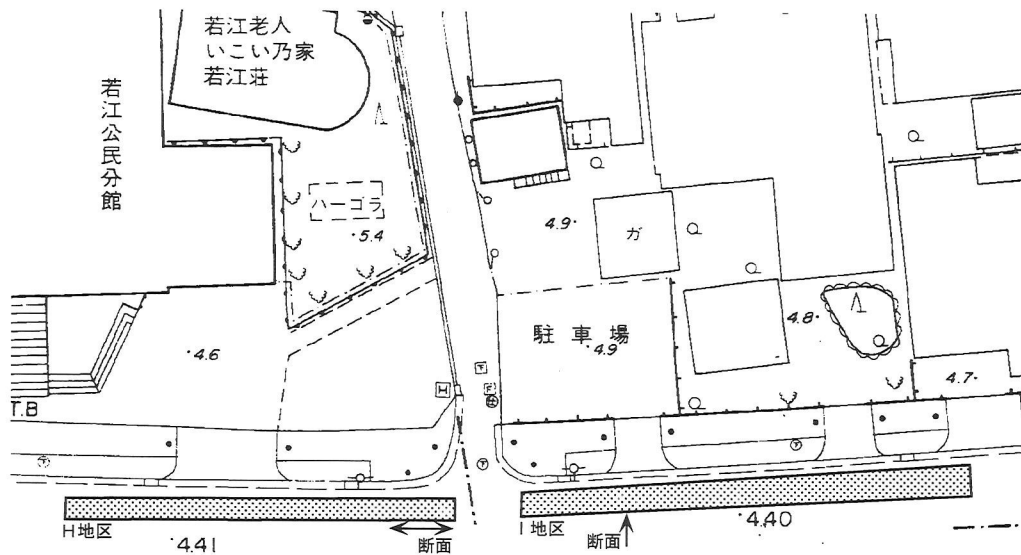
第7図 E地区実測図



第8図 F地区実測図

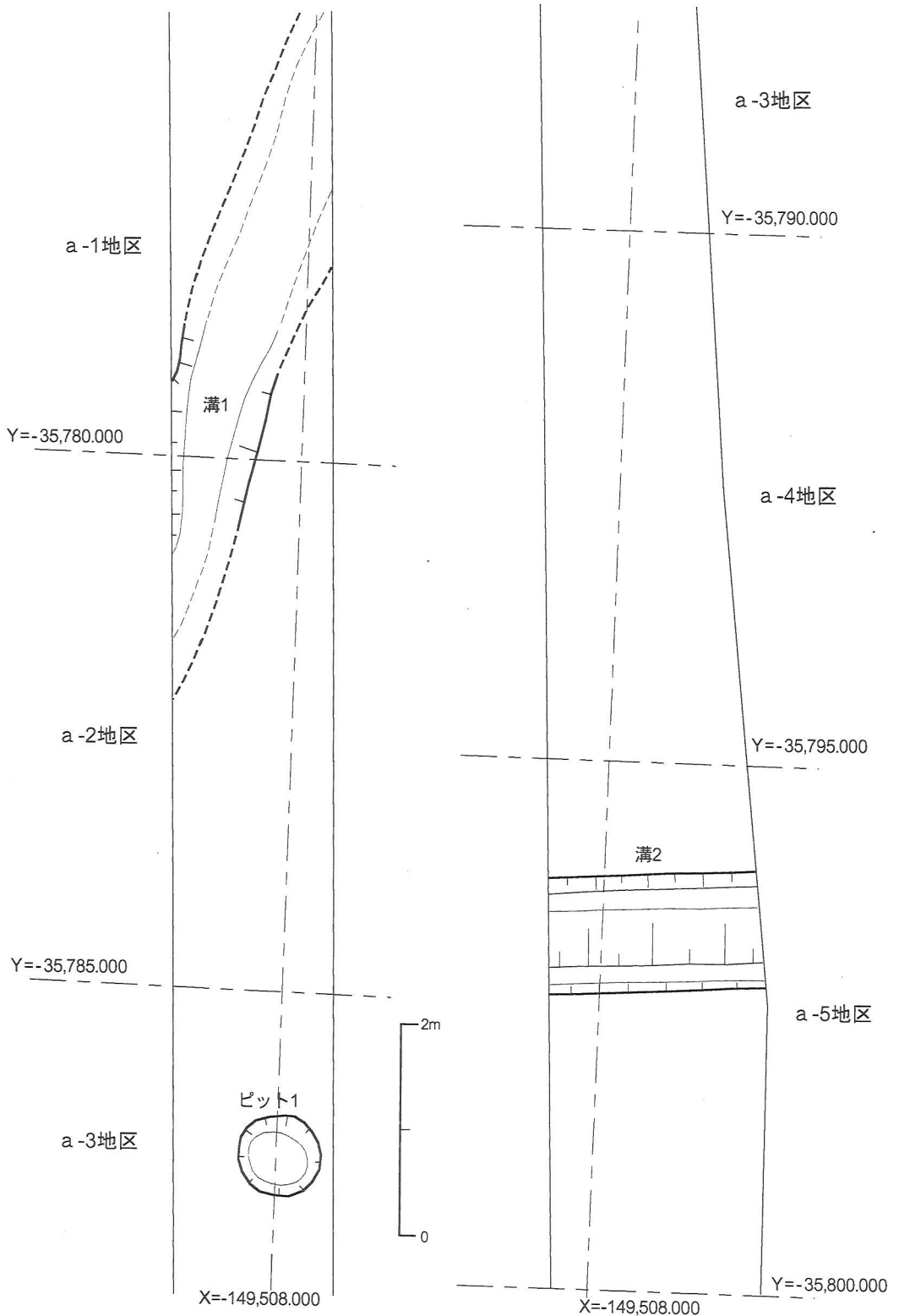


第9図 G地区実測図

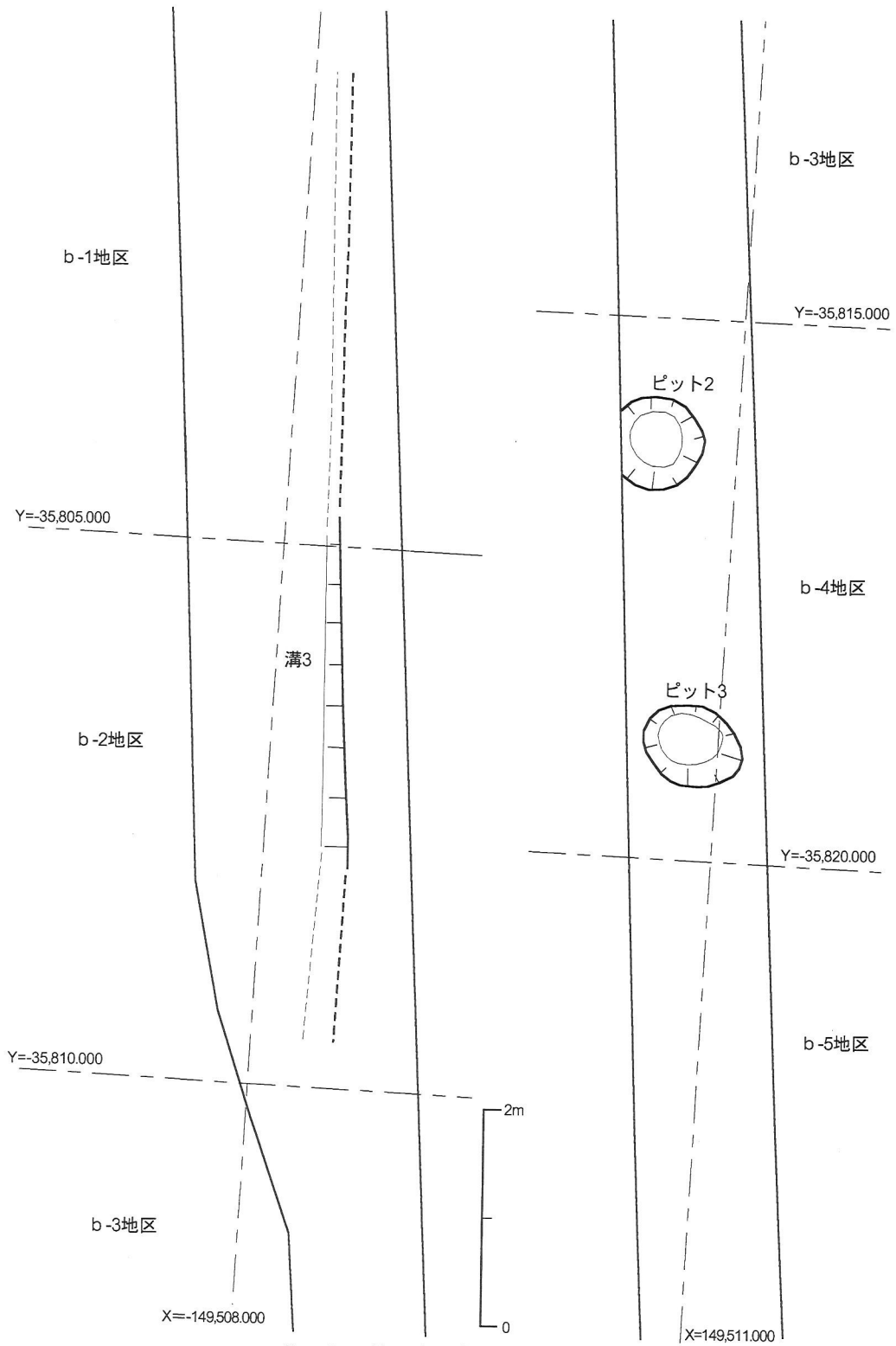


- 1 5GY4/1 暗オリーブ灰色砂混じりシルト。中～粗粒砂少量。
- 2 10Y3/1 オリーブ黒色砂混じりシルト。細～中粒砂多量に混じる。
- 3 10Y4/2 オリーブ黒色砂混じりシルト。
- 4 10Y4/2 オリーブ黒色粘質シルト。中粒砂少量。
- 5 10GY4/1 暗緑色粘土。細～中粒砂少量混じる。

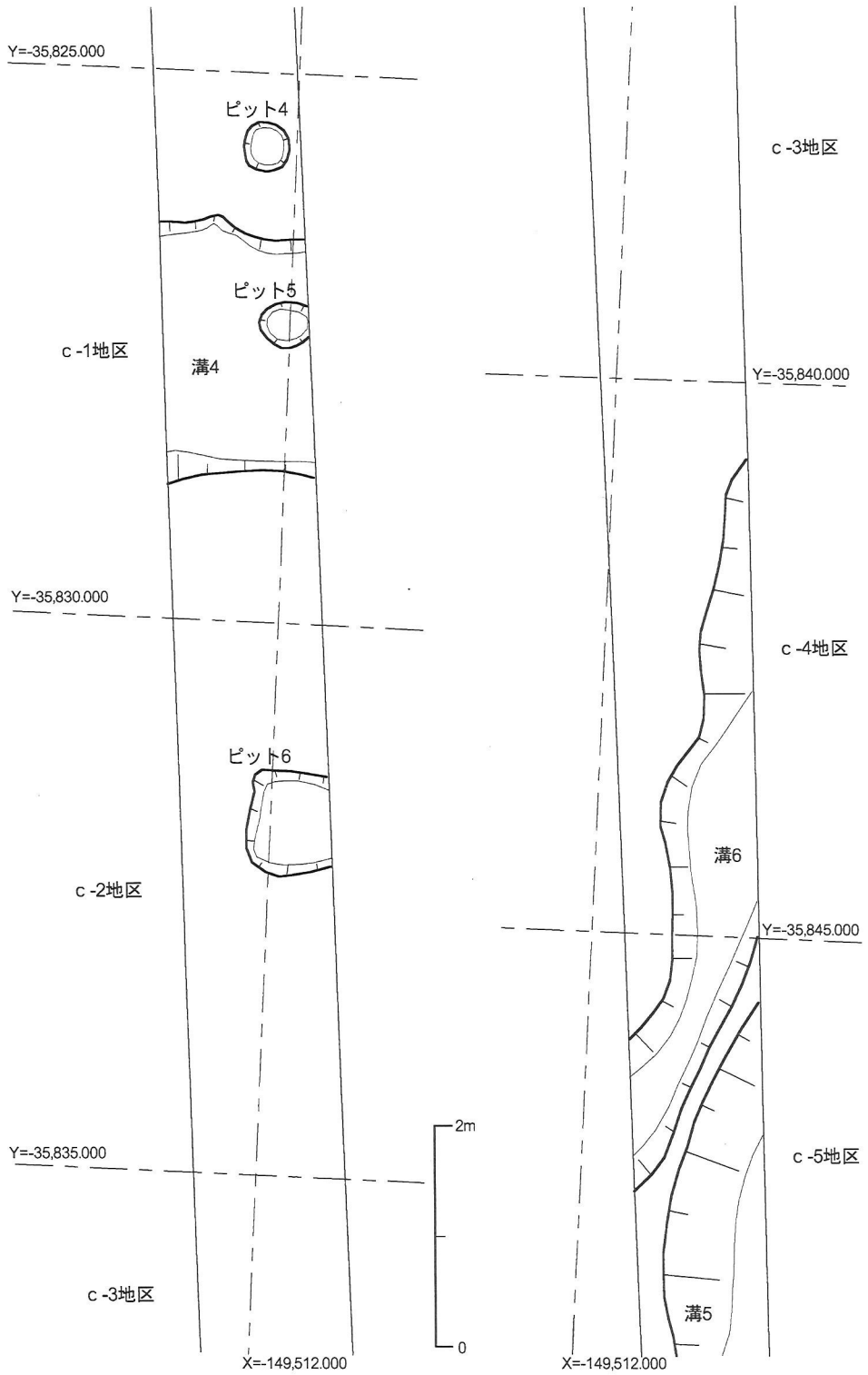
第10図 H・I地区実測図



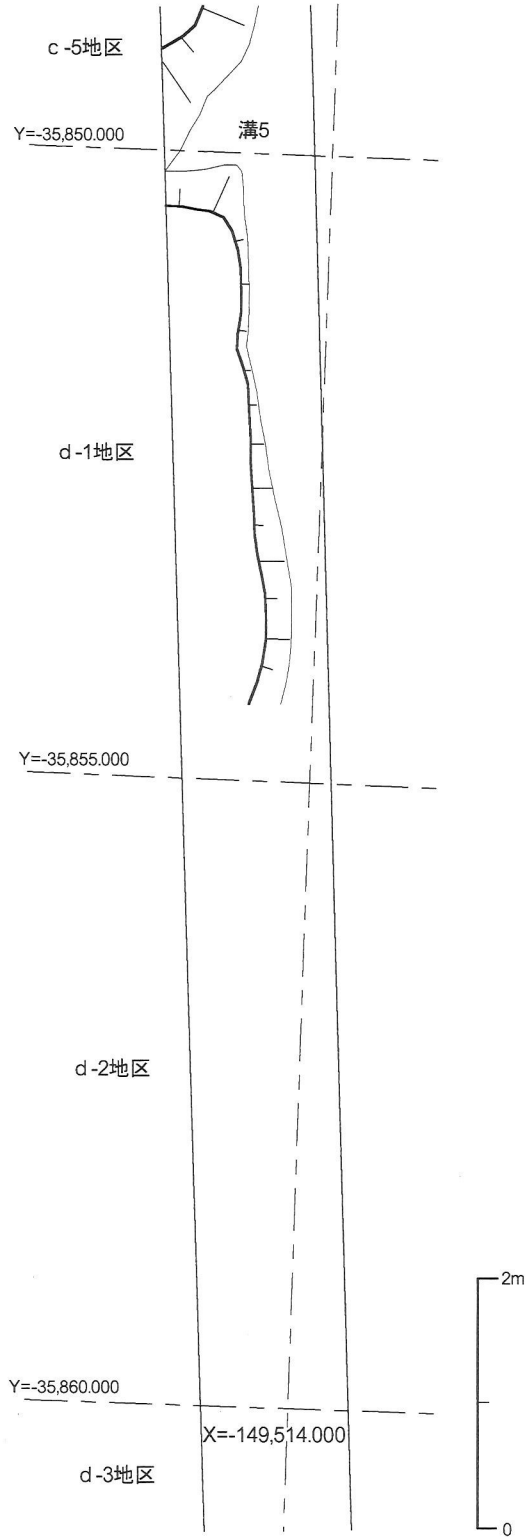
第11図 第31次調査遺構実測図1



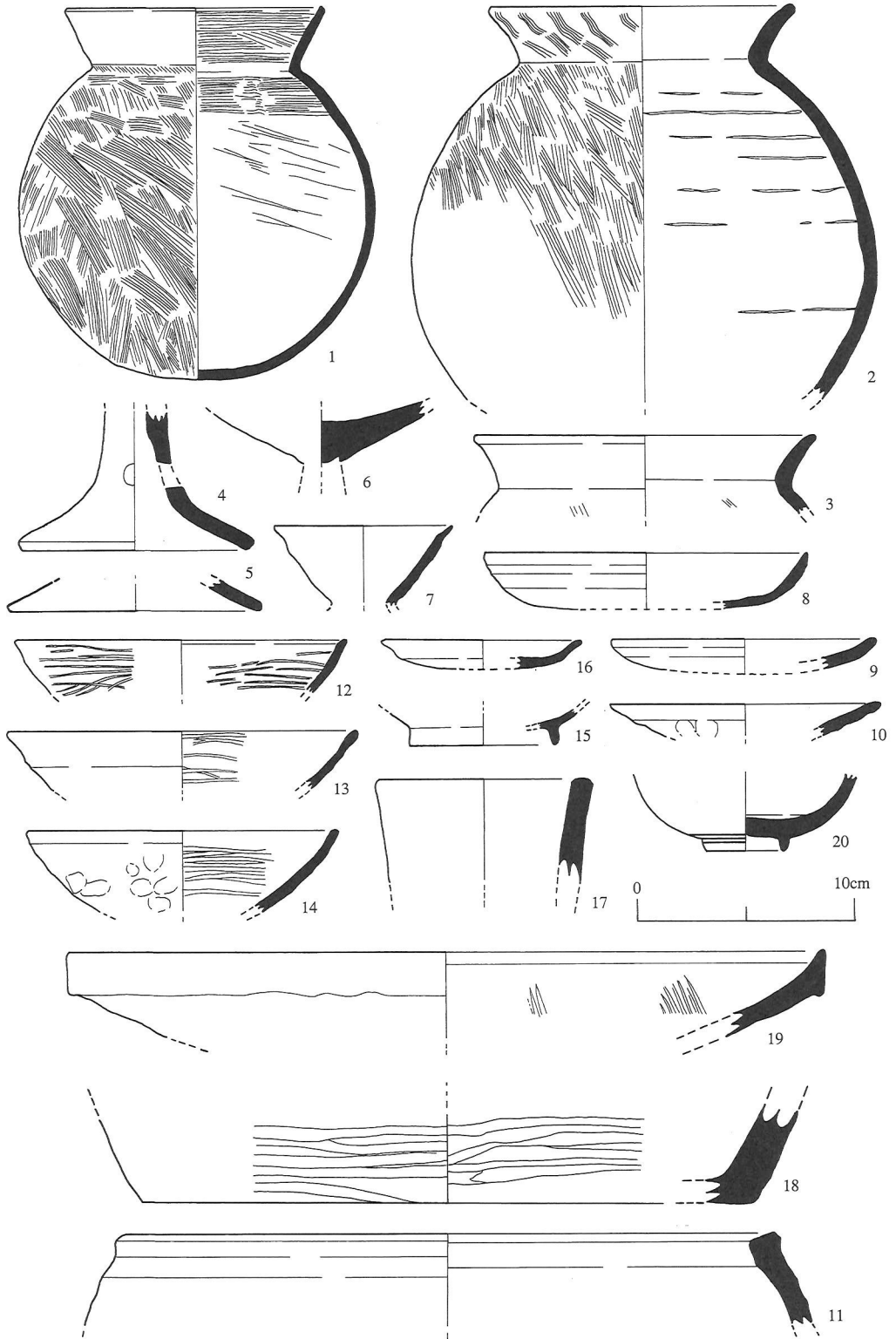
第12図 第31次調査遺構実測図2



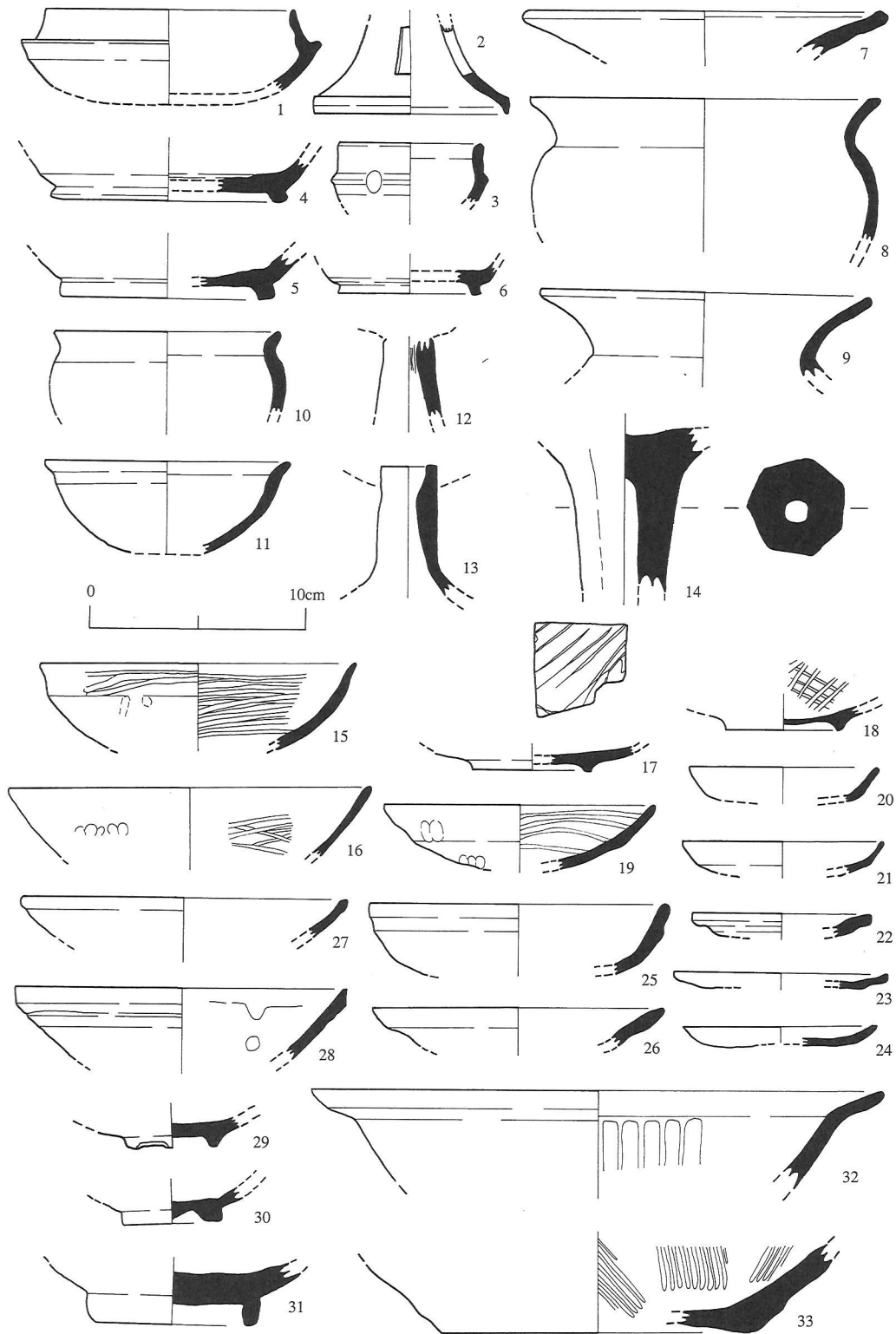
第13図 第31次調査遺構実測図3



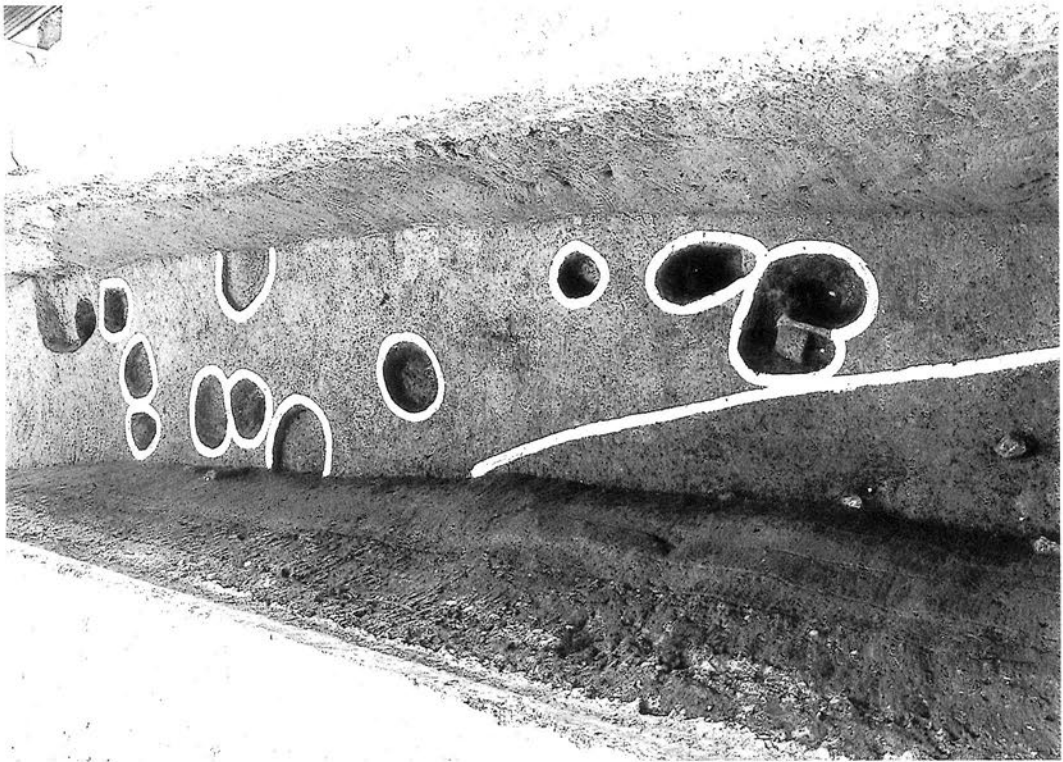
第14図 第31次調査遺構実測図 4



第15図 第31次調査遺構出土遺物実測図



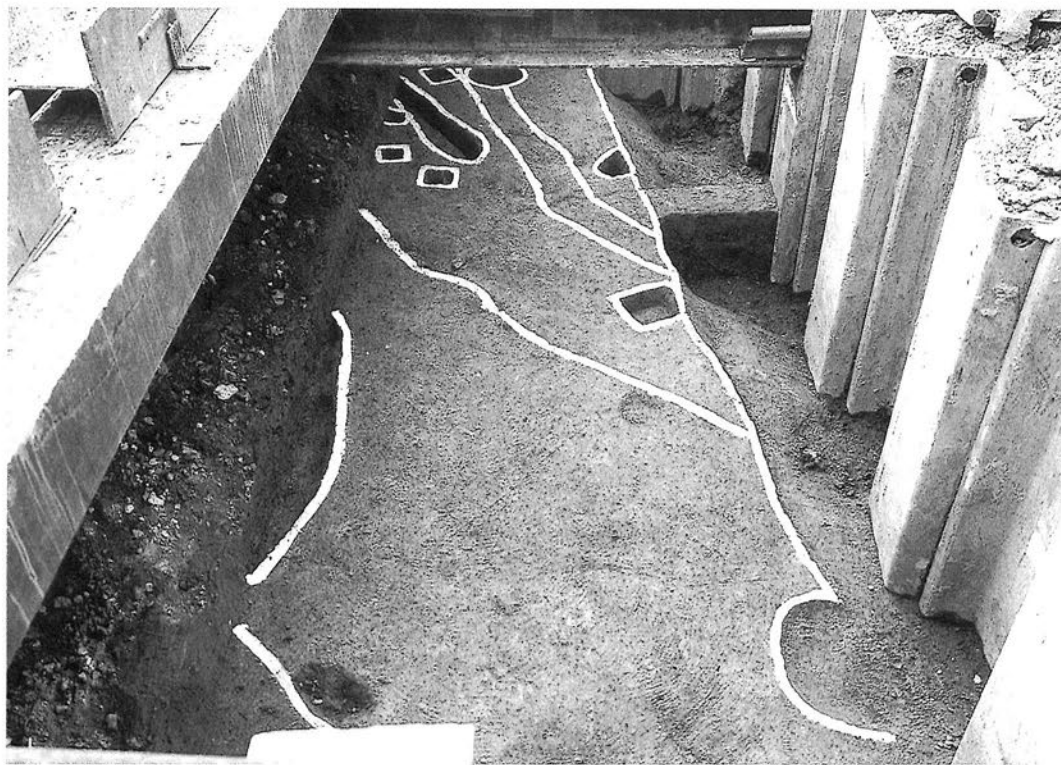
第16図 第31次調査包含層出土遺物実測図



E-1 地区遺構検出状況



C 地区遺構検出状況



E-2 地区遺構検出状況



F 地区遺構検出状況

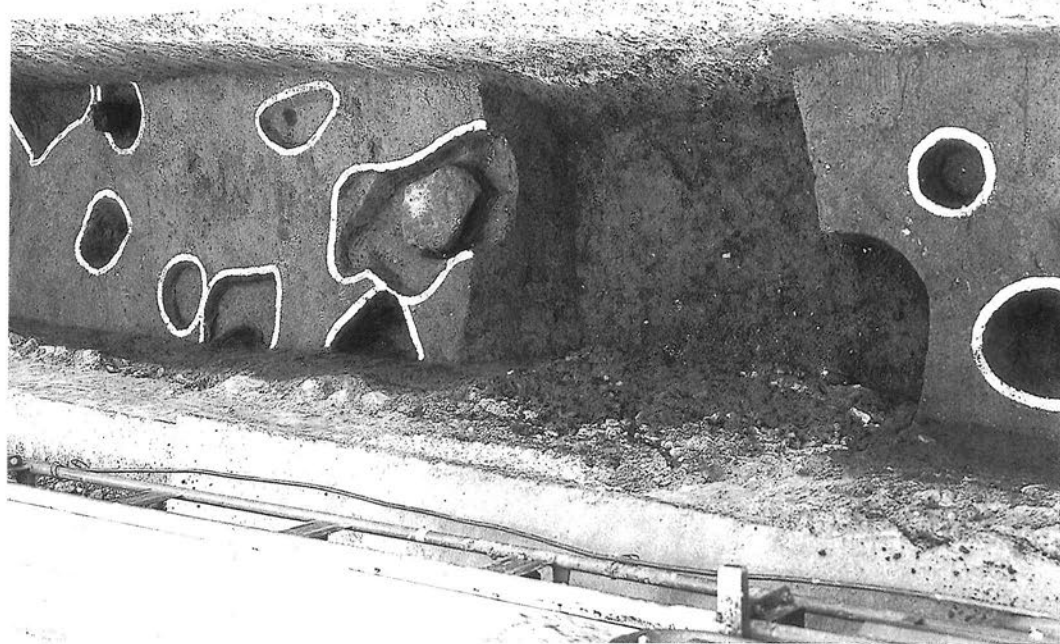


F地区井戸2 検出状況



F地区溝2（暗渠）検出状況

図版4
第30次調査
遺構



G地区柱穴検出状況



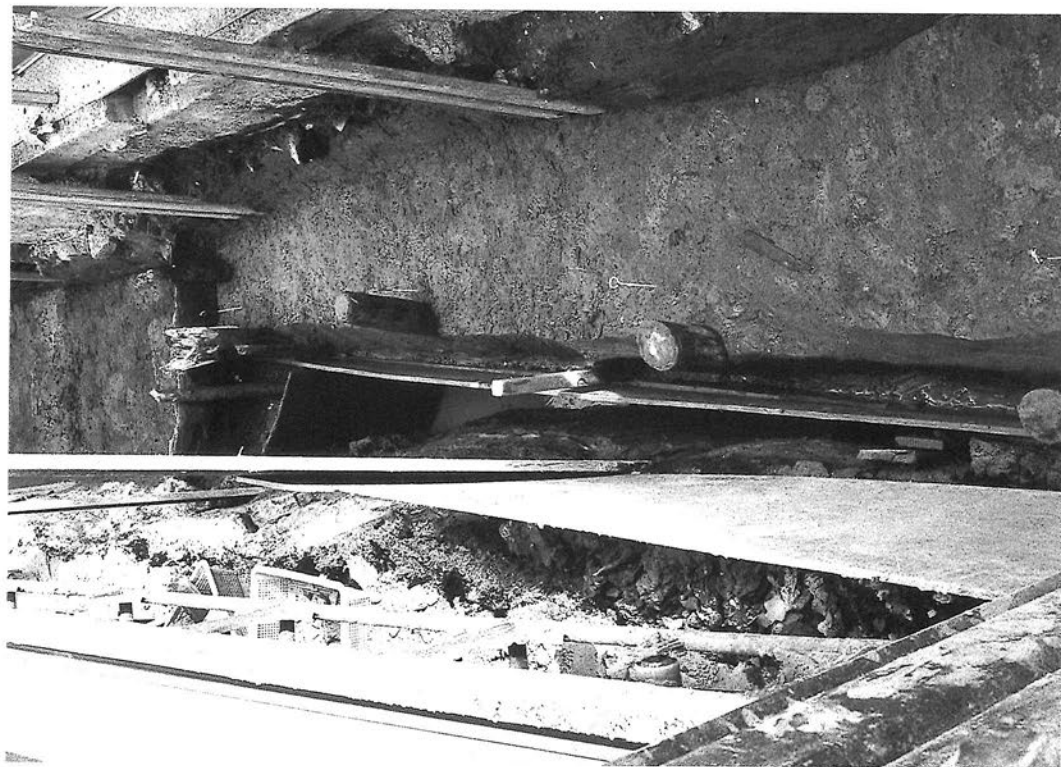
G地区柱根検出状況



c-4 地区溝 6



d-1 地区溝 5



e - 2 地区池検出状況



e - 2 地区池検出状況



d-4～c-2地区ピットと溝



c-2地区ピット6



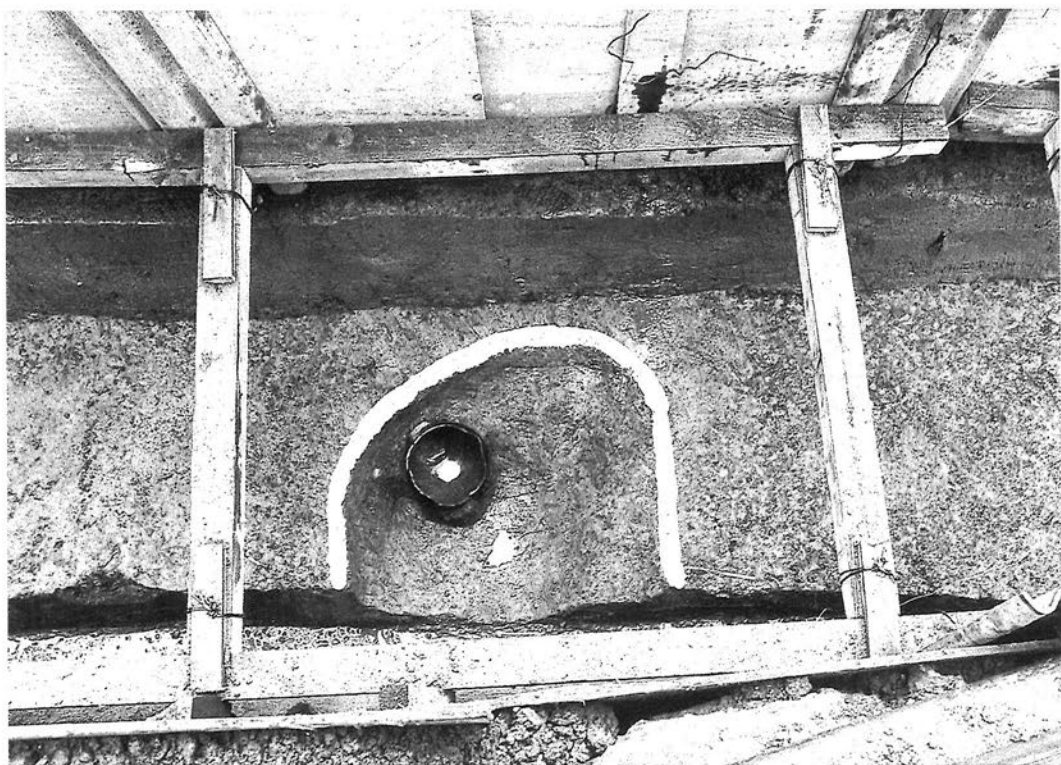
c-1地区ピット5溝4



c-1地区ピット4



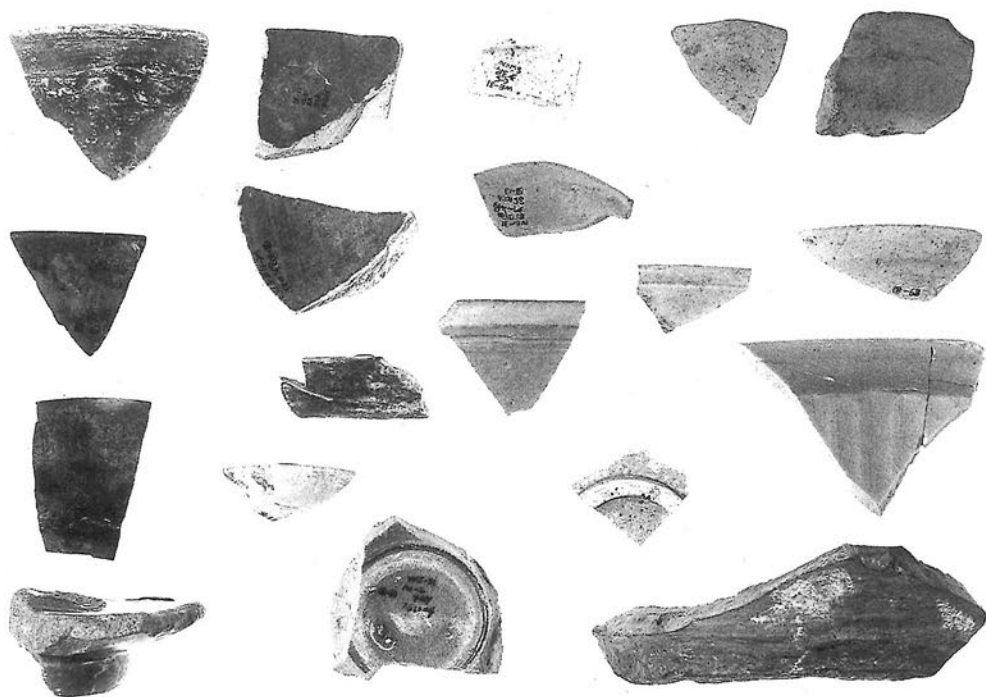
b-4 地区ピット 2.3



a-3 地区ピット 1



須恵器 土師器



瓦器 土師器 陶磁器